

<第4章 調査結果〔解説・グラフ〕>

第4章 調査結果 [解説・グラフ]

1. 県の基本政策について

(1) 経済の活性化について

問1 「経済の活性化」について、第4期高知県産業振興計画に基づき、県が行っている施策のうち特に力を入れるべきものは何ですか。(3つまで○印)

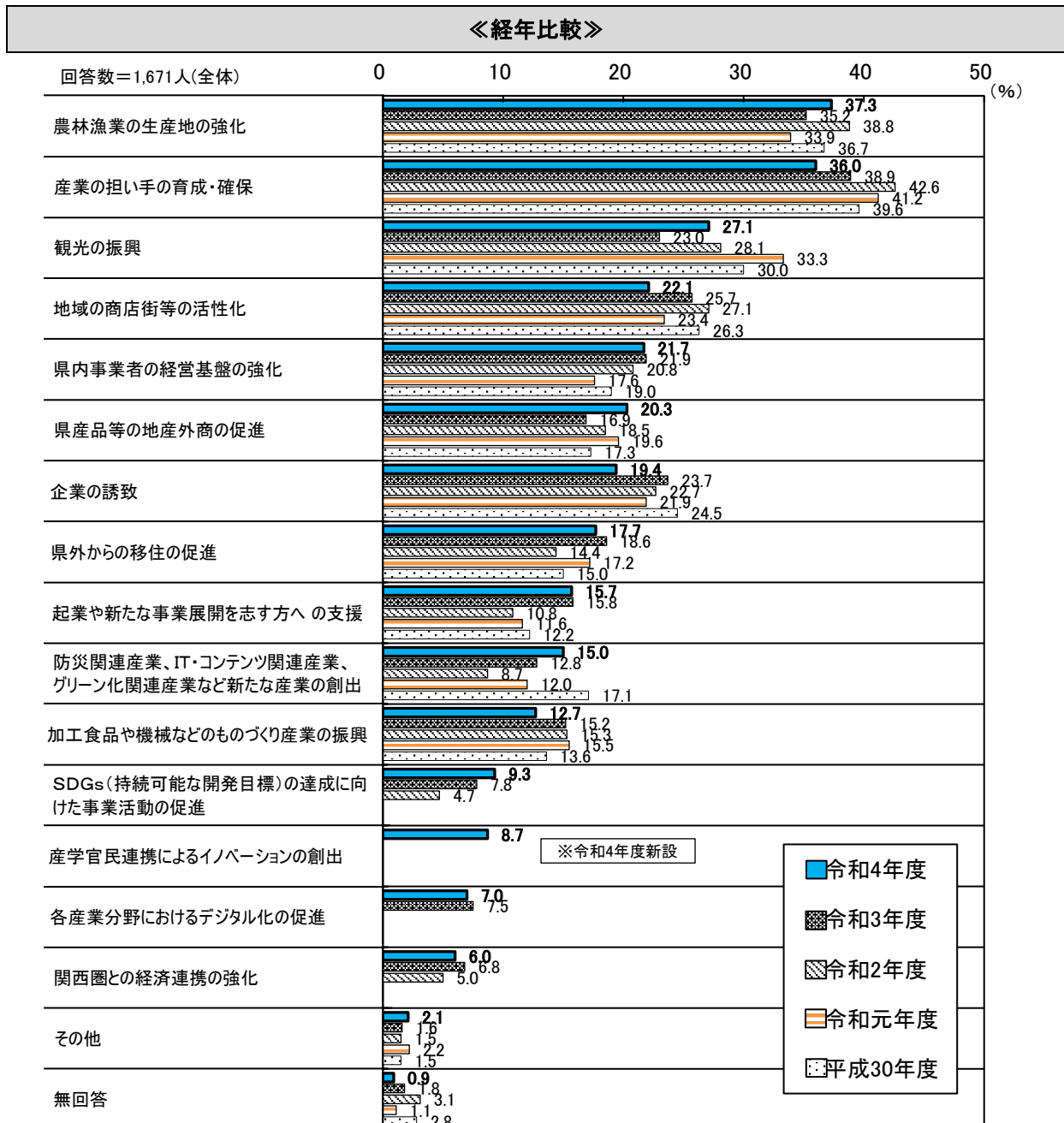
【総合】

「農林漁業の生産地の強化」が37.3%と1位になっている。

次いで、「産業の担い手の育成・確保」が36.0%、「観光の振興」が27.1%と続いている。

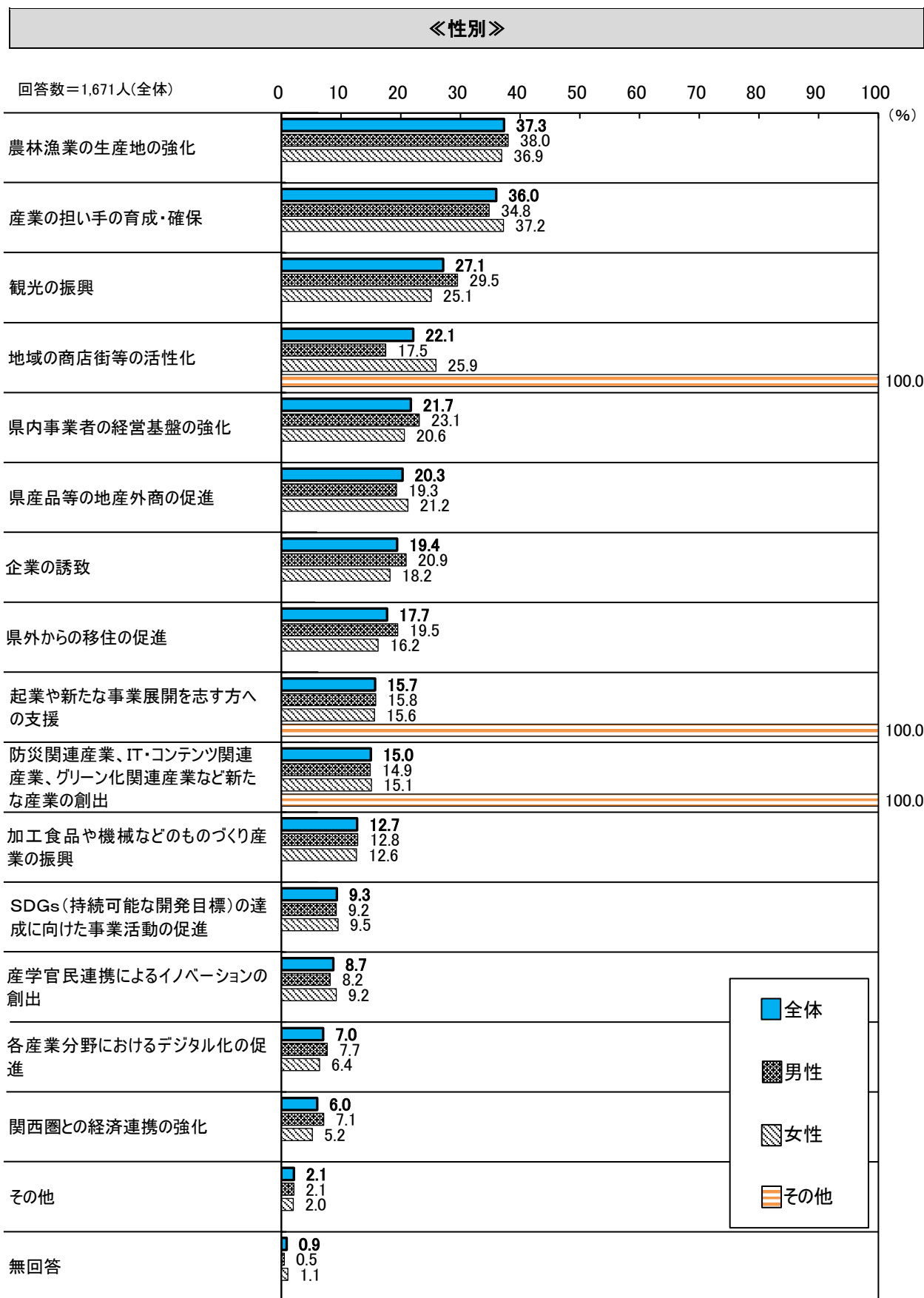
【過去の調査との比較】

選択肢の一部が変更されたため単純な比較はできないが、今年度は「農林漁業の生産地の強化」と「観光の振興」と「県産品等の地産外商の促進」と「防災関連産業、IT・コンテンツ関連産業、グリーン化関連産業など新たな産業の創出」と「SDGs(持続可能な開発目標)の達成に向けた事業活動の推進」が昨年度より増加している。



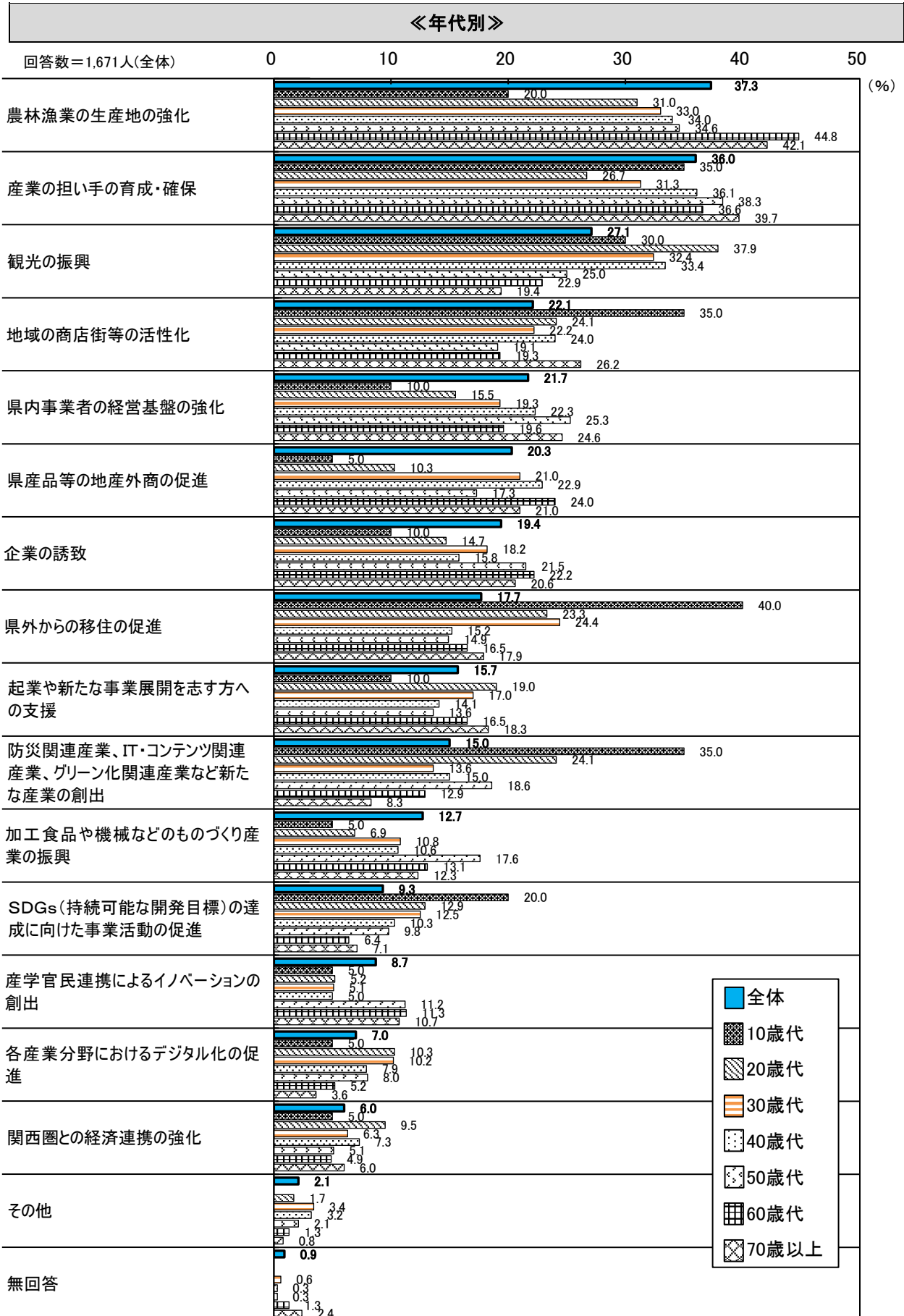
【性別】

男性では「農林漁業の生産地の強化」が、女性では「産業の担い手の育成・確保」が最も高くなっている。



【年代別】

10歳代では「県外からの移住の促進」が最も高く、20歳代では「観光の振興」が、30歳代、60歳代、70歳以上では「農林漁業の生産地の強化」が、40歳代、50歳代では「産業の担い手の育成・確保」が最も高くなっている。



(2)「日本一の健康長寿県づくり」について

問2 「日本一の健康長寿県づくり」について、第4期日本一の健康長寿県構想に基づき、県が行っている施策のうち特に力を入れるべきものは何ですか。(3つまで○印)

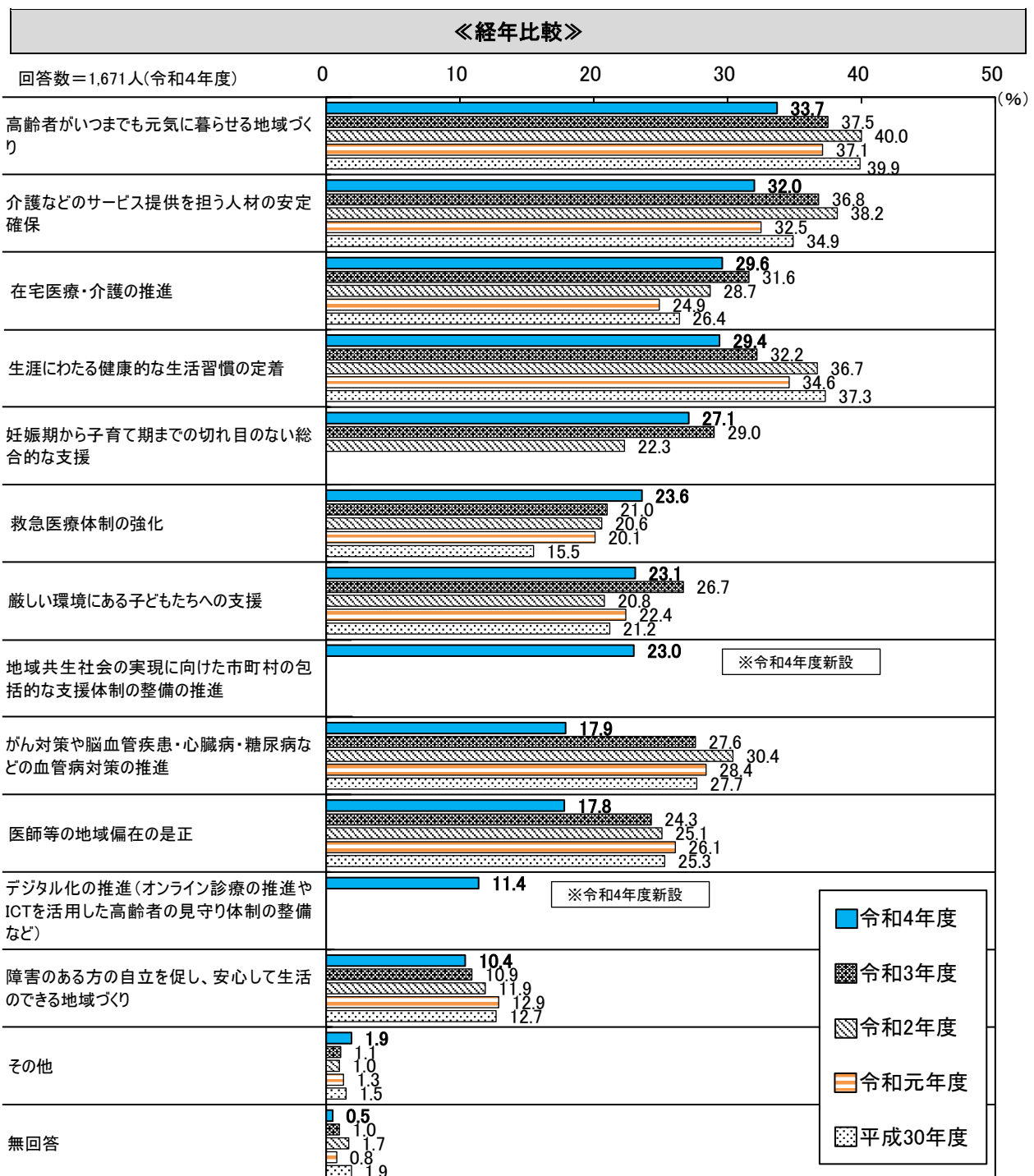
【総合】

「高齢者がいつまでも元気に暮らせる地域づくり」が33.7%と1位になっている。

次いで、「介護などのサービス提供を担う人材の安定確保」が32.0%、「在宅医療・介護の推進」が29.6%と続いている。

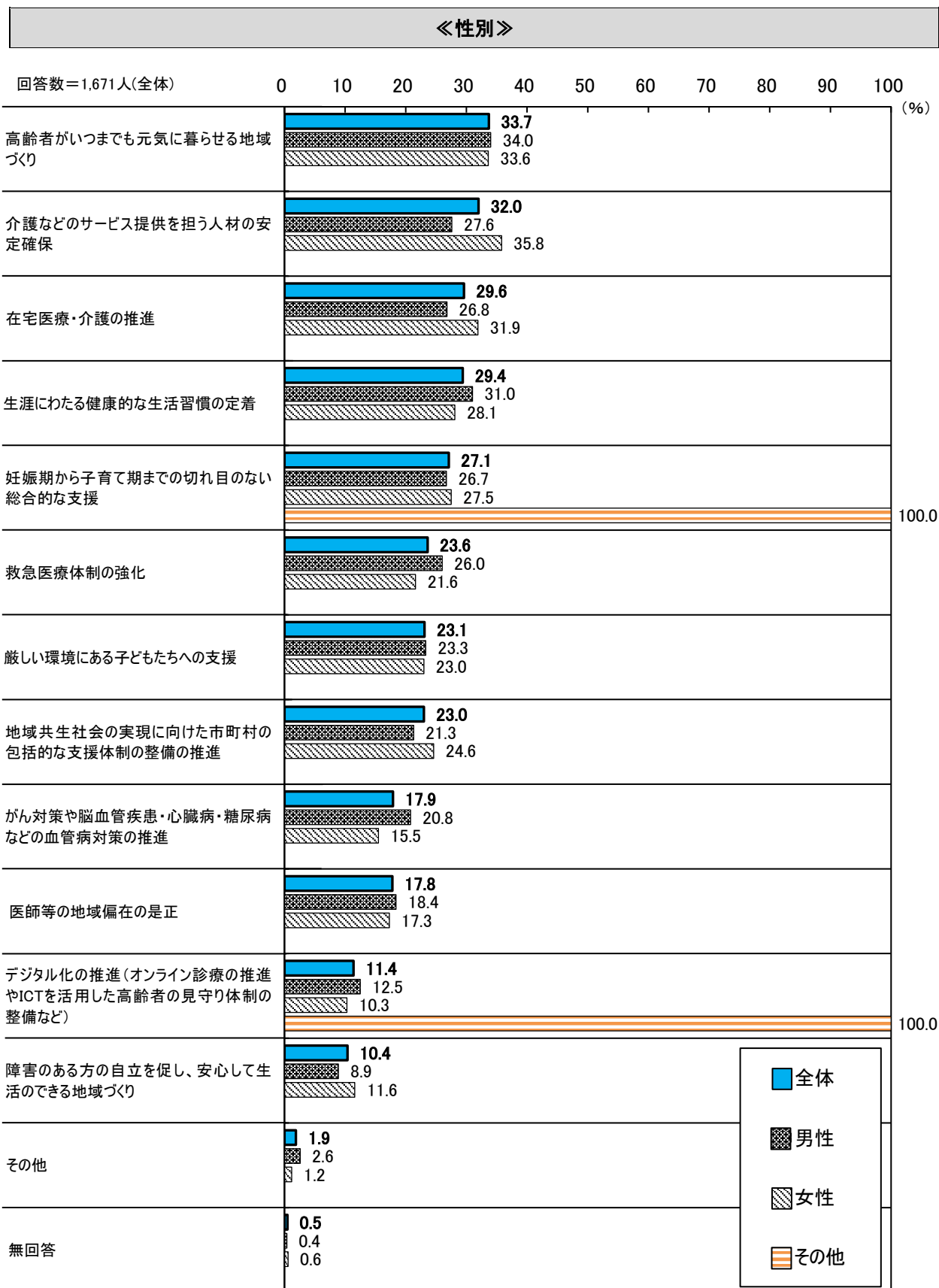
【過去の調査との比較】

選択肢の一部が変更されたため単純な比較はできないが、昨年度と同じく今年度も「高齢者がいつまでも元気に暮らせる地域づくり」が1位になっている。また、「救急医療体制の強化」が昨年度よりも増加している。



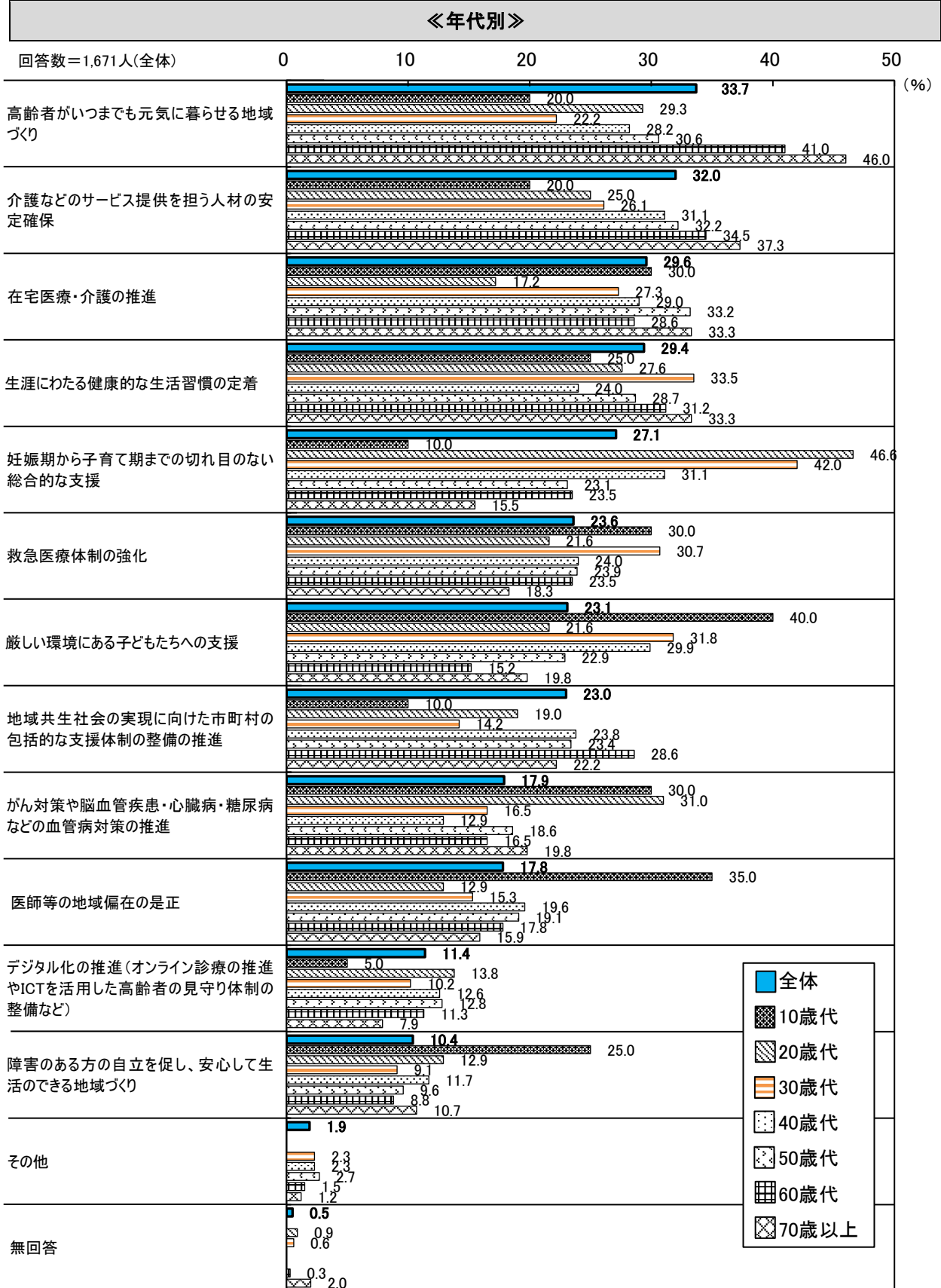
【性別】

男性では「高齢者がいつまでも元気に暮らせる地域づくり」が、女性では「介護などのサービス提供を担う人材の安定確保」が最も高くなっている。



【年代別】

10歳代では「厳しい環境にある子どもたちへの支援」が最も高く、20歳代、30歳代では「妊娠期から子育て期までの切れ目のない総合的な支援」が、40歳代では同率で「妊娠期から子育て期までの切れ目のない総合的な支援」と「介護などのサービス提供を担う人材の安定確保」が、50歳代では「在宅医療・介護の推進」が、60歳代、70歳以上では「高齢者がいつまでも元気に暮らせる地域づくり」が最も高くなっている。



(3)「教育の充実と子育て支援」について

問3 「教育の充実と子育て支援」について、第2期教育等の振興に関する施策の大綱に基づき、県が行っている施策のうち特に力を入れるべきものは何ですか。(3つまで○印)

【総合】

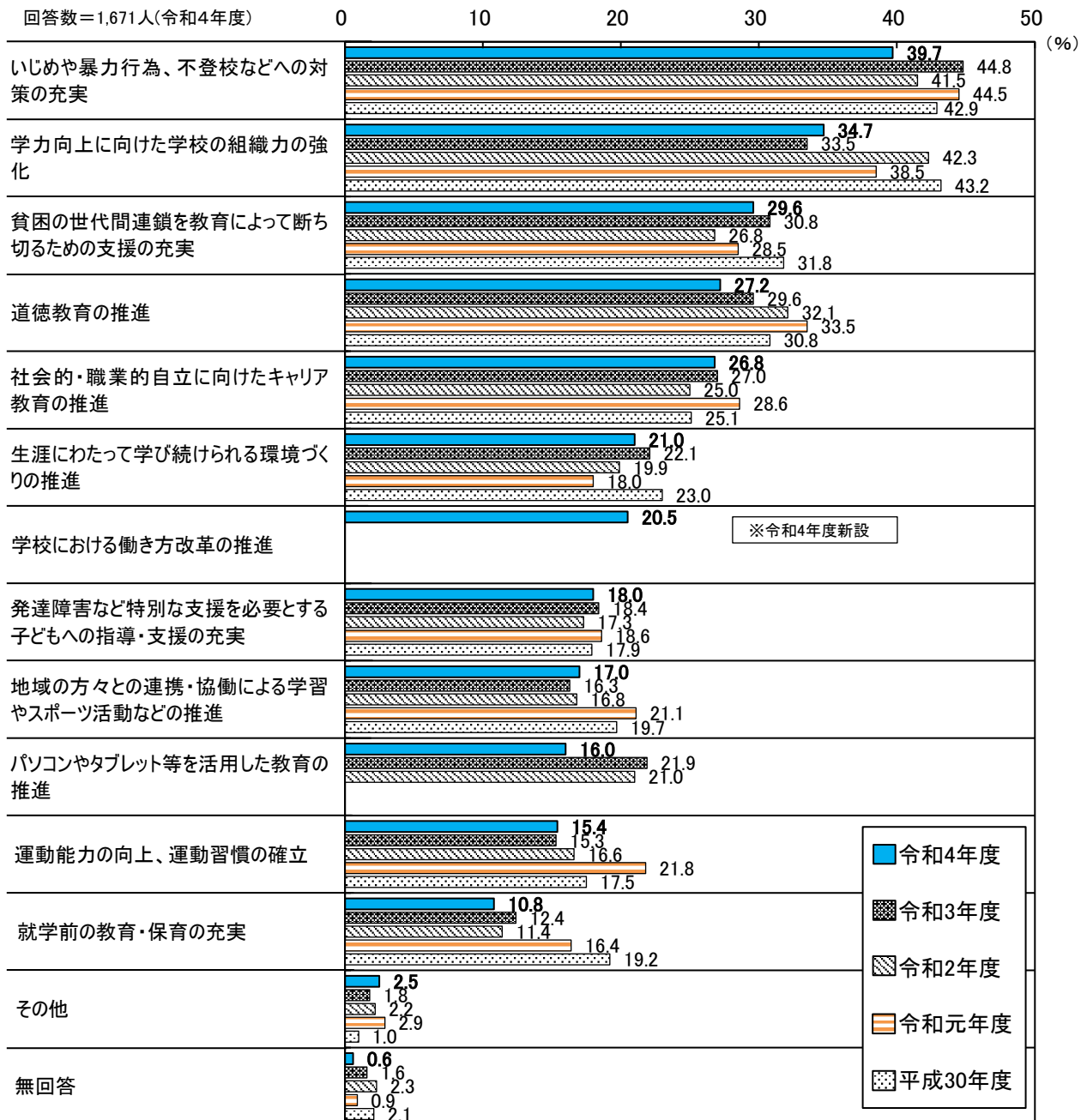
「いじめや暴力行為、不登校などへの対策の充実」が39.7%と1位になっている。

次いで、「学力向上に向けた学校の組織力の強化」が34.7%、「貧困の世代間連鎖を教育によって断ち切るための支援の充実」が29.6%と続いている。

【過去の調査との比較】

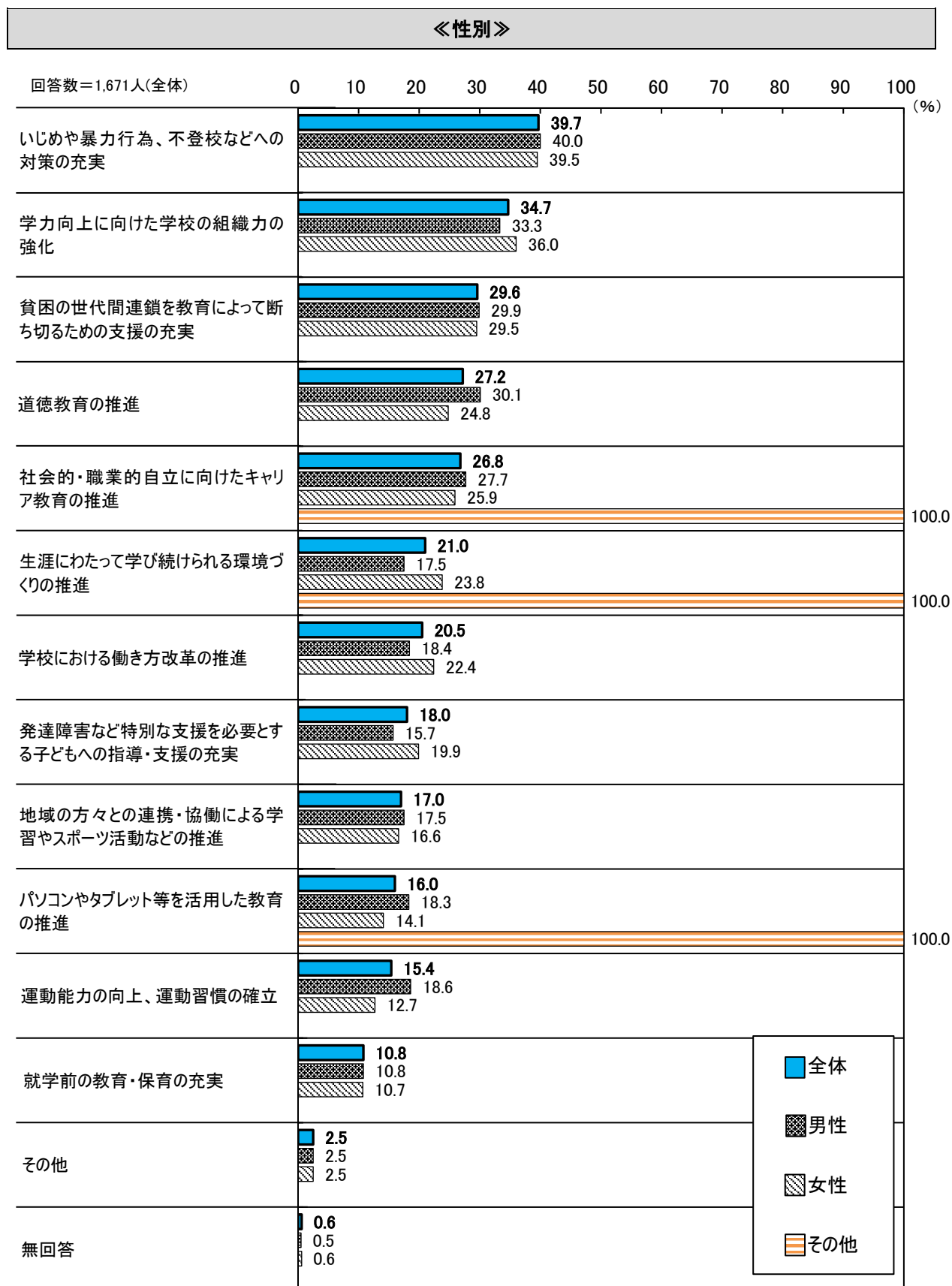
選択肢の一部が変更されたため単純な比較はできないが、今年度も、昨年度と同じく「いじめや暴力行為、不登校などへの対策の充実」が1位、「学力向上に向けた学校の組織力の強化」が2位となっている。

《経年比較》



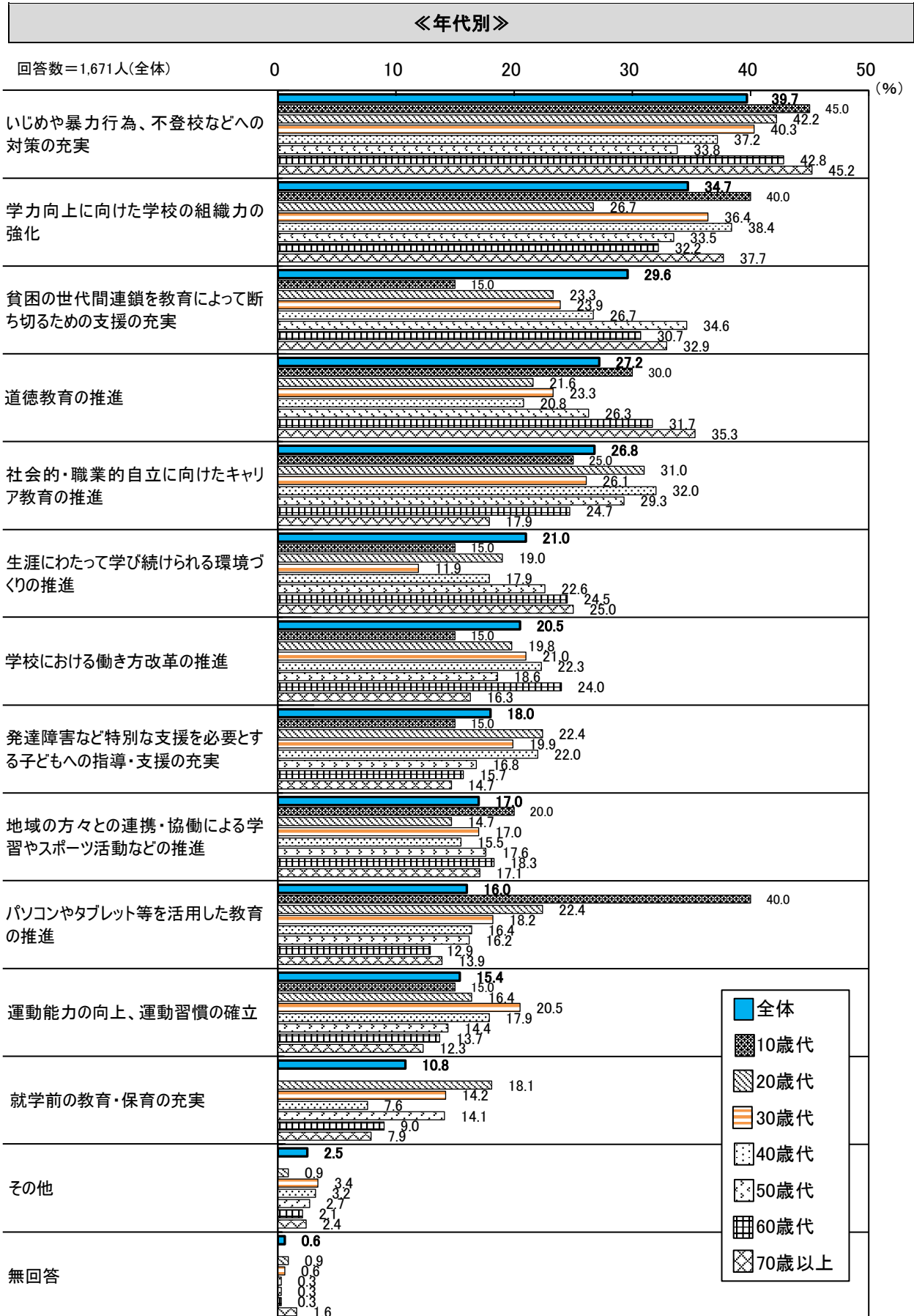
【性別】

男女ともに「いじめや暴力行為、不登校などへの対策の充実」が最も高く、「学力向上に向けた学校の組織力の強化」が続いている。



【年代別】

10歳代、20歳代、30歳代、60歳代、70歳以上では「いじめや暴力行為、不登校などへの対策の充実」が最も高く、40歳代では「学力向上に向けた学校の組織力の強化」が、50歳代では「貧困の世代間連鎖を教育によって断ち切るための支援の充実」が最も高くなっている。



(4)「南海トラフ地震対策の抜本強化・加速化」について

問4 「南海トラフ地震対策の抜本強化・加速化」について、第4期南海トラフ地震対策行動計画に基づき、県が行っている施策のうち特に力を入れるべきものは何ですか。(3つまで○印)

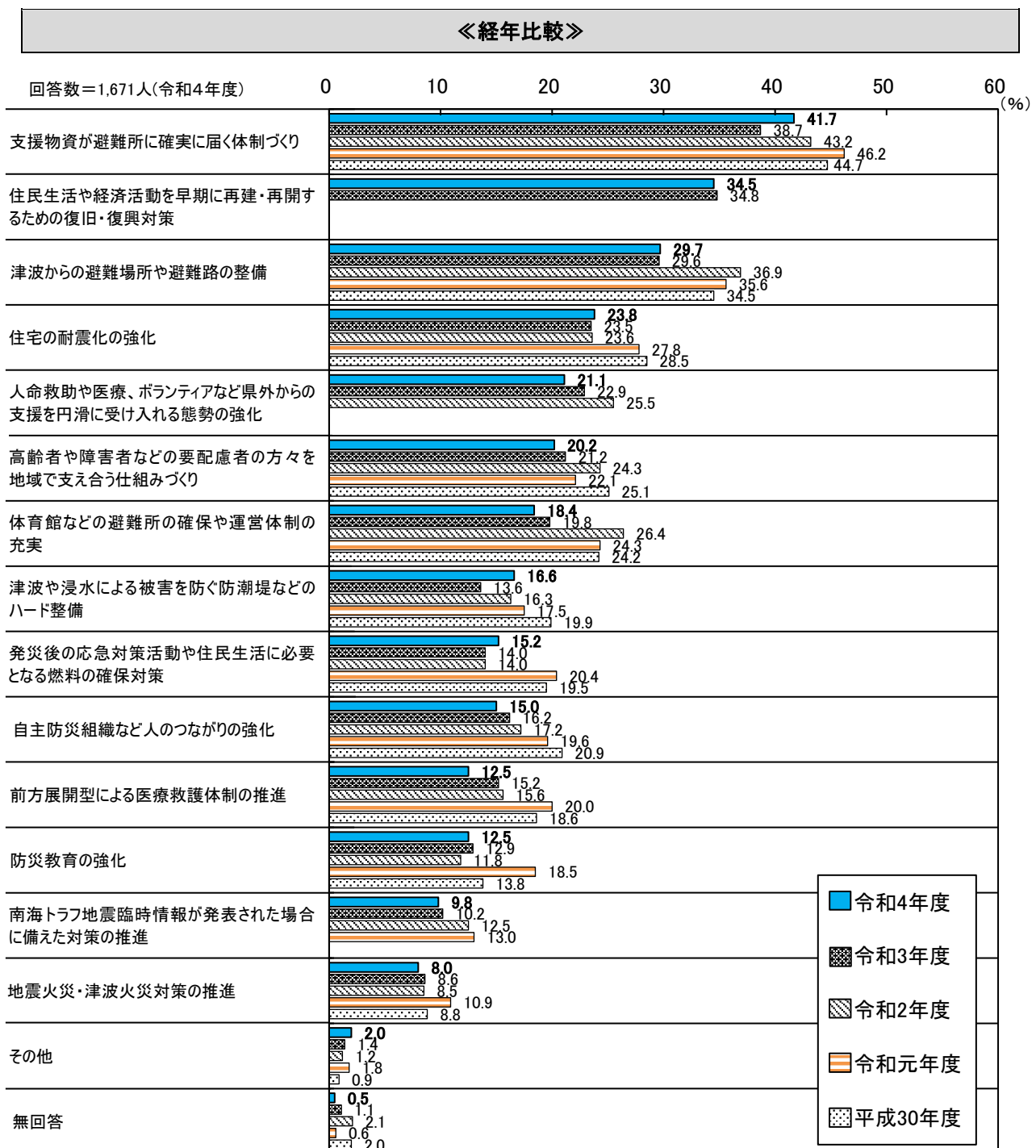
【総合】

「支援物資が避難所に確実に届く体制づくり」が41.7%と1位になっている。

次いで、「住民生活や経済活動を早期に再建・再開するための復旧・復興対策」が34.5%、「津波からの避難場所や避難路の整備」が29.7%と続いている。

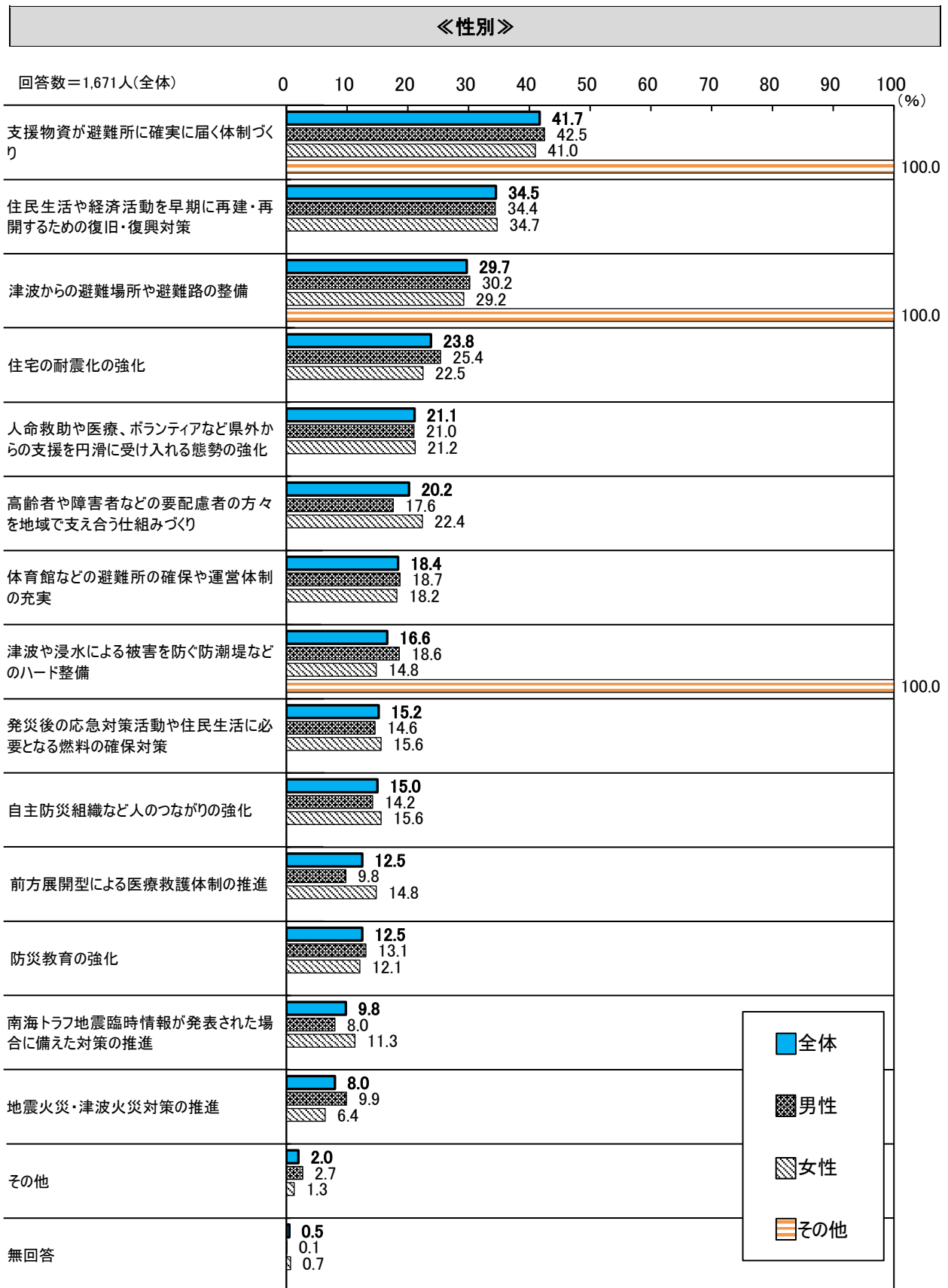
【過去の調査との比較】

昨年度と同じく、今年度も「支援物資が避難所に確実に届く体制づくり」が1位に、「住民生活や経済活動を早期に再建・再開するための復旧・復興対策」が2位になっている。



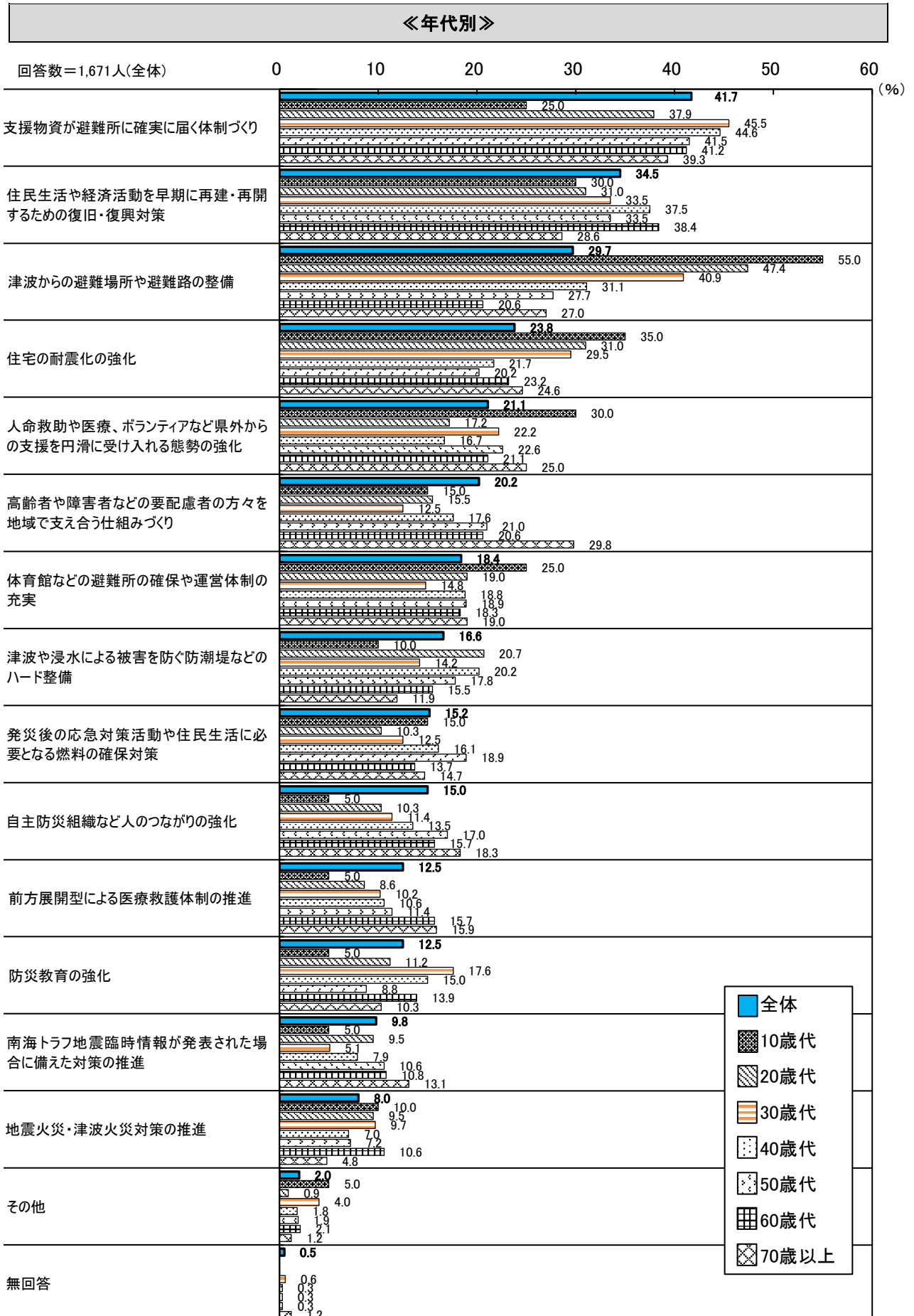
【性別】

男女ともに「支援物資が避難所に確実に届く体制づくり」が最も高くなっている。



【年代別】

10歳代、20歳代では「津波からの避難場所や避難路の整備」が最も高く、30歳代から70歳以上では「支援物資が避難所に確実に届く体制づくり」が最も高くなっている。



(5)「インフラの充実と有効活用」について

問5 「インフラの充実と有効活用」について、県が行っている施策のうち特に力を入れるべきものは何ですか。
(2つまで○印)

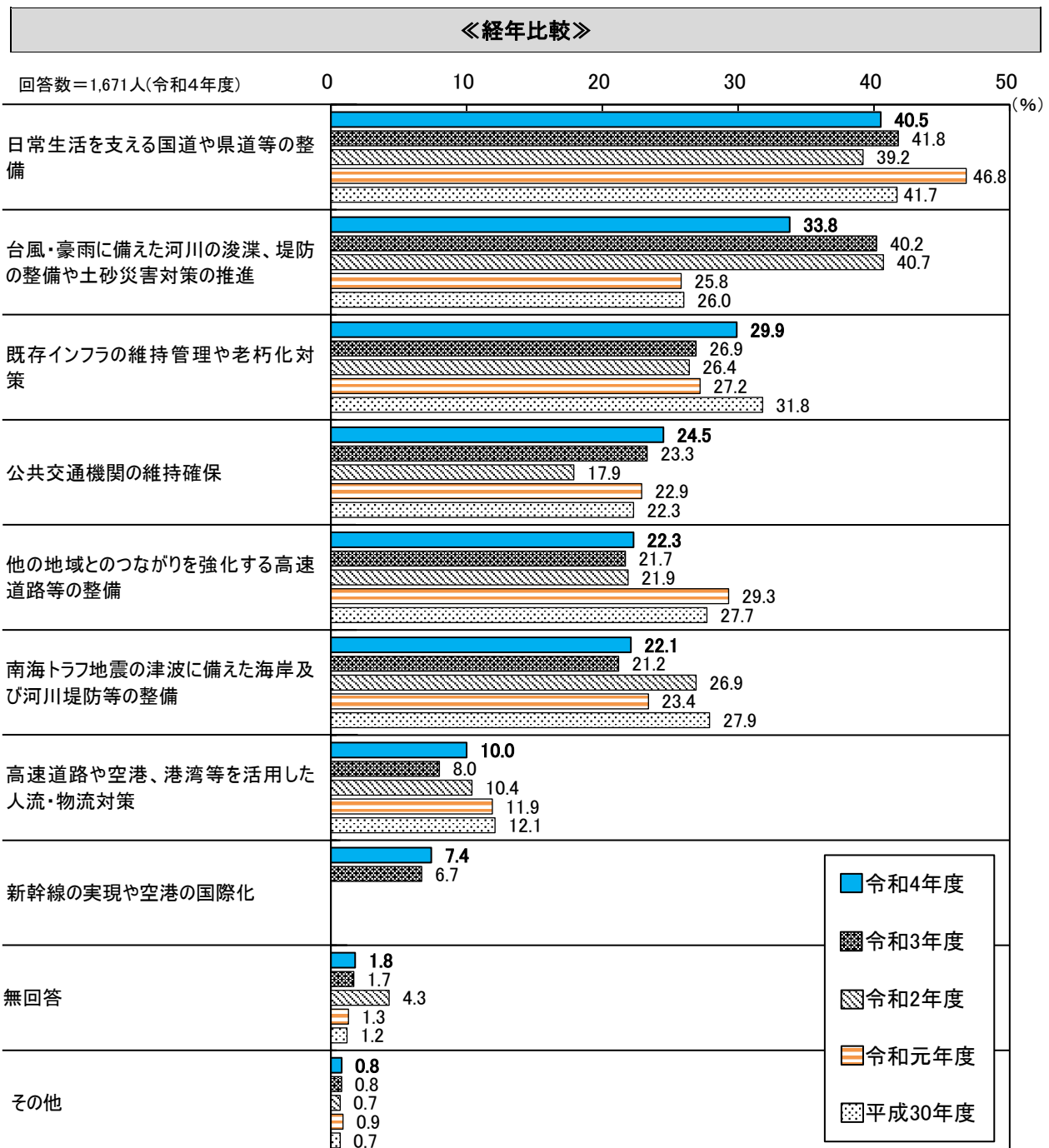
【総合】

「日常生活を支える国道や県道等の整備」が40.5%と1位になっている。

次いで、「台風・豪雨に備えた河川の浚渫、堤防の整備や土砂災害対策の推進」が33.8%、「既存インフラの維持管理や老朽化対策」が29.9%と続いている。

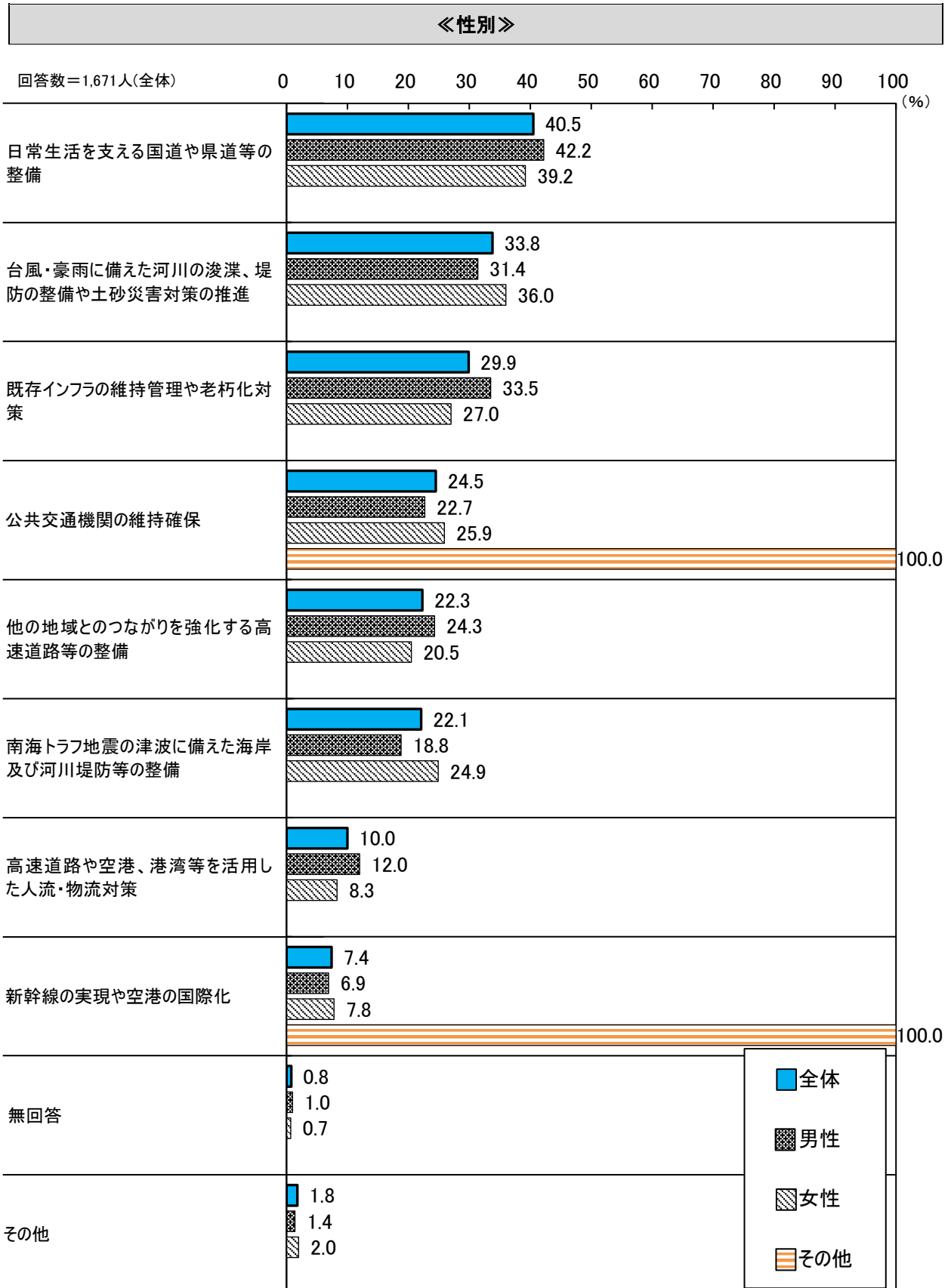
【過去の調査との比較】

昨年度と同じく今年度も「日常生活を支える国道や県道等の整備」が1位になっており、以降の順位も同じ傾向になっている。



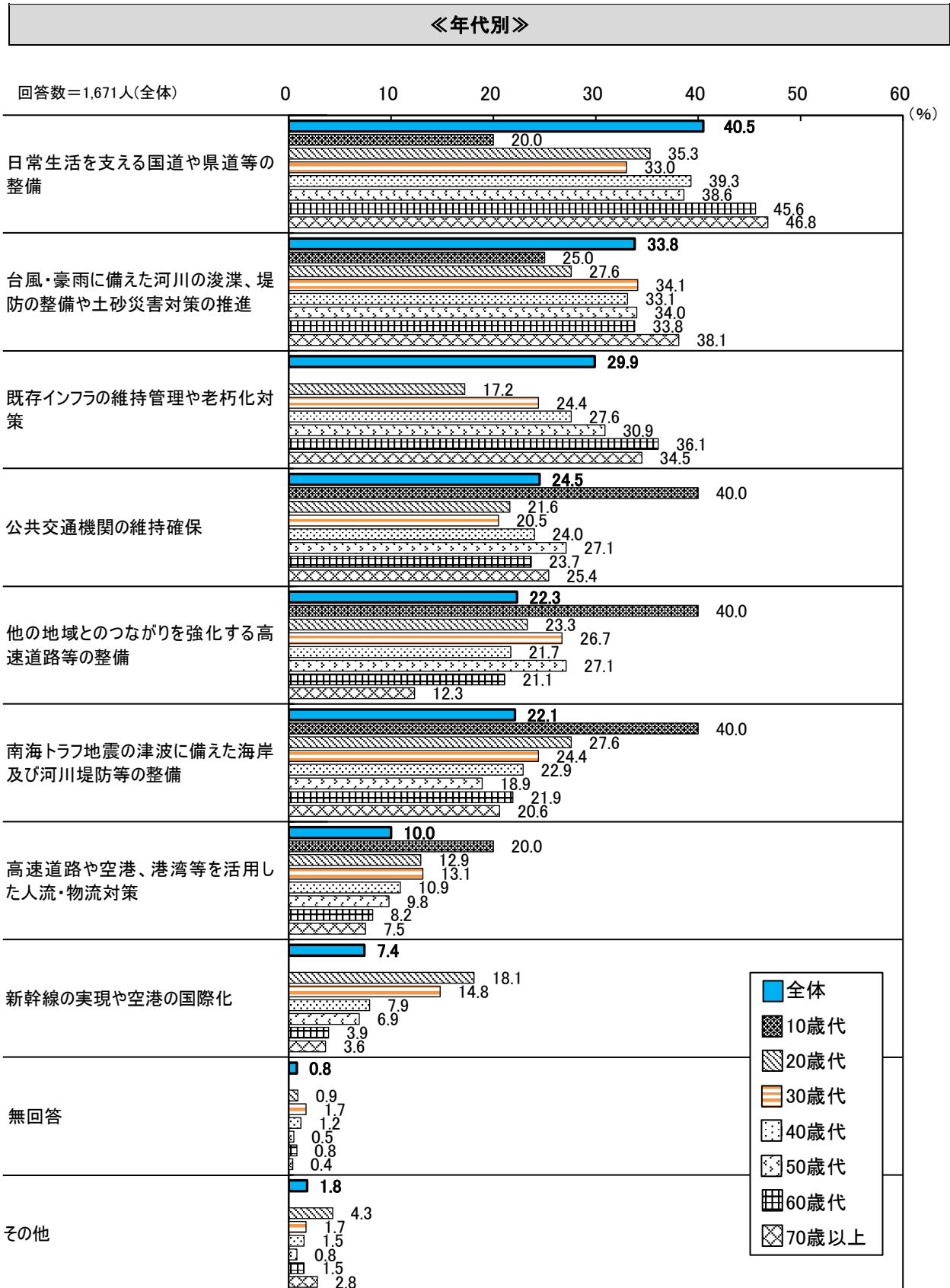
【性別】

男女ともに「日常生活を支える国道や県道等の整備」が最も高く、次いで、男性では「既存インフラの維持管理や老朽化対策」が、女性では「台風・豪雨に備えた河川の浚渫、堤防の整備や土砂災害対策の推進」が続いている。



【年代別】

10 歳代では同率で「公共交通機関の維持確保」、「他の地域とのつながりを強化する高速道路等の整備」、
 「南海トラフ地震の津波に備えた海岸及び河川堤防等の整備」が最も高く、30 歳代では「台風・豪雨に備え
 た河川の浚渫、堤防の整備や土砂災害対策の推進」が、20 歳代、40 歳代、50 歳代、60 歳代、70 歳以上では
 「日常生活を支える国道や県道等の整備」が最も高くなっている。



(6)「中山間対策の充実・強化」について

問6 「中山間対策の充実・強化」について、県が行っている施策のうち特に力を入れるべきものは何ですか。
(2つまで○印)

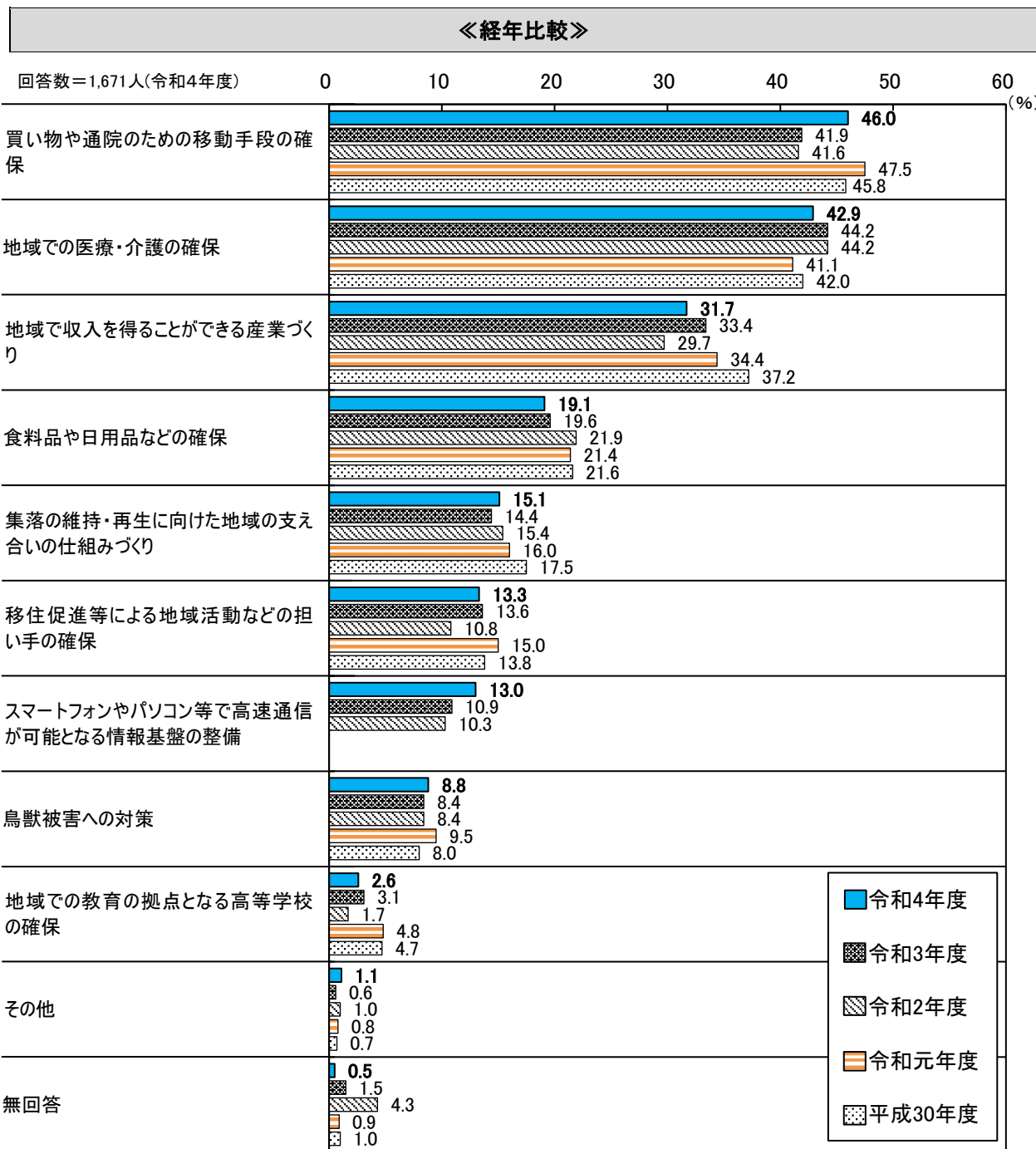
【総合】

「買い物や通院のための移動手段の確保」が46.0%と1位になっている。

次いで、「地域での医療・介護の確保」が42.9%、「地域で収入を得ることができる産業づくり」が31.7%と続いている。

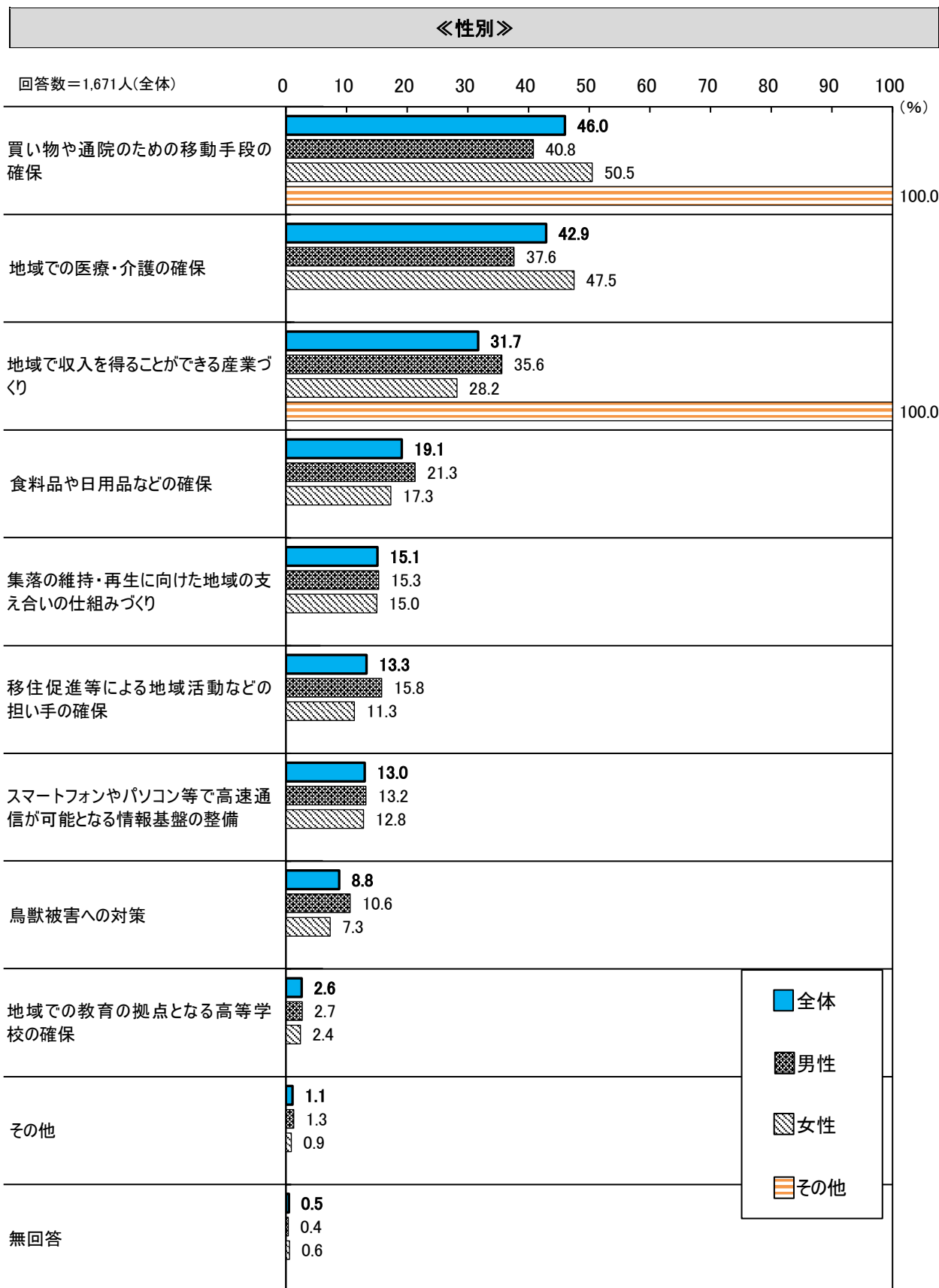
【過去の調査との比較】

今年度は「買い物や通院のための移動手段の確保」が昨年度から4.1ポイント増加し1位になっており、昨年度1位だった「地域での医療・介護の確保」は1.3ポイント減少し2位となっている。



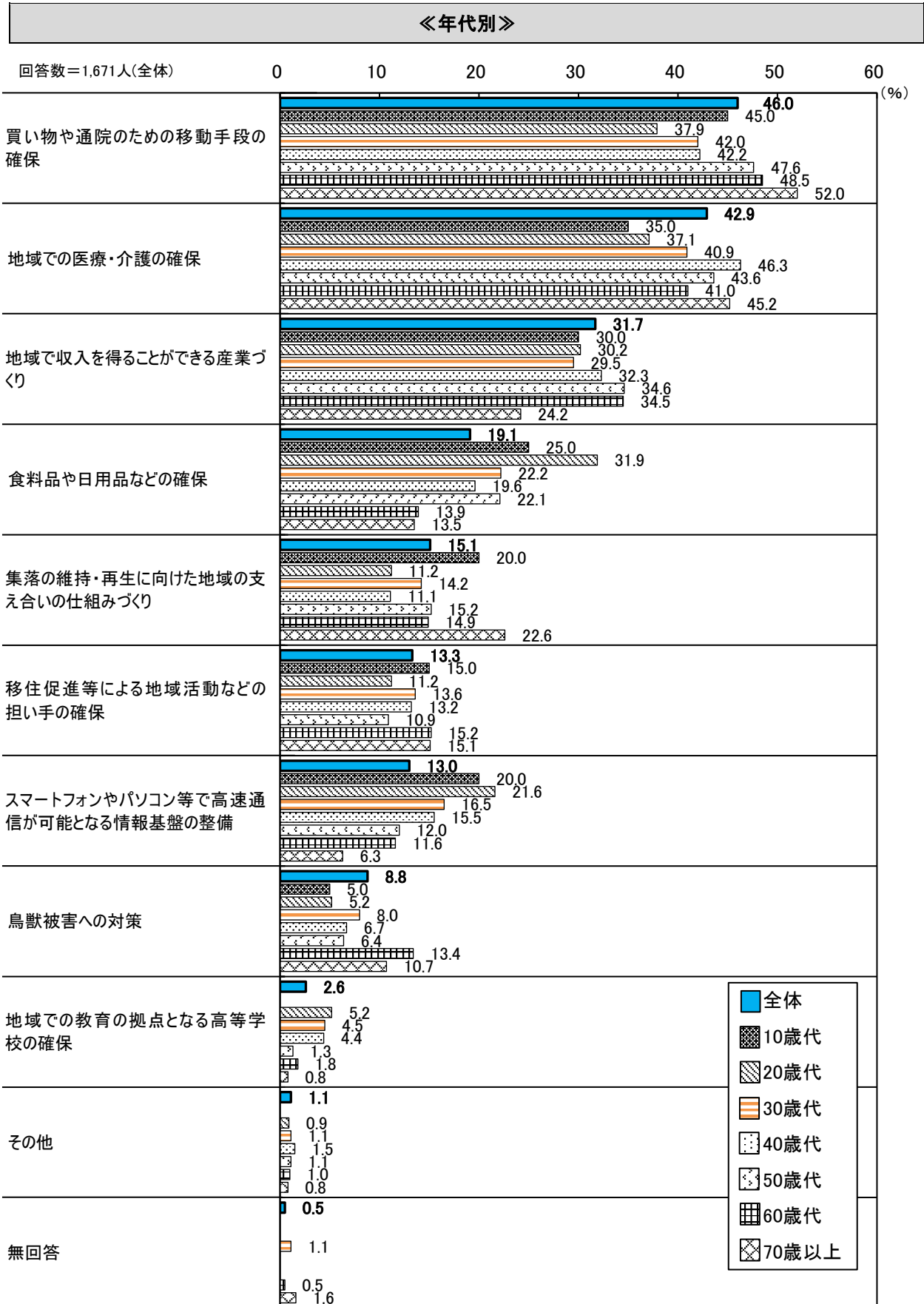
【性別】

男女ともに「買い物や通院のための移動手段の確保」が最も高くなっており、中でも女性は50.5%と、男性の40.8%より9.7ポイント高くなっている。



【年代別】

40歳代を除くすべての年代で「買い物や通院のための移動手段の確保」が最も高く、40歳代では「地域での医療・介護の確保」が最も高くなっている。



(7)「少子化対策の充実・強化と女性の活躍の場の拡大」について

問7 「少子化対策の充実・強化と女性の活躍の場の拡大」について、県が行っている施策のうち特に力を入れるべきものは何ですか。(2つまで○印)

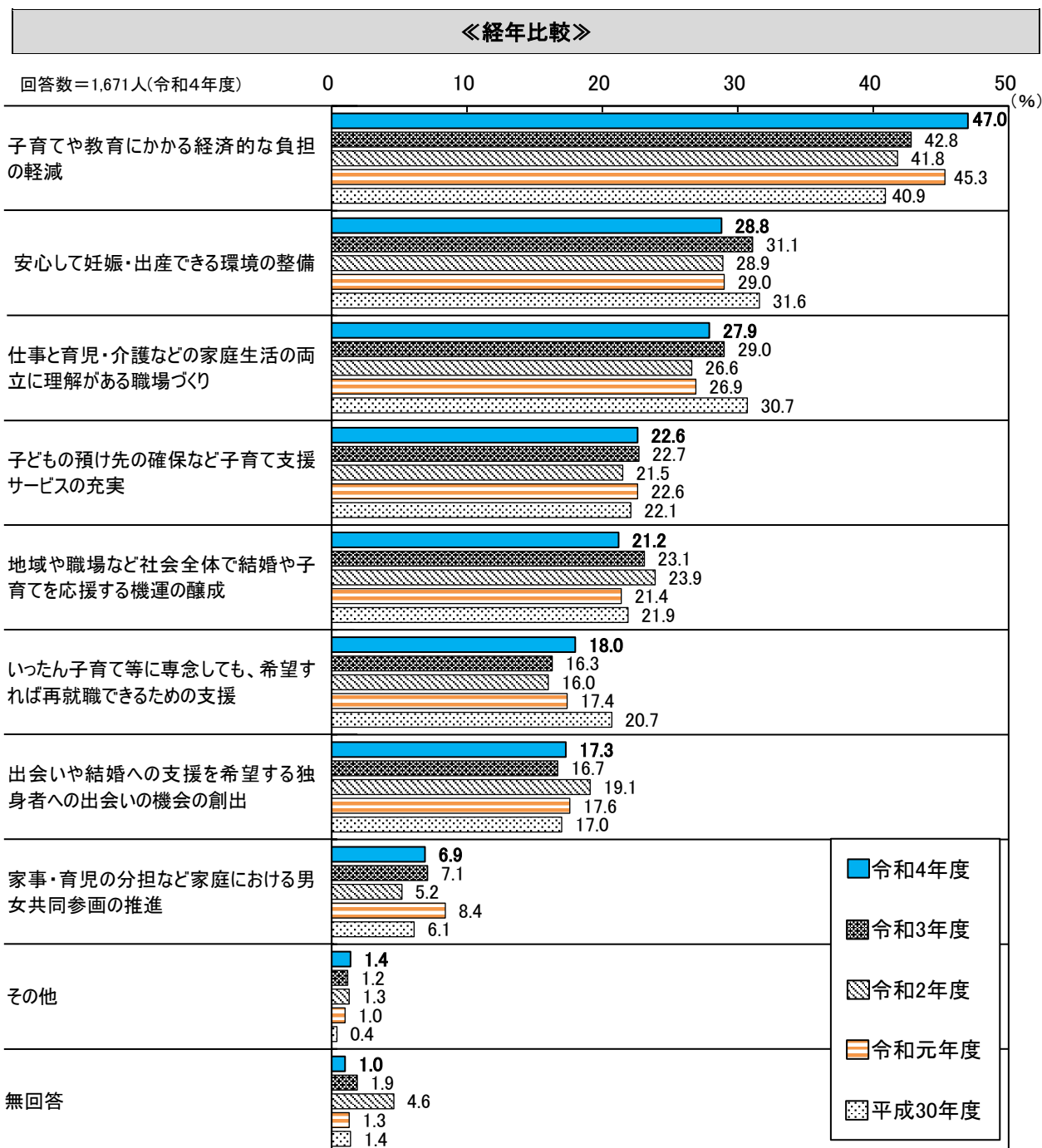
【総合】

「子育てや教育にかかる経済的な負担の軽減」が47.0%と1位になっている。

次いで、「安心して妊娠・出産できる環境の整備」が28.8%、「仕事と育児・介護などの家庭生活の両立に理解がある職場づくり」が27.9%と続いている。

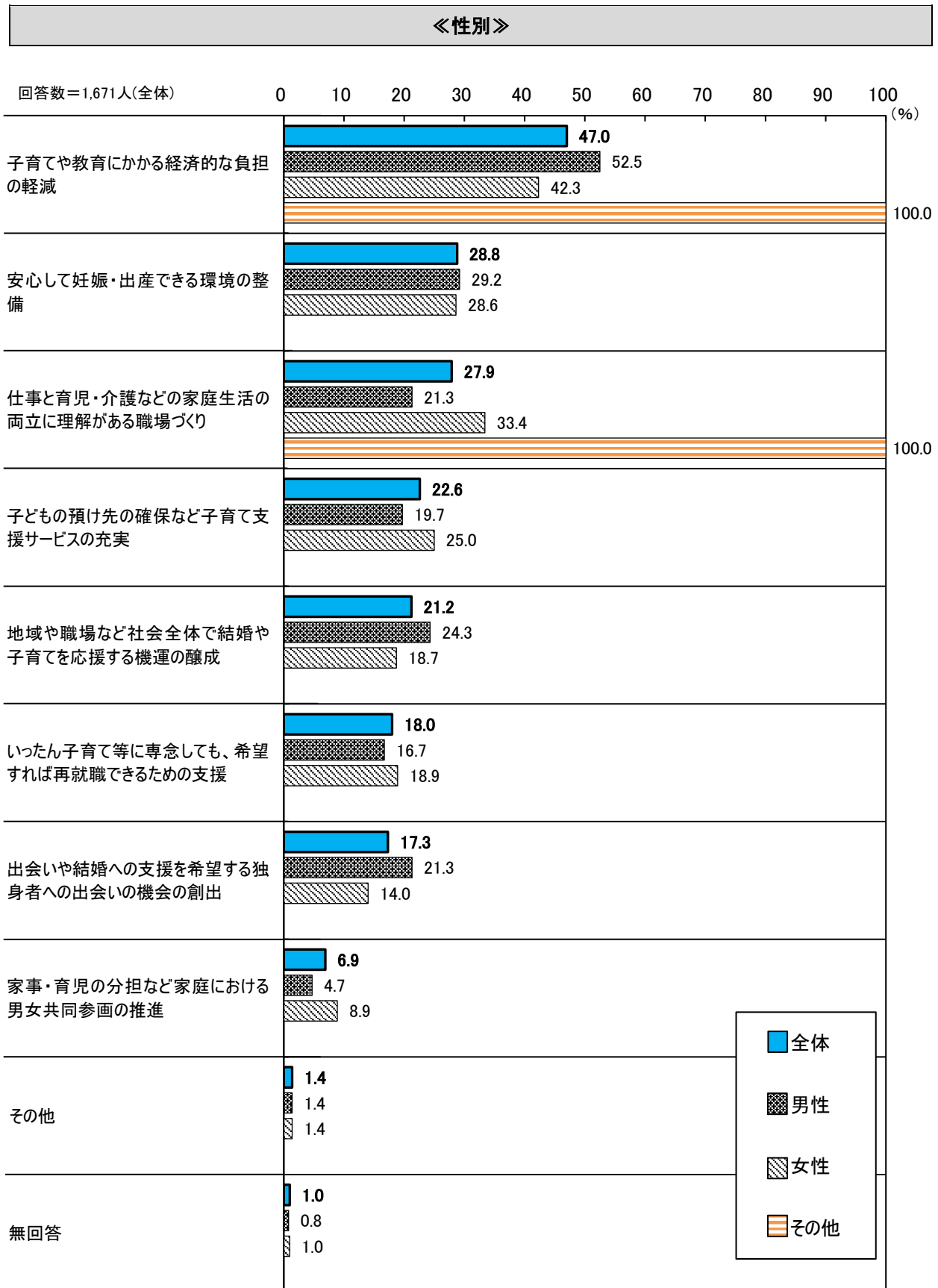
【過去の調査との比較】

昨年度と同じく今年度も「子育てや教育にかかる経済的な負担の軽減」が最も高く、昨年度よりも4.2ポイント高くなっている。



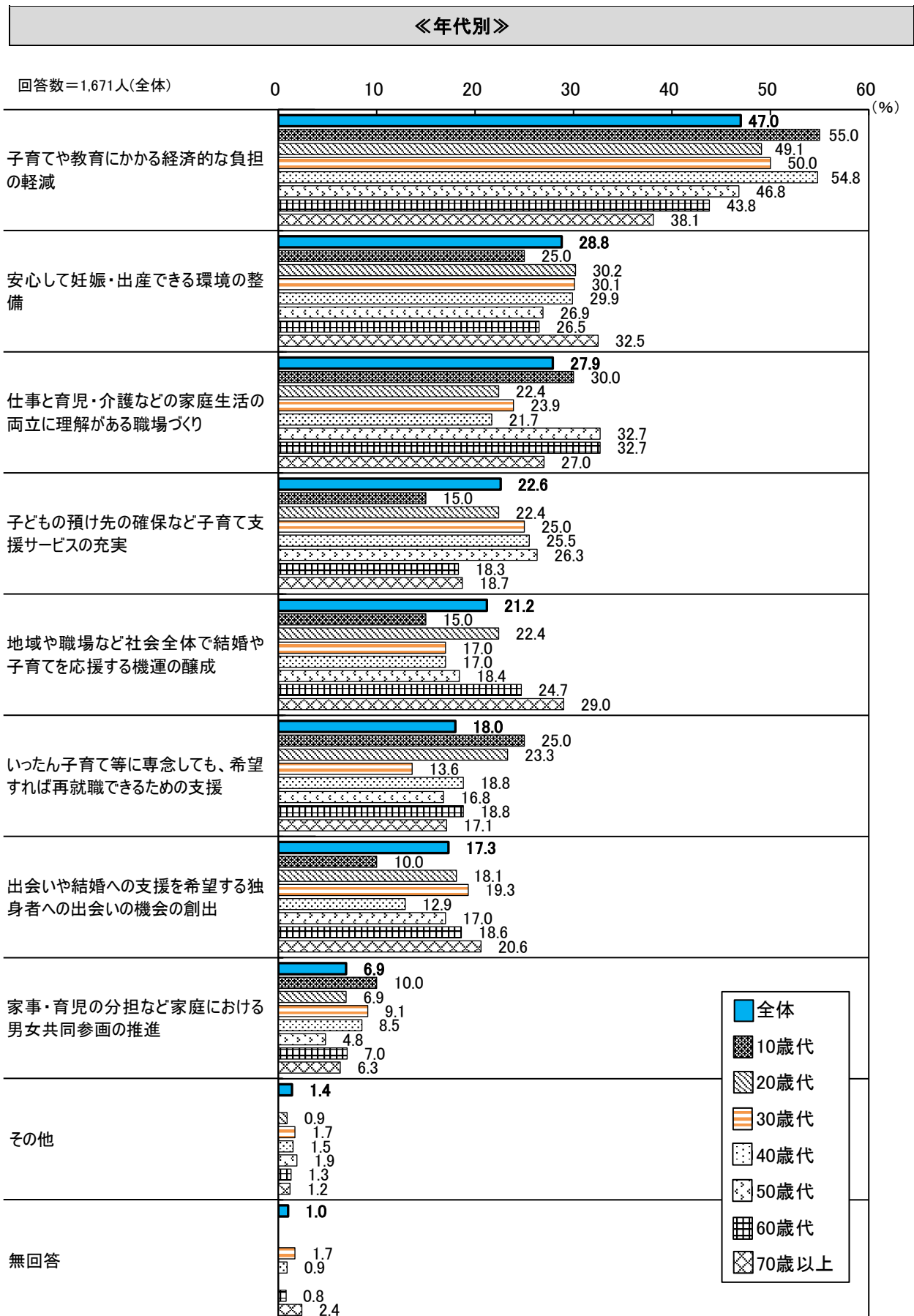
【性別】

男女ともに「子育てや教育にかかる経済的な負担の軽減」が最も高くなっており、次いで、男性では「安心して妊娠・出産できる環境の整備」が、女性では「仕事と育児・介護などの家庭生活の両立に理解がある職場づくり」が続いている。



【年代別】

すべての年代で「子育てや教育にかかる経済的な負担の軽減」が最も高くなっている。



(8)「文化芸術の振興」について

問8 文化芸術の振興について、特に力を入れるべきものは何ですか。(2つまで○印)

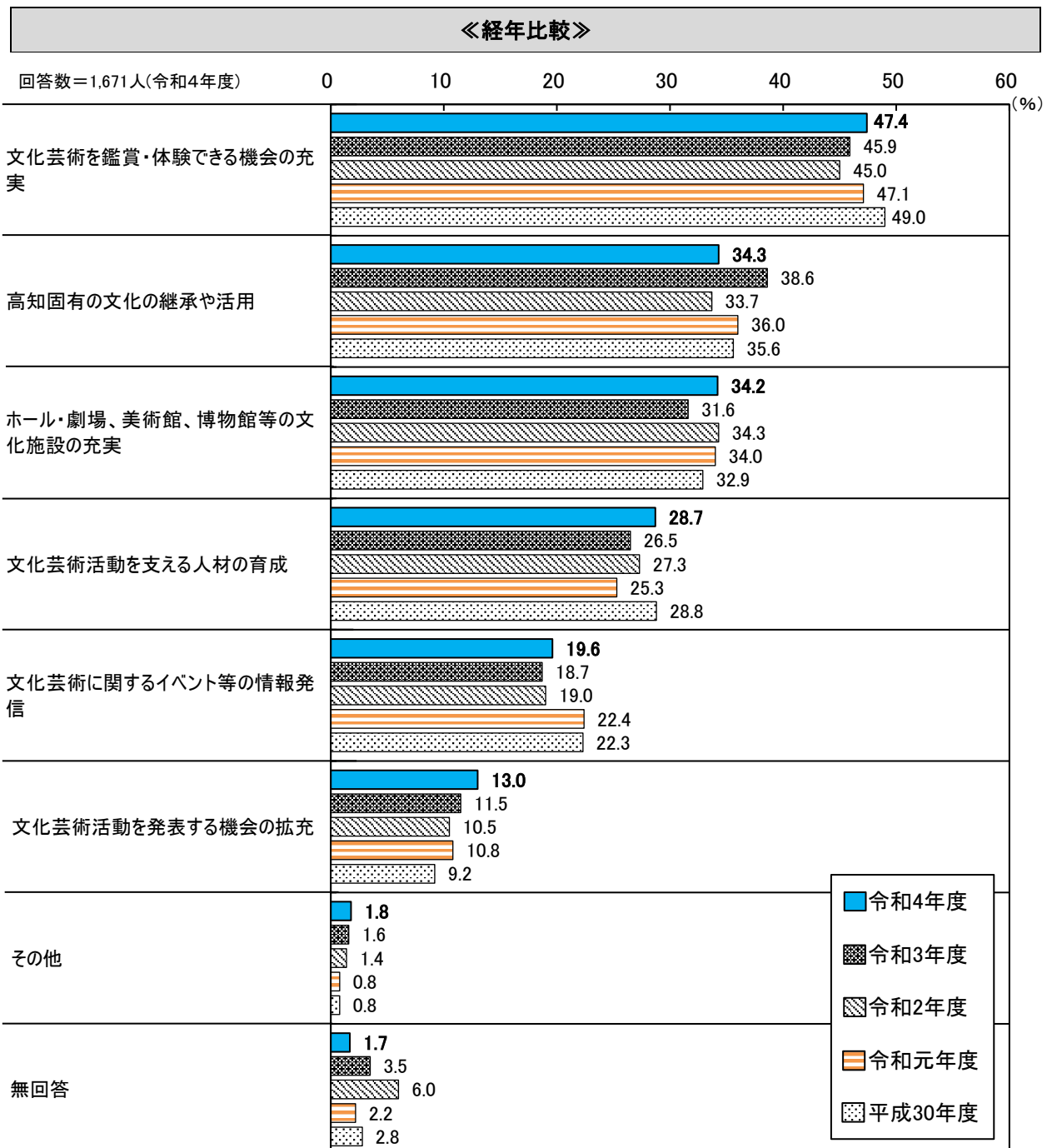
【総合】

「文化芸術を鑑賞・体験できる機会の充実」が47.4%と1位になっている。

次いで、「高知固有の文化の継承や活用」が34.3%、「ホール・劇場、美術館、博物館等の文化施設の充実」が34.2%と続いている。

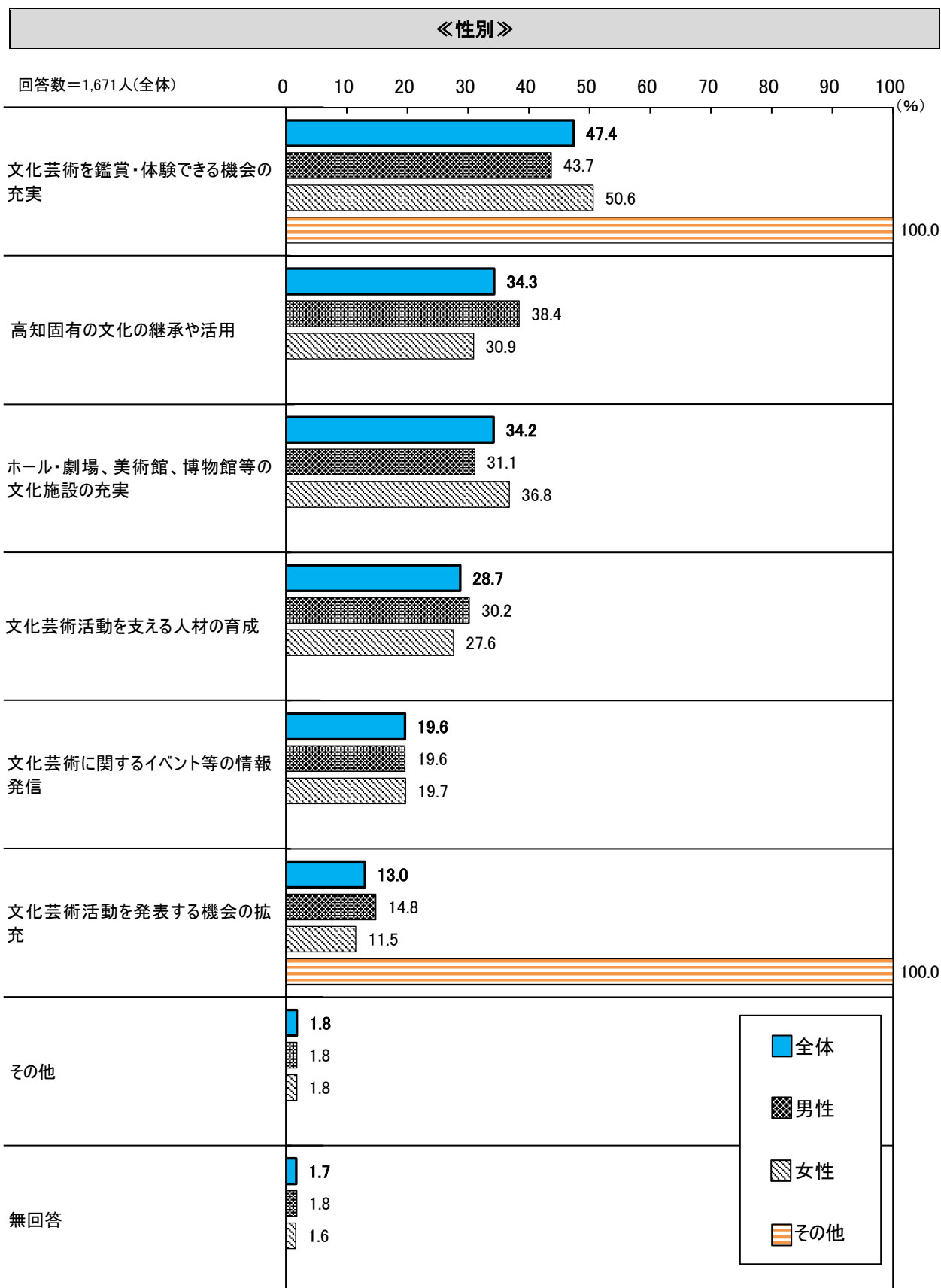
【過去の調査との比較】

昨年度と同じく今年度も「文化芸術を鑑賞・体験できる機会の充実」が1位となっており、以降の順位もほぼ同じ傾向になっている。



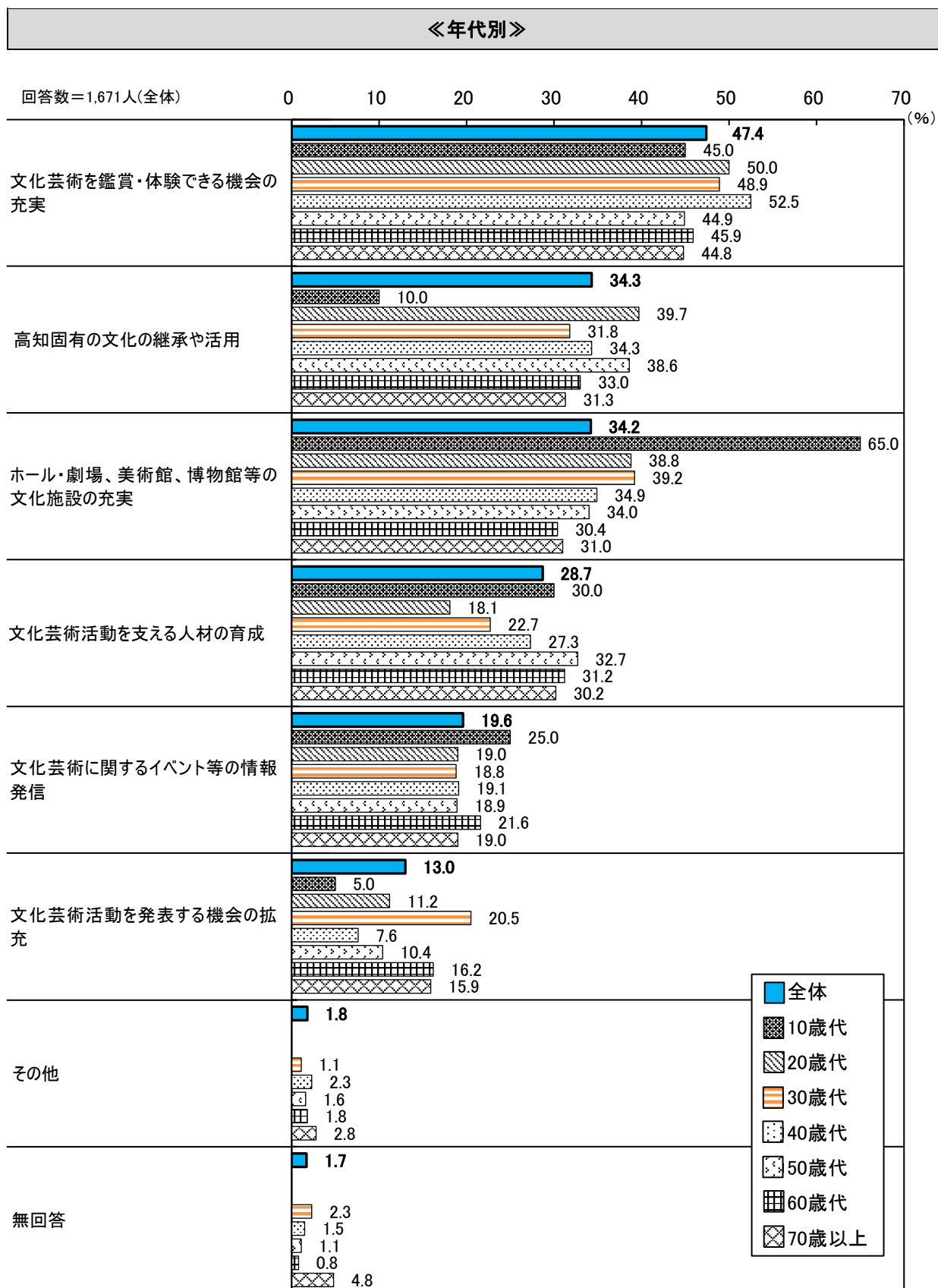
【性別】

男女ともに「文化芸術を鑑賞・体験できる機会の充実」が最も高くなっており、次いで、男性では「高知固有の文化の継承や活用」が、女性では「ホール・劇場、美術館、博物館等の文化施設の充実」が続いている。



【年代別】

10歳代では「ホール・劇場、美術館、博物館等の文化施設の充実」が最も高く、20歳代から70歳以上では「文化芸術を鑑賞・体験できる機会の充実」が最も高くなっている。



(9)「スポーツの振興」について

問9 スポーツの振興について、特に力を入れるべきものは何ですか。(2つまで○印)

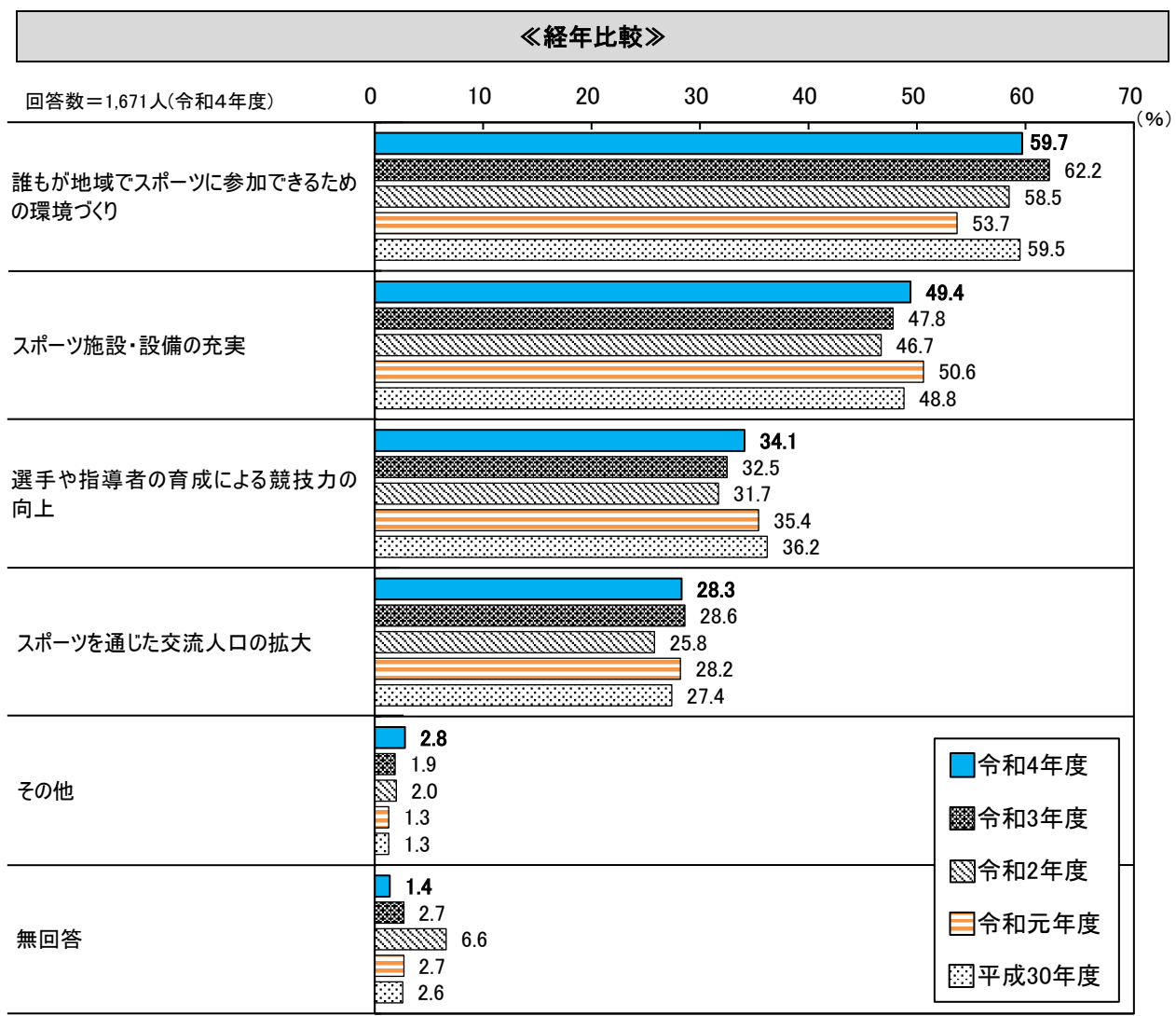
【総合】

「誰もが地域でスポーツに参加できるための環境づくり」が59.7%と1位になっている。

次いで、「スポーツ施設・設備の充実」が49.4%、「選手や指導者の育成による競技力の向上」が34.1%と続いている。

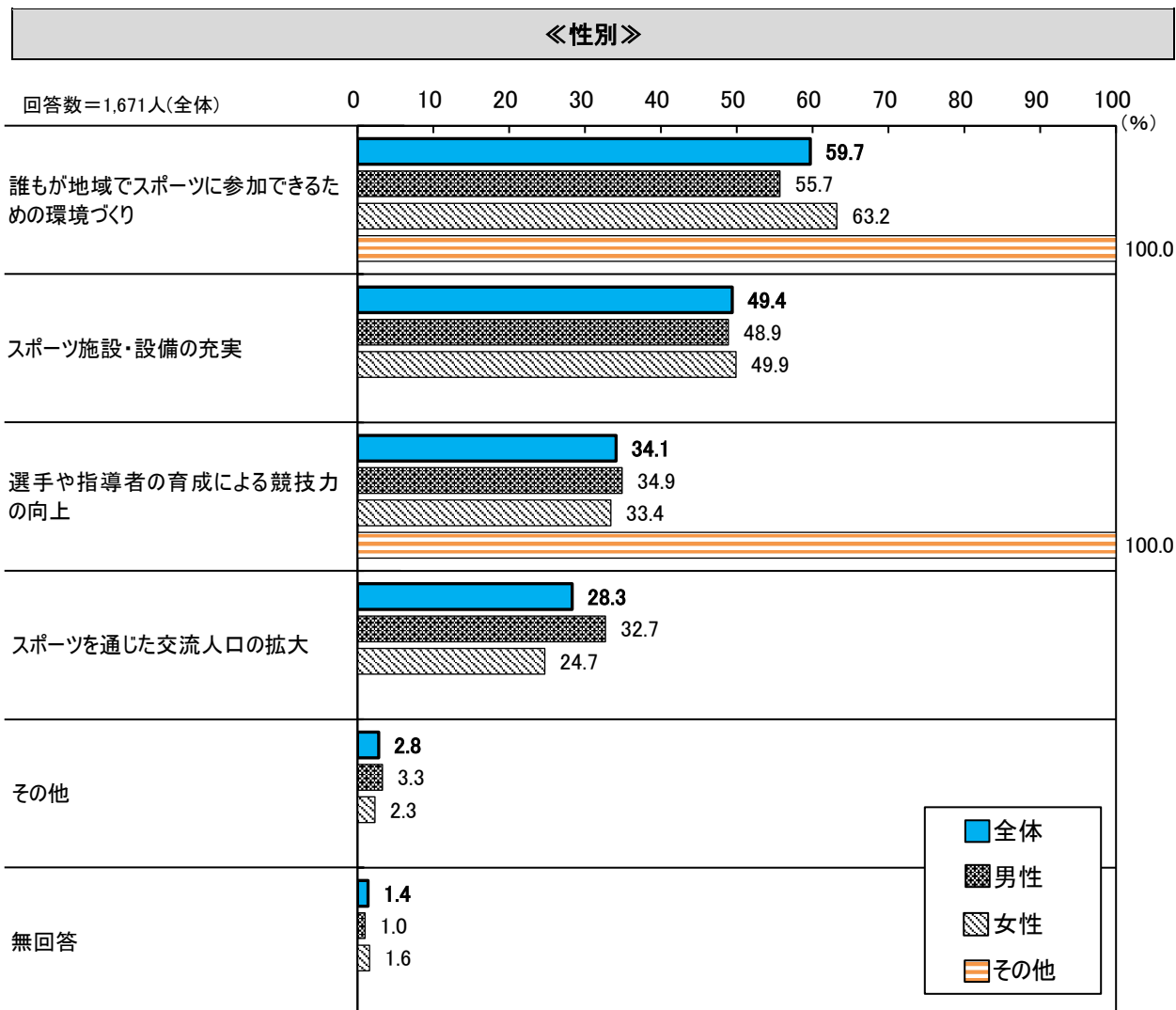
【過去の調査との比較】

昨年度と同じく今年度も「誰もが地域でスポーツに参加できるための環境づくり」が1位となっており、以降の順位も同じ傾向になっている。



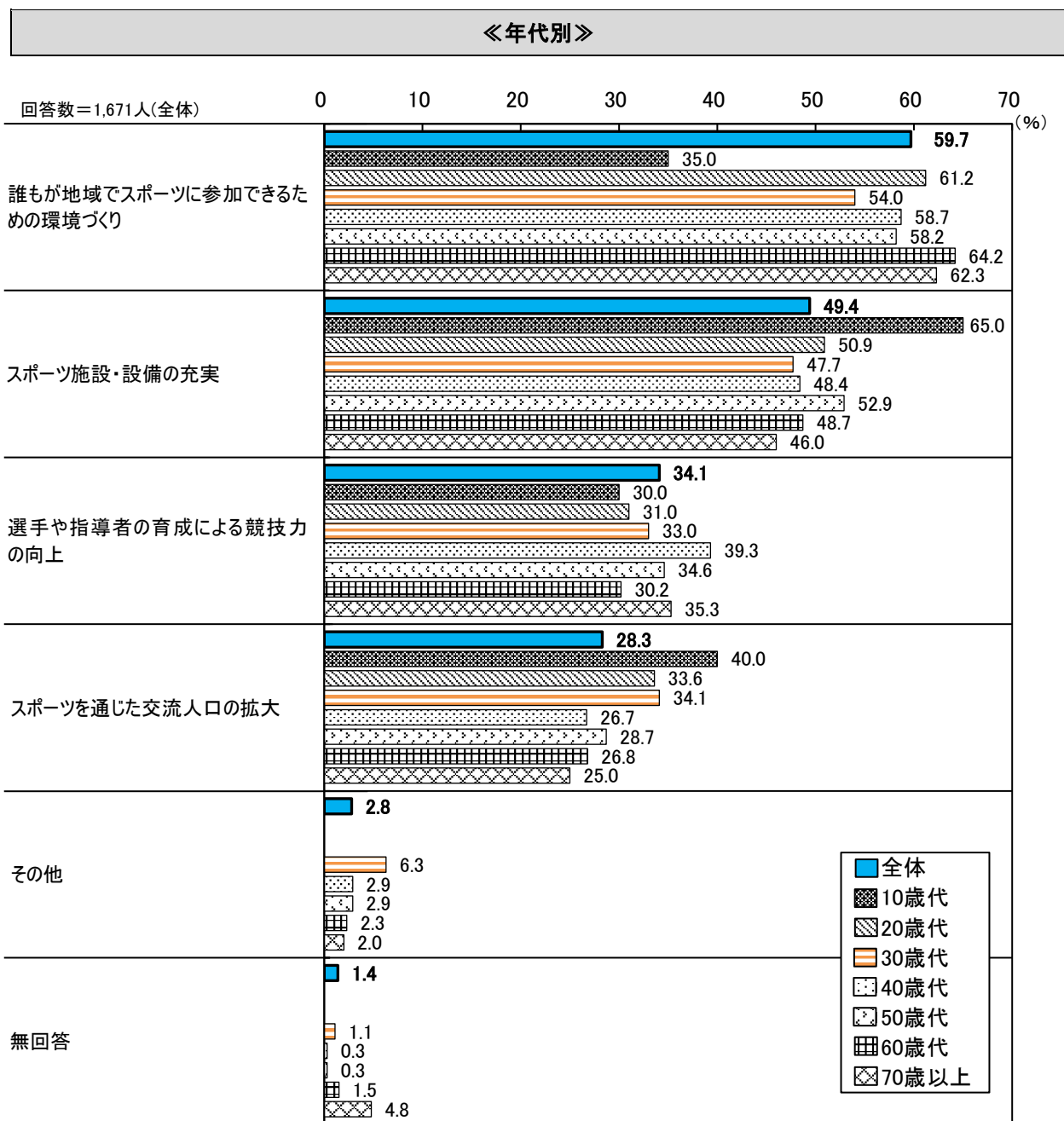
【性別】

男女とも「誰もが地域でスポーツに参加できるための環境づくり」が最も高くなっており、女性の方が63.2%と、男性の55.7%より7.5ポイント高くなっている。



【年代別】

10歳代を除くすべての年代で「誰もが地域でスポーツに参加できるための環境づくり」が最も高く、10歳代では「スポーツ施設・設備の充実」が最も高くなっている。



(10)「5つの基本政策と3つの横断的にかかわる政策」について

問 10 県が行っている8つの政策のうち、より一層力を入れて取り組むべきだと考えるものは何ですか。
(2つまで○印)

【総合】

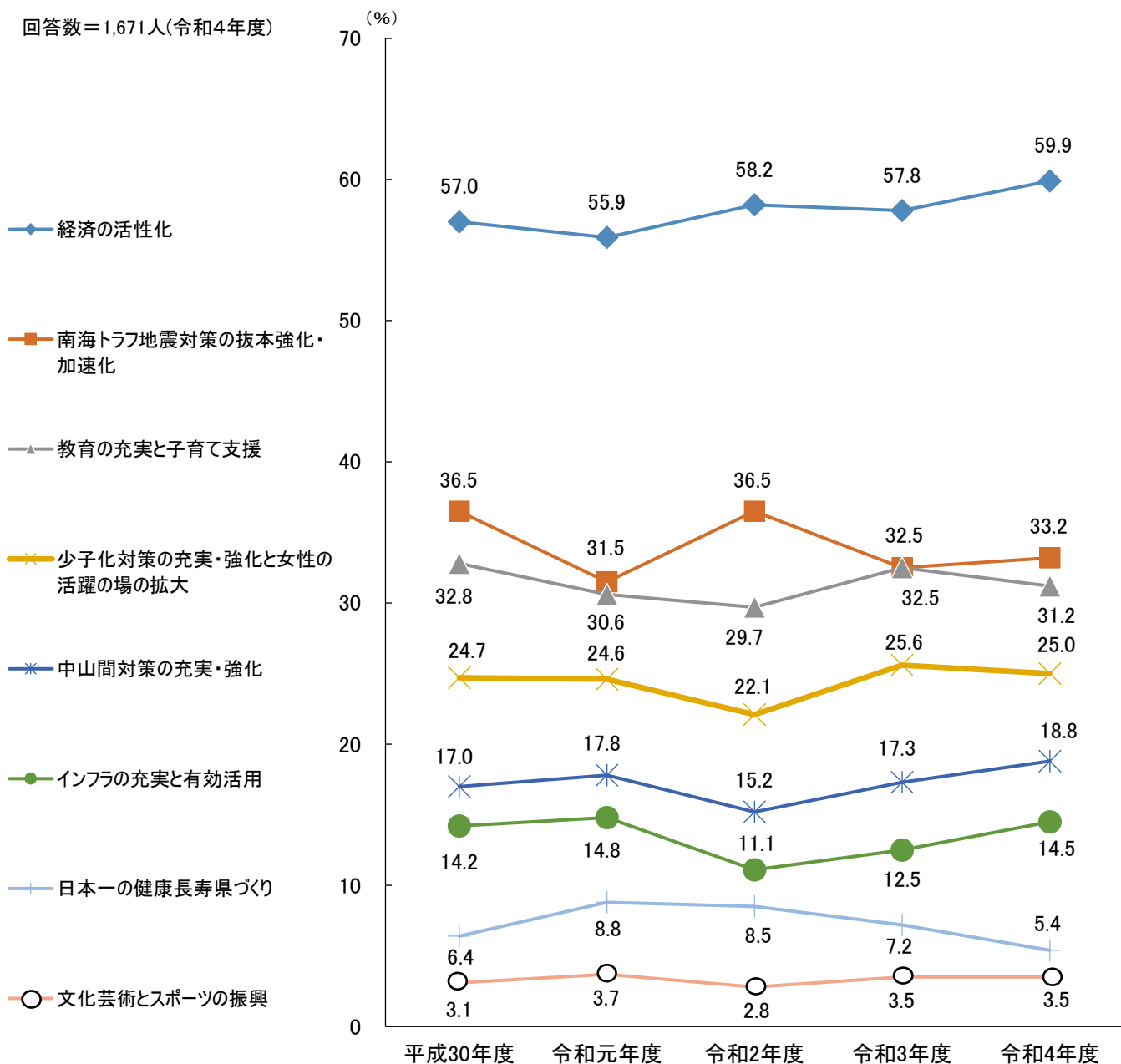
「経済の活性化」が59.9%と1位になっている。

次いで、「南海トラフ地震対策の抜本強化・加速化」が33.2%、「教育の充実と子育て支援」が31.2%と続いている。

【過去の調査との比較】

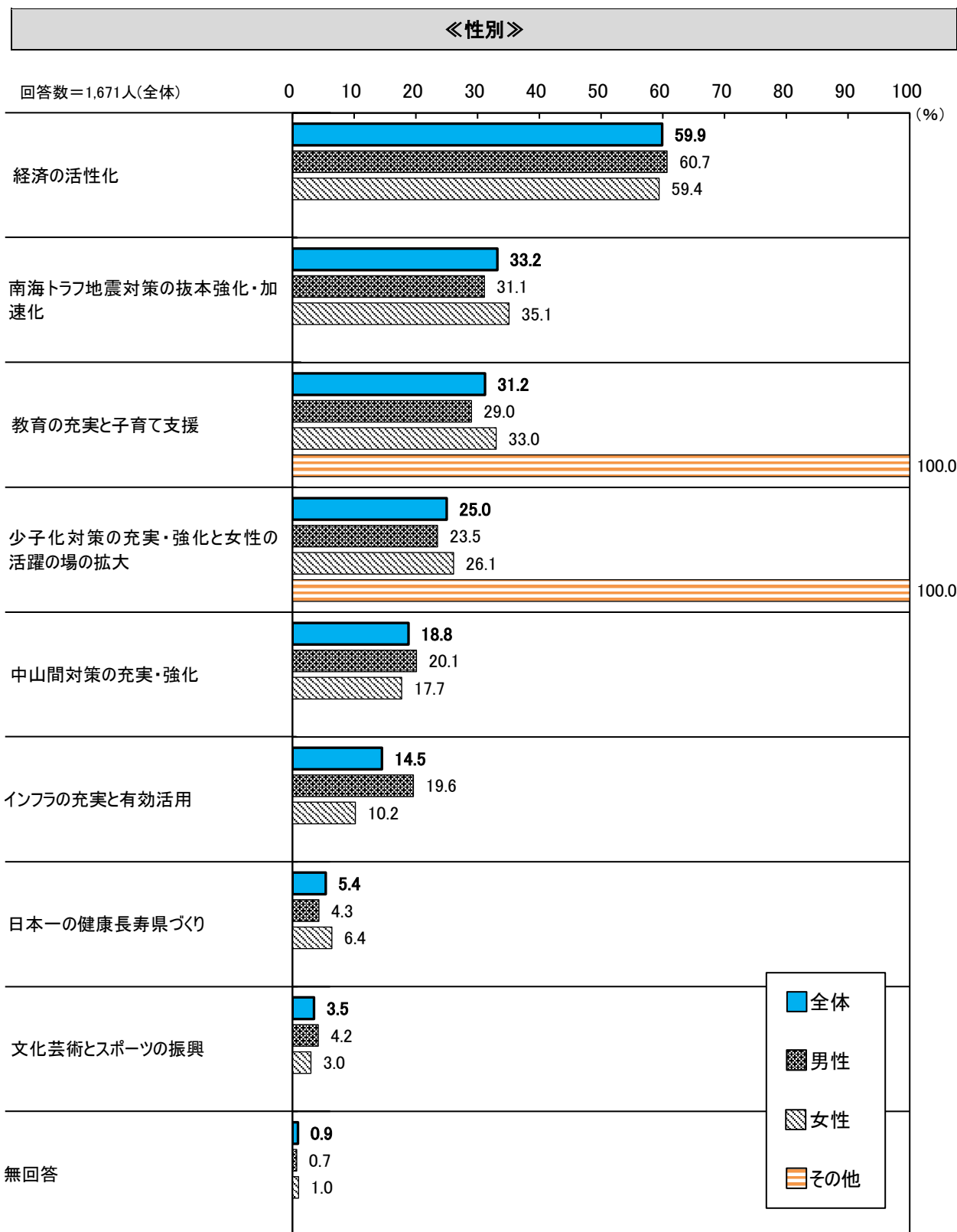
今年度も「経済の活性化」が1位となっており、昨年度より2.1ポイント増加している。

《経年比較》



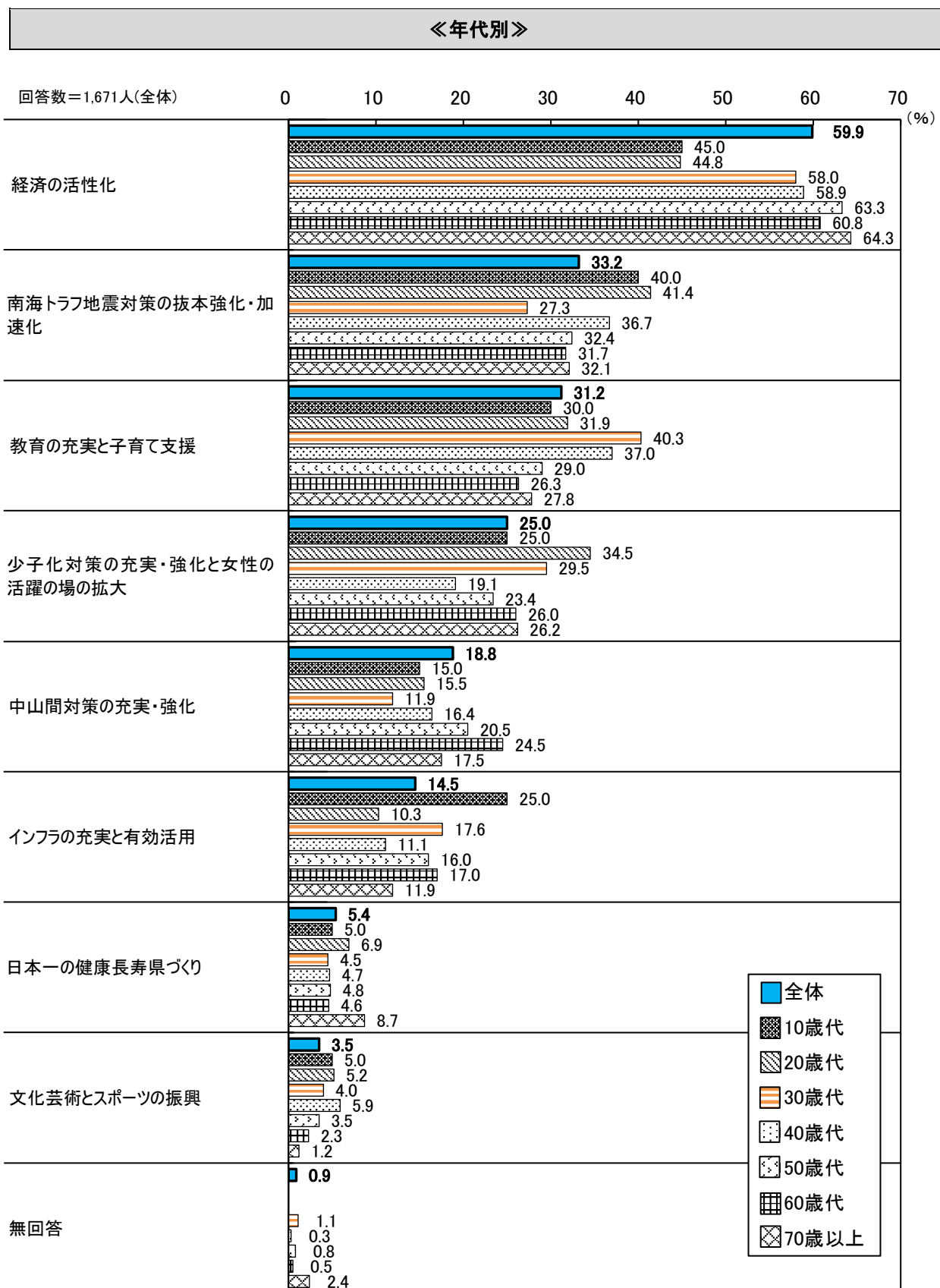
【性別】

男女ともに「経済の活性化」が最も高くなっており、以降の順位も同じ傾向となっている。



【年代別】

すべての年代で「経済の活性化」が最も高くなっているが、10歳代、20歳代と30歳代以上の年代では13ポイント以上の差がある。



2. 新型コロナウイルス感染症対策について

問12 新型コロナウイルス感染症やその影響について、不安に感じていることは何ですか。
(3つまで○印)

【総合】

「自分や家族、知人の感染」が65.1%と1位になっている。

次いで、「医療の提供体制」が63.9%、「景気悪化による収入の減少」が30.2%と続いている。

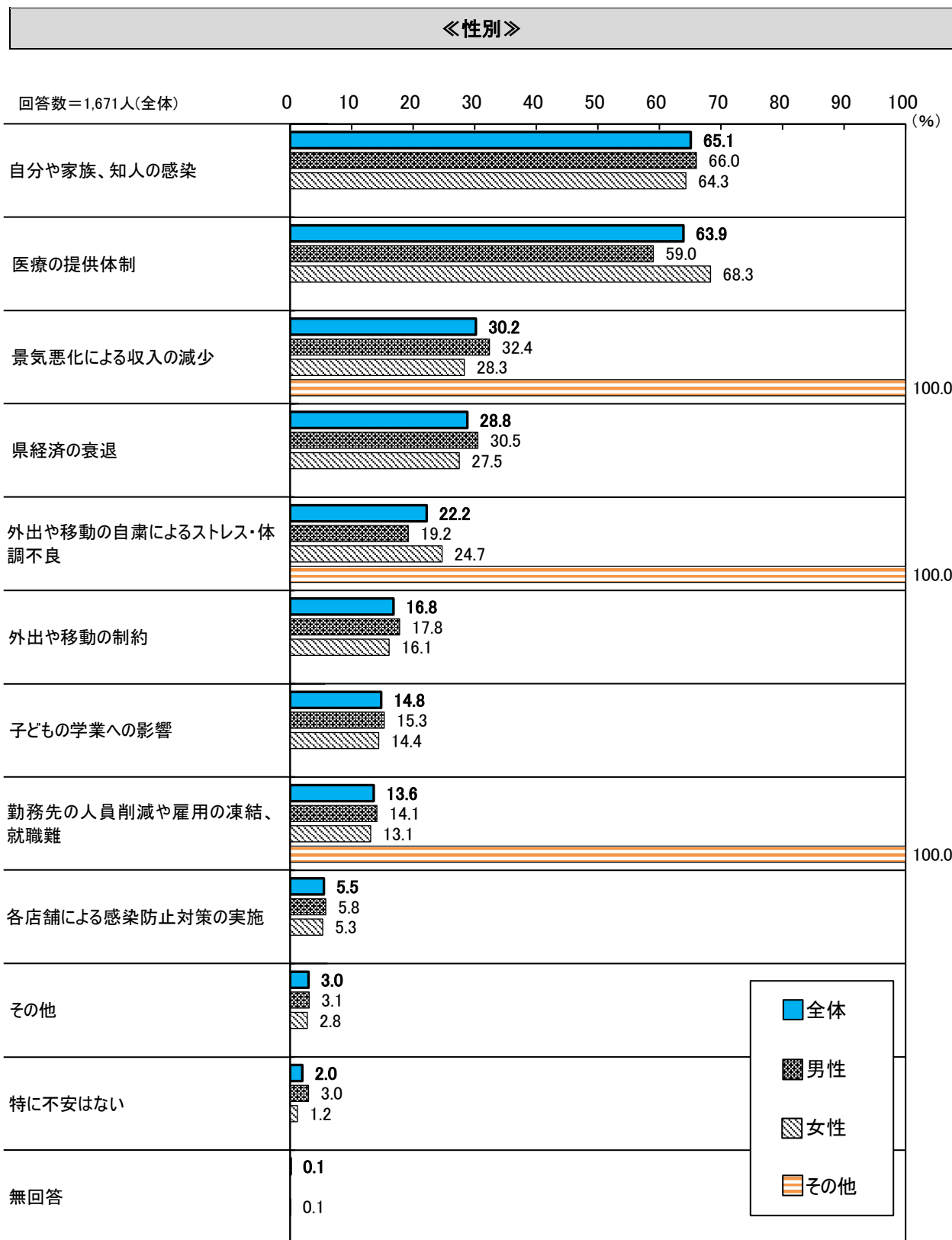
《 総 合 》

		回答数
全 体	100.0	1,671 人
自分や家族、知人の感染	65.1	1,087 人
医療の提供体制	63.9	1,068 人
景気悪化による収入の減少	30.2	505 人
県経済の衰退	28.8	481 人
外出や移動の自粛によるストレス・体調不良	22.2	371 人
外出や移動の制約	16.8	281 人
子どもの学業への影響	14.8	247 人
勤務先の人員削減や雇用の凍結、就職難	13.6	227 人
各店舗による感染防止対策の実施	5.5	92 人
その他	3.0	50 人
特に不安はない	2.0	34 人
無回答	0.1	2 人

グラフ単位(%)

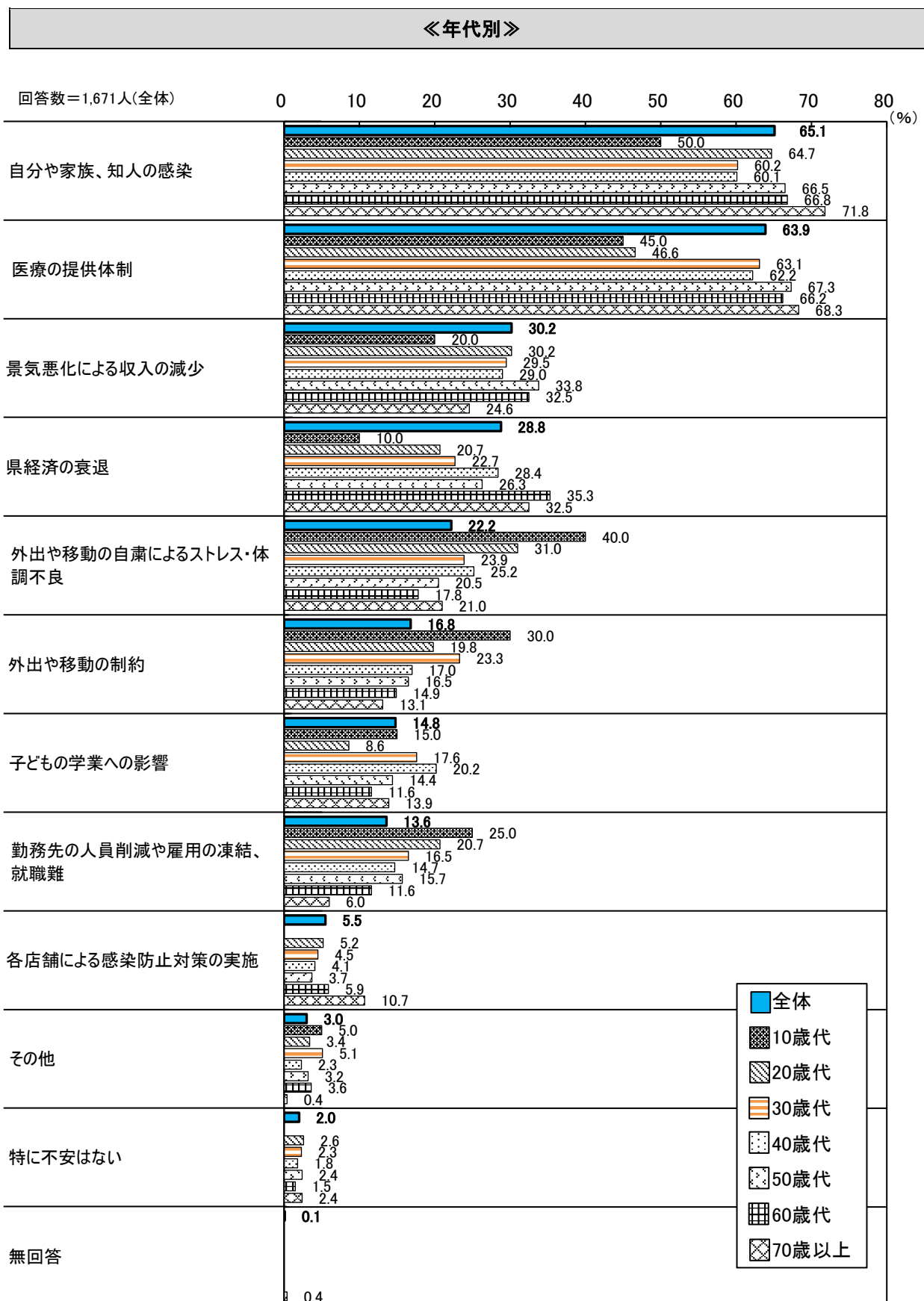
【性別】

男性では「自分や家族、知人の感染」が最も高くなっており、女性では「医療の提供体制」が最も高くなっている。



【年代別】

10歳代、20歳代、60歳代、70歳以上では「自分や家族、知人の感染」が、30歳代、40歳代、50歳代では「医療の提供体制」が最も高くなっている。



問13 高知県における新型コロナウイルス感染症関連の情報で注目しているものは何ですか。
(当てはまるものすべてに○印)

【総合】

「1日の新規感染者数」が72.0%と1位になっている。

次いで、「最大確保病床の占有率（医療提供体制のひっ迫状況）」が50.1%、「ワクチンに関する情報」が40.0%と続いている。

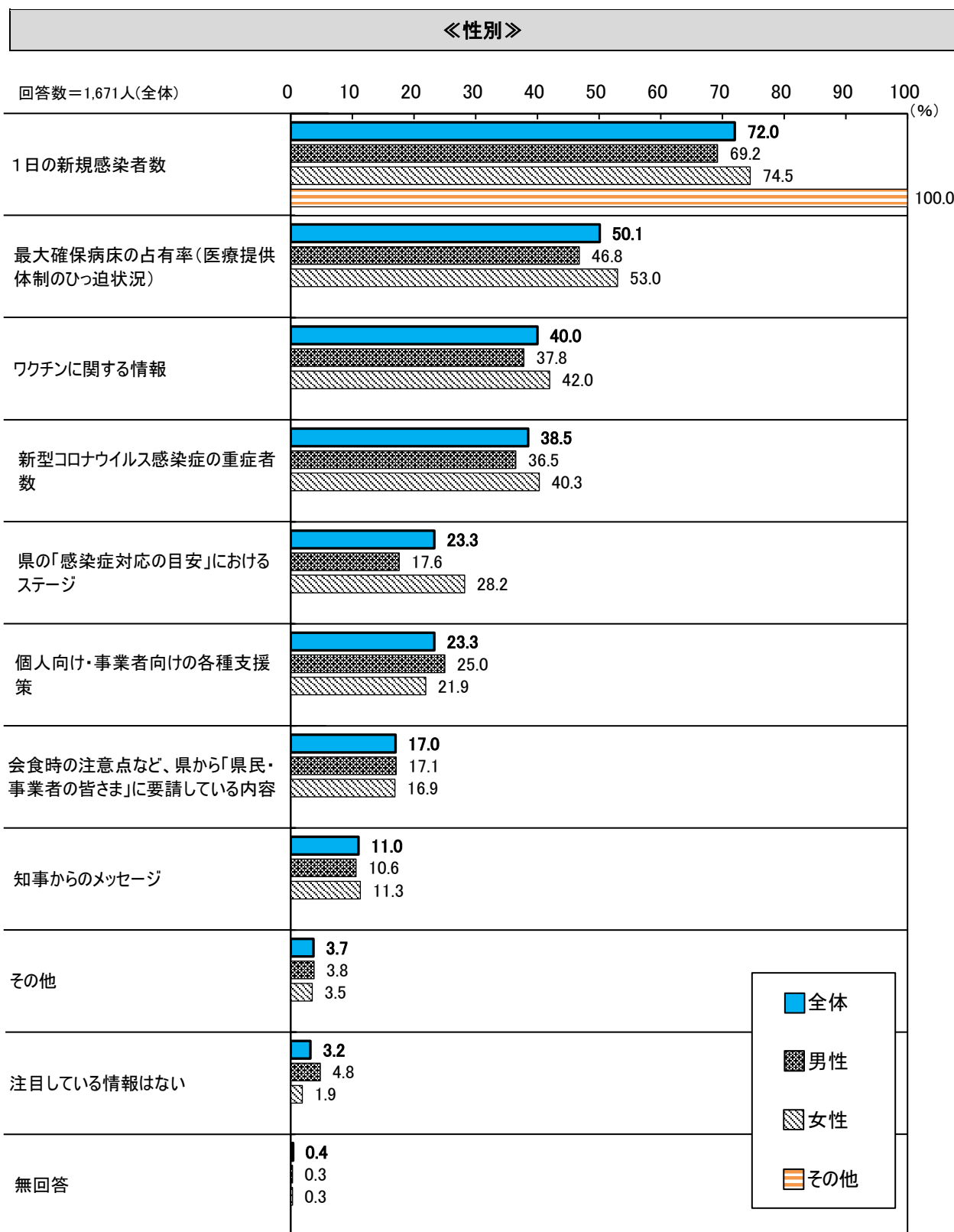
《経年比較》

	割合	回答数
全 体	100.0	1,671 人
1日の新規感染者数	72.0	1,203 人
最大確保病床の占有率(医療提供体制のひっ迫状況)	50.1	837 人
ワクチンに関する情報	40.0	668 人
新型コロナウイルス感染症の重症者数	38.5	643 人
県の「感染症対応の目安」におけるステージ	23.3	390 人
個人向け・事業者向けの各種支援策	23.3	389 人
会食時の注意点など、県から「県民・事業者の皆さま」に要請している内容	17.0	284 人
知事からのメッセージ	11.0	184 人
その他	3.7	61 人
注目している情報はない	3.2	54 人
無回答	0.4	6 人

グラフ単位(%)

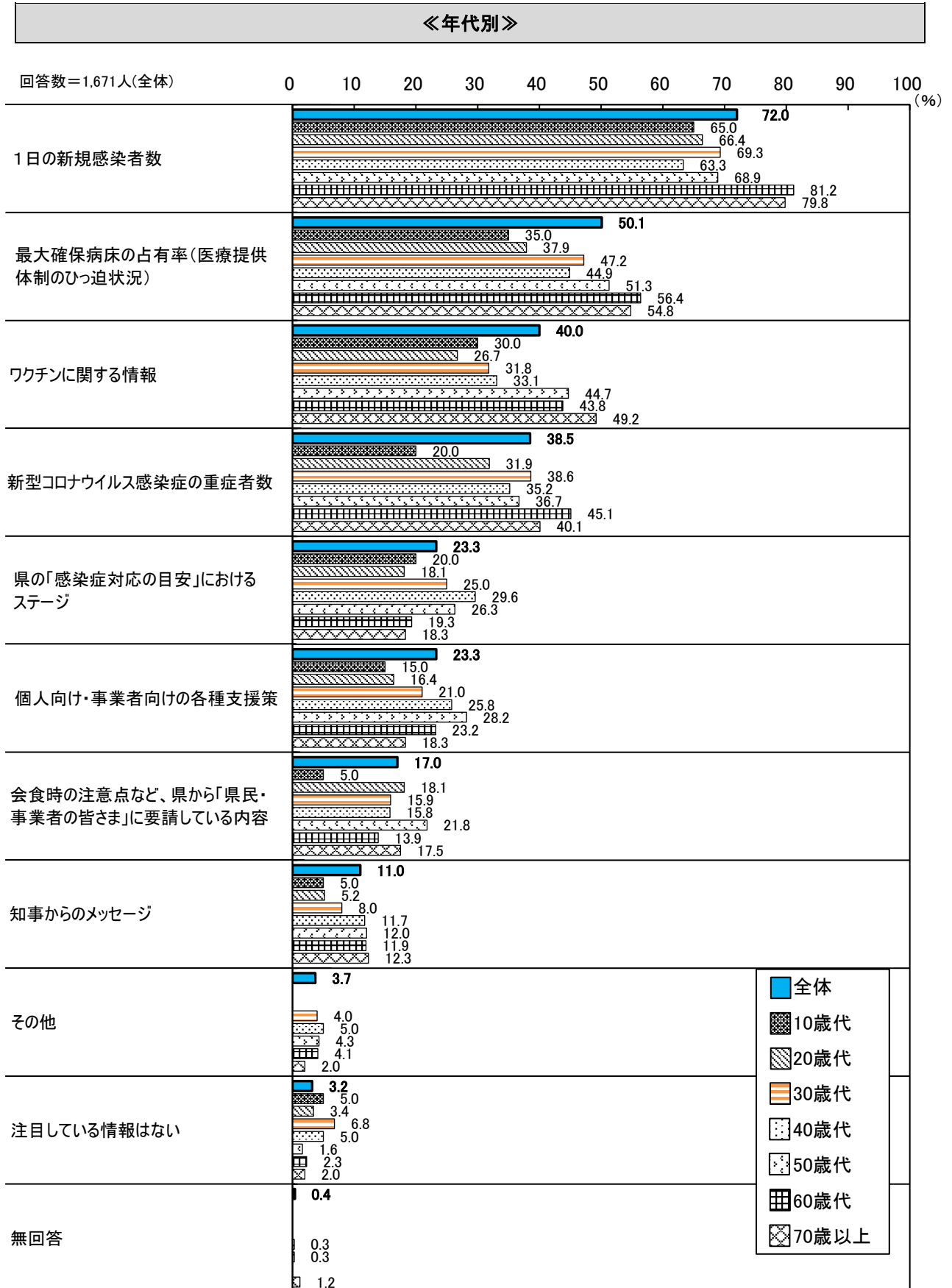
【性別】

男女ともに「1日の新規感染者数」が最も高くなっている。



【年代別】

すべての年代で「1日の新規感染者数」が最も高くなっている。特に60歳代、70歳以上では他の年代より10ポイント近く高くなっている。



3. 南海トラフ地震対策について

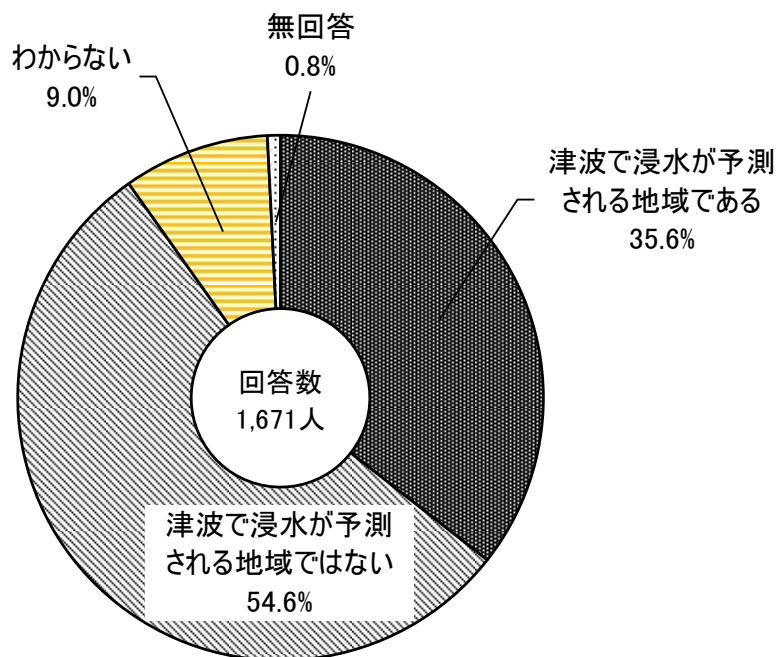
問14 あなたのお宅は津波で浸水が予測される地域ですか。（1つだけ〇印）

【総合】

「津波で浸水が予測される地域ではない」が54.6%と1位になっている。

次いで、「津波で浸水が予測される地域である」が35.6%、「わからない」が9.0%となっている。

《総合》



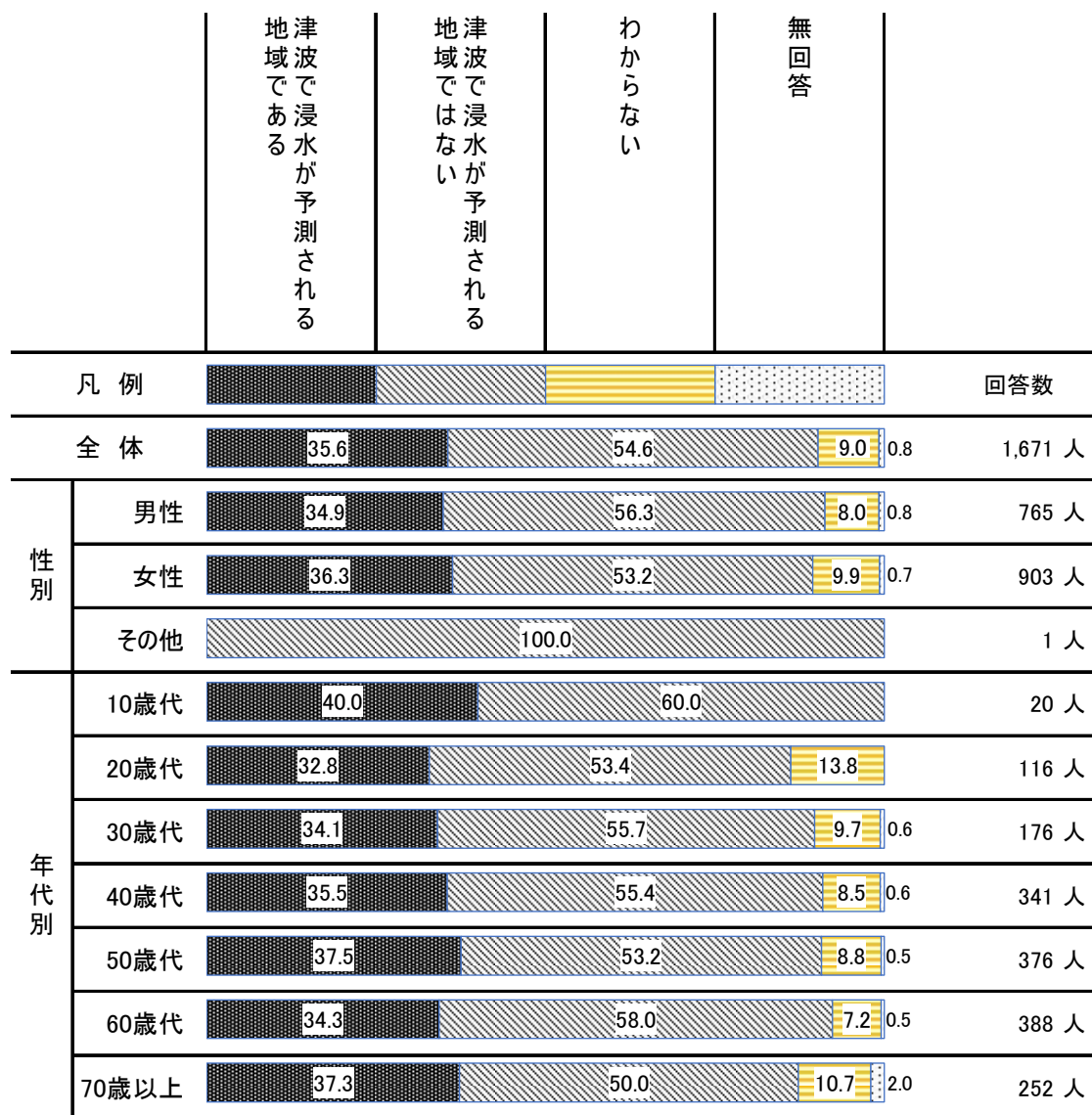
【性別】

男女ともに「津波で浸水が予測される地域ではない」が最も高くなっている。

【年代別】

すべての年代で「津波で浸水が予測される地域ではない」が最も高くなっている。

《性別・年代別》



グラフ単位(%)

副問1 (問14で「1」を選んだ方のみお答えください。)

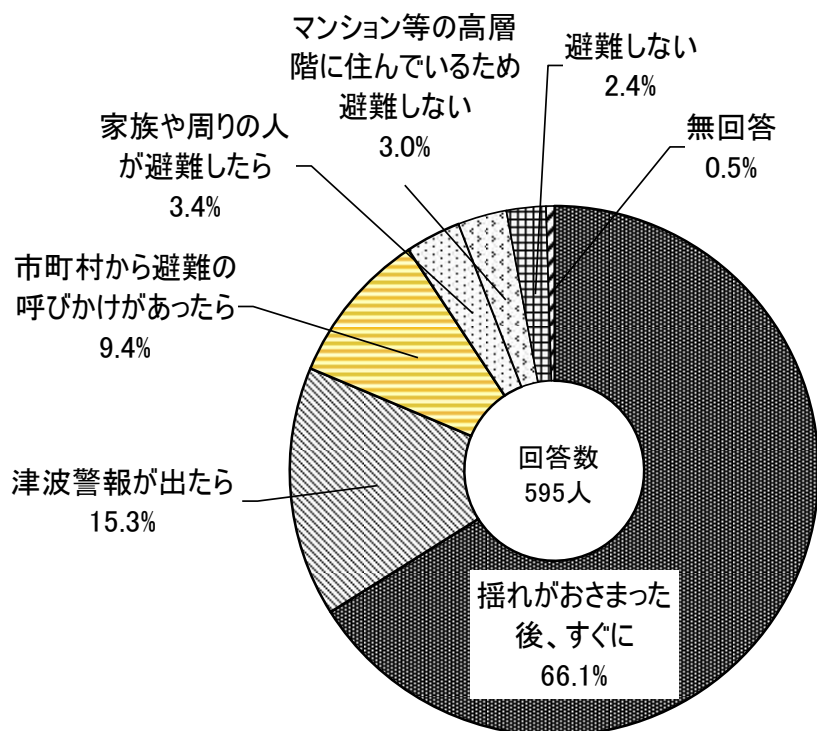
あなたがお自宅にいるときに、今まで経験したことがないような大きな揺れに襲われ、その揺れが1分以上続いたとします。あなたはいつ避難しますか。(1つだけ○印)

【総合】

「揺れがおさまった後、すぐに」が66.1%と1位になっている。

次いで、「津波警報が出たら」が15.3%、「市町村から避難の呼びかけがあったら」が9.4%と続いている。

《総合》



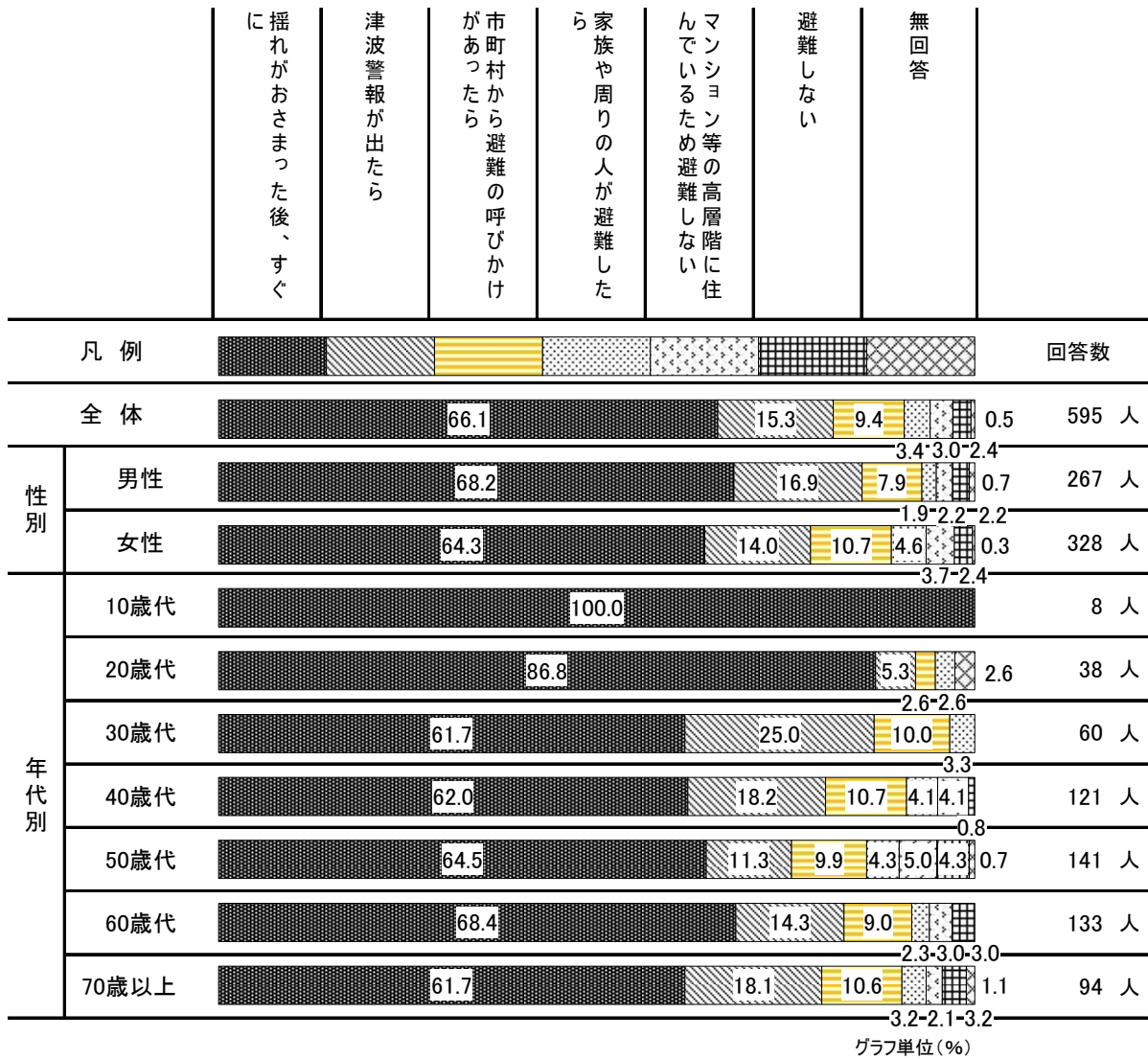
【性別】

男女ともに「揺れがおさまった後、すぐに」が最も高くなっている。

【年代別】

すべての年代で「揺れがおさまった後、すぐに」が最も高くなっており、10歳代、20歳代では他の年代より18ポイント以上高くなっている。

《性別・年代別》



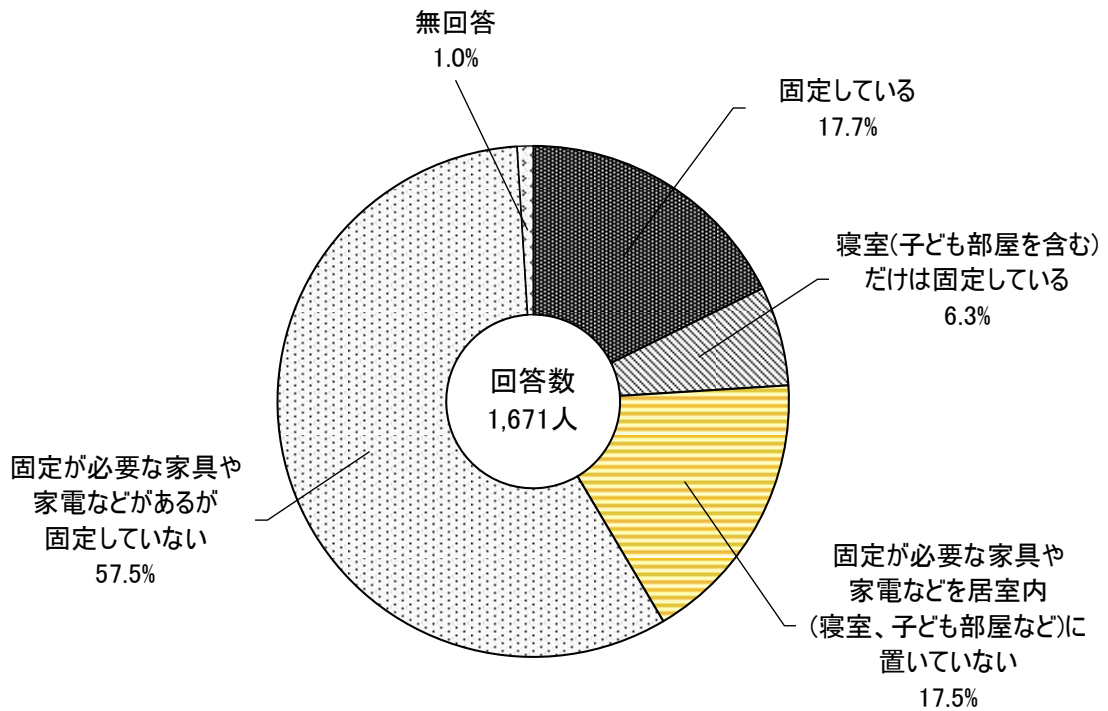
問 15 あなたのお宅では、固定が必要な家具や家電などを固定していますか。(1つだけ○印)

【総合】

「固定が必要な家具や家電などがあるが固定していない」が57.5%と1位になっている。

次いで、「固定している」が17.7%、「固定が必要な家具や家電などを居室内（寝室、子ども部屋など）に置いていない」が17.5%と続いている。

《総合》



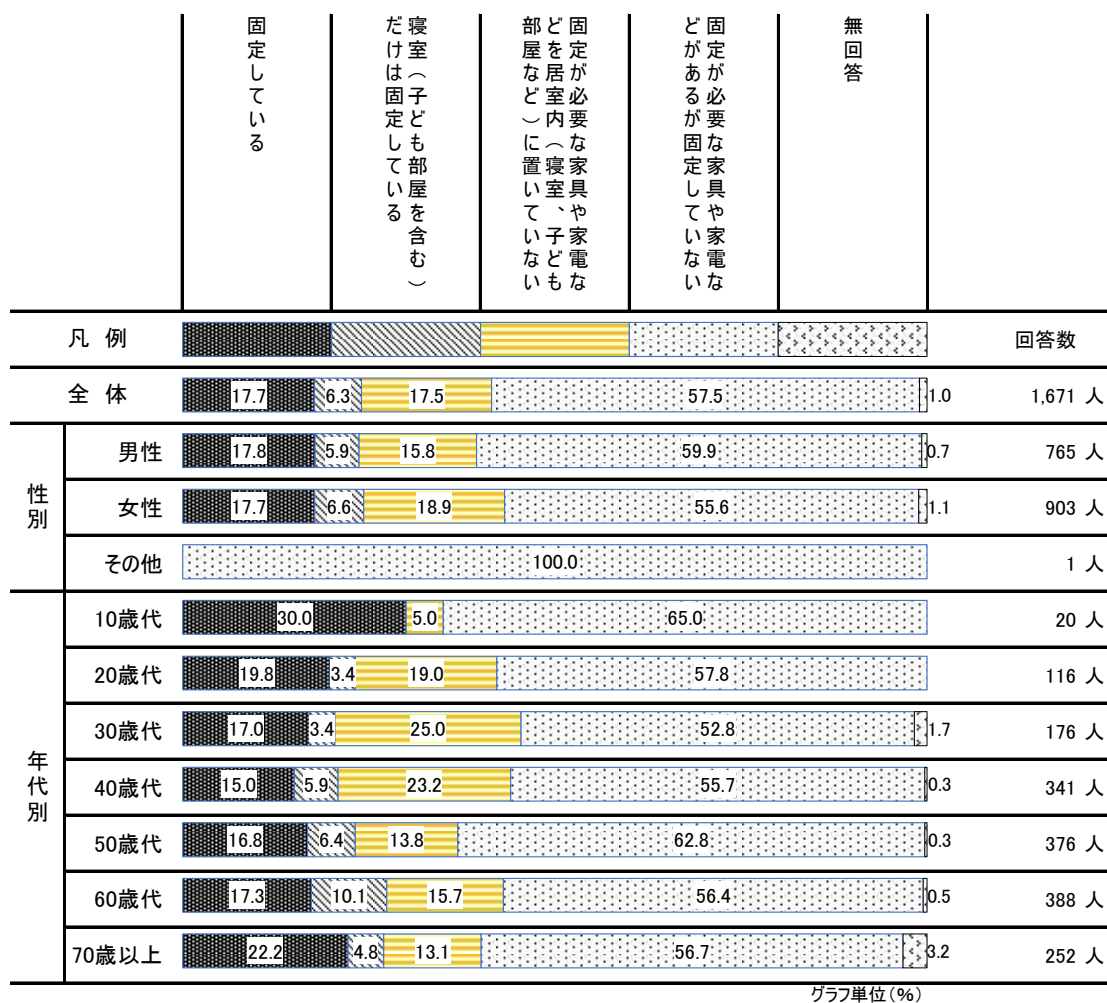
【性別】

男女ともに「固定が必要な家具や家電などがあるが固定していない」が最も高くなっている。

【年代別】

すべての年代で「固定が必要な家具や家電などがあるが固定していない」が最も高くなっている。

《性別・年代別》



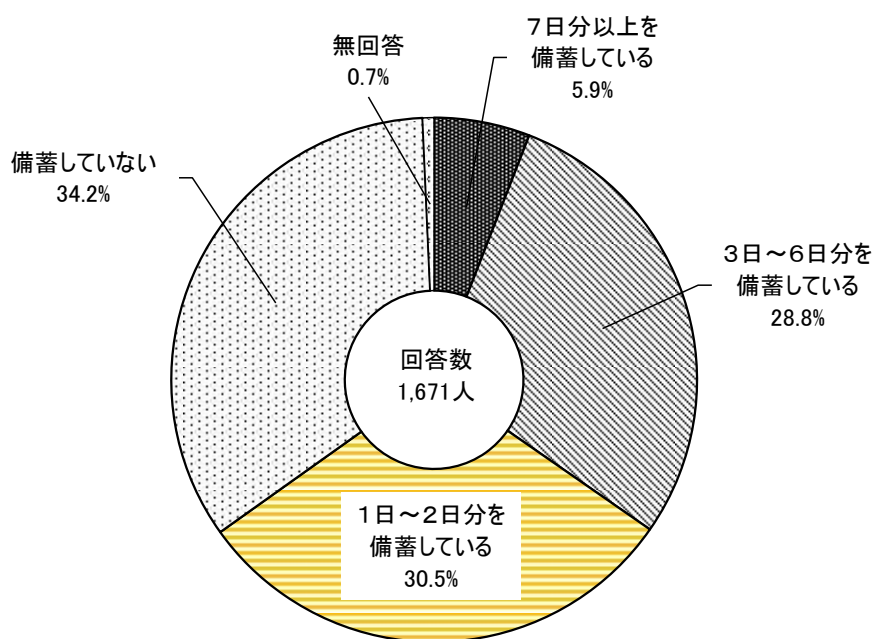
問 16 あなたのお宅では南海トラフ地震に備え、飲料水を備蓄していますか。備蓄には、日常的に使用できる飲料水を少し多く買い置きすることも含みます。(1つだけ○印)

【総合】

「備蓄していない」が34.2%と1位になっている。

次いで、「1日～2日分を備蓄している」が30.5%、「3日～6日分を備蓄している」が28.8%と続いている。

《総合》



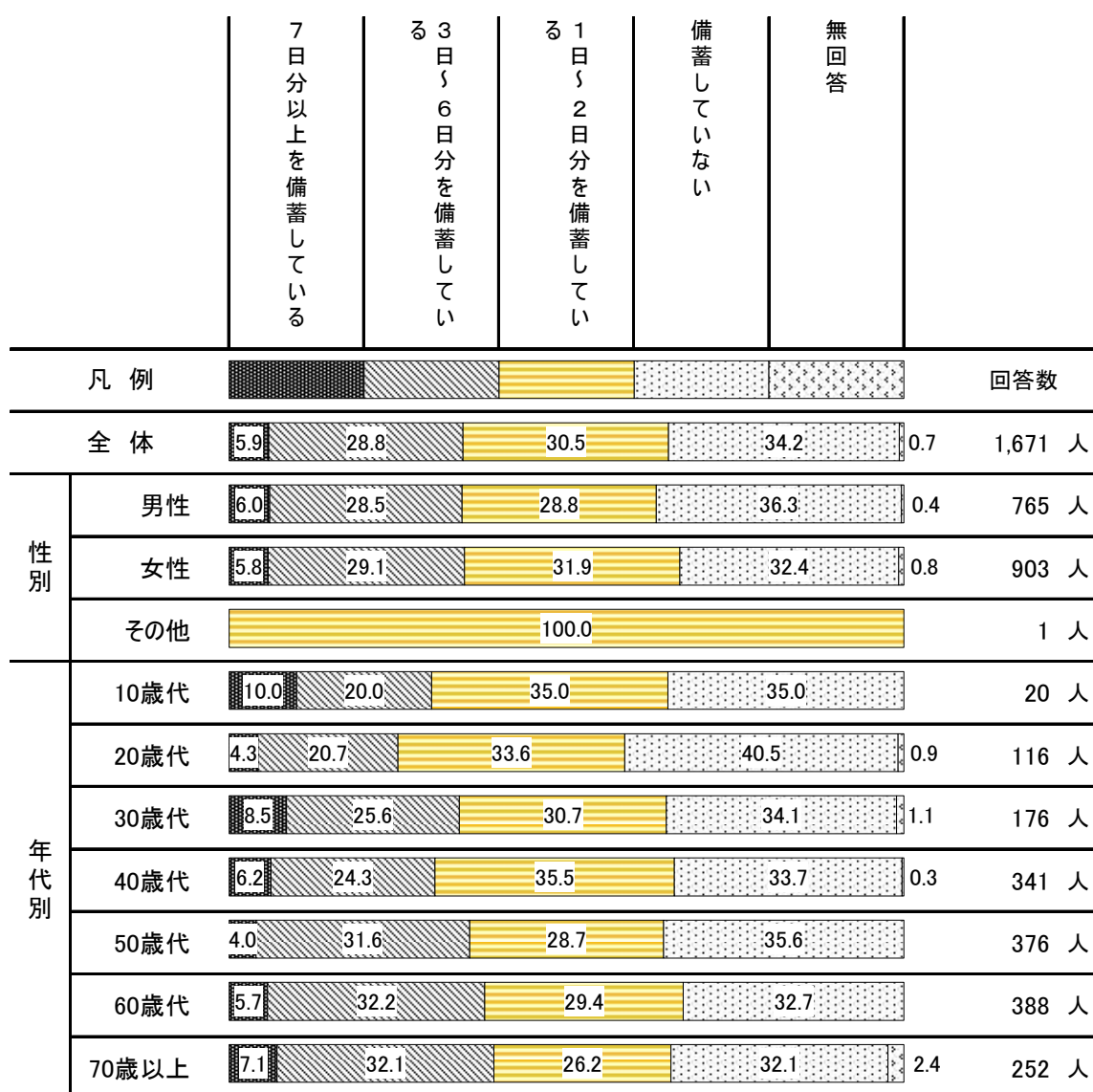
【性別】

男女ともに「備蓄していない」が最も高くなっている。

【年代別】

10歳代では同率で「1日～2日分を備蓄している」と「備蓄していない」が最も高く、20歳代、30歳代、50歳代、60歳代では「備蓄していない」が、40歳代では「1日～2日分を備蓄している」が、70歳以上では同率で「3日～6日分を備蓄している」と「備蓄していない」が最も高くなっている。

《性別・年代別》



グラフ単位(%)

副問1 (問 16 で「3」もしくは「4」を選んだ方のみお答えください。)

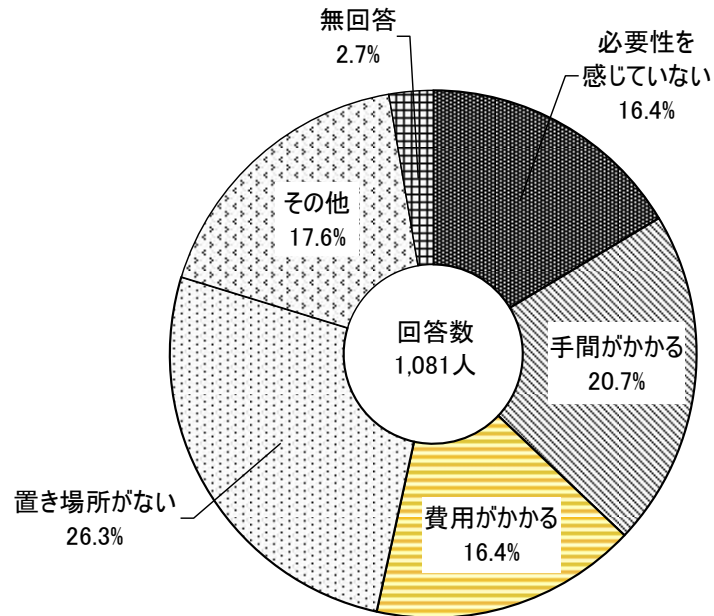
3日分以上の水の備蓄をしていないのはどのような理由からですか。(最も当てはまるもの1つに○印)

【総合】

「置き場所がない」が26.3%と1位になっている。

次いで、「手間がかかる」が20.7%、「必要性を感じていない」と「費用がかかる」が同率で16.4%と続いている。

《総合》



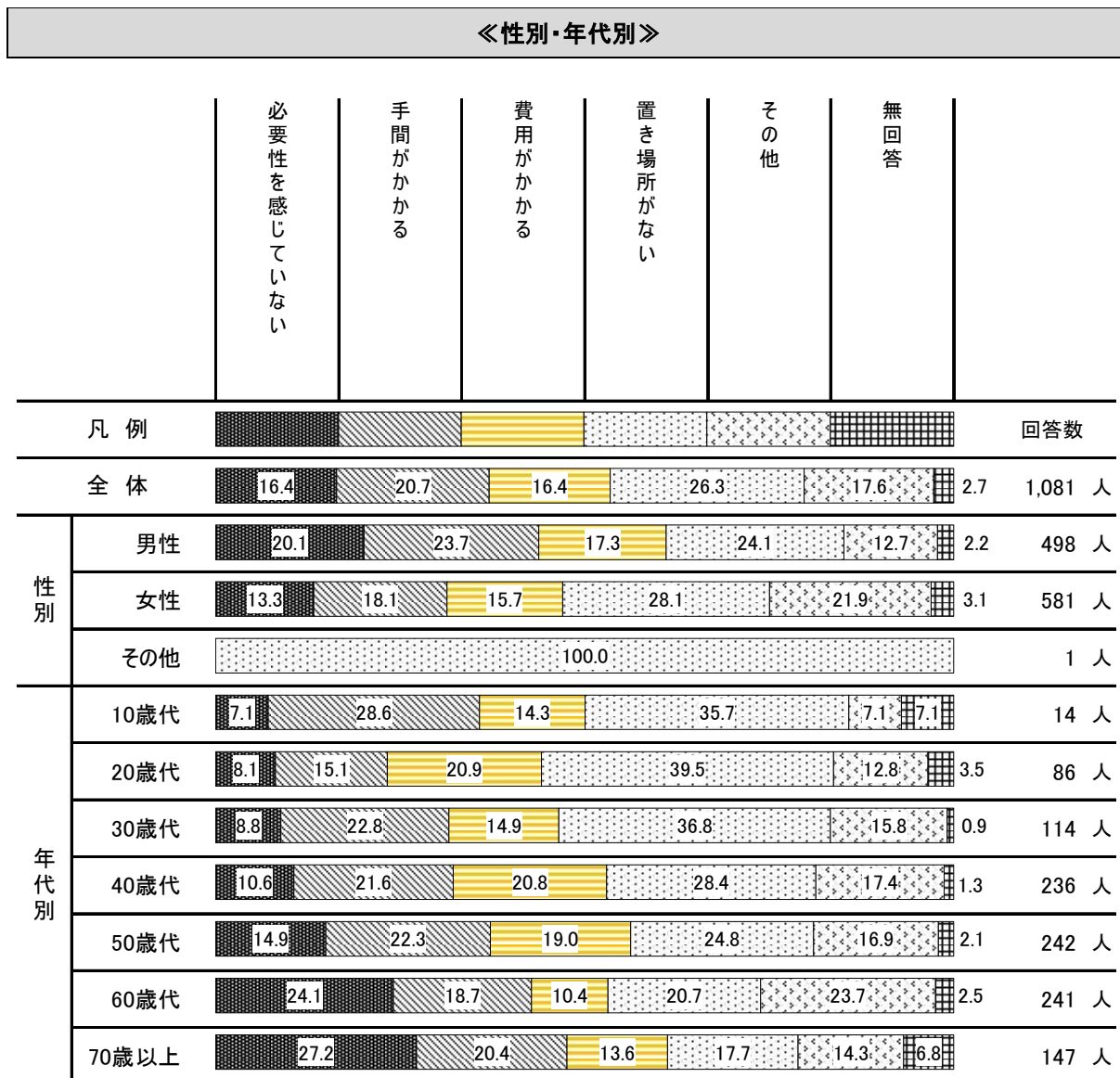
【性別】

男女ともに「置き場所がない」が最も高くなっている。

また、男性の方が「必要性を感じていない」が6.8ポイント、「手間がかかる」が5.6ポイント高くなっている。

【年代別】

10歳代から50歳代では「置き場所がない」が最も高く、60歳代、70歳以上では「必要性を感じていない」が最も高くなっている。



グラフ単位 (%)

【問 14×問 16-副問 1 のクロス分析】

「自宅が津波で浸水が予測される地域ですか。」という質問に対し、「3日分以上の水の備蓄をしていないのはどのような理由からですか。」の結果を見ると、すべての地域で「置き場所がない」が最も高くなっている。

		3日分以上の水の備蓄をしていない理由						
		全体	必要性を感じていない	手間がかかる	費用がかかる	置き場所がない	その他	無回答
【表の見方】 上段=回答数(人) 下段=比率(%)								
全体		1,081	177	224	177	284	190	29
		100.0	16.4	20.7	16.4	26.3	17.6	2.7
う予自 か測宅 さが れ津 る波 地で 域浸 か水 どが	津波で浸水が予測される地域である	410	12.9	22.0	14.9	29.5	17.8	2.9
	津波で浸水が予測される地域ではない	556	18.9	20.5	17.4	23.6	17.4	2.2
	わからない	111	16.2	18.0	17.1	27.9	16.2	4.5

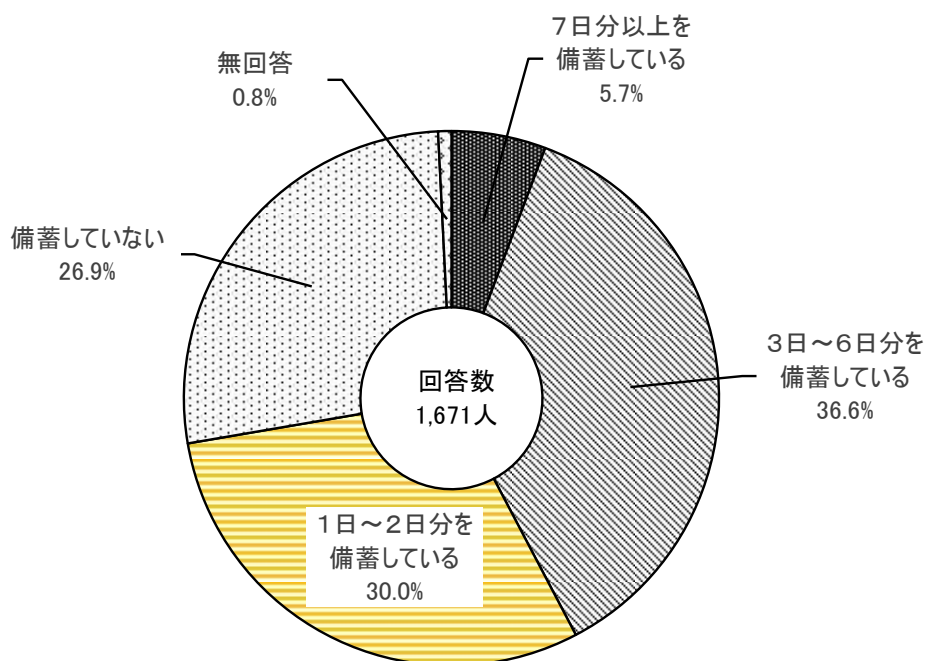
問 17 あなたのお宅では南海トラフ地震に備え、食料を備蓄していますか。備蓄には、日常的に使用できる食品を少し多く買い置きすることも含まれます。(1つだけ○印)

【総合】

「3日～6日分を備蓄している」が36.6%と1位になっている。

次いで、「1日～2日分を備蓄している」が30.0%、「備蓄していない」が26.9%と続いている。

《総合》

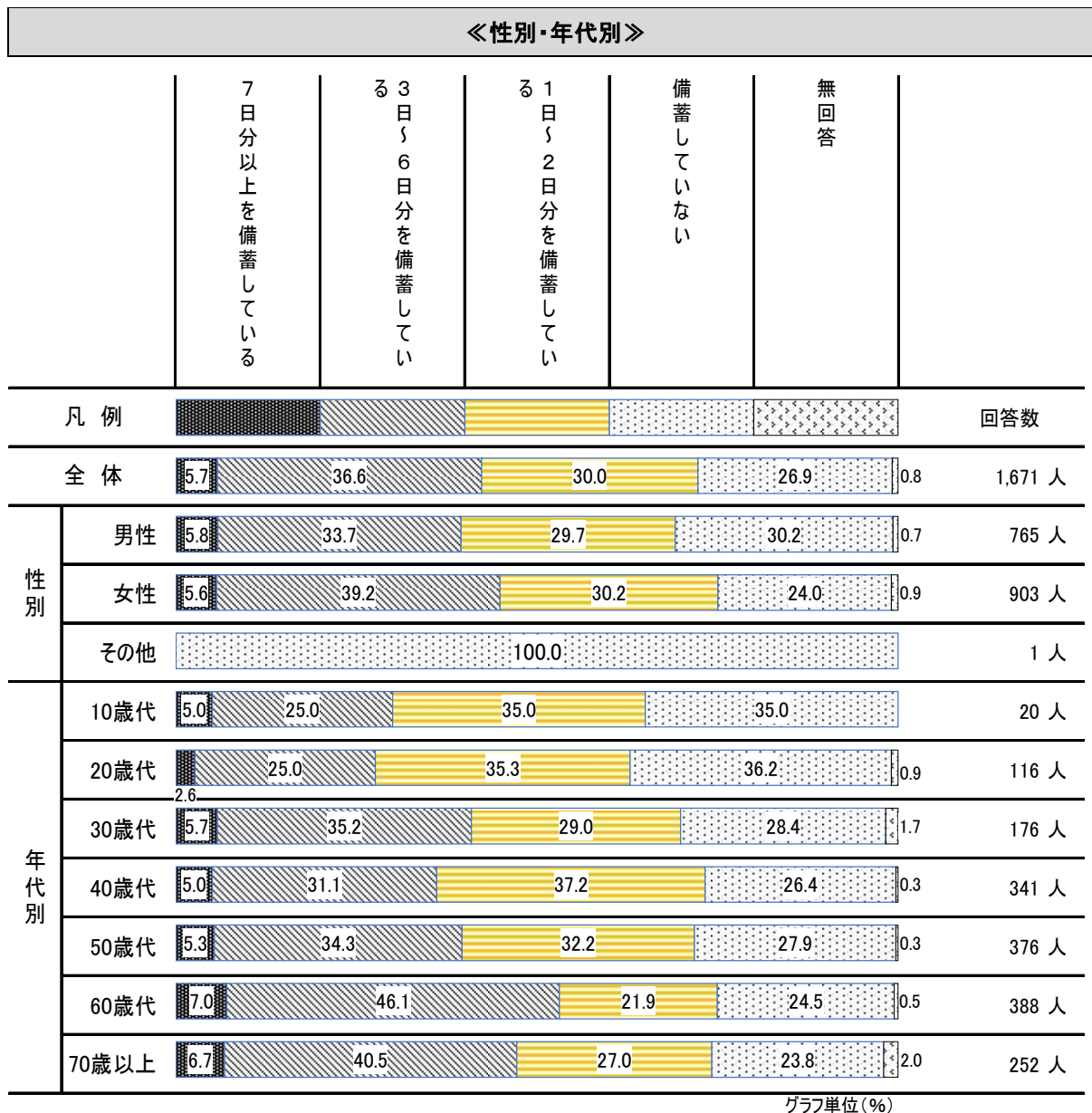


【性別】

男女ともに「3日～6日分を備蓄している」が最も高く、次いで、男性では「備蓄していない」が、女性では「1日～2日分を備蓄している」が続いている。

【年代別】

10歳代では同率で「1日～2日分を備蓄している」と「備蓄していない」が最も高く、20歳代では「備蓄していない」が、30歳代、50歳代、60歳代、70歳以上では「3日～6日分を備蓄している」が、40歳代では「1日～2日分を備蓄している」が最も高くなっている。



副問1（問17で「3」もしくは「4」を選んだ方のみお答えください。）

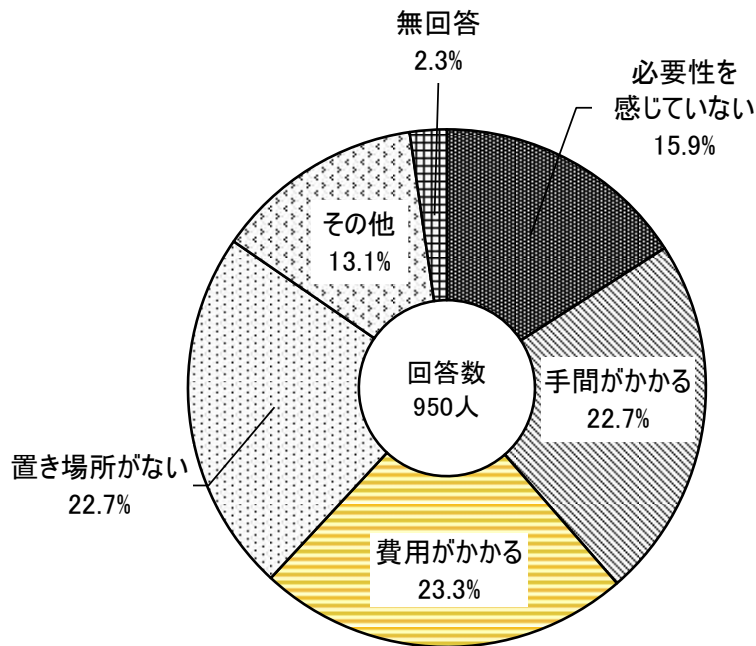
3日以上の食料の備蓄をしていないのはどのような理由からですか。（最も大きな理由に1つだけ○印）

【総合】

「費用がかかる」が23.3%と1位になっている。

次いで、同率で「手間がかかる」と「置き場所がない」が22.7%、「必要性を感じていない」が15.9%と続いている。

《総合》

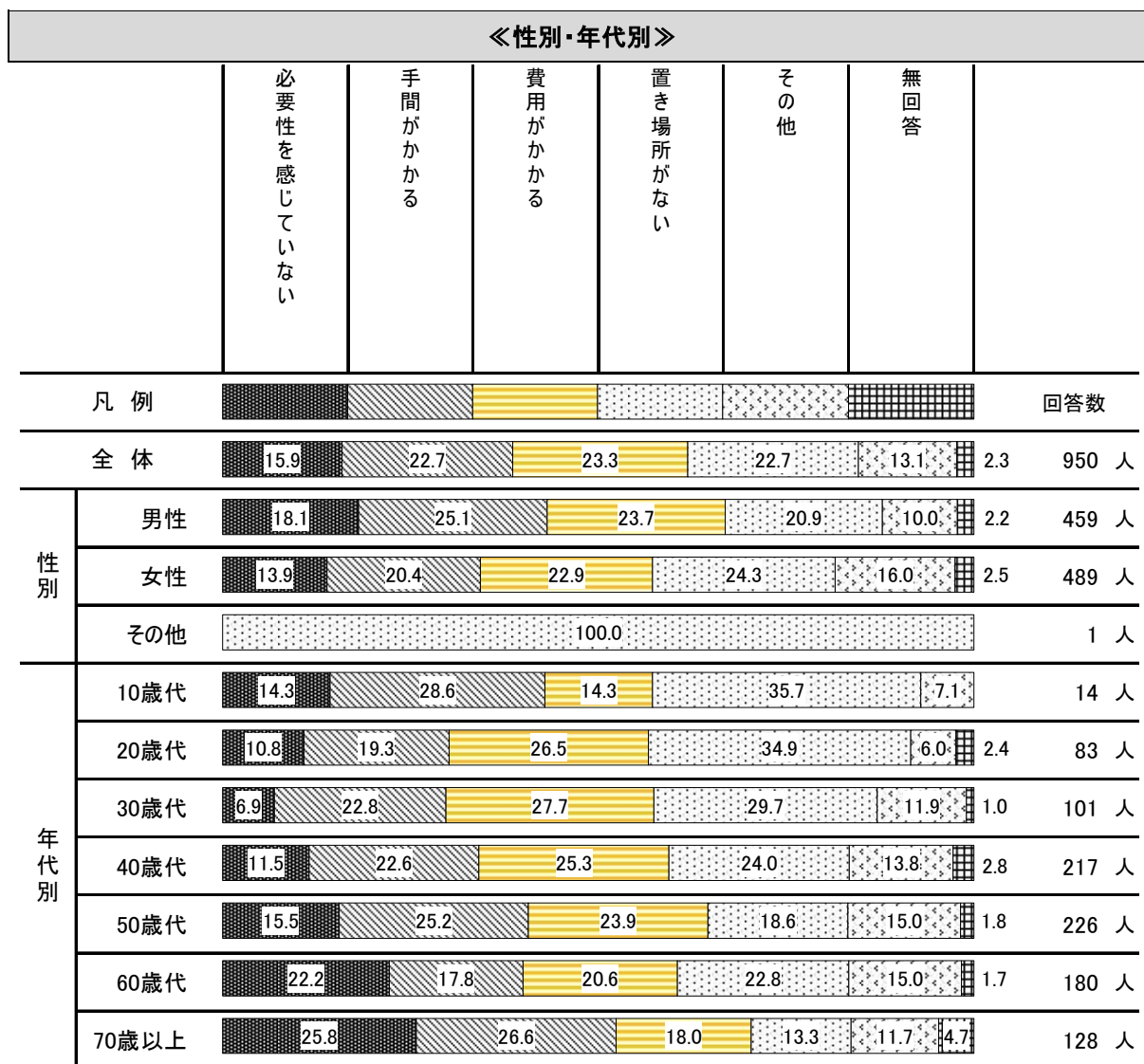


【性別】

男性では「手間がかかる」が最も高く、女性では「置き場所がない」が最も高くなっている。

【年代別】

10歳代、20歳代、30歳代、60歳代では「置き場所がない」が最も高く、40歳代では「費用がかかる」が、50歳代、70歳以上では「手間がかかる」が最も高くなっている。



グラフ単位(%)

【問 14×問 17-副問 1 のクロス分析】

「自宅が津波で浸水が予測される地域ですか。」という質問に対し、「3日分以上の食糧の備蓄をしていないのはどのような理由からですか。」の結果を見ると、「津波で浸水が予測される地域である」では「置き場所がない」が最も高く、「浸津波で水が予測される地域でない」では「手間がかかる」が、「わからない」では「費用がかかる」が最も高くなっている。

		3日分以上の食料の備蓄をしていない理由						
		全体	必要性を感じていない	手間がかかる	費用がかかる	置き場所がない	その他	無回答
【表の見方】 上段=回答数(人) 下段=比率(%)								
全体		950 100.0	151 15.9	216 22.7	221 23.3	216 22.7	124 13.1	22 2.3
う予自 か測宅 さが れ津 る波 地 域で 浸水 かど が	津波で浸水が予測される地域である	367	12.5	21.8	23.4	27.0	13.1	2.2
	津波で浸水が予測される地域ではない	478	18.4	24.1	23.0	19.9	12.1	2.5
	わからない	100	15.0	20.0	24.0	22.0	17.0	2.0

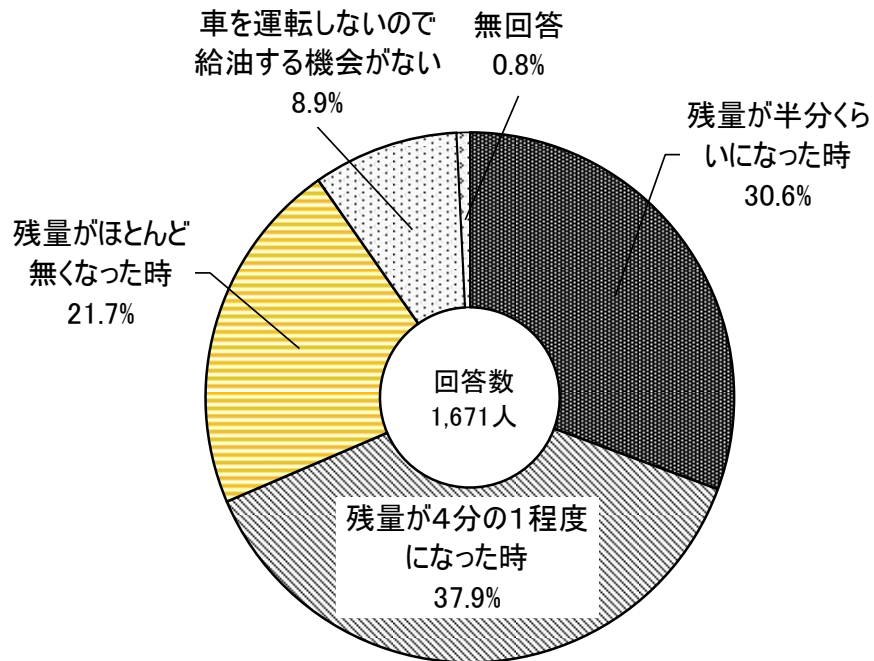
問 18 普段、車に給油するためにガソリンスタンドに行くのは、燃料タンクの残量がどれくらいになった時ですか。
(1つだけ○印)

【総合】

「残量が4分の1程度になった時」が37.9%と1位になっている。

次いで、「残量が半分くらいになった時」が30.6%、「残量がほとんど無くなった時」が21.7%と続いている。

《総合》

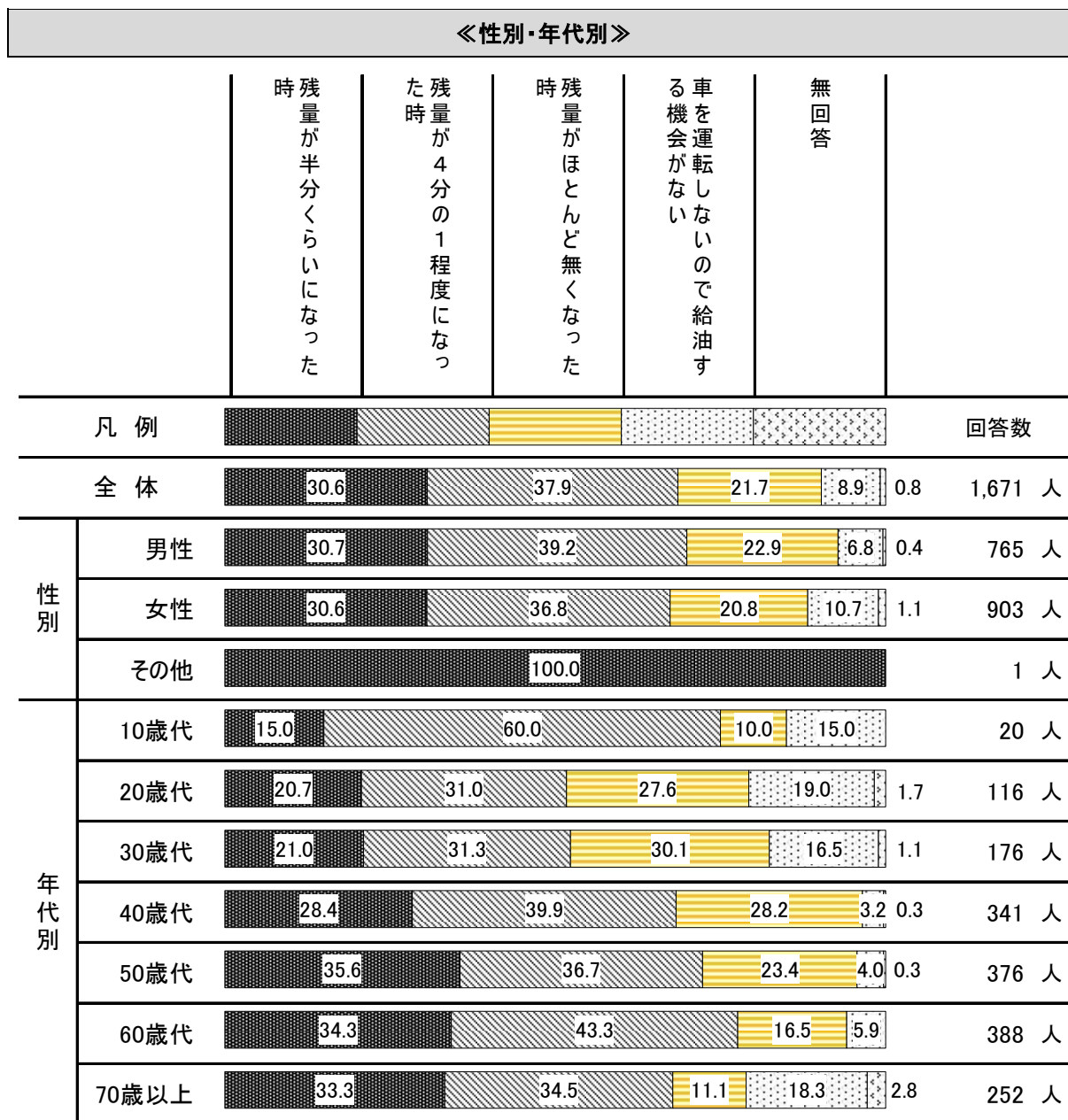


【性別】

男女ともに「残量が4分の1程度になった時」が最も高くなっている。

【年代別】

すべての年代で「残量が4分の1程度になった時」が最も高くなっている。



グラフ単位(%)

副問1 (問 18 で「1～3」のいずれかを選んだ方のみお答えください。)

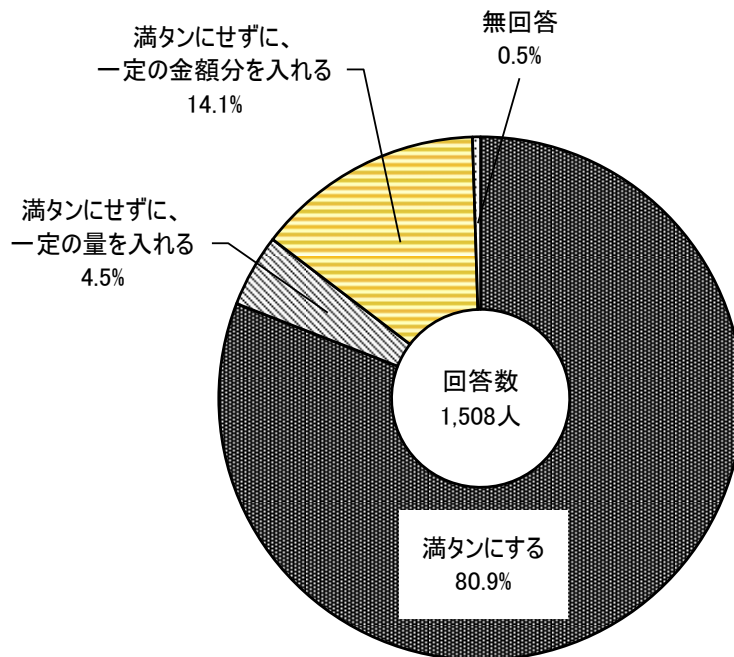
普段、ガソリンスタンドで車に給油する時は、どれくらいの量を入れますか。(1つだけ○印)

【総合】

「満タンにする」が80.9%と1位になっている。

次いで、「満タンにせずに、一定の金額分を入れる」が14.1%、「満タンにせずに、一定の量を入れる」が4.5%となっている。

《総合》

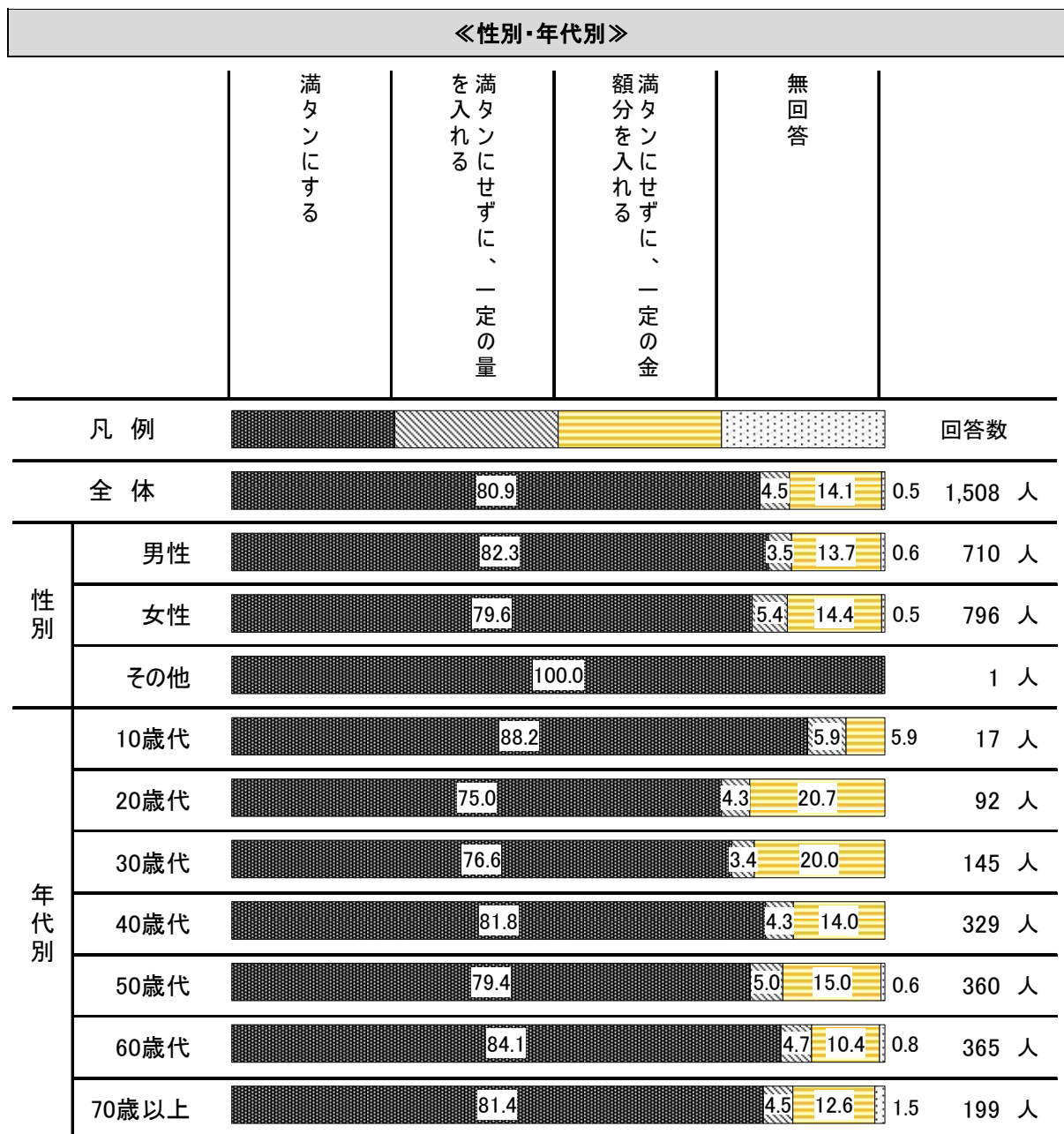


【性別】

男女ともに「満タンにする」が最も高くなっている。

【年代別】

すべての年代で「満タンにする」が最も高くなっている。



グラフ単位(%)

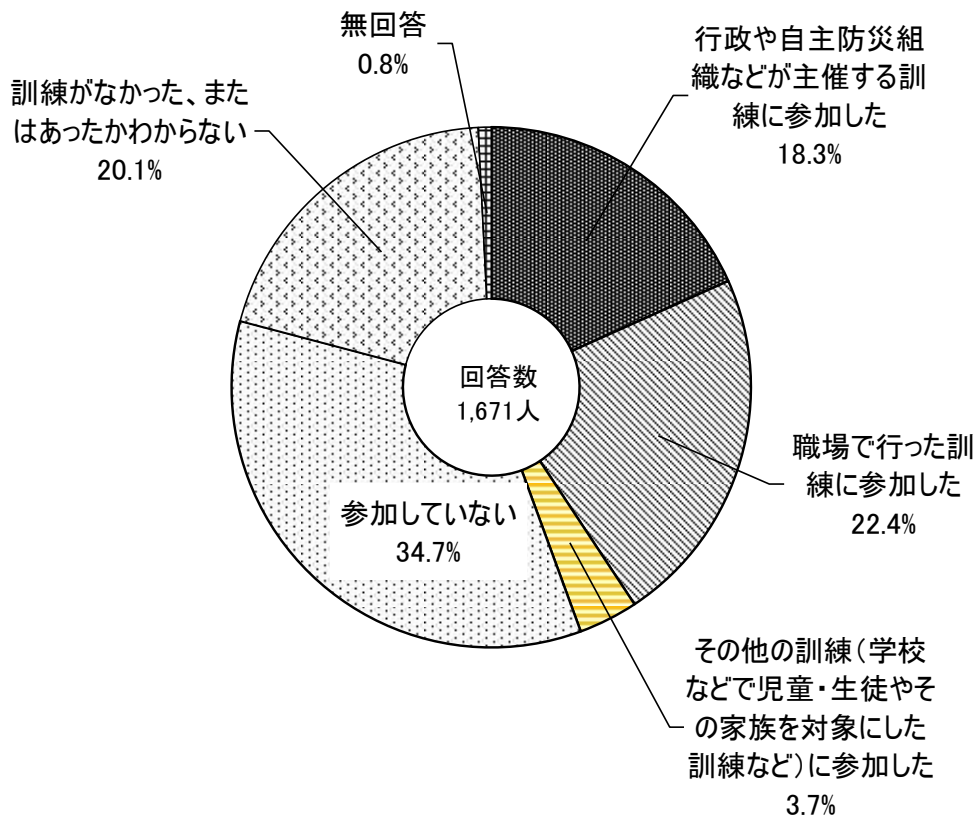
問 19 過去1年間に地域や職場の地震に関する防災訓練に参加したことがありますか。(1つだけ○印)

【総合】

「参加していない」が34.7%と1位になっている。

次いで、「職場で行った訓練に参加した」が22.4%、「訓練がなかった、またはあったかわからない」が20.1%と続いている。

《総合》

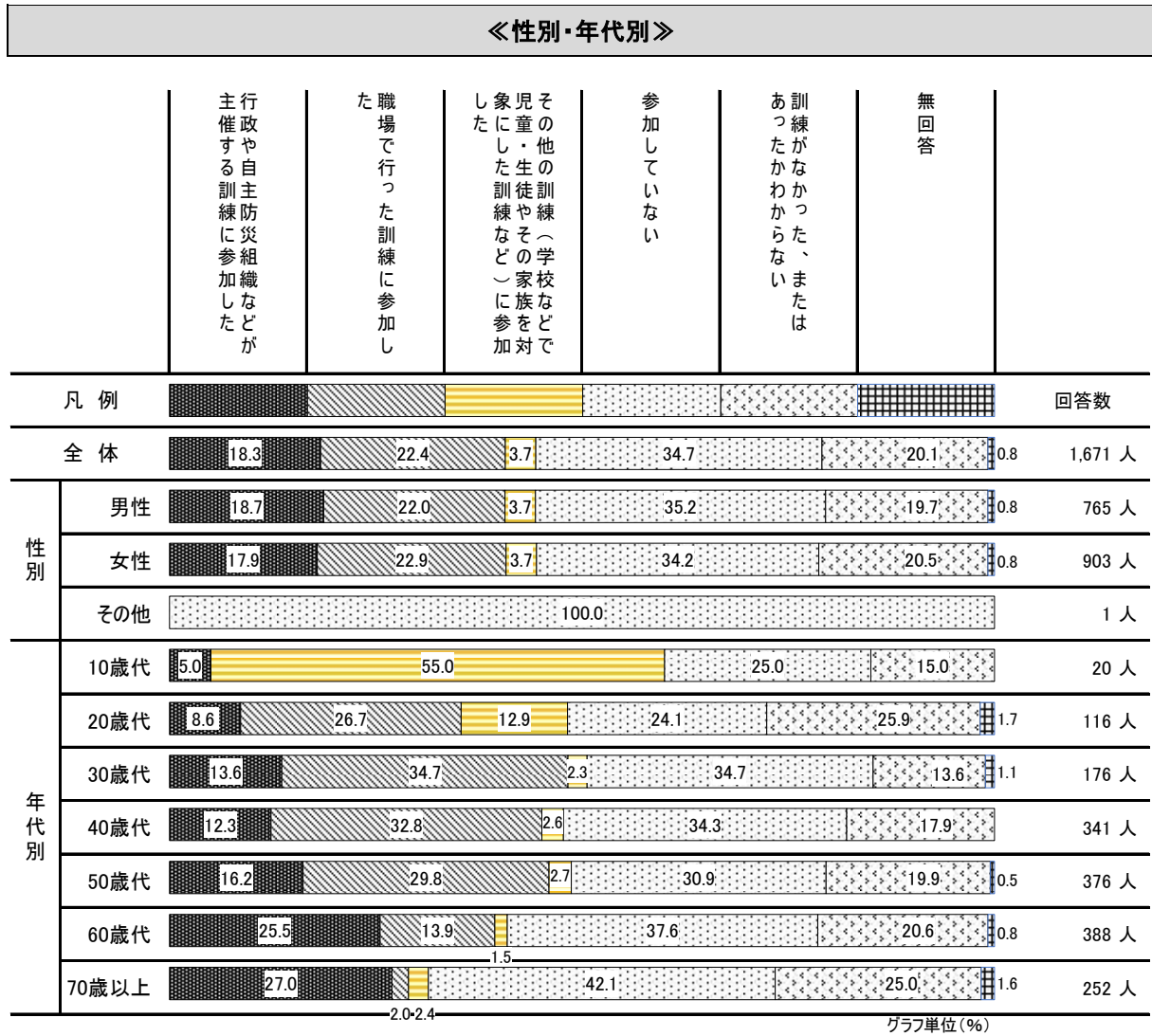


【性別】

男女ともに「参加していない」が最も高くなっている。

【年代別】

10歳代では「その他の訓練（学校などで児童・生徒やその家族を対象にした訓練など）に参加した」が最も高く、20歳代、30歳代では「職場で行った訓練に参加した」が、また、30歳代では同率で、40歳代、50歳代、60歳代、70歳以上では「参加していない」が、最も高くなっている。



問20 地域や職場の地震に関する防災訓練に、どうすれば参加する人が増えると思いますか。
(2つまで○印)

【総合】

「他のイベントと一緒にを行う」が32.8%と1位になっている。

次いで、「近所同士で声を掛け合っ一緒に参加する」が30.1%、「参加賞(非常食など)を出す」が28.8%と続いている。

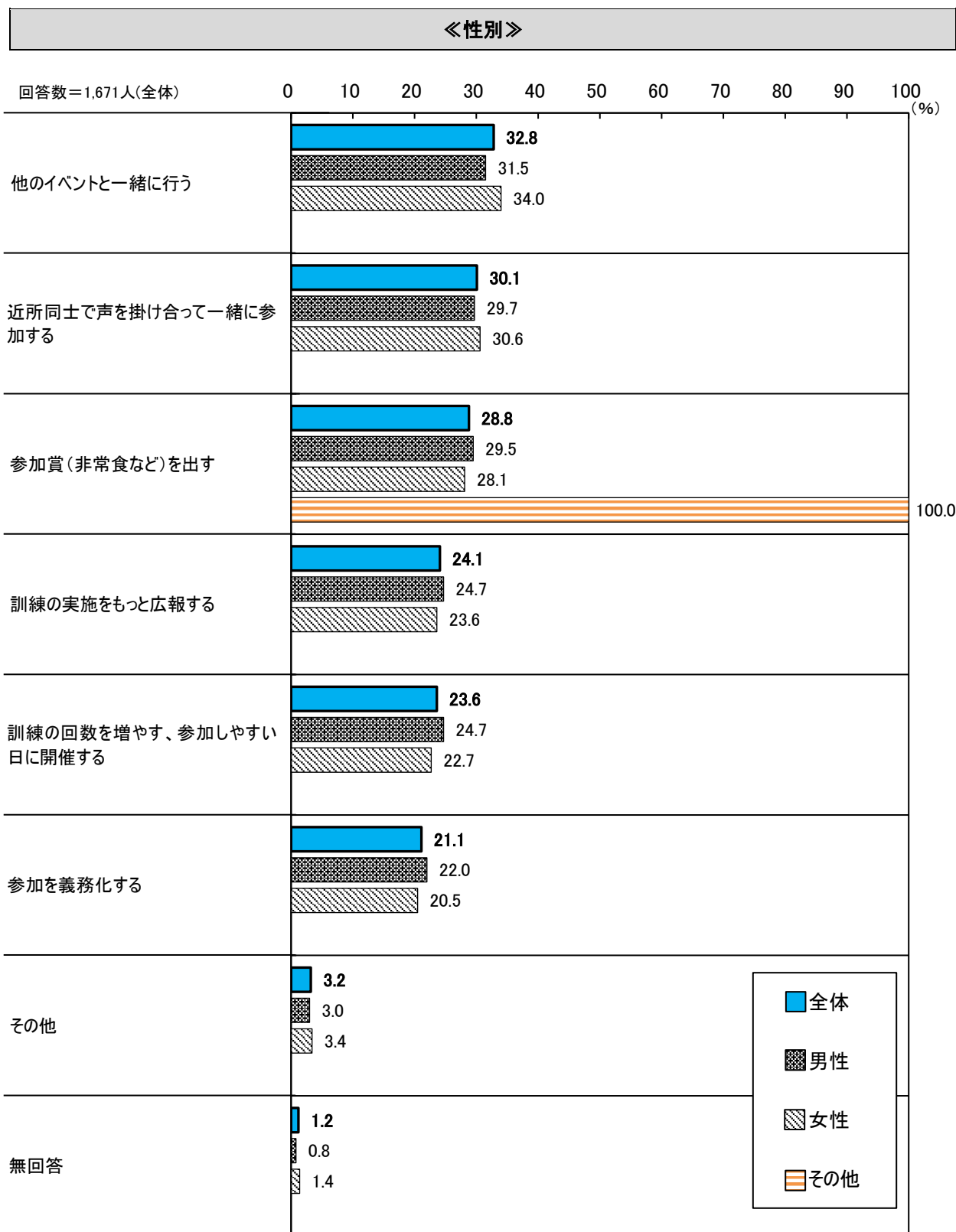
《総合》

		回答数
全 体	100.0	1,671 人
他のイベントと一緒にを行う	32.8	548 人
近所同士で声を掛け合っ一緒に参加する	30.1	503 人
参加賞(非常食など)を出す	28.8	481 人
訓練の実施をもっと広報する	24.1	402 人
訓練の回数を増やす、参加しやすい日に開催する	23.6	395 人
参加を義務化する	21.1	353 人
その他	3.2	54 人
無回答	1.2	20 人

グラフ単位(%)

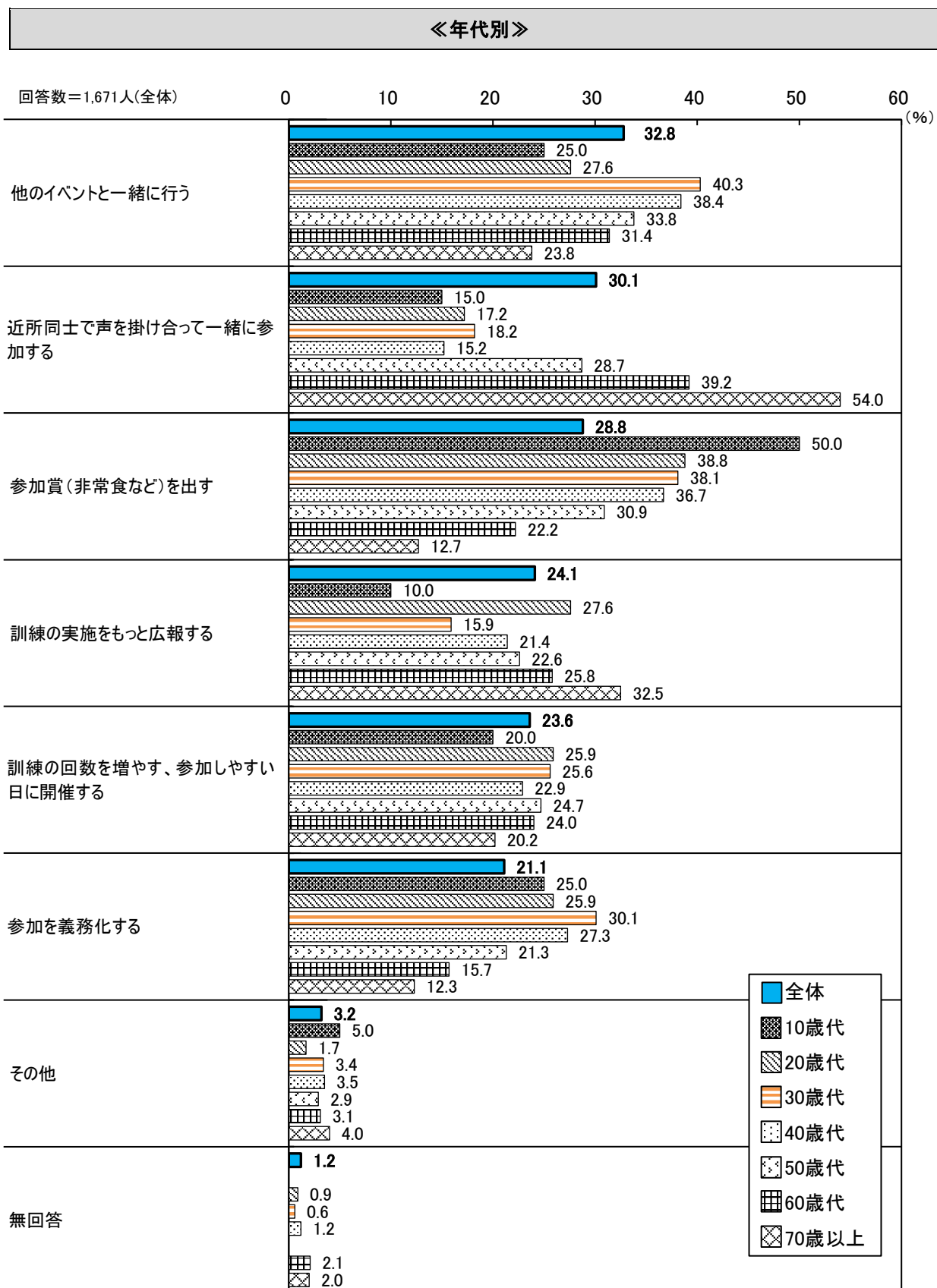
【性別】

男女ともに「他のイベントと一緒にを行う」が最も高くなっている。



【年代別】

10歳代、20歳代では「参加賞（非常食など）を出す」が最も高く、30歳代、40歳代、50歳代では「他のイベントと一緒に進む」が、60歳代、70歳以上では「近所同士で声を掛け合っ一緒に参加する」が最も高くなっている。



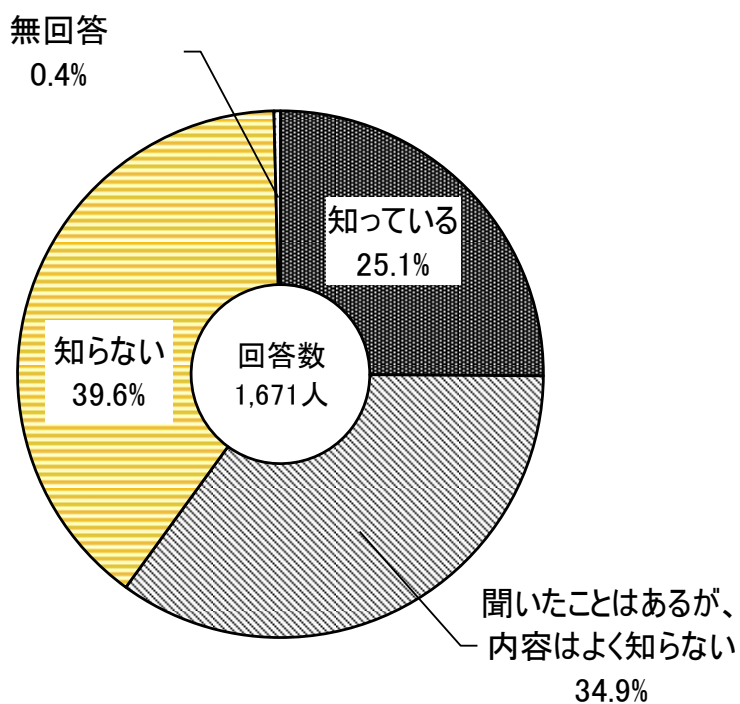
問 21 「南海トラフ地震臨時情報」が発表されることについて、ご存じでしたか。(1つだけ○印)

【総合】

「知らない」が39.6%と1位になっている。

次いで、「聞いたことはあるが、内容はよく知らない」が34.9%、「知っている」が25.1%となっている。

《総合》

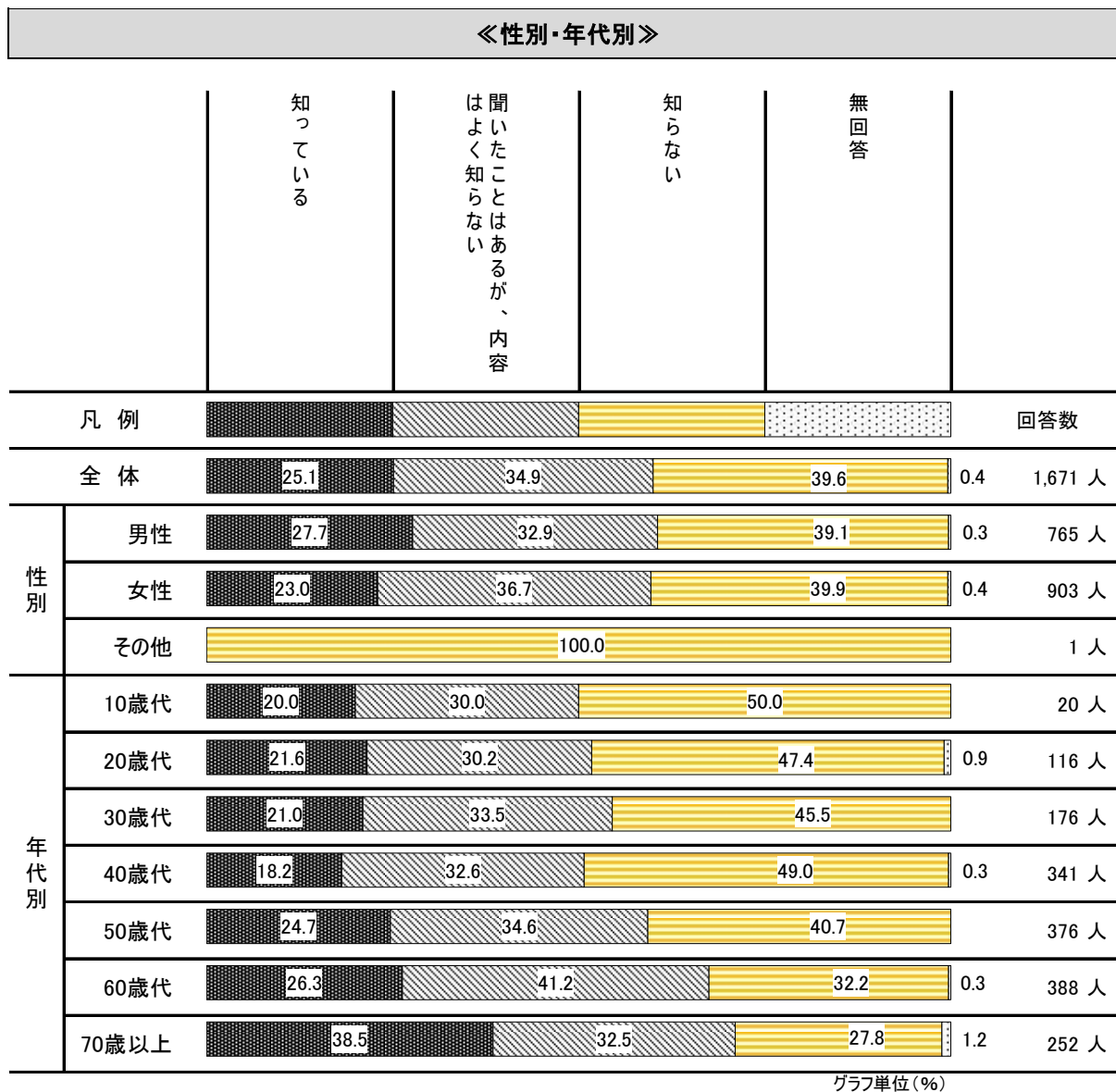


【性別】

男女ともに「知らない」が最も高くなっている。

【年代別】

10歳代から50歳代では「知らない」が最も高く、60歳代では「聞いたことはあるが、内容はよく知らない」が、70歳以上では「知っている」が最も高くなっている。



【問 14×問 21 のクロス分析】

「自宅が津波で浸水が予測される地域ですか。」という質問に対し、「南海トラフ地震臨時情報」が発表されることについて、ご存じでしたか。」の結果を見ると、すべての地域で「知らない」が最も高くなっている。

		「南海トラフ地震臨時情報」の認知度				
		全体	知っている	よく聞いたことはあるが、内容は知らない	知らない	無回答
【表の見方】 上段＝回答数(人) 下段＝比率(%)						
全体		1,671 100.0	420 25.1	583 34.9	661 39.6	7 0.4
う予自 か測宅 さが れ津 る波 地 域で 浸 か水 どが	津波で浸水が予測される地域である	595	27.1	33.3	39.3	0.3
	津波で浸水が予測される地域ではない	913	26.1	36.1	37.6	0.2
	わからない	150	12.7	34.0	53.3	-

4. 消防団員について

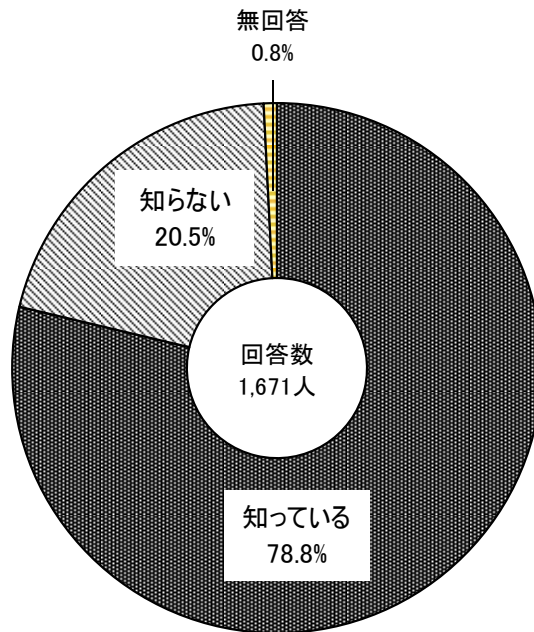
問 22 お住まいの地域に消防団(市町村単位)や分団(地域単位)があることを知っていますか。(1つだけ○印)

【総合】

「知っている」が78.8%と1位になっている。

次いで、「知らない」が20.5%となっている。

《総合》

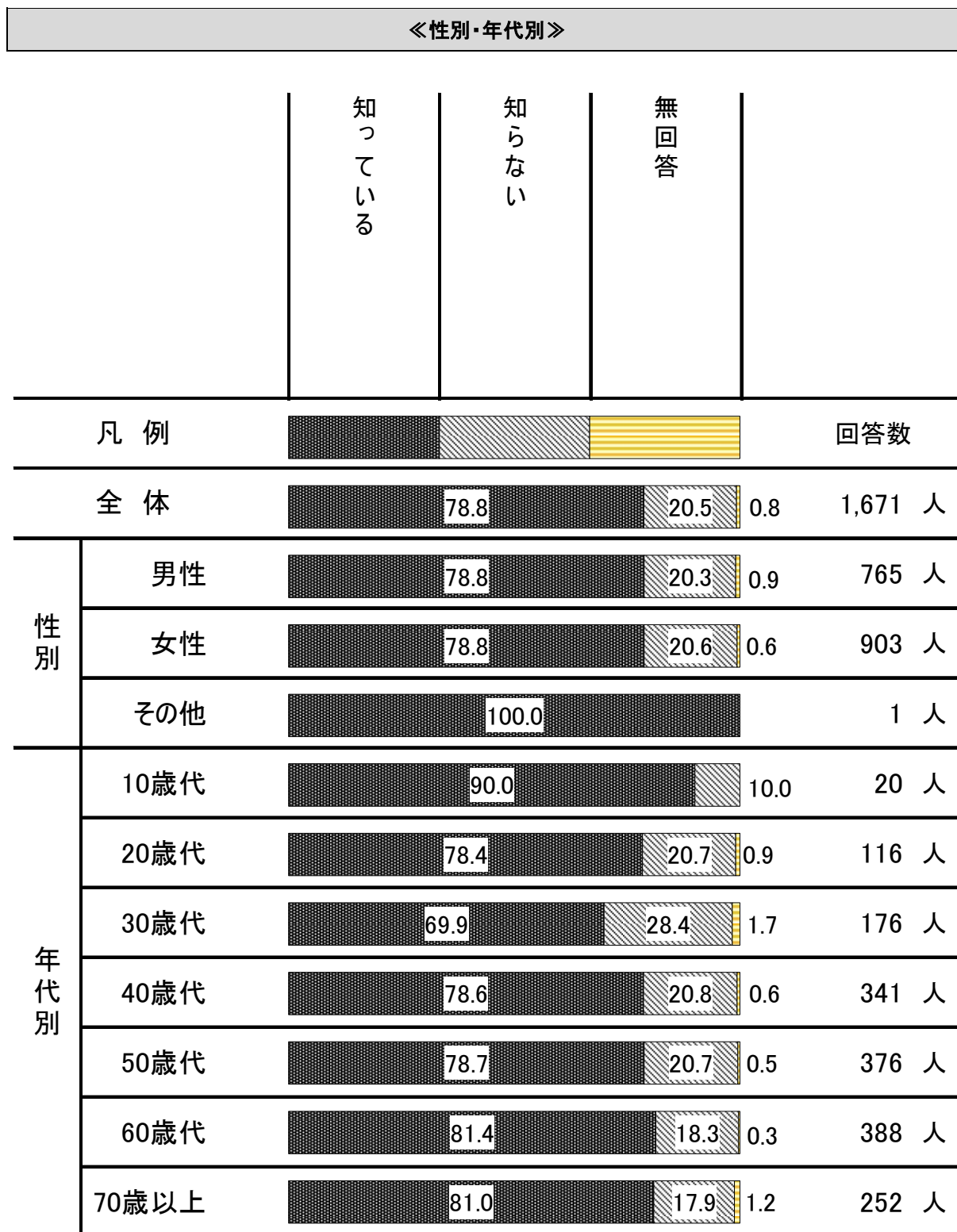


【性別】

男女ともに「知っている」が最も高くなっている。

【年代別】

すべての年代で「知っている」が最も高く、10歳代では90.0%とその他の年代と比べて高くなっている。



グラフ単位(%)

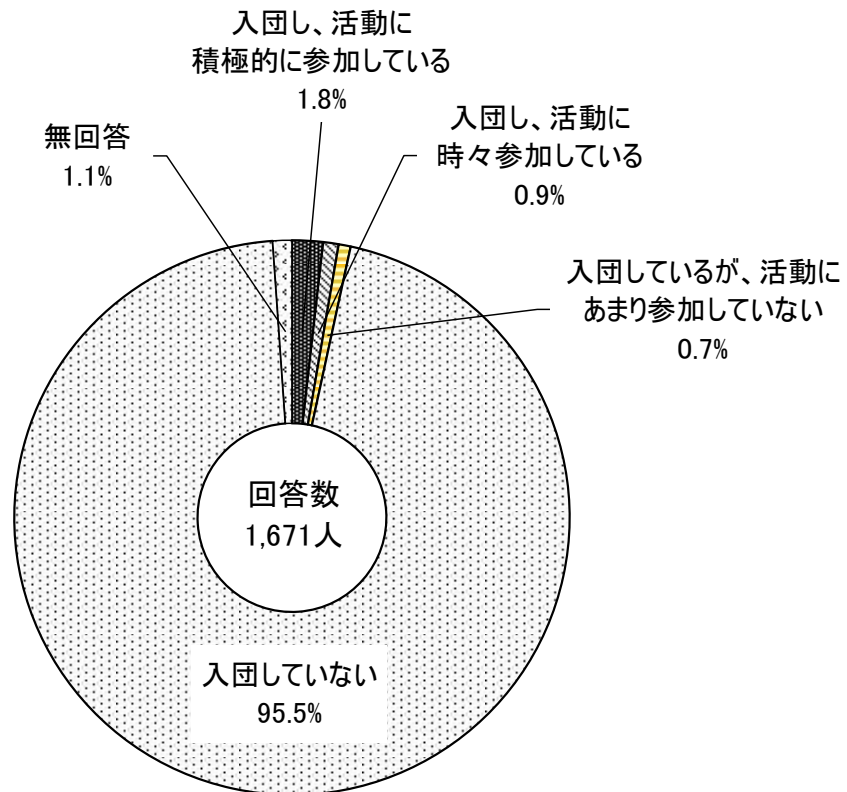
問 23 お住まいの地域の消防団に入団し、活動に参加していますか。(1つだけ○印)

【総合】

「入団していない」が95.5%と1位になっている。

次いで、「入団し、活動に積極的に参加している」が1.8%、「入団し、活動に時々参加している」が0.9%と続いている。

《総合》

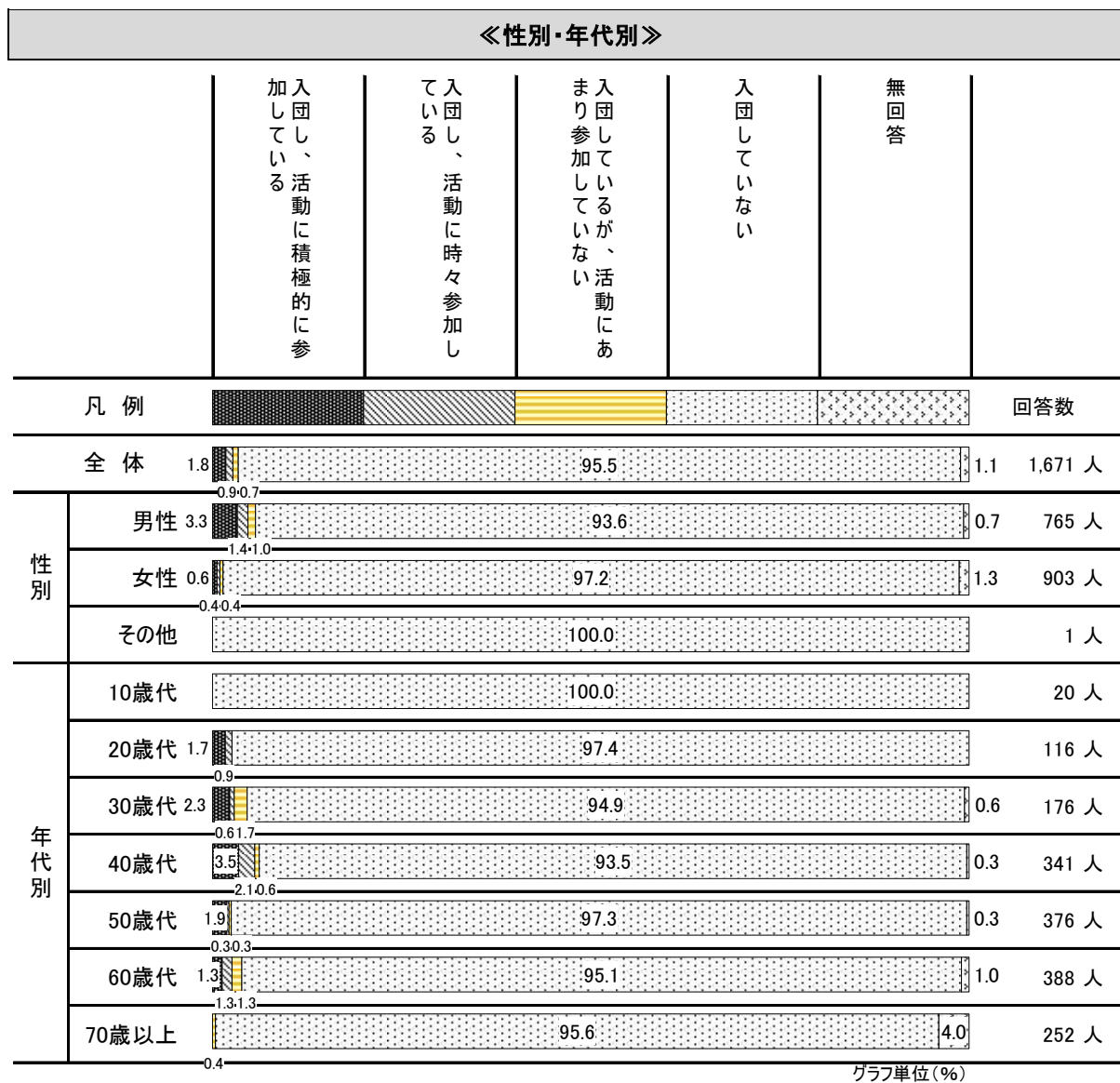


【性別】

男女ともに「入団していない」が最も高くなっている。

【年代別】

すべての年代で「入団していない」が最も高くなっている。



副問1 (問 23 で「1～3」を選んだ方のみお答えください。)

どのような媒体で団員募集の情報を知りましたか。(当てはまるものすべてに○印)

【総合】

「友人、知人」が87.7%と1位になっている。

次いで、「消防本部の掲示板」が5.3%、「消防本部のホームページ」が3.5%と続いている。

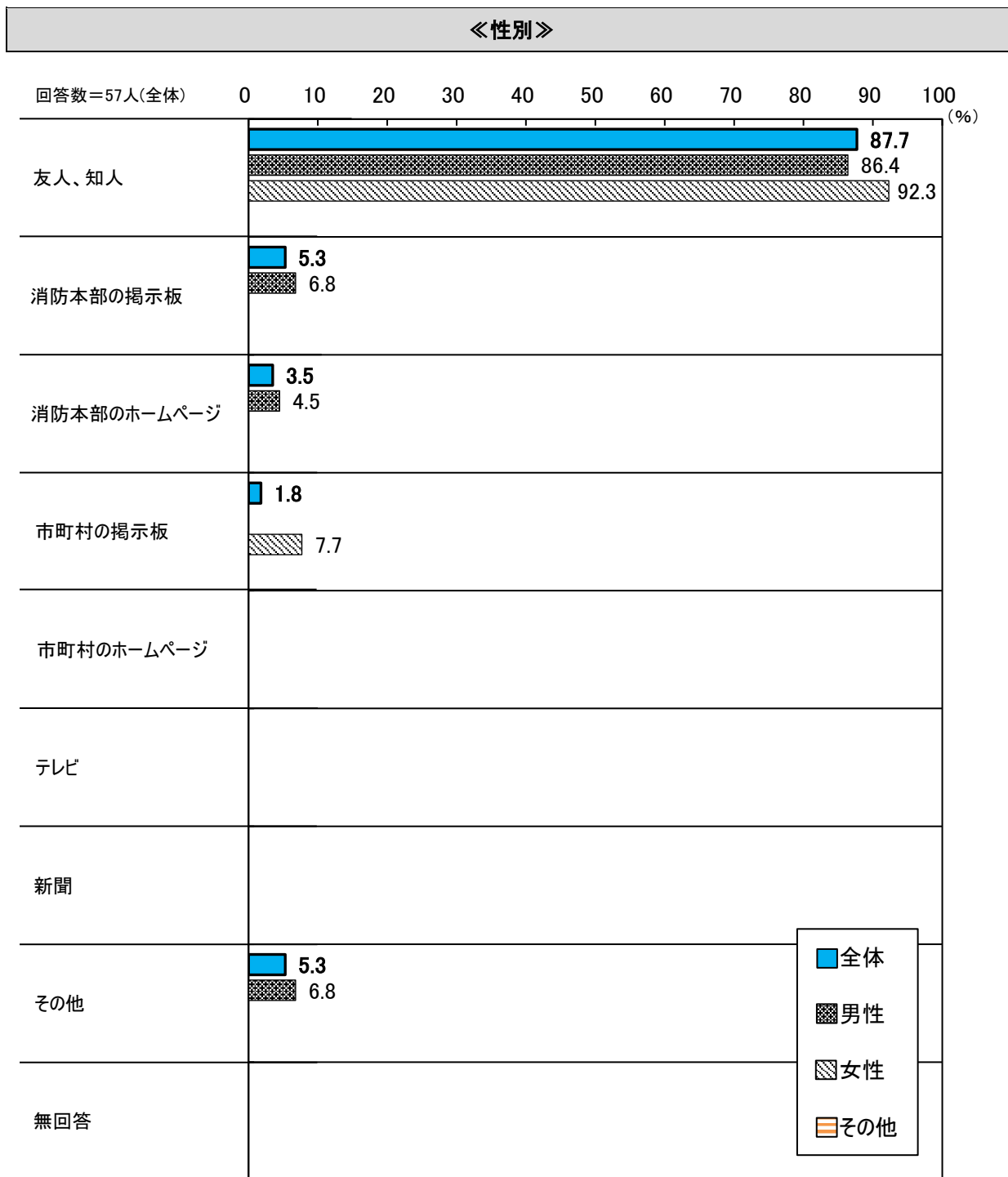
《総合》

		回答数
全体	100.0	57 人
友人、知人	87.7	50 人
消防本部の掲示板	5.3	3 人
消防本部のホームページ	3.5	2 人
市町村の掲示板	1.8	1 人
市町村のホームページ		0 人
テレビ		0 人
新聞		0 人
その他	5.3	3 人
無回答		0 人

グラフ単位(%)

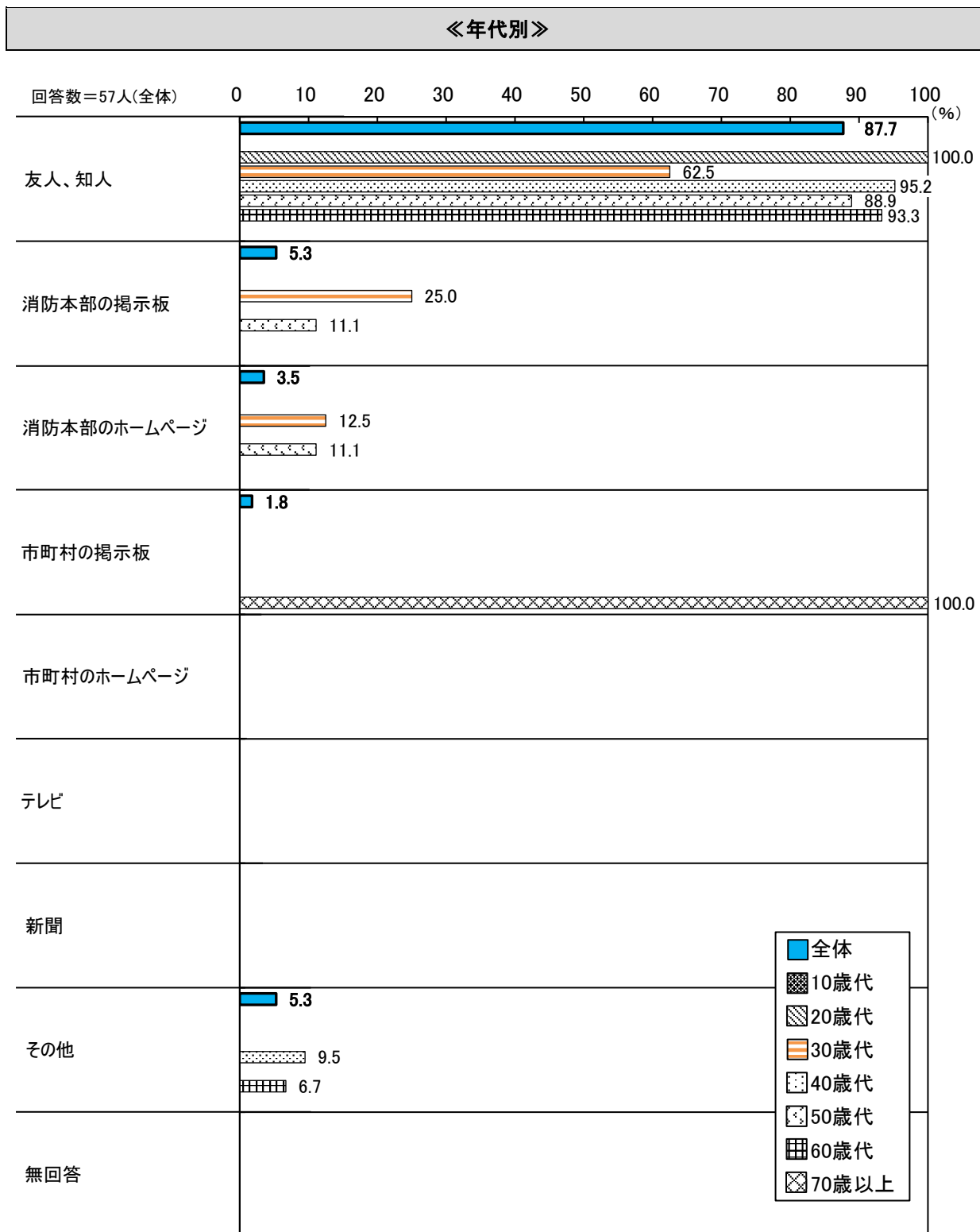
【性別】

男女ともに「友人、知人」が最も高く、女性では92.3%と、男性の86.4%より5.9ポイント高くなっている。



【年代別】

20歳代から60歳代では「友人、知人」が最も高く、70歳以上では「市町村の掲示板」が最も高くなっている。



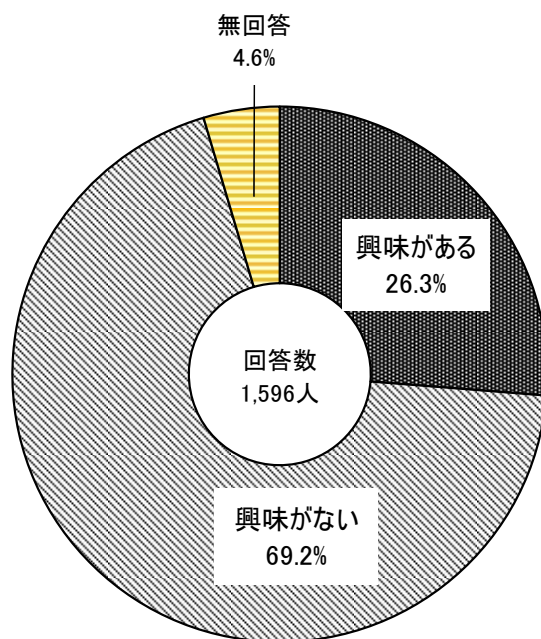
副問2（問 23 で「4」を選んだ方のみお答えください。）
消防団の活動に興味がありますか。（1つだけ○印）

【総合】

「興味がない」が69.2%と1位になっている。

次いで、「興味がある」が26.3%となっている。

《総合》

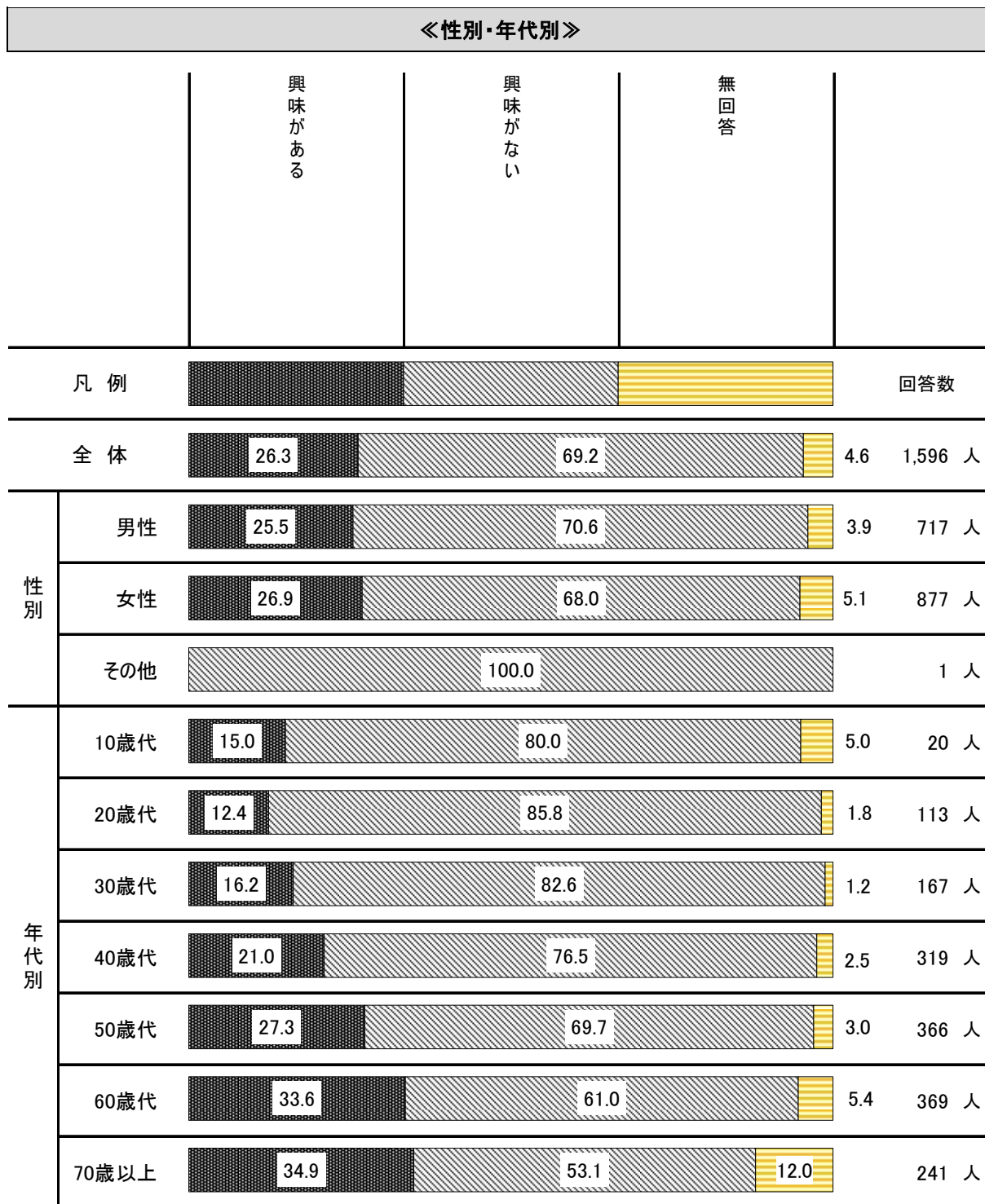


【性別】

男女ともに「興味がない」が最も高くなっている。

【年代別】

すべての年代で「興味がない」が最も高くなっている。また、10歳代を除き、年代が上がるほど「興味がある」が高くなる傾向がみられる。



グラフ単位(%)

問 24 どのような条件があれば、消防団に入団したくなると思いますか。(当てはまるものすべてに○印)

【総合】

「本業の理解が得られること」が47.2%と1位になっている。

次いで、「年額報酬や出動報酬が高いこと」が32.9%、「家族の理解が得られること」が26.5%と続いている。

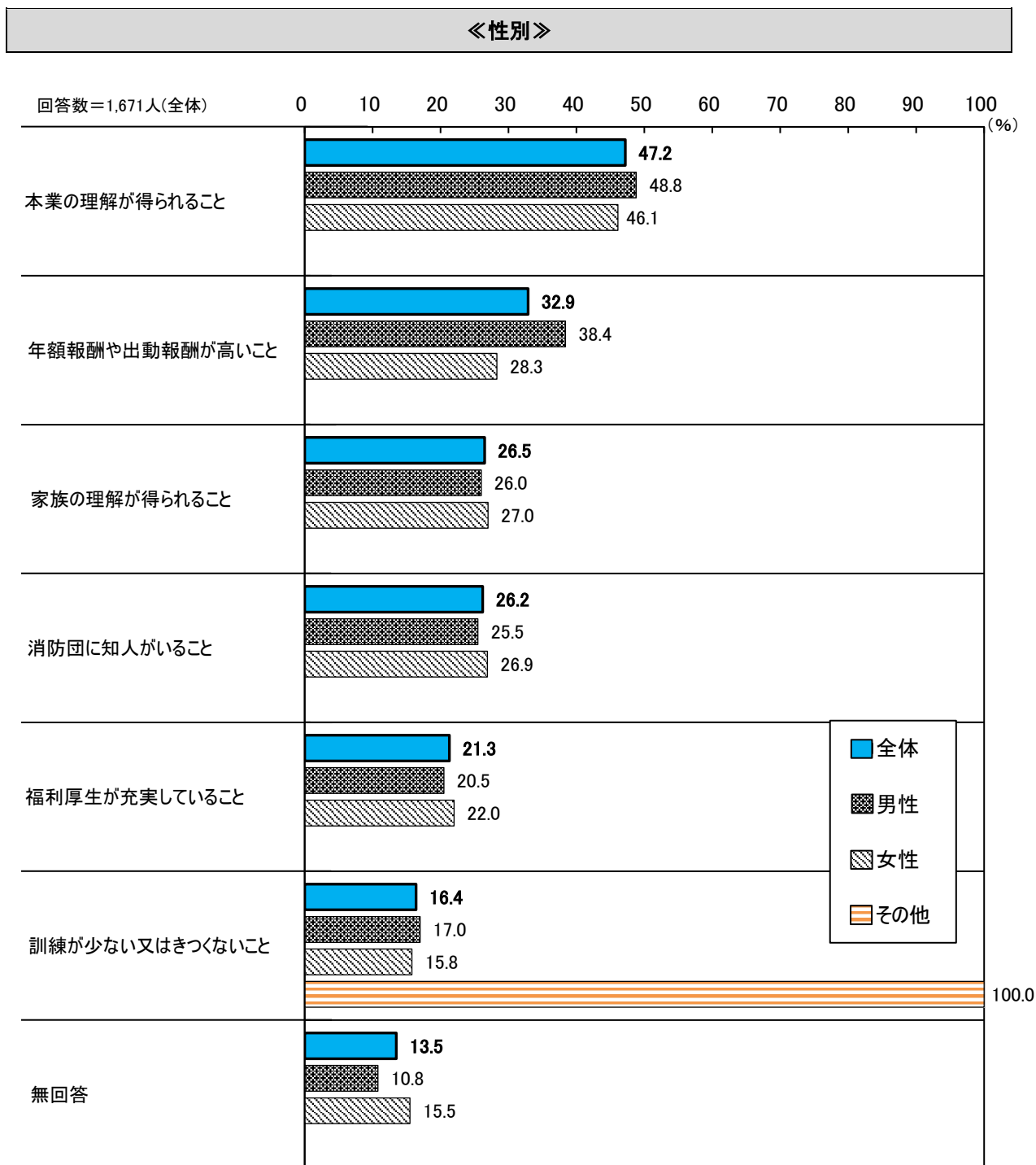
《総合》

		回答数
全 体	100.0	1,671 人
本業の理解が得られること	47.2	789 人
年額報酬や出動報酬が高いこと	32.9	550 人
家族の理解が得られること	26.5	443 人
消防団に知人がいること	26.2	438 人
福利厚生が充実していること	21.3	356 人
訓練が少ない又はきつくないこと	16.4	274 人
無回答	13.5	225 人

グラフ単位(%)

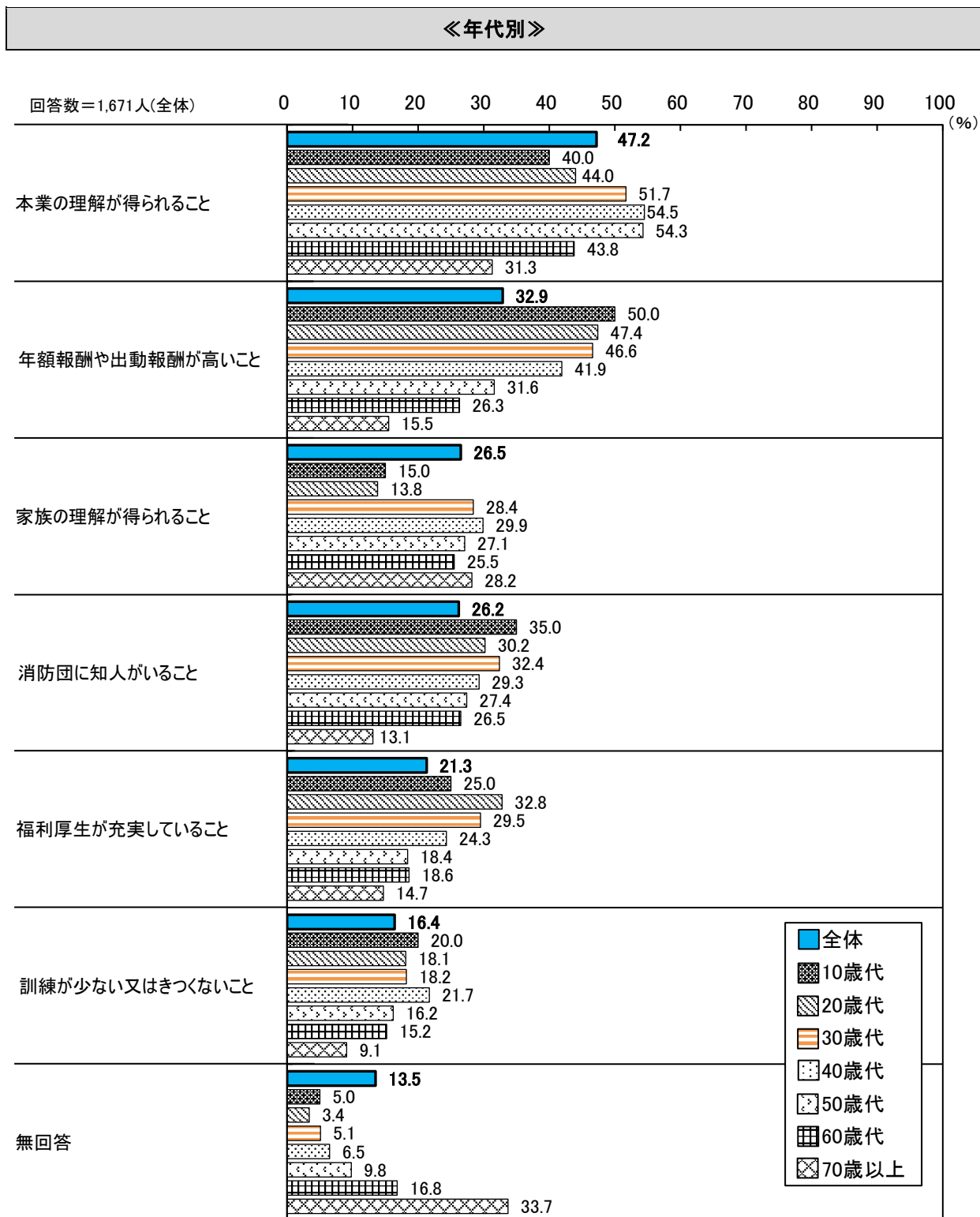
【性別】

男女ともに「本業の理解が得られること」が最も高くなっている。また「年額報酬や出勤報酬が高いこと」では、男性では38.4%と、女性の28.3%より10.1ポイント高くなっている。



【年代別】

10歳代、20歳代では「年額報酬や出勤報酬が高いこと」が最も高く、年代が下がるほど回答した割合が高くなる傾向がある。それ以外の年代は「本業の理解が得られること」が最も高くなっている。



【問 23×問 24 のクロス分析】

「消防団への入団し、活動に参加していますか。」という質問に対し、「どのような条件があれば、消防団に入団したくなると思いますか。」の結果を見てみると、「入団し、活動に積極的に参加している」、「入団しているが、活動にあまり参加していない」では「消防団に知人がいること」が最も高く、「入団し、活動に時々参加している」、「入団していない」では「本業の理解が得られること」が最も高く、「入団しているが、活動にあまり参加していない」では同率で「消防団に知人がいること」と「本業の理解が得られること」が最も高くなっている。

		入団したくなる条件							
		全体	消防団に知人がいること	年額報酬や出勤報酬が高いこと	訓練が少ない又はきつくないこと	福利厚生が充実していること	本業の理解が得られること	家族の理解が得られること	無回答
【表の見方】 上段=回答数(人) 下段=比率(%)									
全体		1,671	438 26.2	550 32.9	274 16.4	356 21.3	789 47.2	443 26.5	225 13.5
消防団への入団の有無	入団し、活動に積極的に参加している	30	66.7	56.7	16.7	30.0	46.7	40.0	3.3
	入団し、活動に時々参加している	15	46.7	26.7	20.0	13.3	60.0	53.3	6.7
	入団しているが、活動にあまり参加していない	12	33.3	25.0	25.0	25.0	33.3	25.0	25.0
	入団していない	1,596	25.4	33.0	16.5	21.2	47.6	26.3	13.0

5. 県民の健康づくりについて

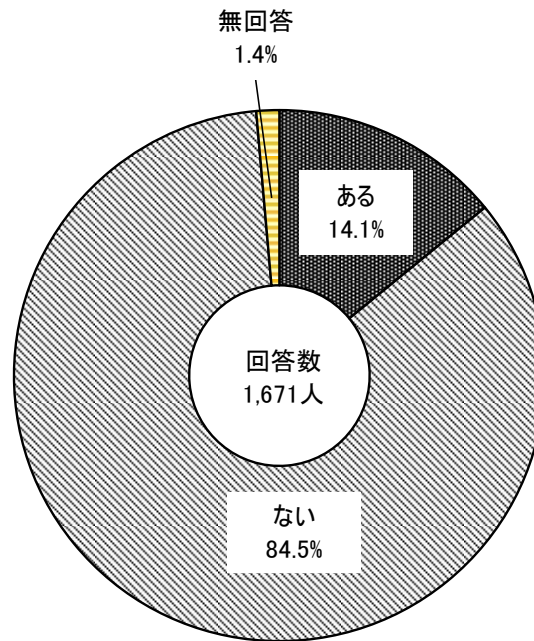
問 25 あなたは現在、健康上の問題で日常生活に何か影響がありますか。

【総合】

「ない」が84.5%と1位になっている。

次いで、「ある」は14.1%となっている。

《総合》

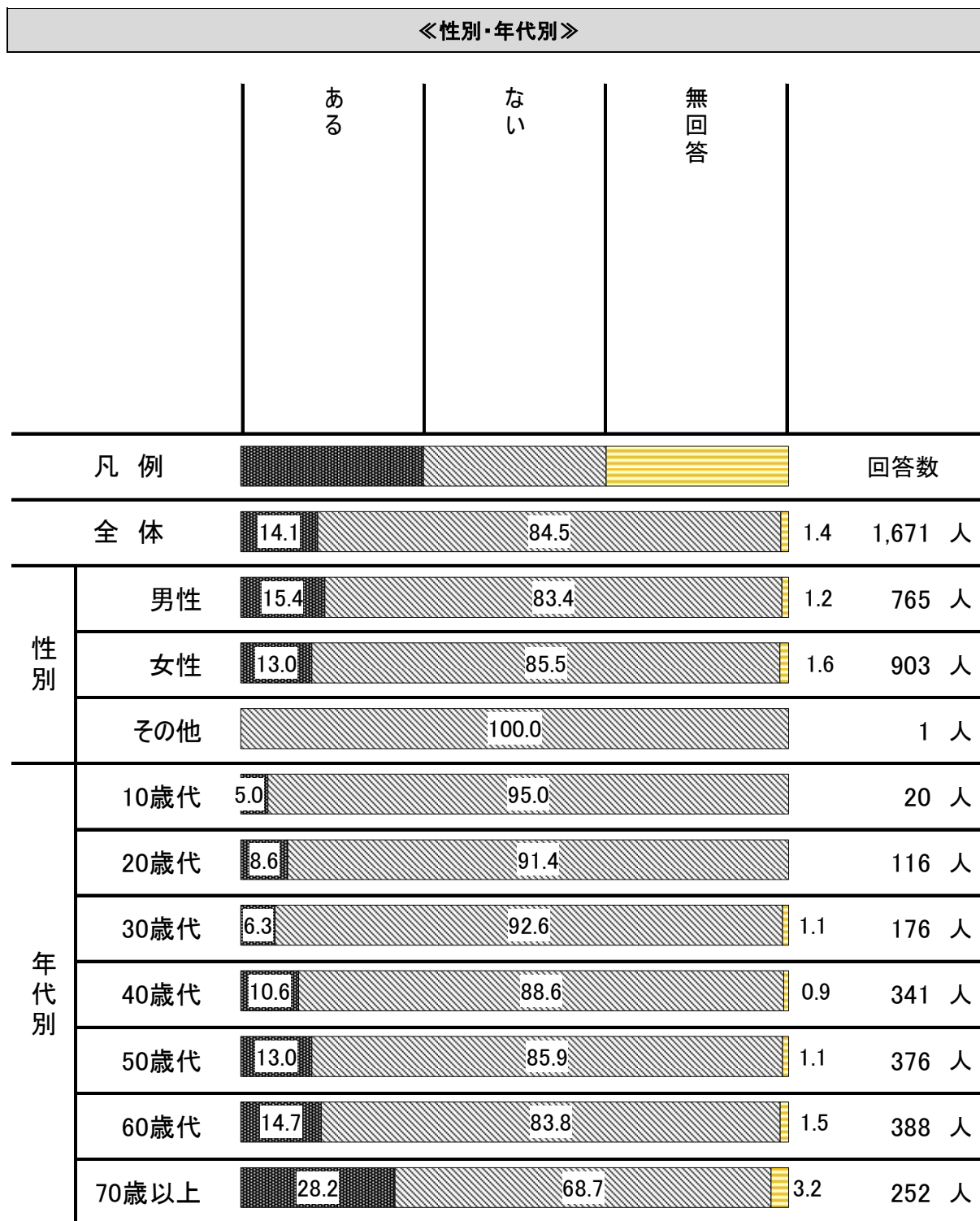


【性別】

男女ともに「ない」が最も高くなっている。

【年代別】

すべての年代で「ない」が最も高くなっている。また、30歳代を除き、年代が上がるほど「ある」が高くなる傾向がみられる。



グラフ単位(%)

副問1（問25で「1」を選んだ方のみお答えください。）

それはどのようなことに影響がありますか。（当てはまるものすべてに○印）

【総合】

「仕事、家事、学業（時間や作業量などが制限される）」が51.9%と1位になっている。

次いで、「運動（スポーツを含む）」が31.9%、「日常生活動作（起床、衣服脱着、食事、入浴など）」と「外出（時間や作業量などが制限される）」が同率で28.9%と続いている。

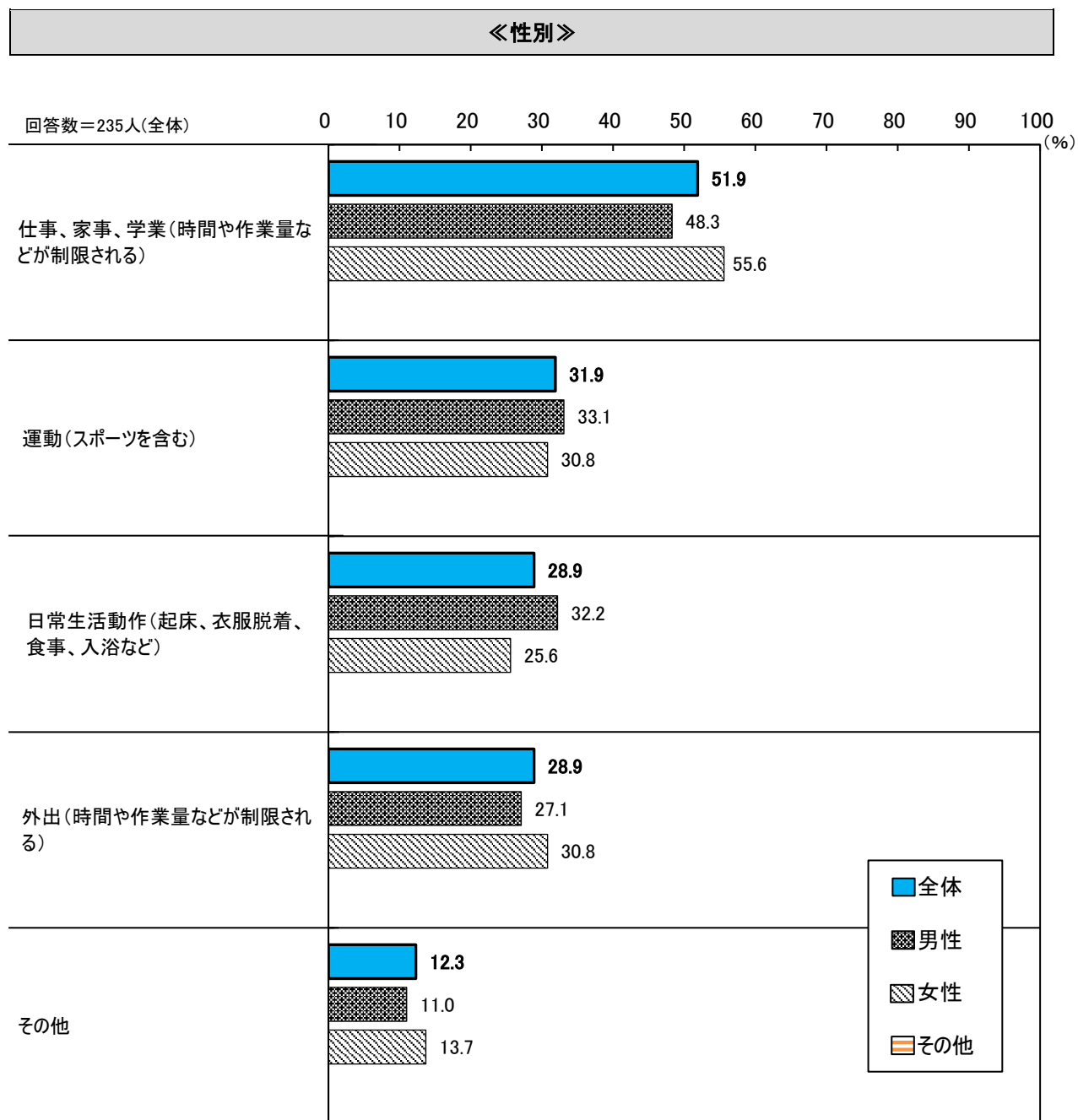
《総合》

		回答数
全体	100.0	235 人
仕事、家事、学業（時間や作業量などが制限される）	51.9	122 人
運動（スポーツを含む）	31.9	75 人
日常生活動作（起床、衣服脱着、食事、入浴など）	28.9	68 人
外出（時間や作業量などが制限される）	28.9	68 人
その他	12.3	29 人

グラフ単位（%）

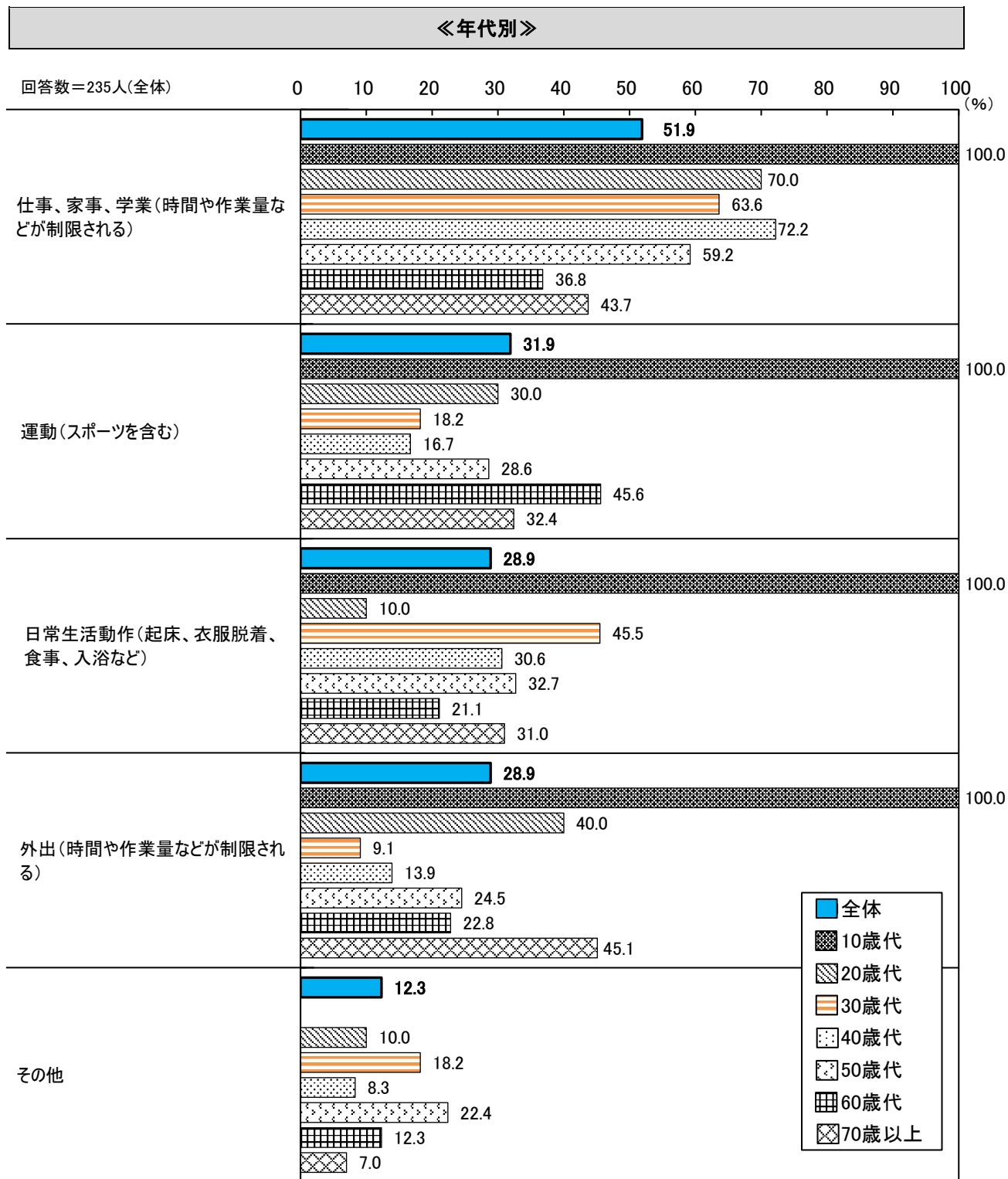
【性別】

男女ともに「仕事、家事、学業（時間や作業量などが制限される）」が最も高くなっている。



【年代別】

10歳代から50歳代では「仕事、家事、学業（時間や作業量などが制限される）」が最も高く、60歳代では「運動（スポーツを含む）」が、70歳以上では「外出（時間や作業量などが制限される）」が最も高くなっている。



問 26 (20 歳以上の方はお答えください。)

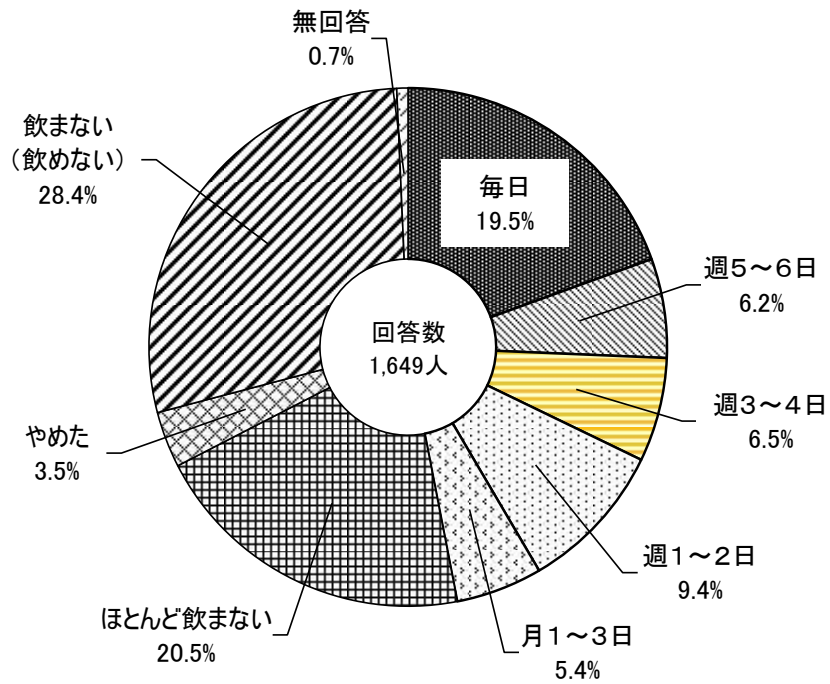
あなたは週に何日くらいお酒(清酒、焼酎、ビール、洋酒など)を飲みますか。(1つだけ○印)

【総合】

「飲まない(飲めない)」が28.4%と1位になっている。

次いで、「ほとんど飲まない」が20.5%、「毎日」が19.5%と続いている。

《総合》

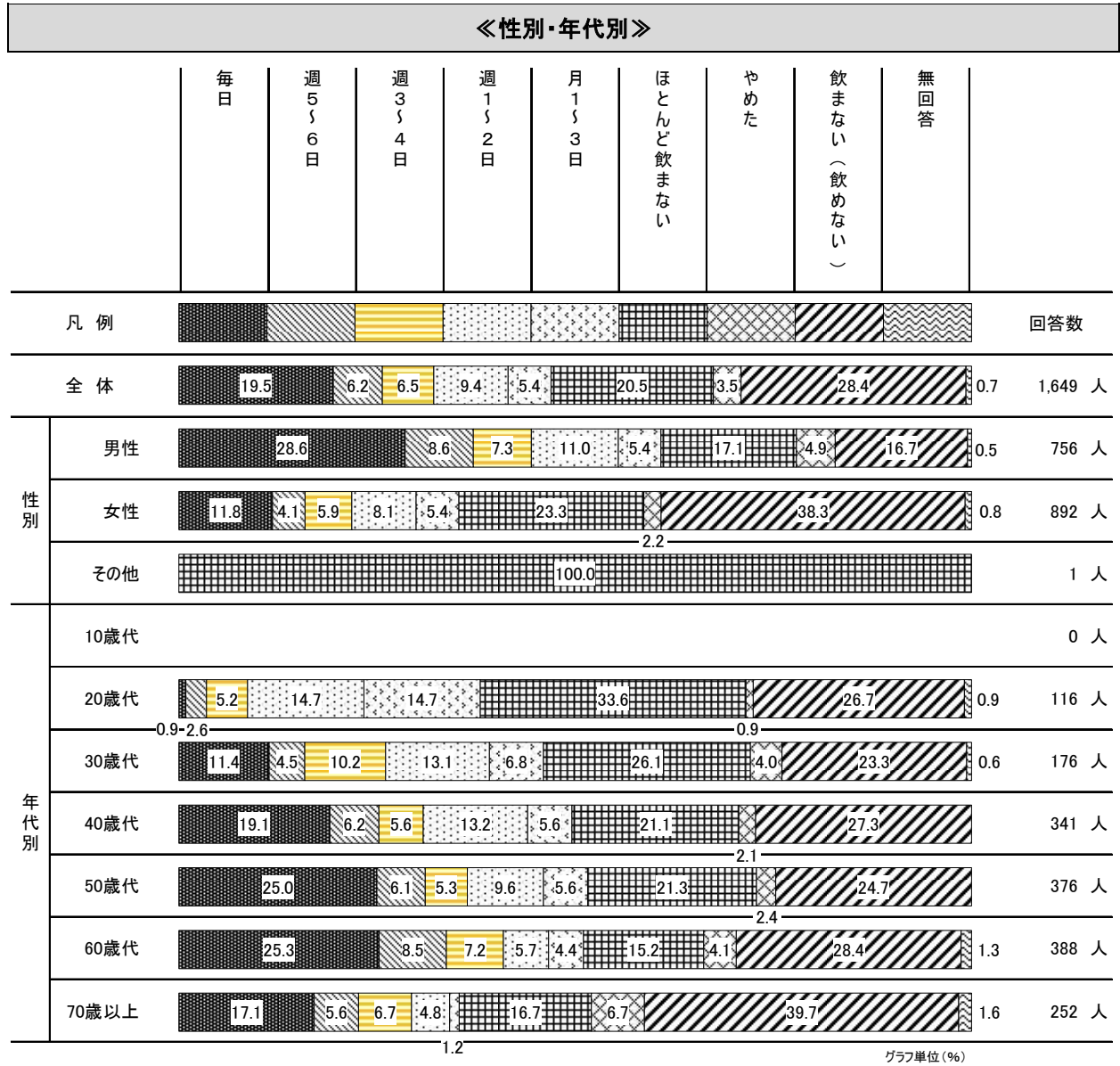


【性別】

男性では「毎日」が、女性では「飲まない（飲めない）」が最も高くなっている。

【年代別】

20歳代、30歳代では「ほとんど飲まない」が最も高く、40歳代、60歳代、70歳以上では「飲まない（飲めない）」が、50歳代では「毎日」が最も高くなっている。



【問 25×問 26 のクロス分析】

「現在、健康上の問題で日常生活に何か影響がありますか。」という質問に対して「週に何日くらいお酒を飲みますか。」の結果を見ると、「ある」、「ない」どちらも「飲まない（飲めない）」との回答した人が最も高くなっている。

次いで、「ある」では「毎日」と回答した人が、「ない」では「ほとんど飲まない」との回答した人の比率が高くなっている。

◀問 25×問 26 のクロス分析▶												
		飲酒の頻度										
		全 体	毎 日	週 5 ～ 6 日	週 3 ～ 4 日	週 1 ～ 2 日	月 1 ～ 3 日	ほ と ん ど 飲 ま な い	や め た	飲 ま な い （ 飲 め な い ）	無 回 答	
【表の見方】 上段＝回答数(人) 下段＝比率(%)		全体	1,649	321	102	108	155	89	338	57	468	11
			100.0	19.5	6.2	6.5	9.4	5.4	20.5	3.5	28.4	0.7
のよ健康上の問題へ 影響の有無	ある	235	17.1	4.7	6.8	7.7	3.8	15.0	8.1	36.3	0.4	
	ない	1,412	19.8	6.5	6.5	9.7	5.7	21.4	2.7	27.1	0.6	

副問1 (問 26 で「1～5」を選んだ方のみお答えください。)

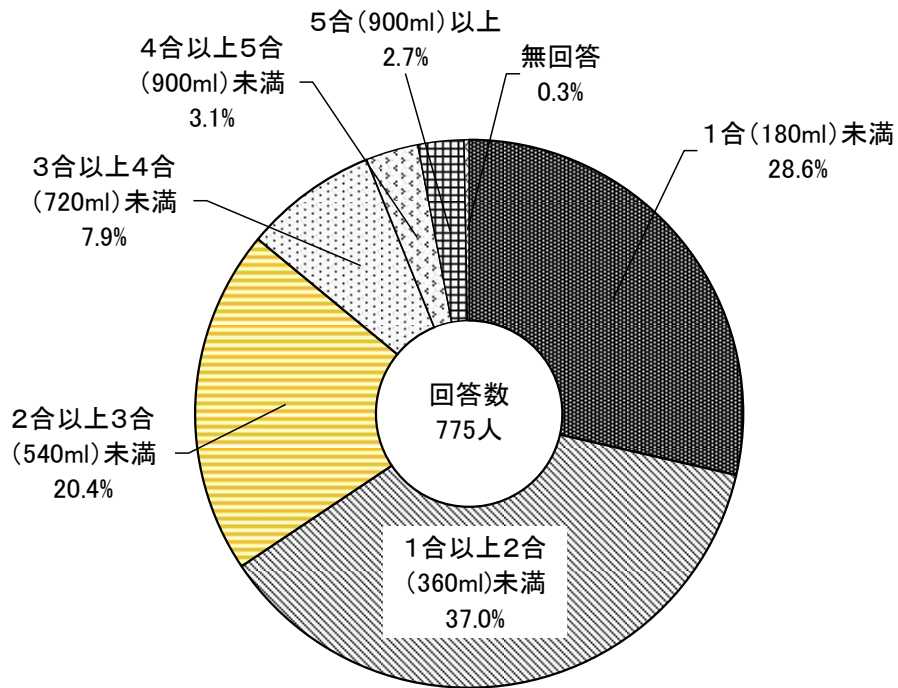
お酒を飲む日は1日あたり、どのくらいの量を飲みますか。(清酒に換算し、1つだけ○印)

【総合】

「1合以上2合(360ml)未満」が37.0%と1位になっている。

次いで、「1合(180ml)未満」が28.6%、「2合以上3合(540ml)未満」が20.4%と続いている。

《総合》

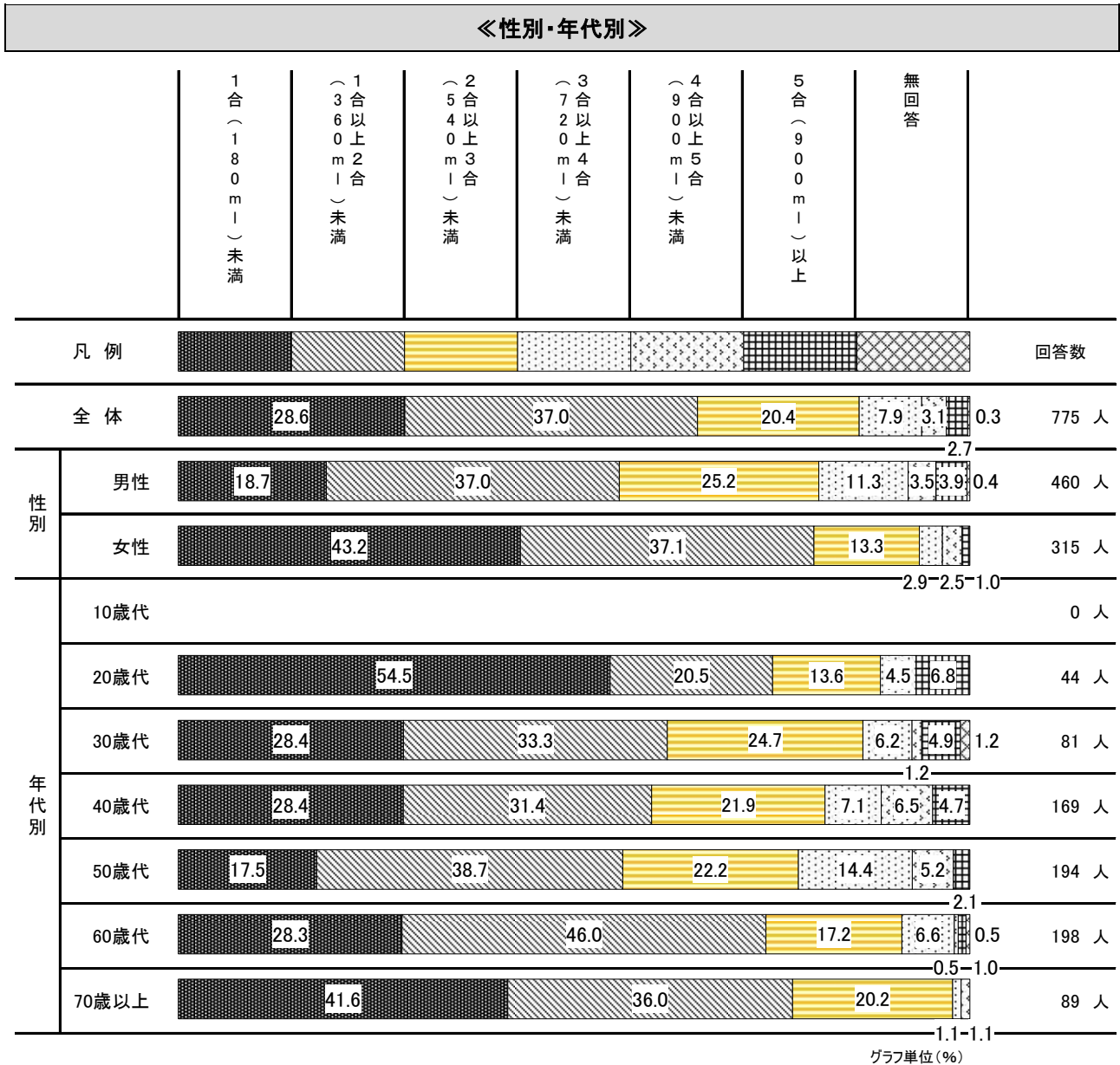


【性別】

男性では「1合以上2合（360ml）未満」が最も高く、女性では「1合（180ml）未満」が最も高くなっている。

【年代別】

20歳代、70歳以上では「1合（180ml）未満」が最も高く、30歳代から60歳代では「1合以上2合（360ml）未満」が最も高くなっている。



問 27 (20 歳以上の方はお答えください。)

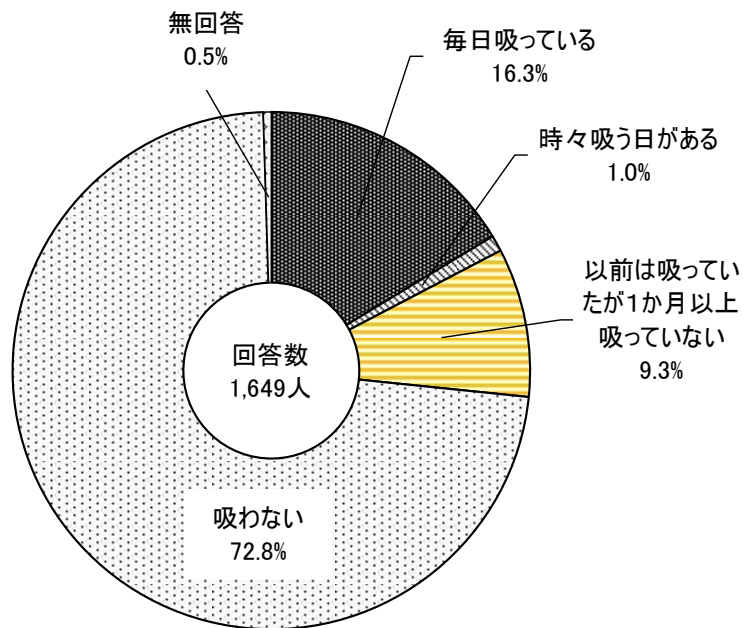
あなたはたばこを吸いますか。(1つだけ○印)

【総合】

「吸わない」が 72.8%と 1 位になっている。

次いで、「毎日吸っている」が 16.3%、「以前は吸っていたが 1 か月以上吸っていない」が 9.3%と続いている。

《総合》



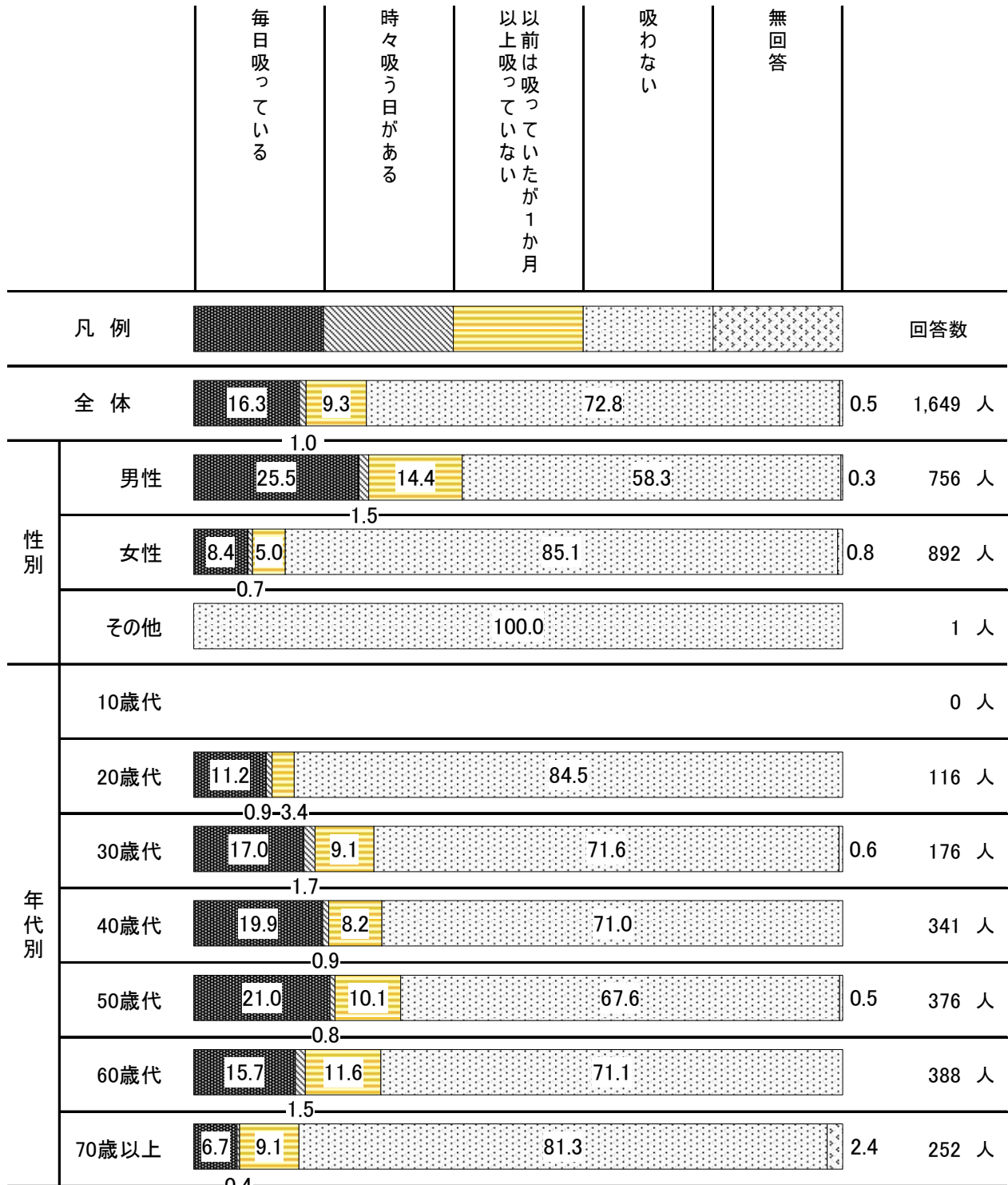
【性別】

男女ともに「吸わない」が最も高く、女性では85.1%、男性では58.3%と、女性の方が26.8ポイント高くなっている。

【年代別】

すべての年代で「吸わない」が最も高くなっている。

《性別・年代別》



グラフ単位(%)

【問 25×問 27 のクロス分析】

「現在、健康上の問題で日常生活に何か影響がありますか。」という質問に対して「たばこを吸いますか。」の結果を見ると、「ある」、「ない」どちらも「吸わない」との回答が最も高くなっている。

		喫煙の頻度					
		全体	毎日吸っている	時々吸う日がある	以前は吸っていたが1か月以上吸っていない	吸わない	無回答
【表の見方】 上段=回答数(人) 下段=比率(%)							
全体		1,649	268	17	154	1,201	9
		100.0	16.3	1.0	9.3	72.8	0.5
響る健康上の問題への影響の有無	ある	235	15.8	3.4	8.5	71.8	0.4
	ない	1,412	16.4	0.6	9.4	73.1	0.4

副問1 (問 27 で「1」もしくは「2」を選んだ方のみお答えください。)

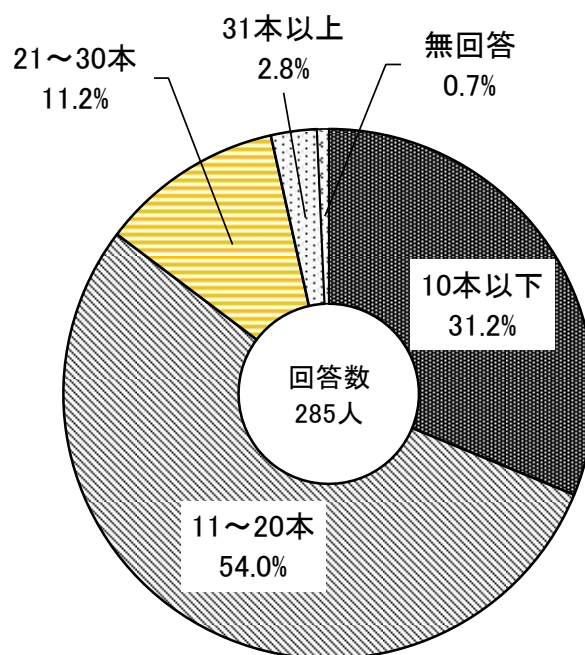
1日に平均して何本くらい吸いますか。(1つだけ○印)

【総合】

「11～20本」が54.0%と1位になっている。

次いで、「10本以下」が31.2%、「21～30本」が11.2%と続いている。

《総合》

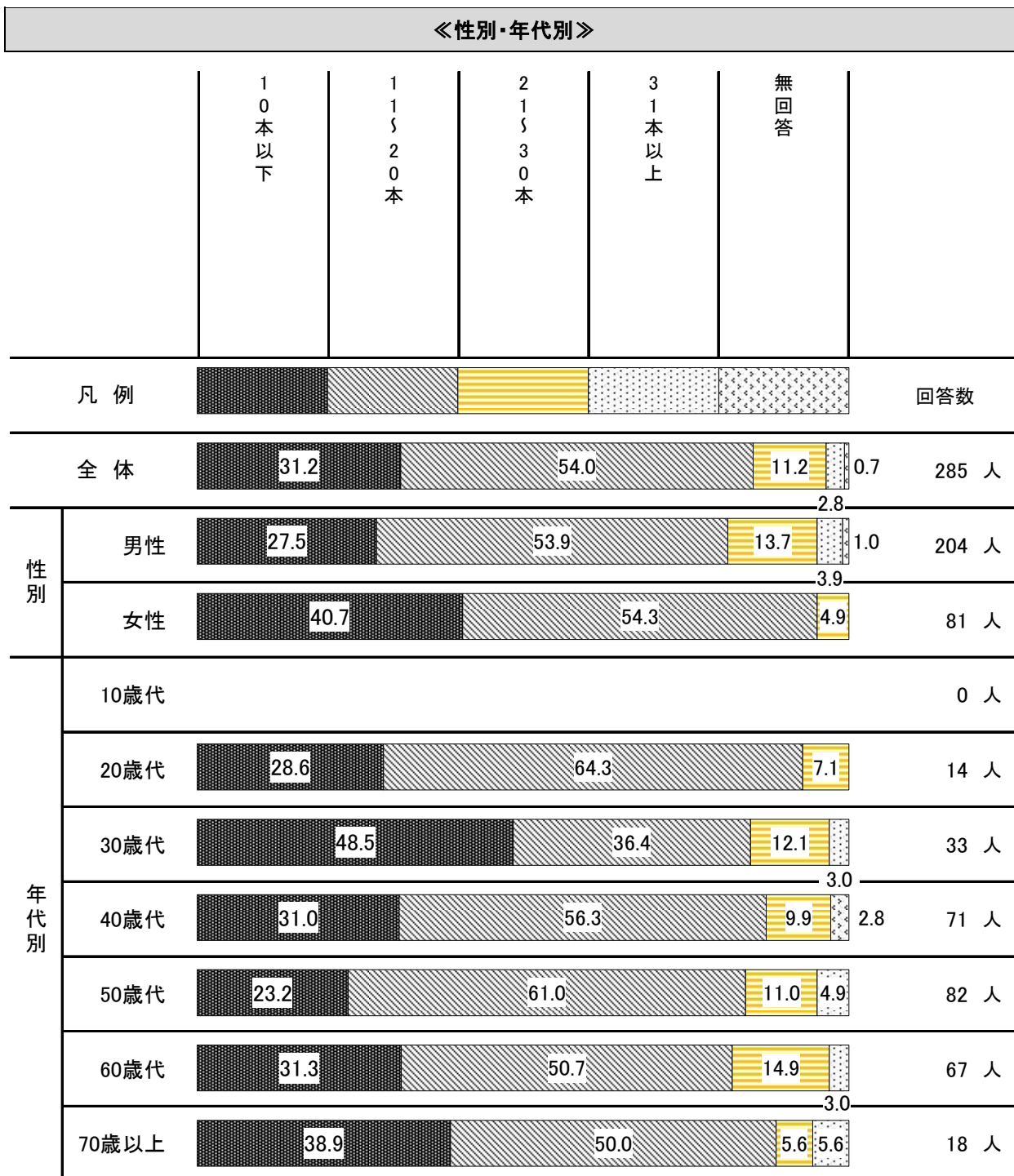


【性別】

男女ともに「11～20本」が最も高くなっている。また、「10本以下」では女性の方が男性よりも13.2ポイント高くなっている。

【年代別】

30歳代では「10本以下」が最も高く、その他の年代では「11～20本」が最も高くなっている。



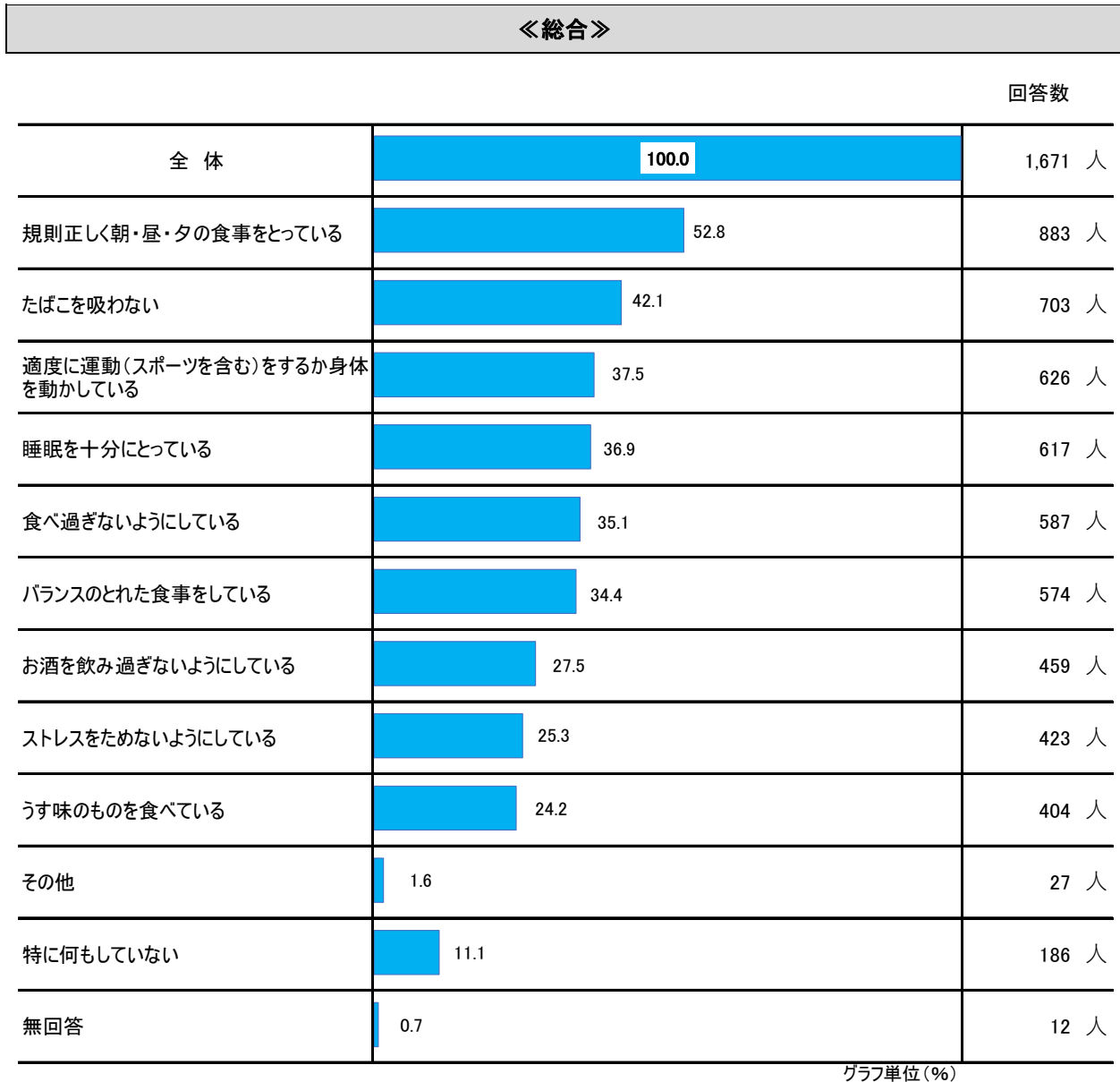
グラフ単位(%)

問 28 あなたは日ごろ、健康のために次のような行動をしていますか。(当てはまるものすべてに○印)

【総合】

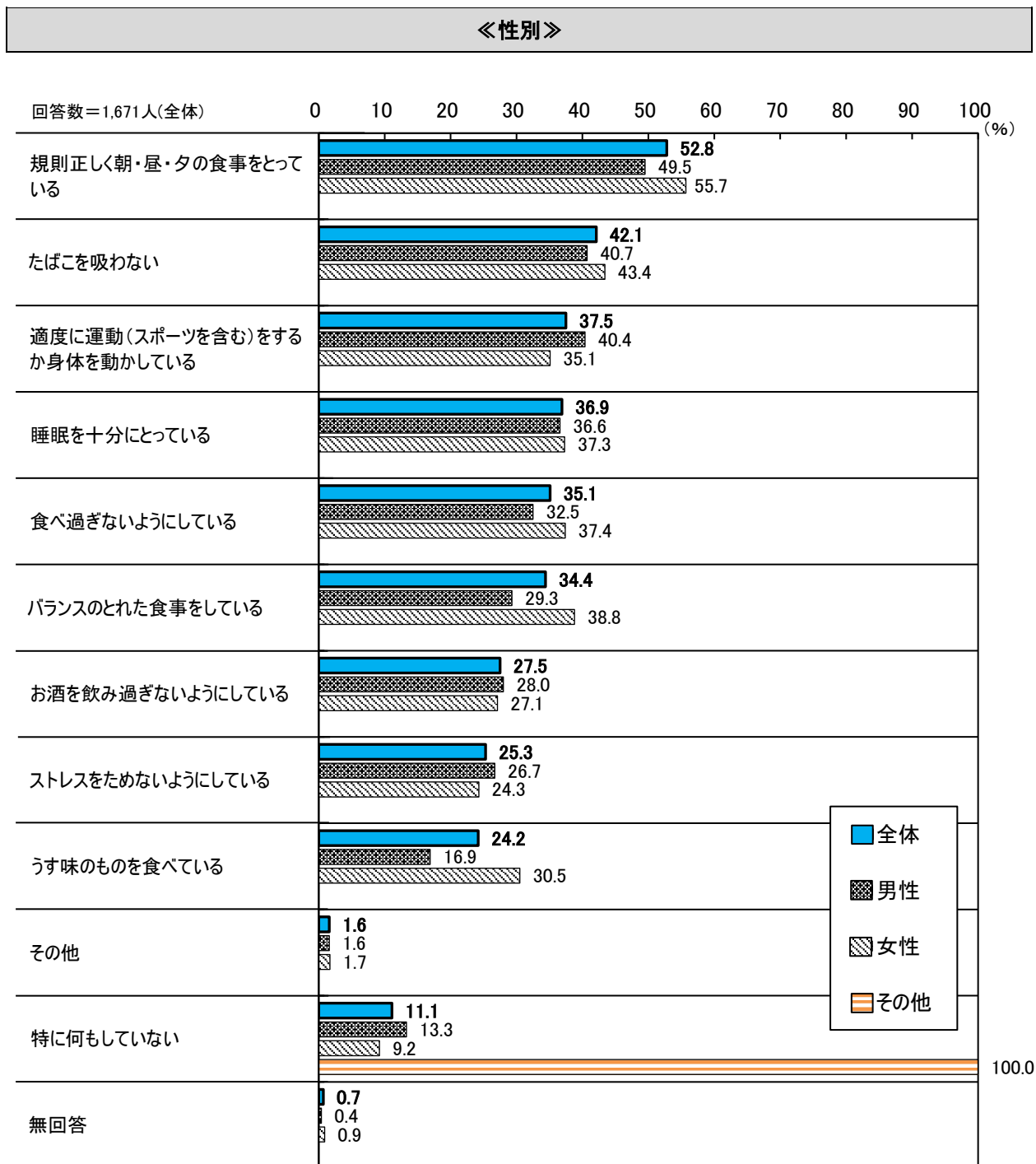
「規則正しく朝・昼・夕の食事をとっている」が52.8%と1位になっている。

次いで、「たばこを吸わない」が42.1%、「適度に運動（スポーツを含む）をするか身体を動かしている」が37.5%と続いている。



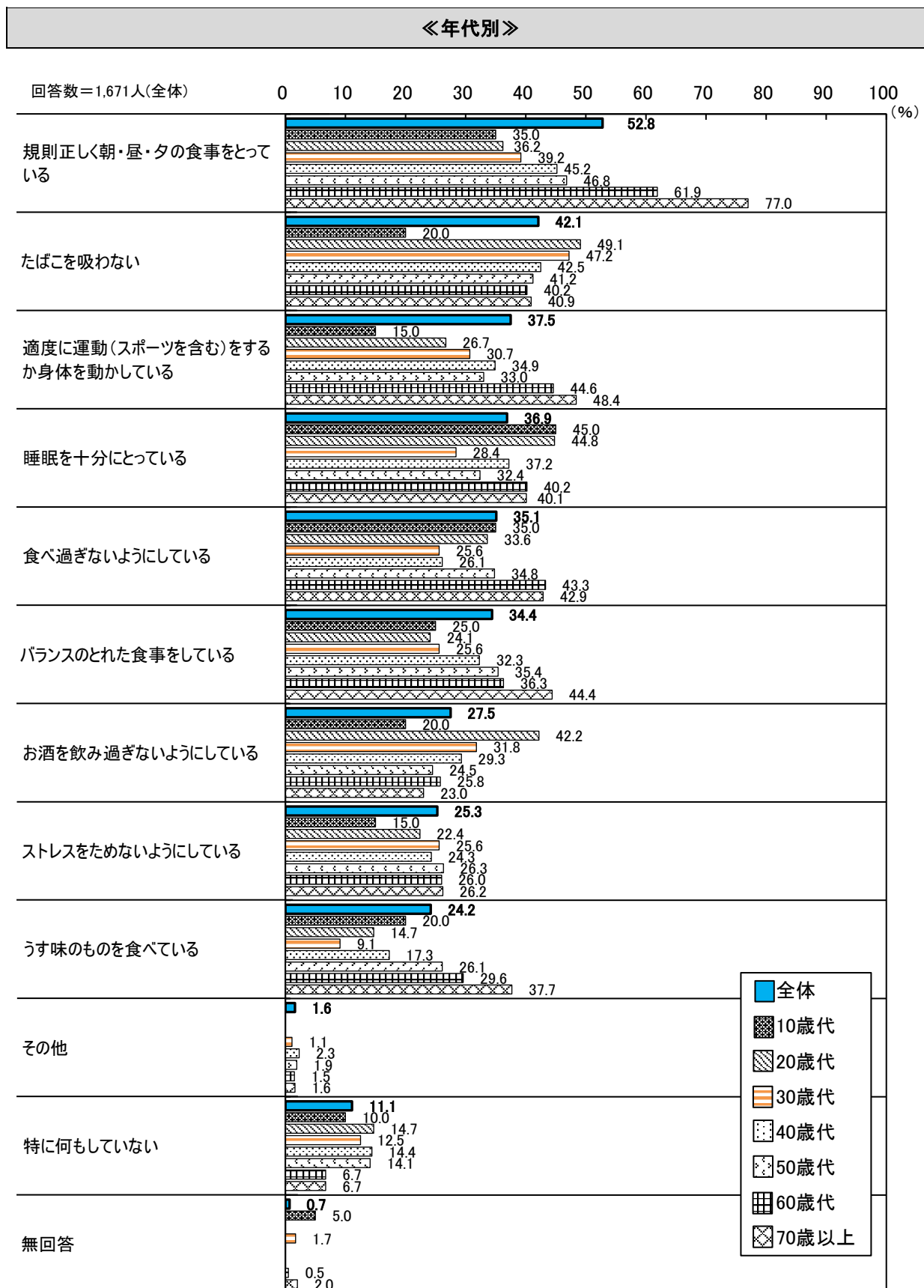
【性別】

男女ともに「規則正しく朝・昼・夕の食事をとっている」が最も高くなっている。



【年代別】

10歳代では「睡眠を十分にとっている」が最も高く、20歳代、30歳代では「たばこを吸わない」が、40歳代から70歳以上では「規則正しく朝・昼・夕の食事をとっている」が最も高くなっている。



【問 25×問 28 のクロス分析】

「現在、健康上の問題で日常生活に何か影響がありますか。」という質問に対して「健康のために次のような行動をしていますか。」の結果を見ると、「ある」、「ない」どちらも「規則正しく朝・昼・夕の食事をとっている」との回答が最も高くなっている。

次いで、「ある」と回答した人は「食べ過ぎないようにしている」が、「ない」と回答した人は「たばこを吸わない」と回答した比率が高くなっている。

<div style="text-align: center; background-color: #cccccc; padding: 5px;"> 《問 25×問 28 のクロス分析》 </div>													
	健康のために行っている行動												
	全体	規則正しく朝・昼・夕の食事をとっている	バランスのとれた食事をしている	うす味のを食べている	食べ過ぎないようにしている	適度に運動（スポーツを含む）をするか	睡眠を十分にとっている	たばこを吸わない	お酒を飲み過ぎないようにしている	ストレスをためないようにしている	その他	特に何もしていない	無回答
【表の見方】 上段＝回答数(人) 下段＝比率(%)													
全体	1,671	883 52.8	574 34.4	404 24.2	587 35.1	626 37.5	617 36.9	703 42.1	459 27.5	423 25.3	27 1.6	186 11.1	12 0.7
の健康上の問題 影響の有無 へ													
ある	235	54.5	34.9	29.4	40.0	31.1	35.7	39.1	23.4	25.5	4.7	12.8	0.9
ない	1,412	52.7	34.4	23.0	34.3	38.6	37.1	42.5	28.3	25.4	1.1	10.8	0.5

【問 28×問 26 のクロス分析】

「日ごろ、健康のために次のような行動をしていますか。」という質問に対し、「週に何日くらいお酒を飲みますか。」の結果を見ると、「お酒を飲み過ぎないようにしている」では「ほとんど飲まない」が、それ以外の行動では「飲まない（飲めない）」が最も高くなっている。

《問 28×問 26 のクロス分析》

		飲酒の頻度										
		全体	毎日	週5 ～ 6日	週3 ～ 4日	週1 ～ 2日	月1 ～ 3日	ほとんど 飲まない	やめた	飲まない (飲めない)	無回答	
【表の見方】 上段=回答数(人) 下段=比率(%)												
全体		1,649	321 19.5	102 6.2	108 6.5	155 9.4	89 5.4	338 20.5	57 3.5	468 28.4	11 0.7	
健康 の た め に 行 っ て い る 行 動	規則正しく朝・昼・夕の食事をとっている	875	20.0	6.2	6.4	9.0	5.4	20.1	3.8	28.6	0.6	
	バランスのとれた食事をしている	569	18.8	6.3	7.7	11.6	4.9	18.5	3.2	28.1	0.9	
	うす味のもの食べている	400	13.8	5.5	6.8	10.8	5.0	21.0	4.0	32.0	1.3	
	食べ過ぎないようにしている	580	16.6	6.6	6.9	10.5	4.5	18.6	4.0	31.9	0.5	
	適度に運動(スポーツを含む)をするか身体を動かしている	623	21.2	6.9	7.5	10.3	5.9	18.8	2.6	26.2	0.6	
	睡眠を十分にとっている	608	21.9	6.9	7.4	9.0	4.4	17.3	3.9	28.8	0.3	
	たばこを吸わない	699	16.3	6.0	6.4	12.0	6.3	21.7	3.1	27.6	0.4	
	お酒を飲み過ぎないようにしている	455	15.4	7.0	7.0	14.3	7.7	24.0	2.0	22.0	0.7	
	ストレスをためないようにしている	420	21.4	7.9	6.9	9.5	4.8	19.5	3.1	26.4	0.5	
	その他	27	18.5	3.7	3.7	7.4	7.4	22.2	11.1	22.2	3.7	
	特に何もしていない	184	17.4	5.4	4.3	7.1	8.7	21.2	2.7	33.2	-	

【問 28×問 27 のクロス分析】

「日ごろ、健康のために次のような行動をしていますか。」という質問に対し、「たばこを吸いますか。」の結果を見ると、すべての行動で「吸わない」が最も高くなっている。

		喫煙の頻度					無回答
		全体	毎日吸っている	時々吸う日がある	吸う前は吸っていたが1か月以上	吸わない	
【表の見方】 上段=回答数(人) 下段=比率(%)							
全体		1,649	268	17	154	1,201	9
			16.3	1.0	9.3	72.8	0.5
健康のために 行っている 行動	規則正しく朝・昼・夕の食事をとっている	875	11.4	1.4	9.8	77.0	0.3
	バランスのとれた食事をしている	569	9.8	0.7	8.8	80.1	0.5
	うす味のもの食べている	400	8.0	1.0	8.3	82.3	0.5
	食べ過ぎないようにしている	580	15.7	0.7	8.1	75.3	0.2
	適度に運動(スポーツを含む)をするか身体を動かしている	623	13.5	1.0	10.1	75.0	0.5
	睡眠を十分にとっている	608	14.8	0.3	9.5	75.2	0.2
	たばこを吸わない	699	-	-	13.6	86.4	-
	お酒を飲み過ぎないようにしている	455	6.6	0.4	11.9	80.9	0.2
	ストレスをためないようにしている	420	19.0	1.2	8.3	71.2	0.2
	その他	27	3.7	7.4	18.5	70.4	-
	特に何もしていない	184	28.8	1.1	6.0	64.1	-

6. オンライン診療について

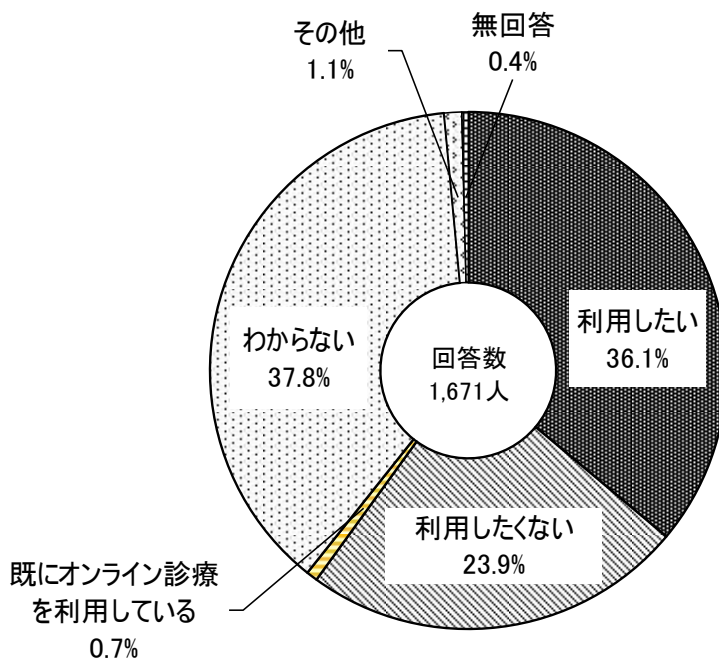
問 29 あなた自身やご家族が、今後医療機関を受診する際に、オンライン診療を利用しようと思いますか。
(1つだけ○印)

【総合】

「わからない」が37.8%と1位になっている。

次いで、「利用したい」が36.1%、「利用したくない」が23.9%と続いている。

《総合》

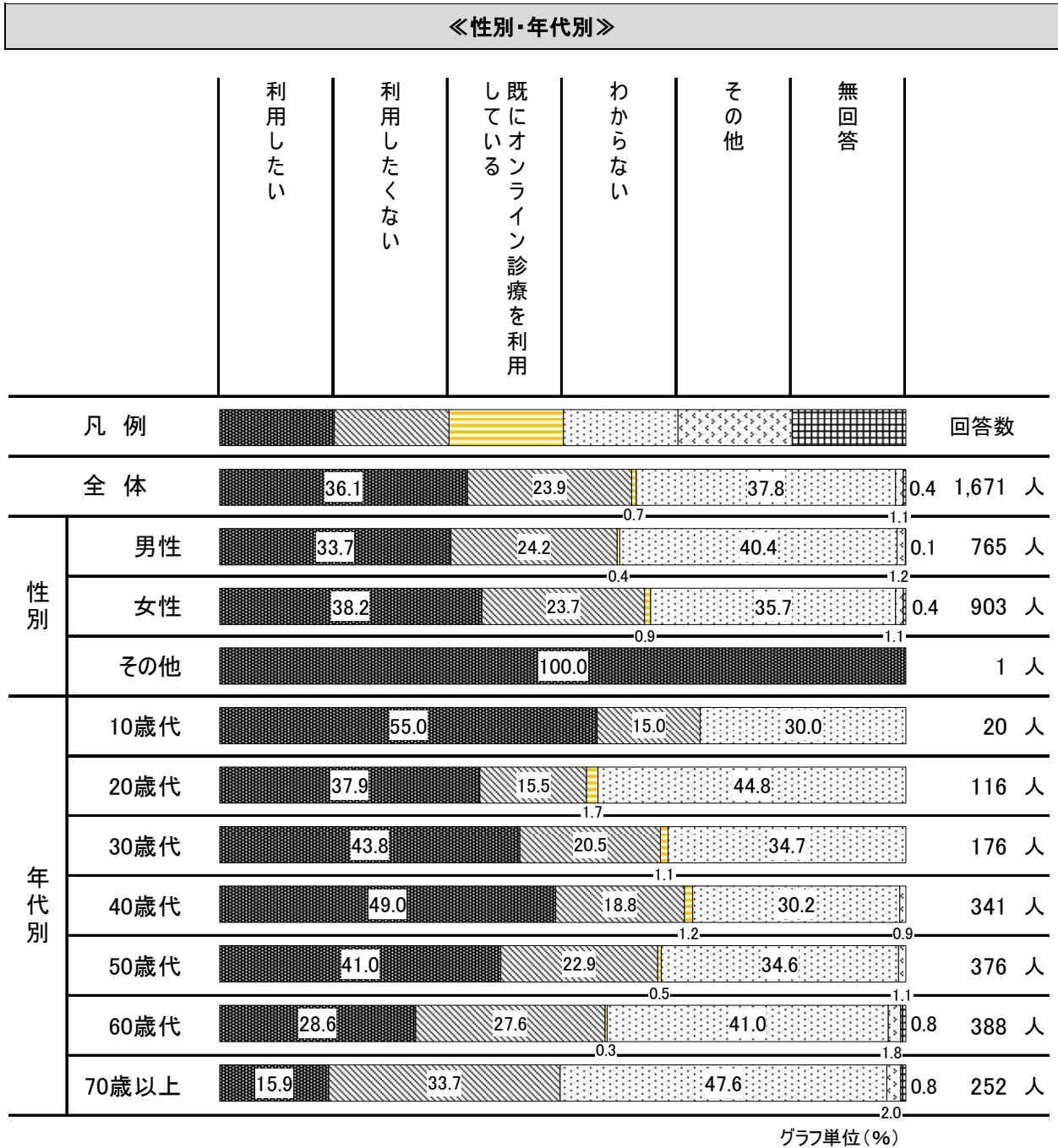


【性別】

男性では「わからない」が最も高く、女性では「利用したい」が最も高くなっている。

【年代別】

10歳代、30歳代、40歳代、50歳代では「利用したい」が最も高く、20歳代、60歳代、70歳以上では「わからない」が最も高くなっている。



副問1 (問 29 で「1」を選んだ方のみお答えください。)

あなたがオンライン診療を利用したいと思う理由は何ですか。(当てはまるものすべてに○印)

【総合】

「通院や受付、診察待ち、会計までの時間がかからない」が 89.9%と1位になっている。

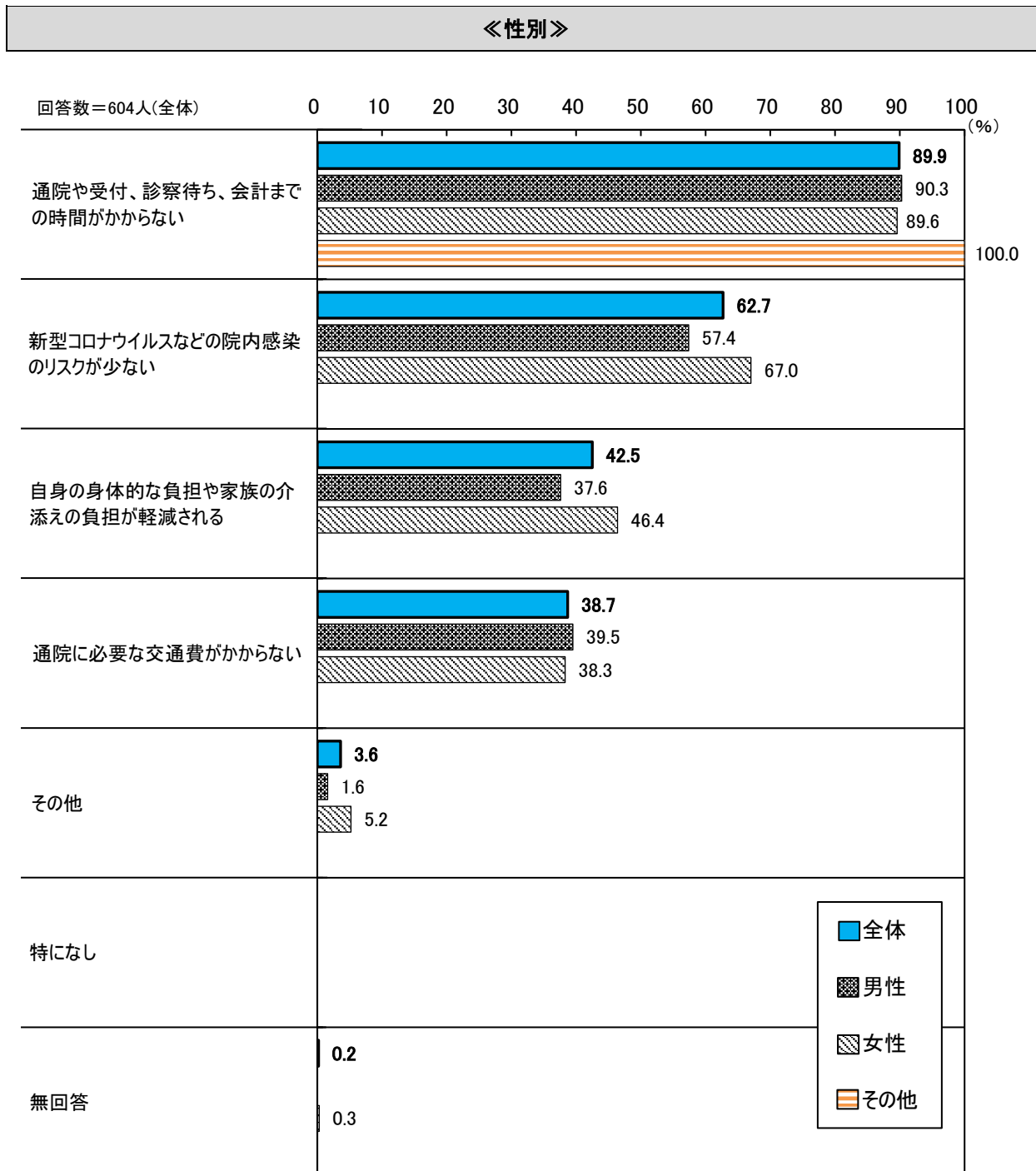
次いで、「新型コロナウイルスなどの院内感染のリスクが少ない」が 62.7%、「自身の身体的な負担や家族の介添えの負担が軽減される」が 42.5%と続いている。

《総合》		
		回答数
全体	100.0	604 人
通院や受付、診察待ち、会計までの時間がかからない	89.9	543 人
新型コロナウイルスなどの院内感染のリスクが少ない	62.7	379 人
自身の身体的な負担や家族の介添えの負担が軽減される	42.5	257 人
通院に必要な交通費がかからない	38.7	234 人
その他	3.6	22 人
特になし		0 人
無回答	0.2	1 人

グラフ単位(%)

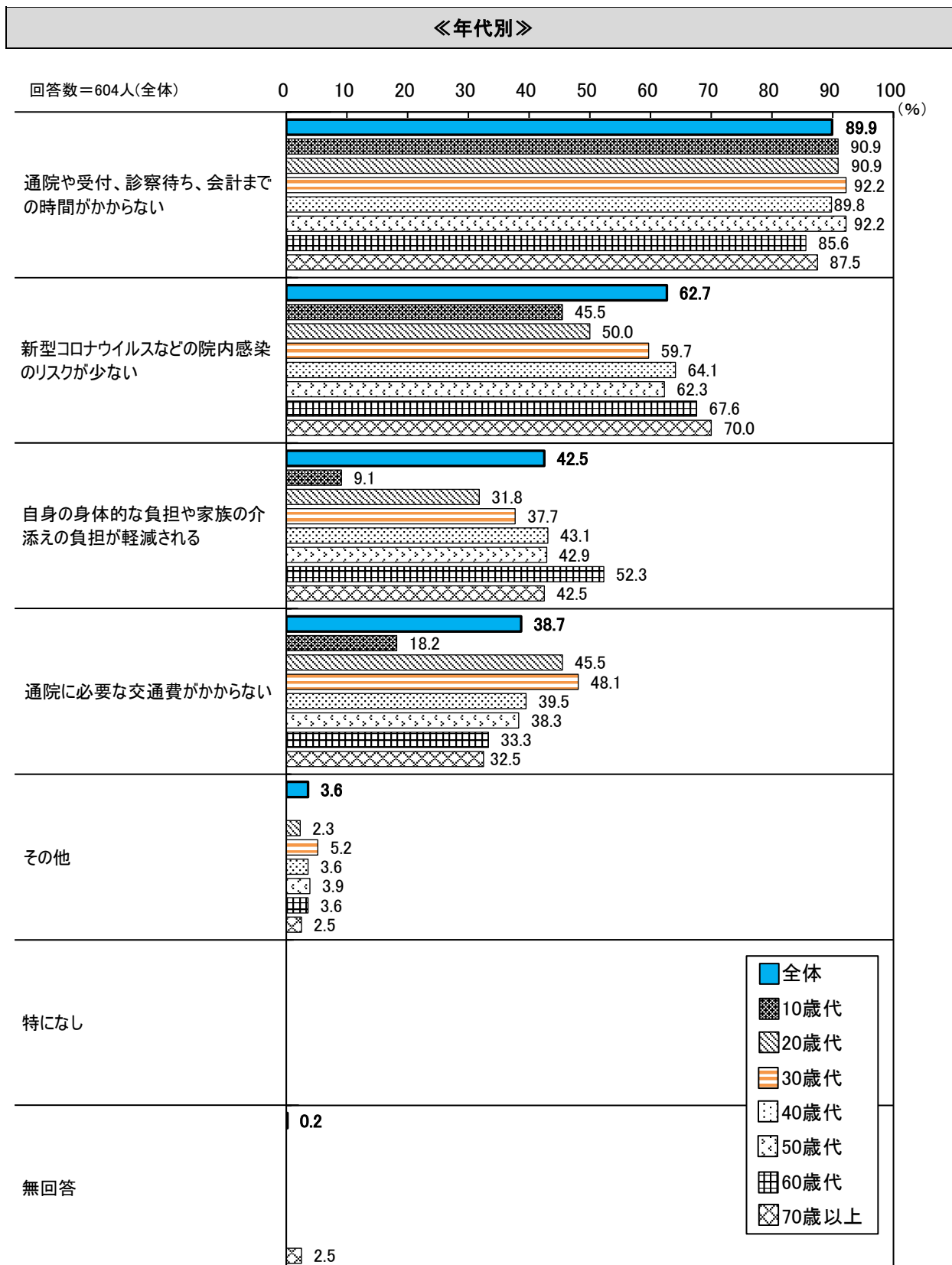
【性別】

男女ともに「通院や受付、診察待ち、会計までの時間がかからない」が最も高くなっている。
 また、「新型コロナウイルスなどの院内感染のリスクが少ない」では、女性の方が男性より9.6ポイント高くなっている。



【年代別】

すべての年代で「通院や受付、診察待ち、会計までの時間がかからない」が最も高くなっている。また、40歳代を除き、年代が上がるほど「新型コロナウイルスなどの院内感染のリスクが少ない」が高くなる傾向がみられる。



副問2 (問 29 で「1」を選んだ方のみお答えください。)

あなたはどのような場所でオンライン診療を利用したいですか。(当てはまるものすべてに○印)

【総合】

「自宅」が97.4%と1位になっている。

次いで、「職場」が13.6%、「公民館、集会所」が5.5%と続いている。

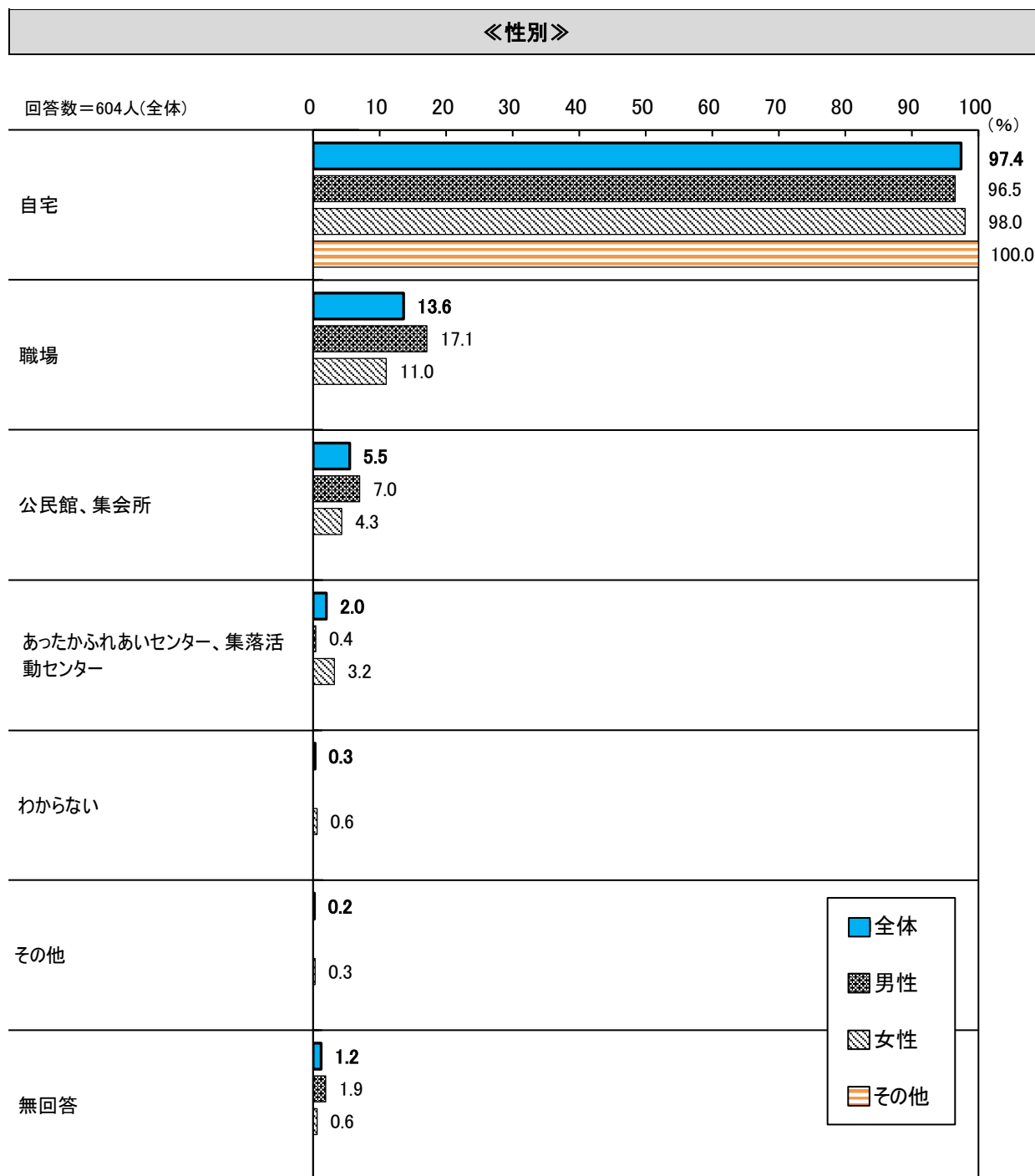
《総合》

		回答数
全体	100.0	604 人
自宅	97.4	588 人
職場	13.6	82 人
公民館、集会所	5.5	33 人
あったかふれあいセンター、集落活動センター	2.0	12 人
わからない	0.3	2 人
その他	0.2	1 人
無回答	1.2	7 人

グラフ単位(%)

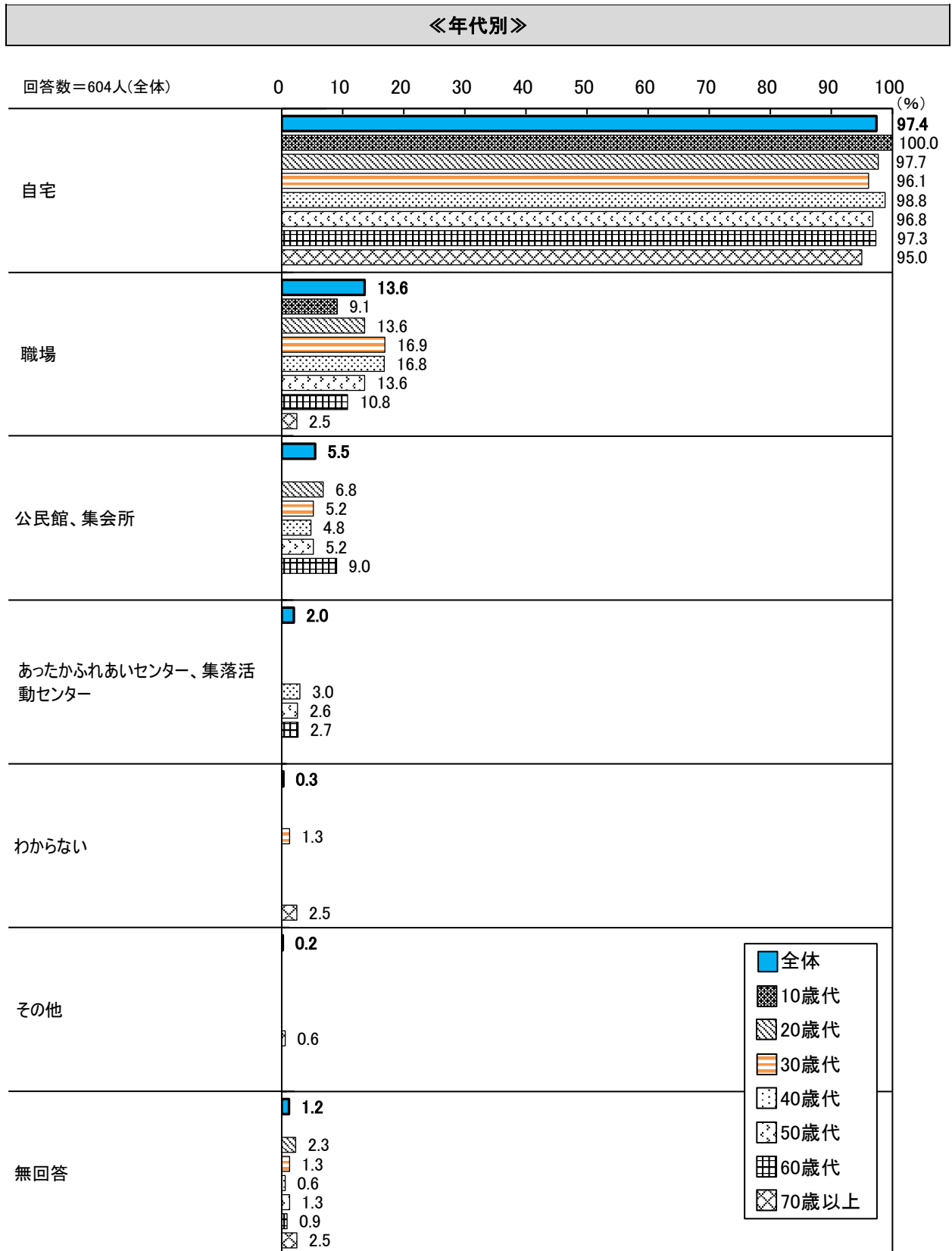
【性別】

男女ともに「自宅」が最も高くなっている。



【年代別】

すべての年代で「自宅」が最も高くなっている。



副問3 (問 29 で「2」を選んだ方のみお答えください。)

あなたがオンライン診療を利用したくないと思う理由は何ですか。(当てはまるものすべてに○印)

【総合】

「直接対面で医師に診察してほしい」が78.4%と1位になっている。

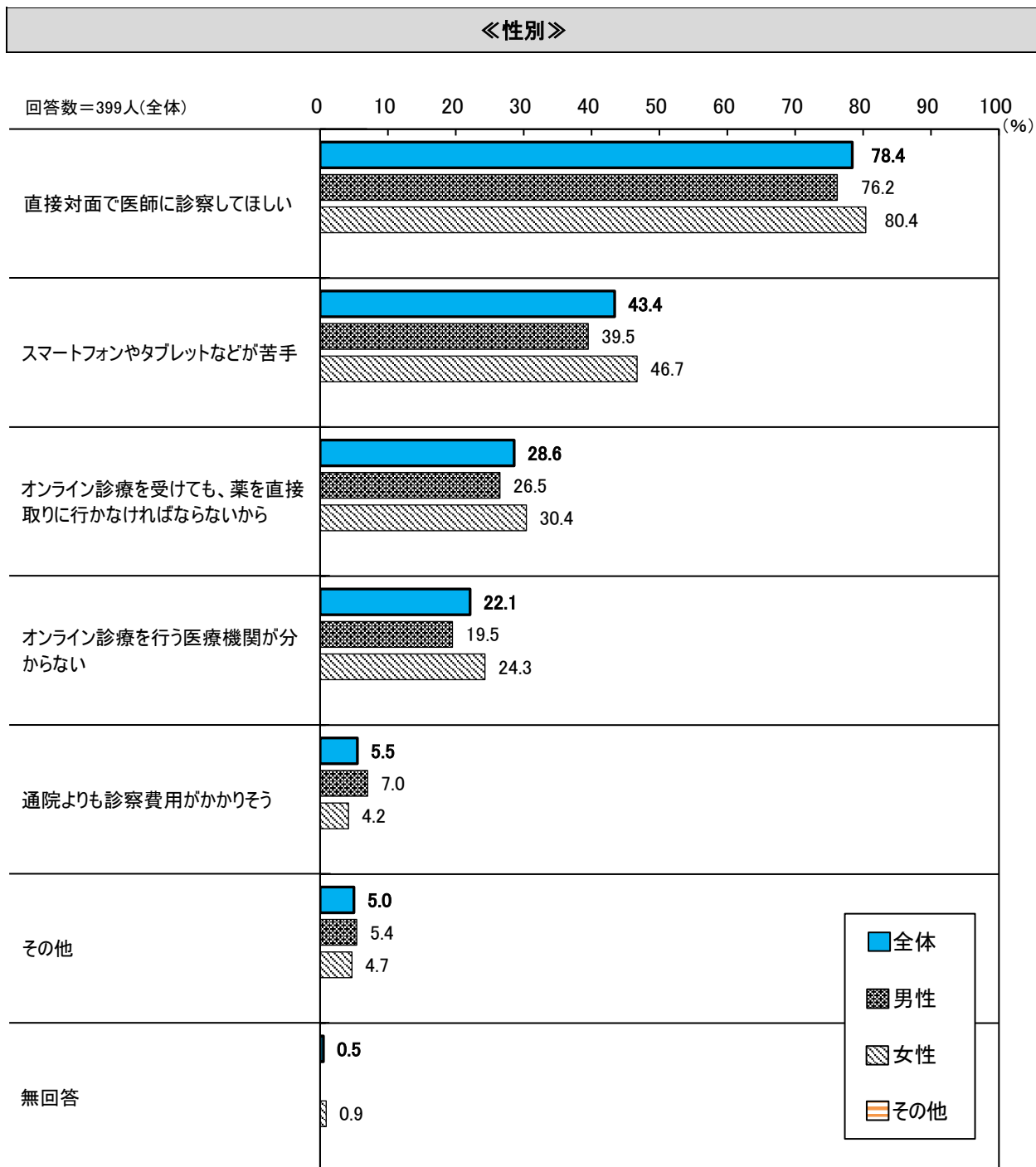
次いで、「スマートフォンやタブレットなどが苦手」が43.4%、「オンライン診療を受けても、薬を直接取りに行かなければならないから」が28.6%と続いている。

《総合》		回答数
全体	100.0	399 人
直接対面で医師に診察してほしい	78.4	313 人
スマートフォンやタブレットなどが苦手	43.4	173 人
オンライン診療を受けても、薬を直接取りに行かなければならないから	28.6	114 人
オンライン診療を行う医療機関が分からない	22.1	88 人
通院よりも診察費用がかかりそう	5.5	22 人
その他	5.0	20 人
無回答	0.5	2 人

グラフ単位(%)

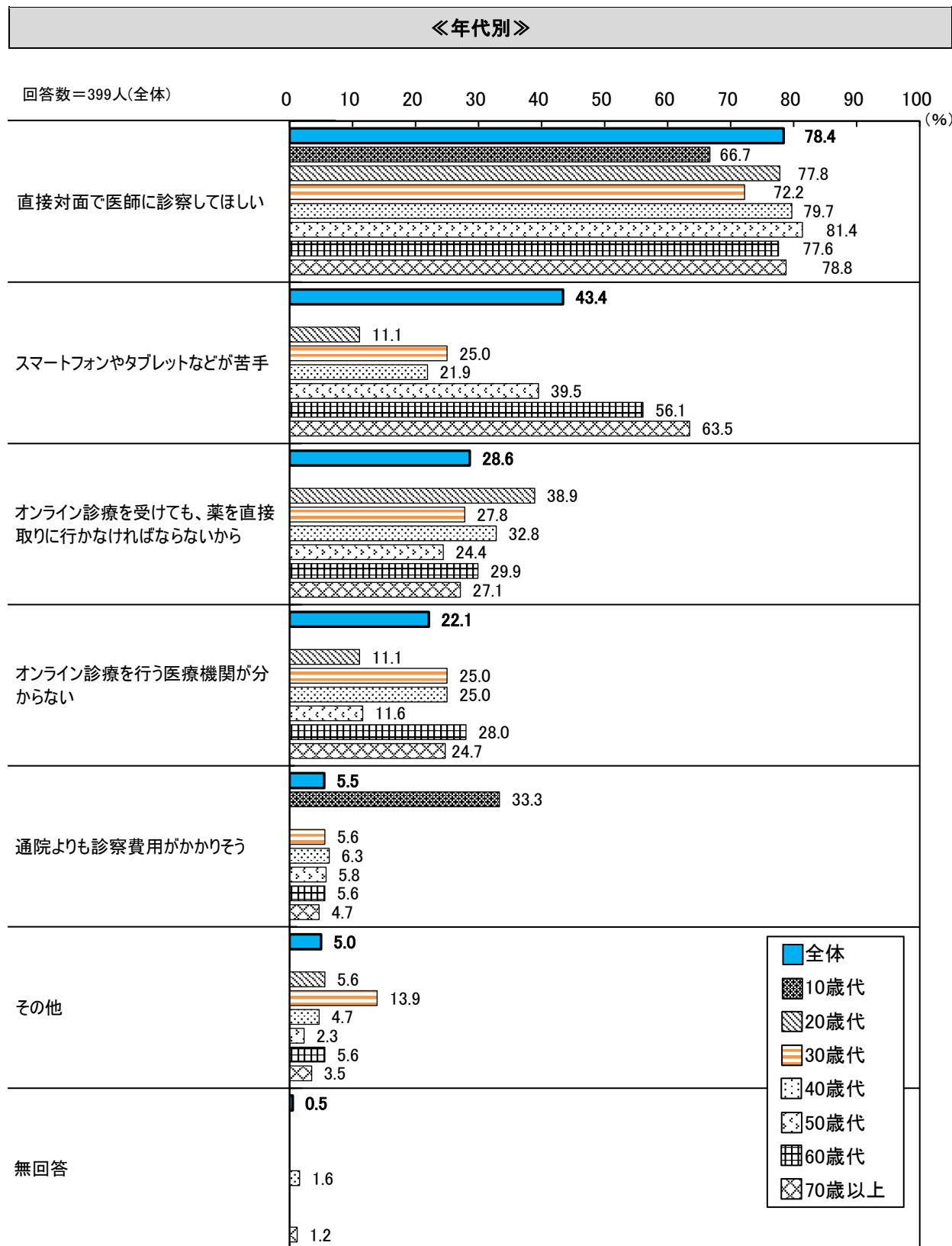
【性別】

男女ともに「直接対面で医師に診察してほしい」が最も高くなっている。また、「スマートフォンやタブレットなどが苦手」では、女性の方が男性より7.2ポイント高くなっている。



【年代別】

すべての年代で「直接対面で医師に診察してほしい」が最も高くなっている。



7. ヤングケアラーについて

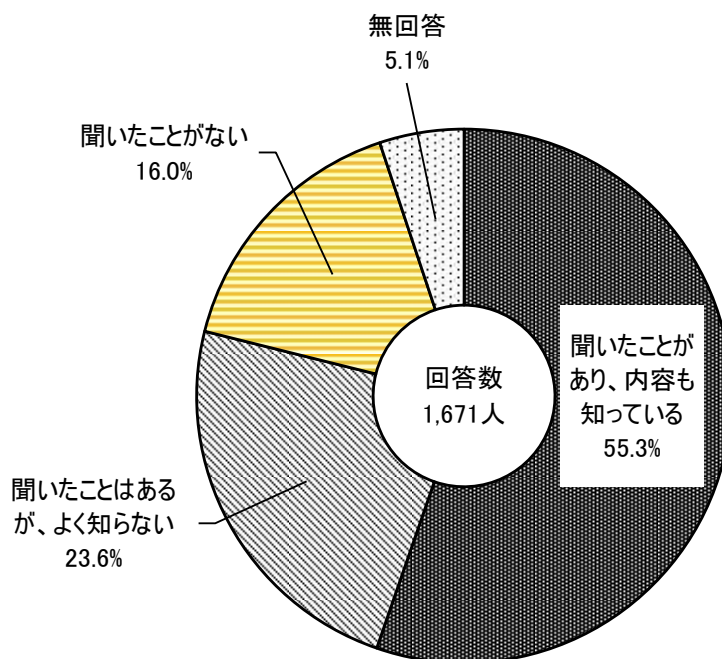
問 30 「ヤングケアラー」という言葉をこれまでに聞いたことがありましたか。(1つだけ○印)

【総合】

「聞いたことがあり、内容も知っている」が55.3%と1位になっている。

次いで、「聞いたことはあるが、よく知らない」が23.6%、「聞いたことがない」が16.0%となっている。

《総合》

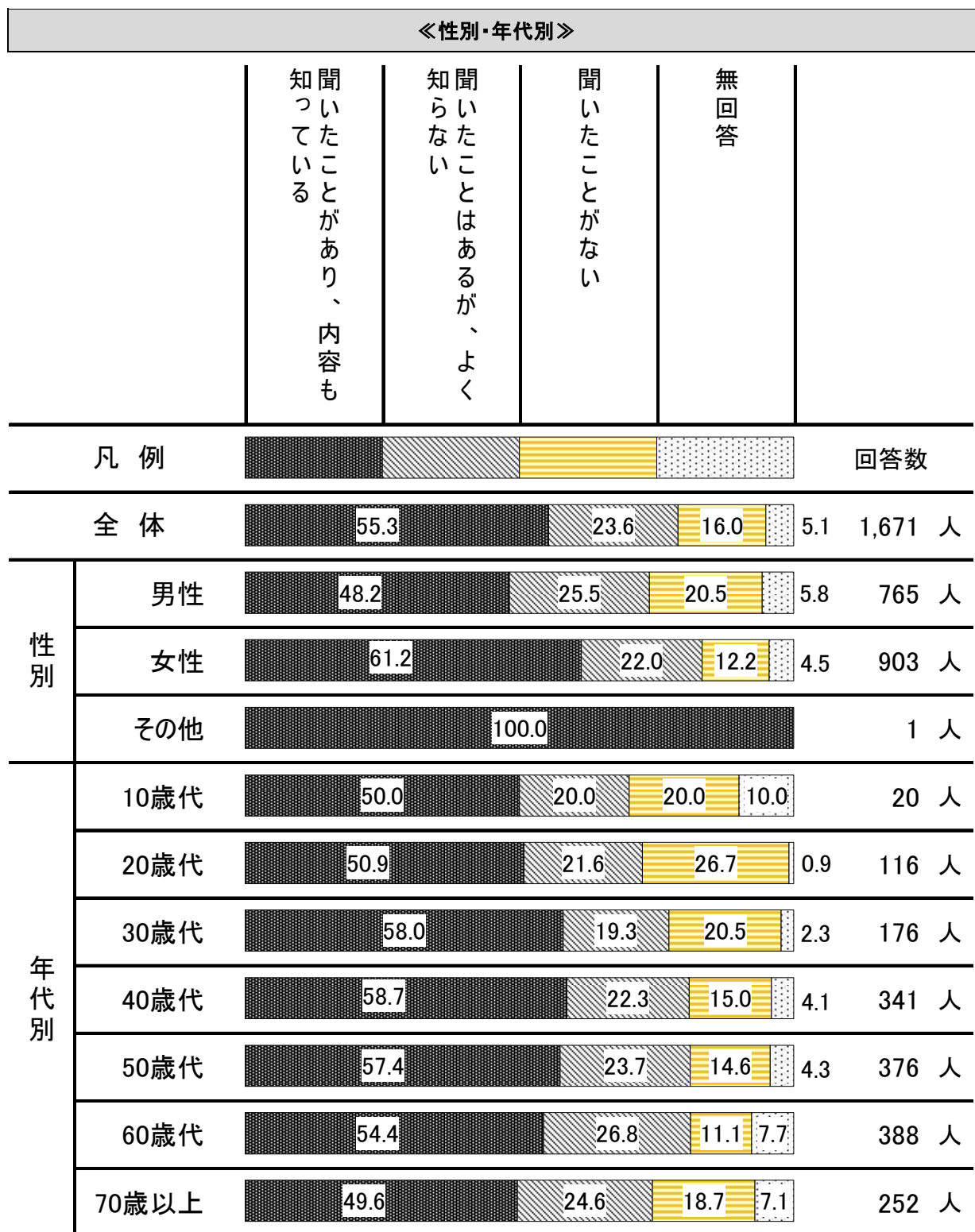


【性別】

男女ともに「聞いたことがあり、内容も知っている」が最も高くなっており、女性の方が男性よりも13ポイント高くなっている。

【年代別】

すべての年代で「聞いたことがあり、内容も知っている」が最も高くなっている。



グラフ単位(%)

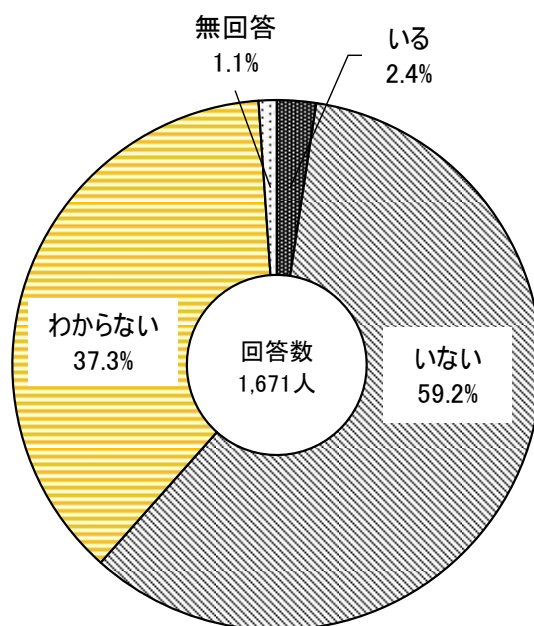
問 31 「ヤングケアラー」と思われる子どもが身近(家族・親戚、地域など)にいますか。(1つだけ○印)

【総合】

「いない」が59.2%と1位になっている。

次いで、「わからない」が37.3%、「いる」が2.4%となっている。

《総合》

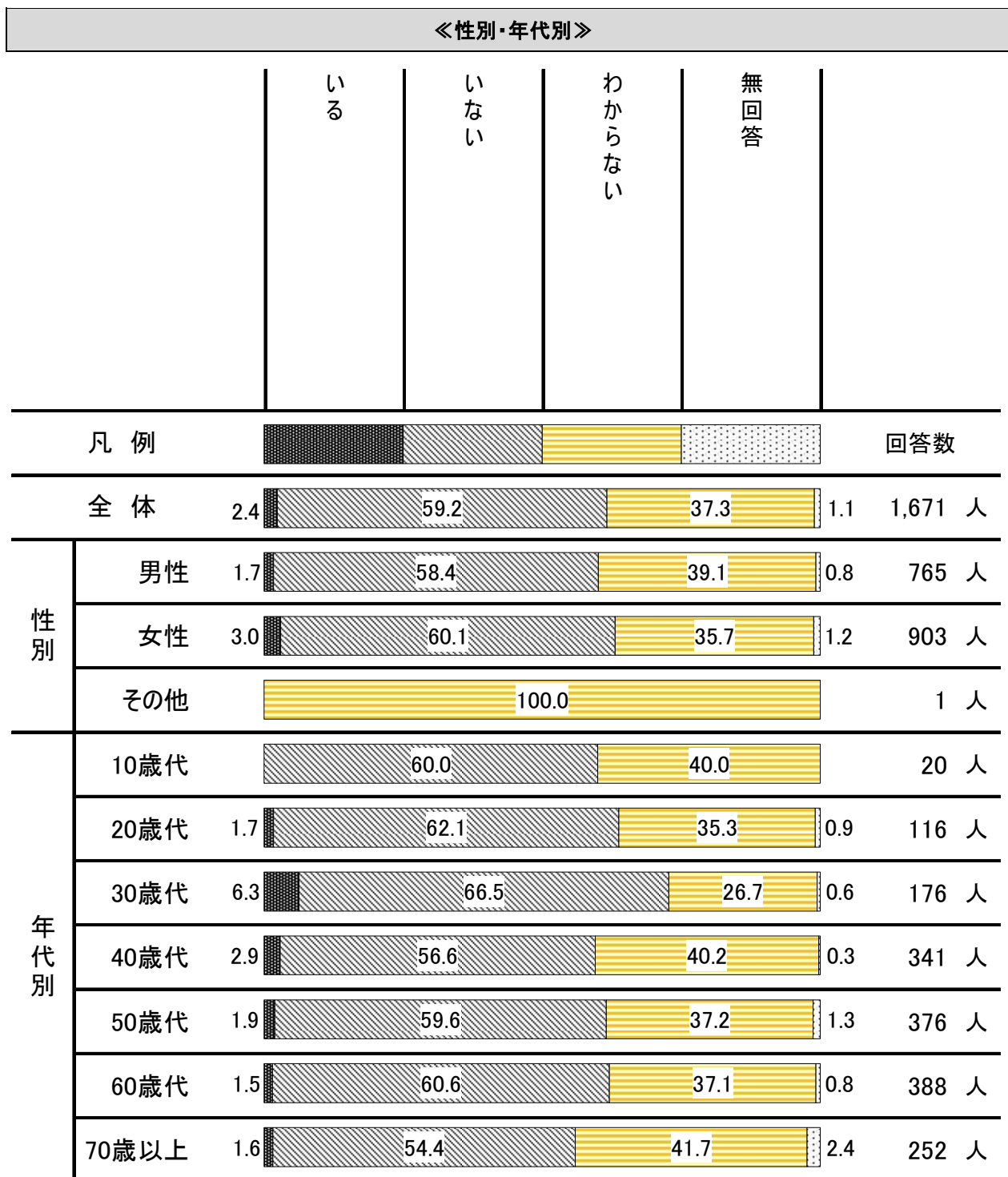


【性別】

男女ともに「いない」が最も高くなっている。

【年代別】

すべての年代で「いない」が最も高くなっている。



グラフ単位(%)

副問1 (問 31 で「1」を選んだ方のみお答えください。)

その子どもをどこで知りましたか。(当てはまるものすべてに○印)

【総合】

「自分の仕事や所属(学校、職場等)の中で知った」が47.5%と1位になっている。

次いで、「家族、親戚にいる」が30.0%、同率で「近隣住民であり、関わりを持つ中で知った」と「友人・知人関係等のつながりの中で知った」が10.0%と続いている。

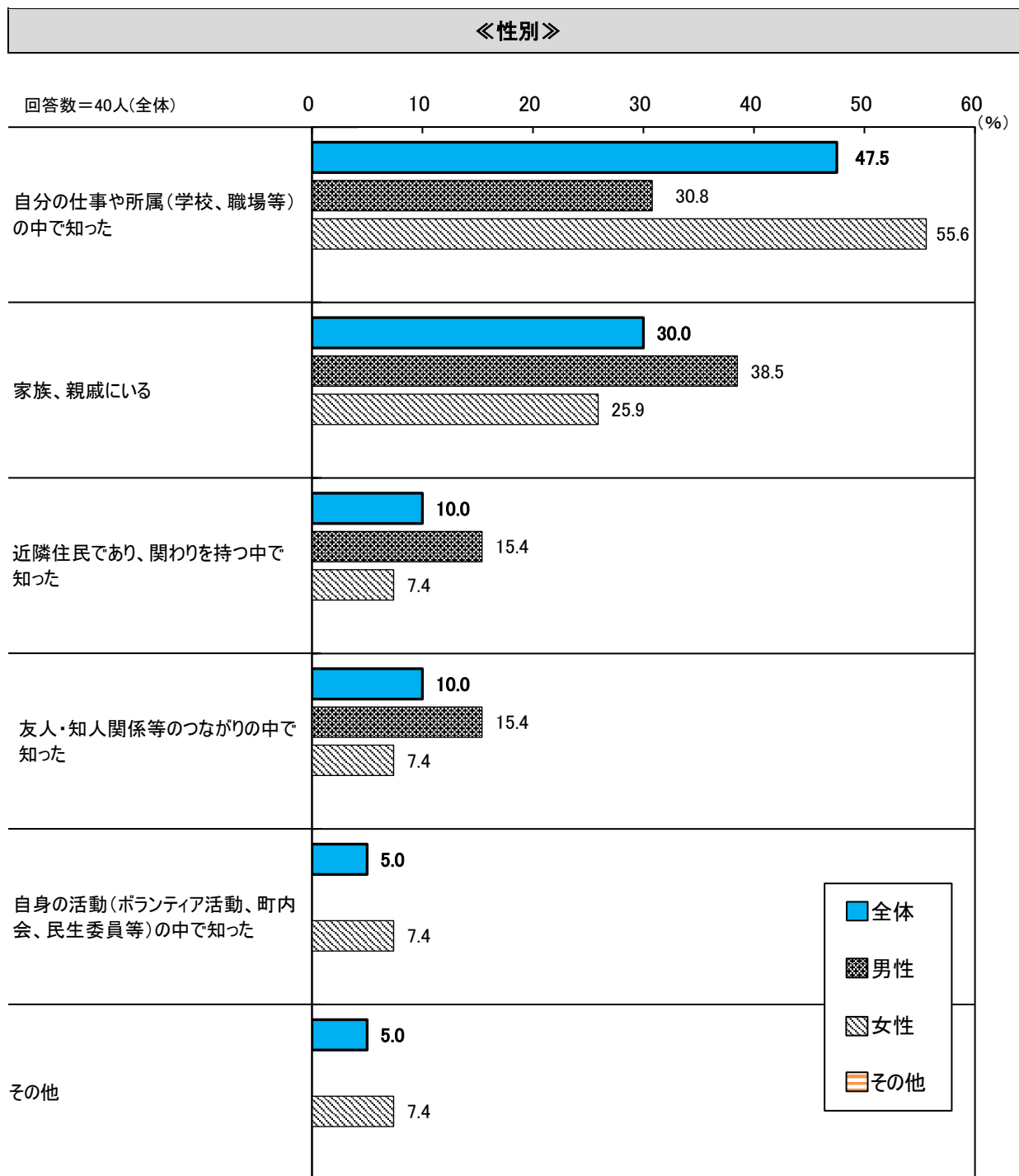
《総合》

		回答数
全体	100.0	40 人
自分の仕事や所属(学校、職場等)の中で知った	47.5	19 人
家族、親戚にいる	30.0	12 人
近隣住民であり、関わりを持つ中で知った	10.0	4 人
友人・知人関係等のつながりの中で知った	10.0	4 人
自身の活動(ボランティア活動、町内会、民生委員等)の中で知った	5.0	2 人
その他	5.0	2 人

グラフ単位(%)

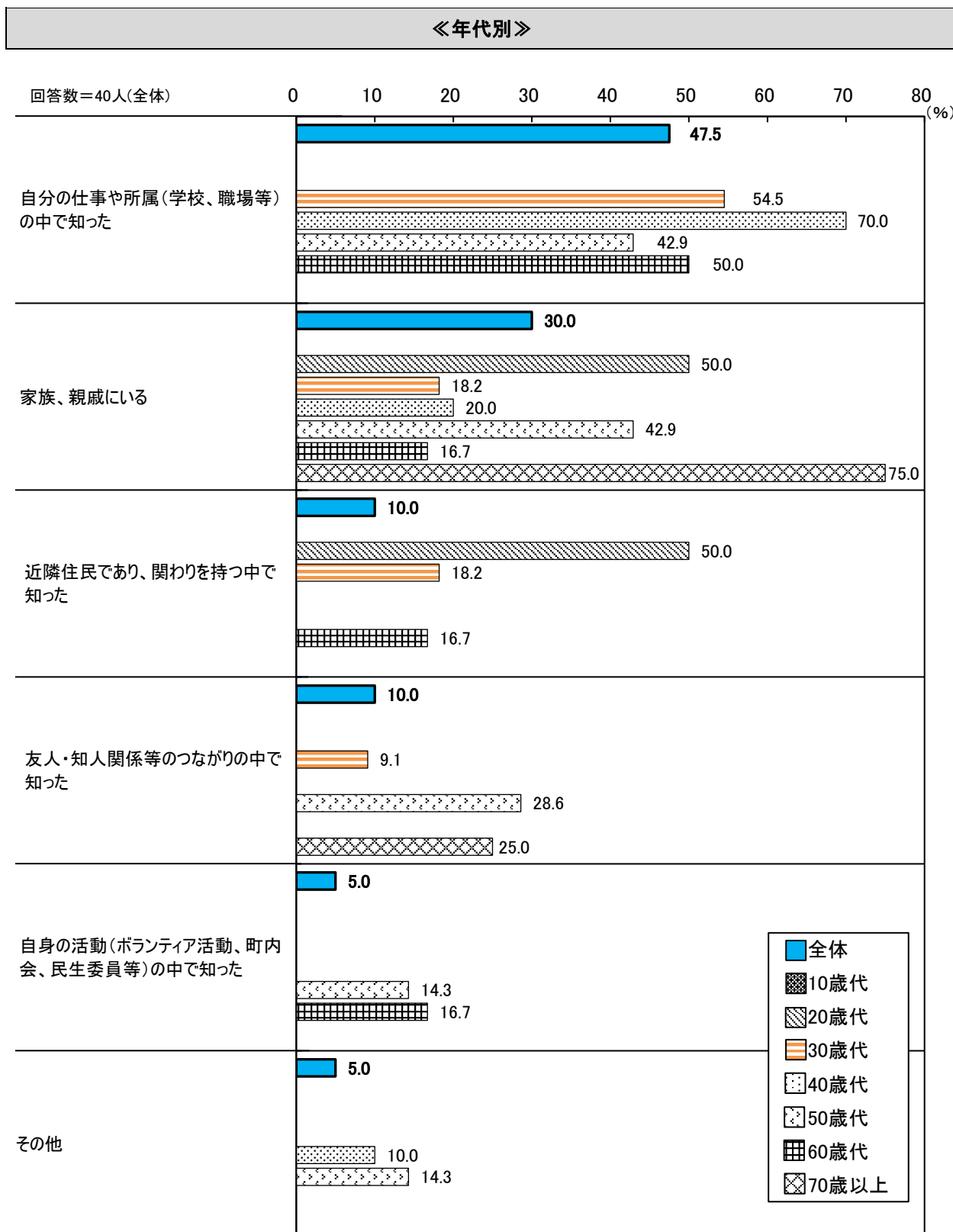
【性別】

男性では「家族、親戚にいる」が最も高く、女性では「自分の仕事や所属（学校、職場等）の中で知った」が最も高くなっている。



【年代別】

20歳代では同率で「家族、親戚にいる」と「近隣住民であり、関わりを持つ中で知った」が最も高く、50歳代では同率で「自分の仕事や所属（学校、職場等）の中で知った」と「家族、親戚にいる」が、30歳代、40歳代、60歳代では「自分の仕事や所属（学校、職場等）の中で知った」が、70歳以上では「家族、親戚にいる」が最も高くなっている。

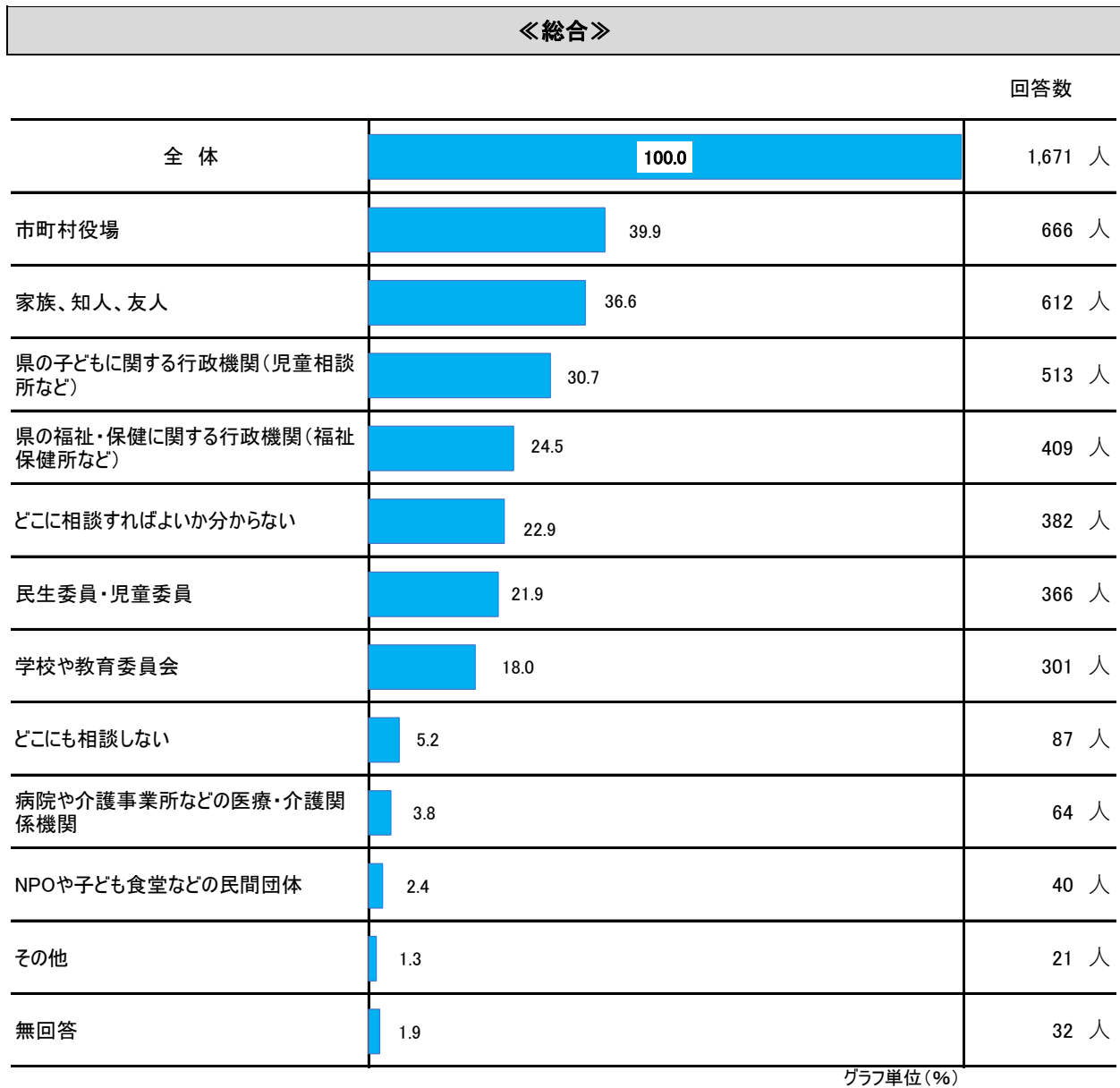


問 32 身近に「ヤングケアラー」と思われる子どもがいた場合、まずどこに相談しますか。
 (当てはまるものすべてに○印)

【総合】

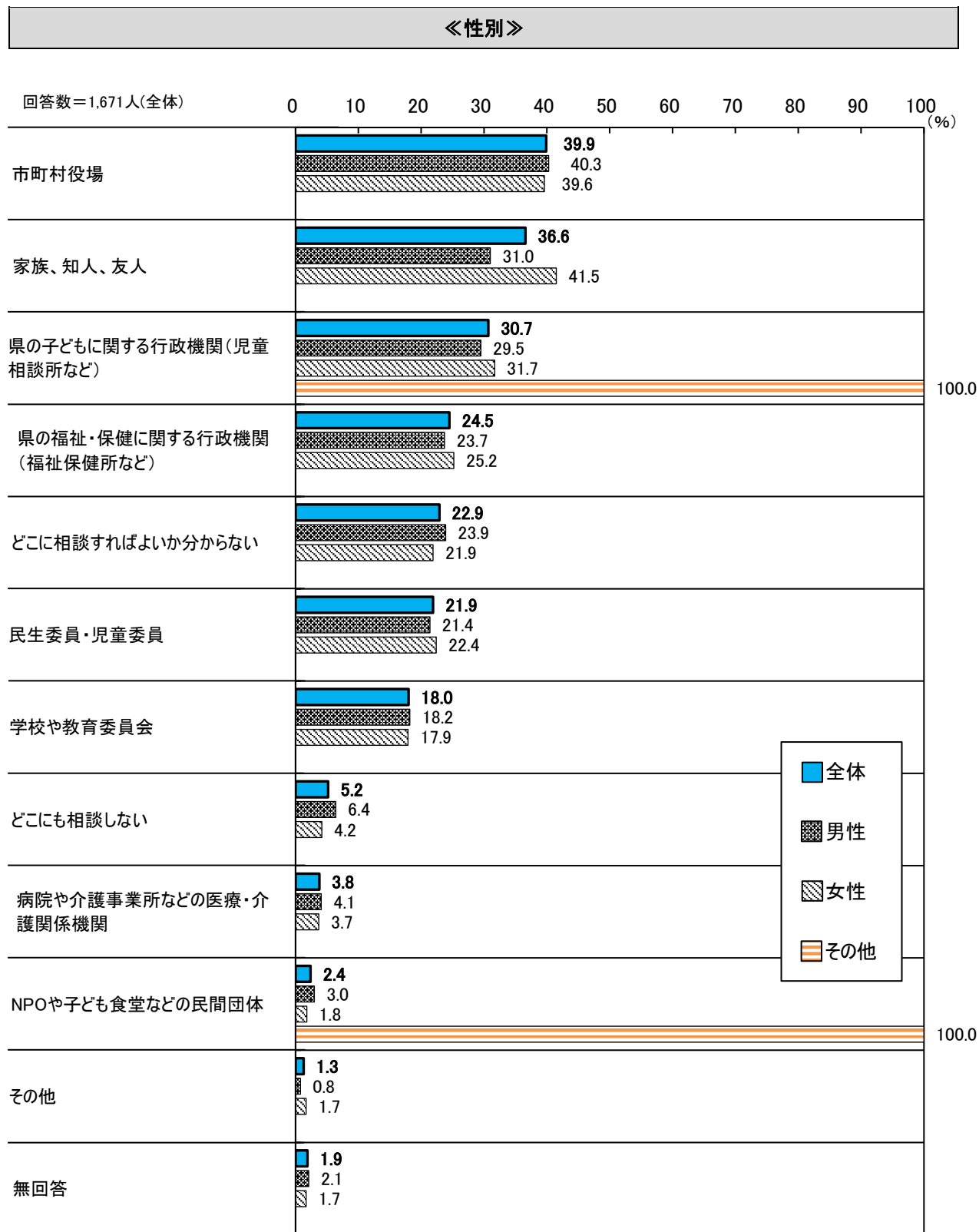
「市町村役場」が 39.9%と 1 位になっている。

次いで、「家族、知人、友人」が 36.6%、「県の子どもに関する行政機関（児童相談所など）」が 30.7%と続いている。



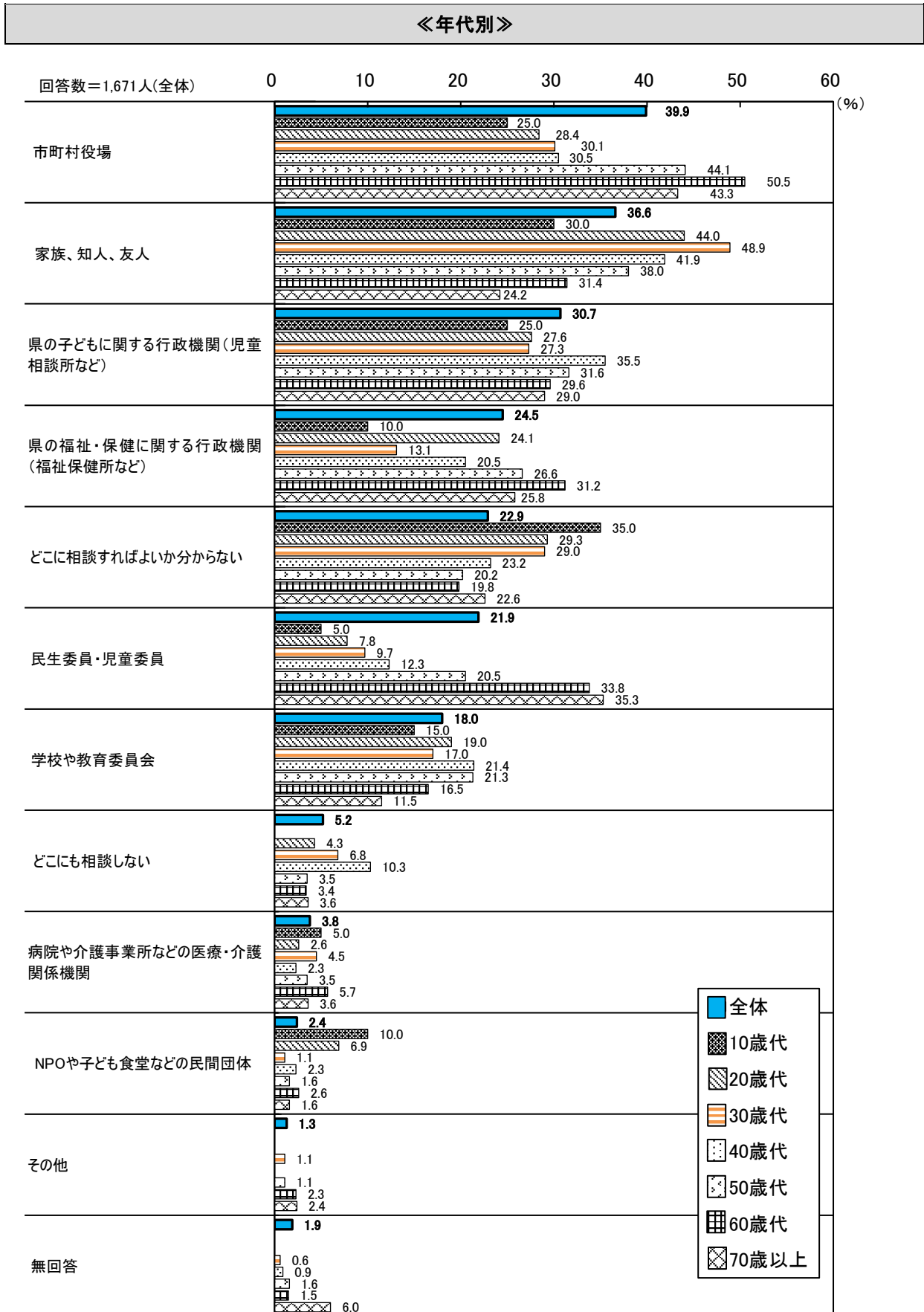
【性別】

男性では「市町村役場」が最も高く、女性では「家族、知人、友人」が最も高くなっている。



【年代別】

10歳代では「どこに相談すればよいか分からない」が最も高く、20歳代、30歳代、40歳代では「家族、知人、友人」が、50歳代、60歳代、70歳以上では「市町村役場」が最も高くなっている。



【問 30×問 32 のクロス分析】

「「ヤングケアラー」という言葉をこれまでに聞いたことがありましたか。」という質問に対し、「身近に「ヤングケアラー」と思われる子どもがいた場合、まずどこに相談しますか。」の結果を見ると、「聞いたことがあり、内容も知っている」と回答した人では「市町村役場」が最も高く、「聞いたことはあるが、よく知らない」と回答した人では同率で「家族、知人、友人」と「市町村役場」が、「聞いたことがない」と回答した人では「家族、知人、友人」が最も高くなっている。

《問 30×問 32 のクロス分析》

		相談先												
		全体	家族、知人、友人	市町村役場	県の子どもに関する行政機関 (児童相談所など)	県の福祉・保健に関する行政機関 (福祉保健所など)	学校や教育委員会	病院や介護事業所などの医療・介護関係機関	民生委員・児童委員	NPOや子ども食堂などの民間団体	どこに相談すればよいか分からない	どこにも相談しない	その他	無回答
【表の見方】 上段=回答数(人) 下段=比率(%)														
全体		1,671	612 36.6	666 39.9	513 30.7	409 24.5	301 18.0	64 3.8	366 21.9	40 2.4	382 22.9	87 5.2	21 1.3	32 1.9
ヤングケアラーの認知度	聞いたことがあり、内容も知っている	924	39.0	44.4	33.7	28.9	21.1	5.0	23.3	2.5	20.2	4.5	1.5	0.3
	聞いたことはあるが、よく知らない	394	35.0	35.0	29.2	21.8	16.5	3.0	23.9	2.0	27.7	6.9	0.5	2.3
	聞いたことがない	267	34.8	30.7	24.3	14.6	9.0	1.9	13.1	1.9	25.1	6.0	1.5	5.6

【問 31×問 32 のクロス分析】

「「ヤングケアラー」と思われる子どもが身近（家族・親戚、地域など）にいますか。」という質問に対し、「身近に「ヤングケアラー」と思われる子どもがいた場合、まずどこに相談しますか。」の結果を見ると、「いる」と回答した人では「県の福祉・保健に関する行政機関（福祉保健所など）」が最も高く、「いない」、「わからない」と回答した人では「市町村役場」が最も高くなっている。

《問 31×問 32 のクロス分析》

		相談先												
		全体	家族、知人、友人	市町村役場	県の子どもに関する行政機関 (児童相談所など)	県の福祉・保健に関する行政機関 (福祉保健所など)	学校や教育委員会	病院や介護事業所などの医療・介護関係機関	民生委員・児童委員	NPOや子ども食堂などの民間団体	どこに相談すればよいか分からない	どこにも相談しない	その他	無回答
【表の見方】 上段=回答数(人) 下段=比率(%)														
全体		1,671	612 36.6	666 39.9	513 30.7	409 24.5	301 18.0	64 3.8	366 21.9	40 2.4	382 22.9	87 5.2	21 1.3	32 1.9
ヤングケアラーの把握	いる	40	35.0	30.0	32.5	37.5	25.0	10.0	17.5	2.5	10.0	10.0	-	-
	いない	990	38.4	42.4	33.2	26.4	18.9	3.2	21.9	2.2	22.1	4.7	0.9	1.1
	わからない	623	34.7	37.2	27.3	21.3	16.7	4.5	22.5	2.7	25.0	5.8	1.9	1.6

副問1 (問 32 で「10」を選んだ方のみお答えください。)

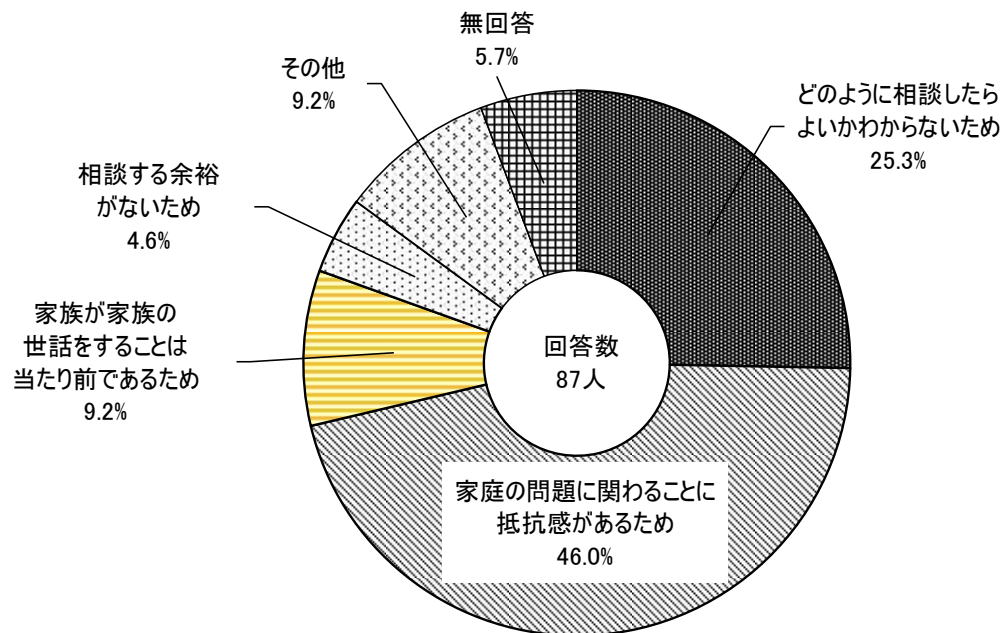
その理由としてもっともあてはまるものをお答えください。(最も当てはまるもの1つに○印)

【総合】

「家庭の問題に関わることに抵抗感があるため」が46.0%と1位になっている。

次いで、「どのように相談したらよいかわからないため」が25.3%、「家族が家族の世話をすることは当たり前であるため」が9.2%と続いている。

《総合》

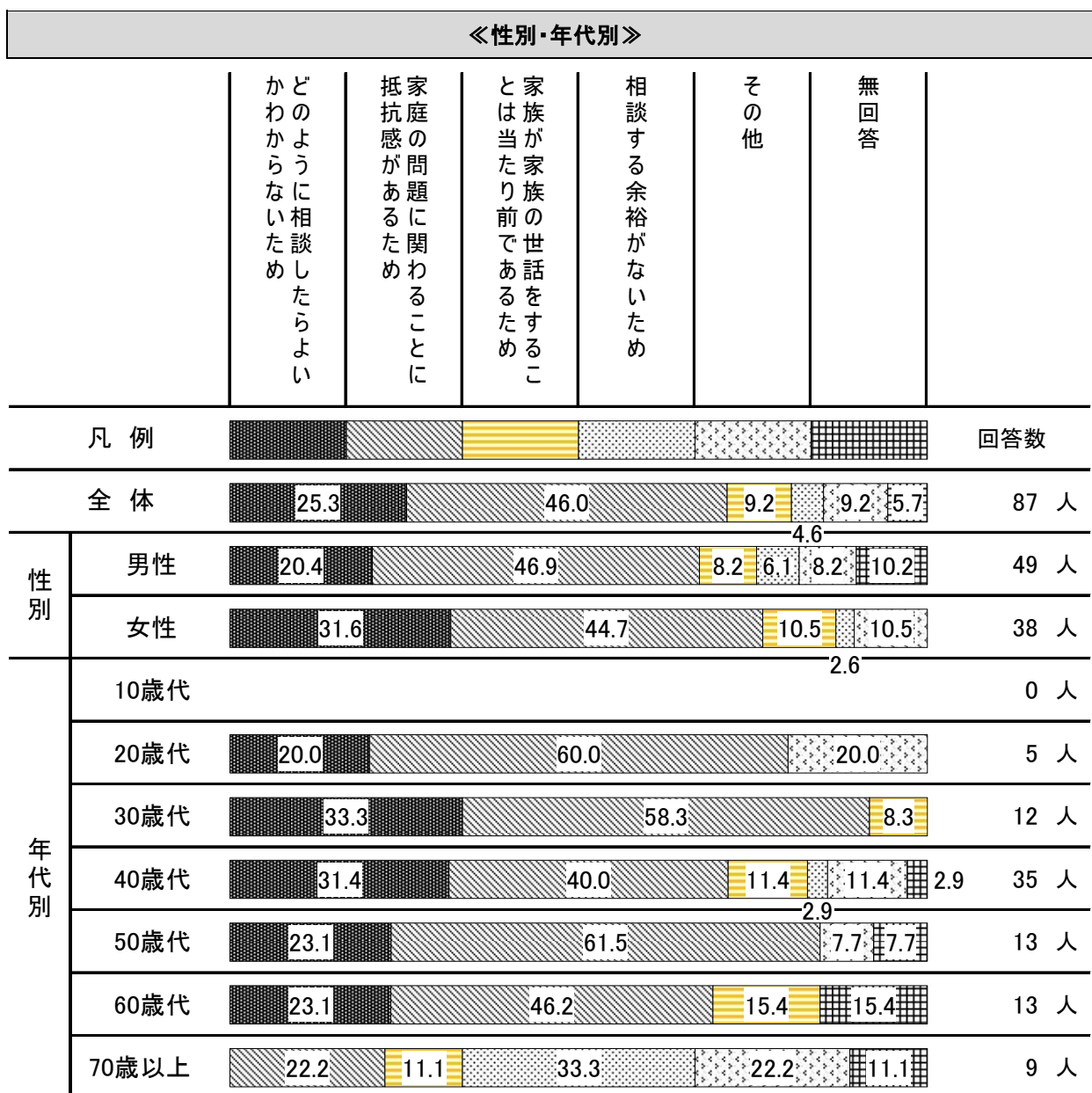


【性別】

男女ともに「家庭の問題に関わることに抵抗感があるため」が最も高くなっている。また、「どのように相談したらよいかわからないため」では、女性の方が男性より 11.2 ポイント高くなっている。

【年代別】

70 歳以上では「相談する余裕がないため」が最も高く、その他の年代では「家庭の問題に関わることに抵抗感があるため」が最も高くなっている。



グラフ単位(%)

問 33 「ヤングケアラー」と思われる子どもがいる場合、どのような仕組みや取組があると相談しやすい環境づくりにつながると思いますか。(当てはまるものすべてに○印)

【総合】

「ヤングケアラー」専用の相談窓口があること」が 57.6%と 1 位になっている。

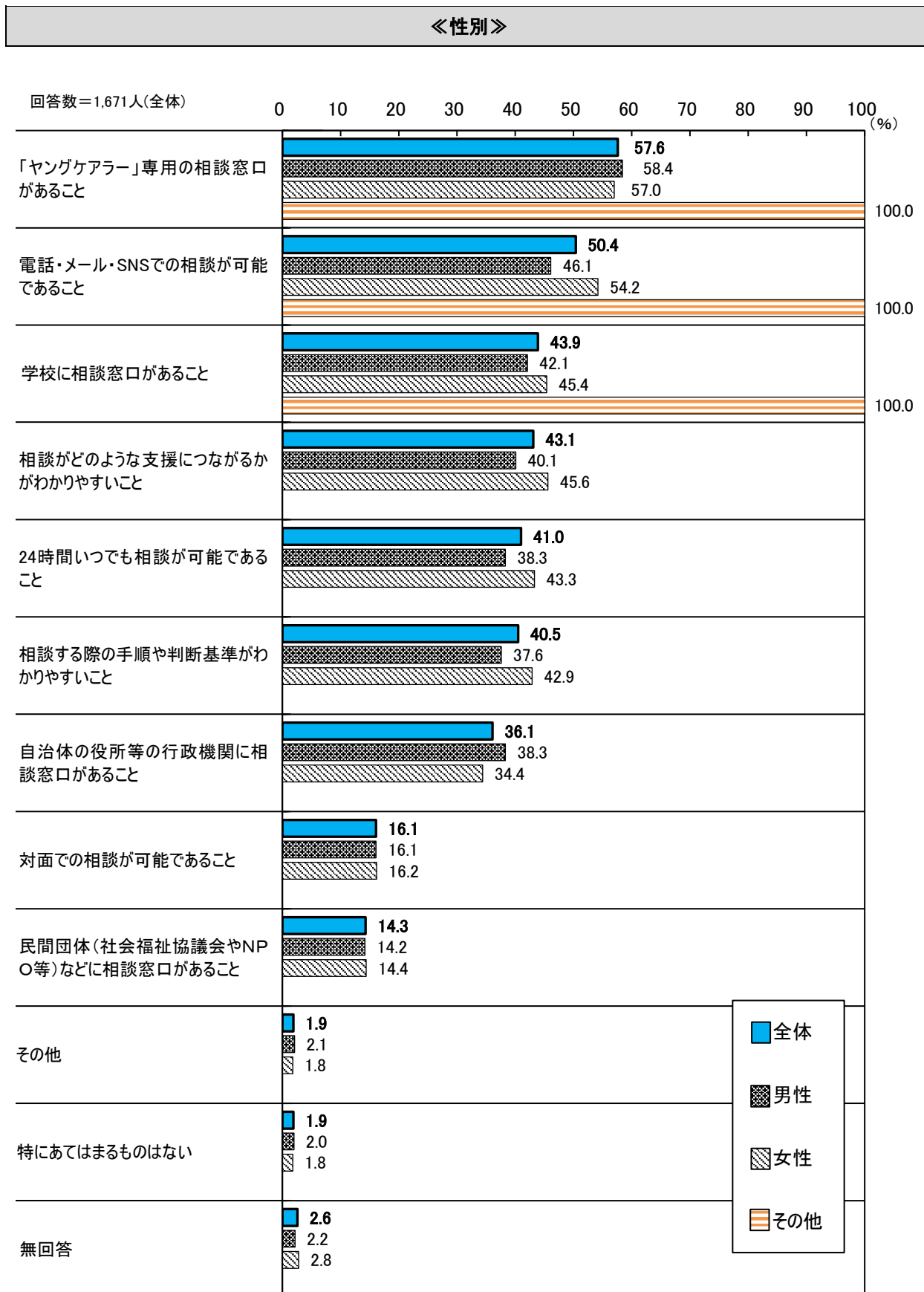
次いで、「電話・メール・SNS での相談が可能であること」が 50.4%、「学校に相談窓口があること」が 43.9%と続いている。

《総合》		
		回答数
全体	100.0	1,671 人
「ヤングケアラー」専用の相談窓口があること	57.6	963 人
電話・メール・SNSでの相談が可能であること	50.4	843 人
学校に相談窓口があること	43.9	734 人
相談がどのような支援につながるかがわかりやすいこと	43.1	720 人
24時間いつでも相談が可能であること	41.0	685 人
相談する際の手順や判断基準がわかりやすいこと	40.5	676 人
自治体の役所等の行政機関に相談窓口があること	36.1	604 人
対面での相談が可能であること	16.1	269 人
民間団体(社会福祉協議会やNPO等)などに相談窓口があること	14.3	239 人
その他	1.9	32 人
特にあてはまるものはない	1.9	31 人
無回答	2.6	43 人

グラフ単位(%)

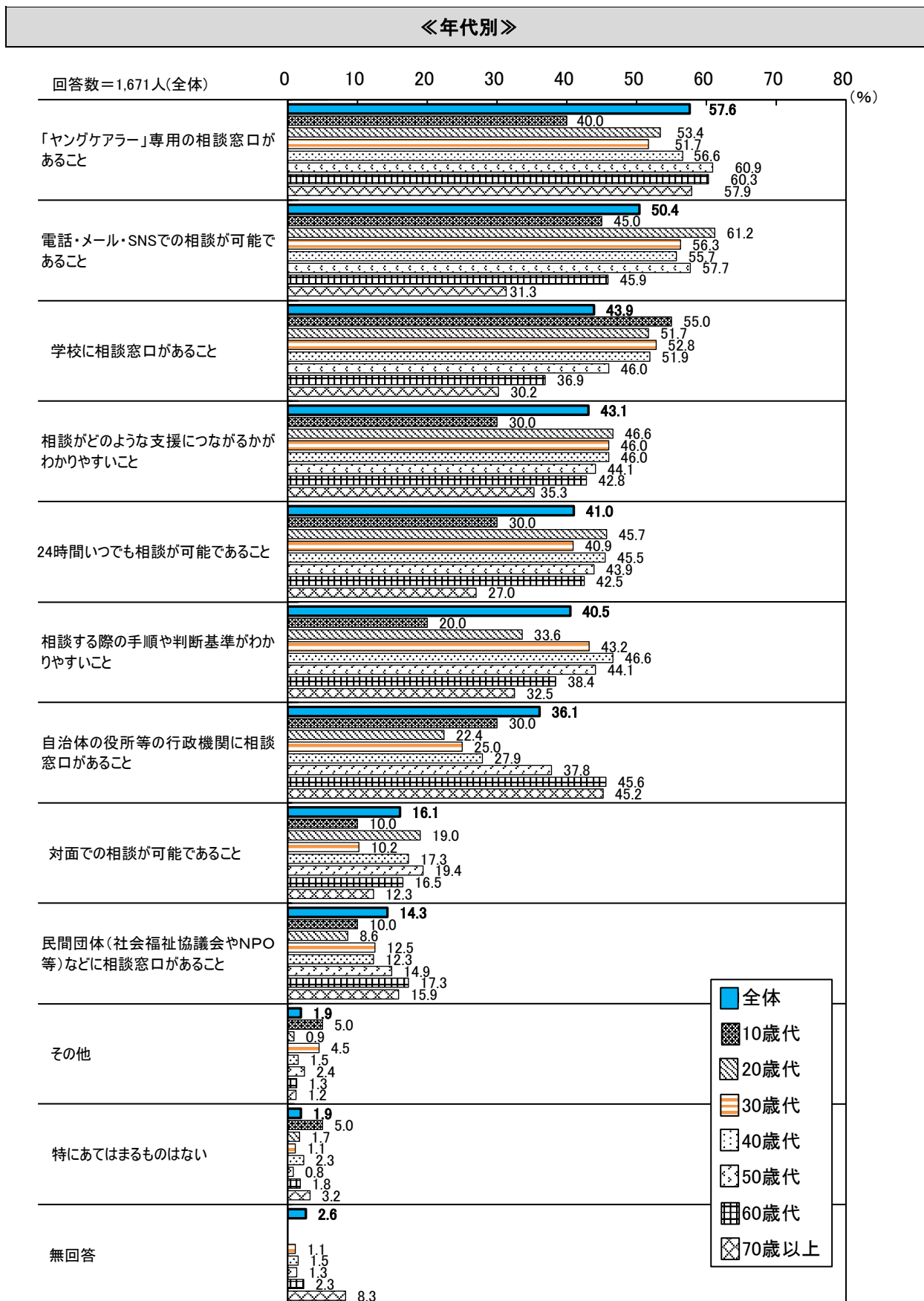
【性別】

男女ともに「ヤングケアラー」専用の相談窓口があること」が最も高くなっている。



【年代別】

10歳代では「学校に相談窓口があること」が最も高く、20歳代、30歳代では「電話・メール・SNSでの相談が可能であること」が、40歳代から70歳以上では「「ヤングケアラー」専用の相談窓口があること」が最も高くなっている。



【問 30×問 33 のクロス分析】

「「ヤングケアラー」という言葉をこれまでに聞いたことがありましたか。」という質問に対し、「「ヤングケアラー」と思われる子どもがいる場合、どのような仕組みや取組があると相談しやすい環境づくりにつながると思いますか。」の結果を見ると、すべての回答で「「ヤングケアラー」専用の相談窓口があること」が最も高くなっている。

<p style="text-align: center;">◀ 問 30×問 33 のクロス分析 ▶</p>													
<p>【表の見方】 上段=回答数(人) 下段=比率(%)</p>	<p style="text-align: center;">相談しやすい環境づくりのための仕組みや取組</p>												
	全体	「ヤングケアラー」専用の相談窓口があること	学校に相談窓口があること	自治体の役所等の行政機関に相談窓口があること	民間団体（社会福祉協議会やNPO等）などに相談窓口があること	対面での相談が可能であること	電話・メール・SNSでの相談が可能であること	24時間いつでも相談が可能であること	相談する際の手順や判断基準がわかりやすいこと	相談がどのような支援につながるかわかりやすいこと	その他	特にあてはまるものはない	無回答
全体	1,671	963 57.6	734 43.9	604 36.1	239 14.3	269 16.1	843 50.4	685 41.0	676 40.5	720 43.1	32 1.9	31 1.9	43 2.6
<p>度 ヤングケアラーの認知</p>	聞いたことがあります、内容も知っている	924 61.1	48.7	37.7	16.1	17.3	59.1	44.9	46.4	50.0	1.5	0.3	0.8
	聞いたことはあるが、よく知らない	394 57.4	42.1	36.5	13.7	13.5	41.9	36.8	36.3	34.8	2.5	2.3	2.8
	聞いたことがない	267 48.7	31.8	30.3	8.6	15.0	37.8	34.8	27.0	32.2	2.2	6.4	6.4

【問 31×問 33 のクロス分析】

「「ヤングケアラー」と思われる子どもが身近（家族・親戚、地域など）にいますか。」という質問に対し、「ヤングケアラー」と思われる子どもがいる場合、どのような仕組みや取組があると相談しやすい環境づくりにつながるとお考えですか。」の結果を見ると、「いる」と回答した人では「電話・メール・SNSでの相談が可能であること」が最も高く、「いない」、「わからない」と回答した人では「「ヤングケアラー」専用の相談窓口があること」が最も高くなっている。

<p style="text-align: center;">◀問 31×問 33 のクロス分析▶</p>													
	<p style="text-align: center;">相談しやすい環境づくりのための仕組みや取組</p>												
	全体	「ヤングケアラー」専用の相談窓口があること	学校に相談窓口があること	自治体の役所等の行政機関に相談窓口があること	民間団体（社会福祉協議会やNPO等）などに相談窓口があること	対面での相談が可能であること	電話・メール・SNSでの相談が可能であること	24時間いつでも相談が可能であること	相談する際の手順や判断基準がわかりやすいこと	相談がどのような支援につながるかわかりやすいこと	その他	特にあてはまるものはない	無回答
<p>【表の見方】 上段=回答数(人) 下段=比率(%)</p>													
全体	1,671	963 57.6	734 43.9	604 36.1	239 14.3	269 16.1	843 50.4	685 41.0	676 40.5	720 43.1	32 1.9	31 1.9	43 2.6
把握 ヤング ケアラー の	いる	40 52.5	47.5	37.5	17.5	30.0	67.5	50.0	45.0	47.5	2.5	2.5	-
	いない	990 60.8	44.4	37.7	14.6	16.7	52.7	42.6	40.8	42.5	1.9	0.8	2.0
	わからない	623 54.1	44.0	34.7	14.0	14.8	46.7	38.7	40.6	44.8	1.9	3.2	1.9

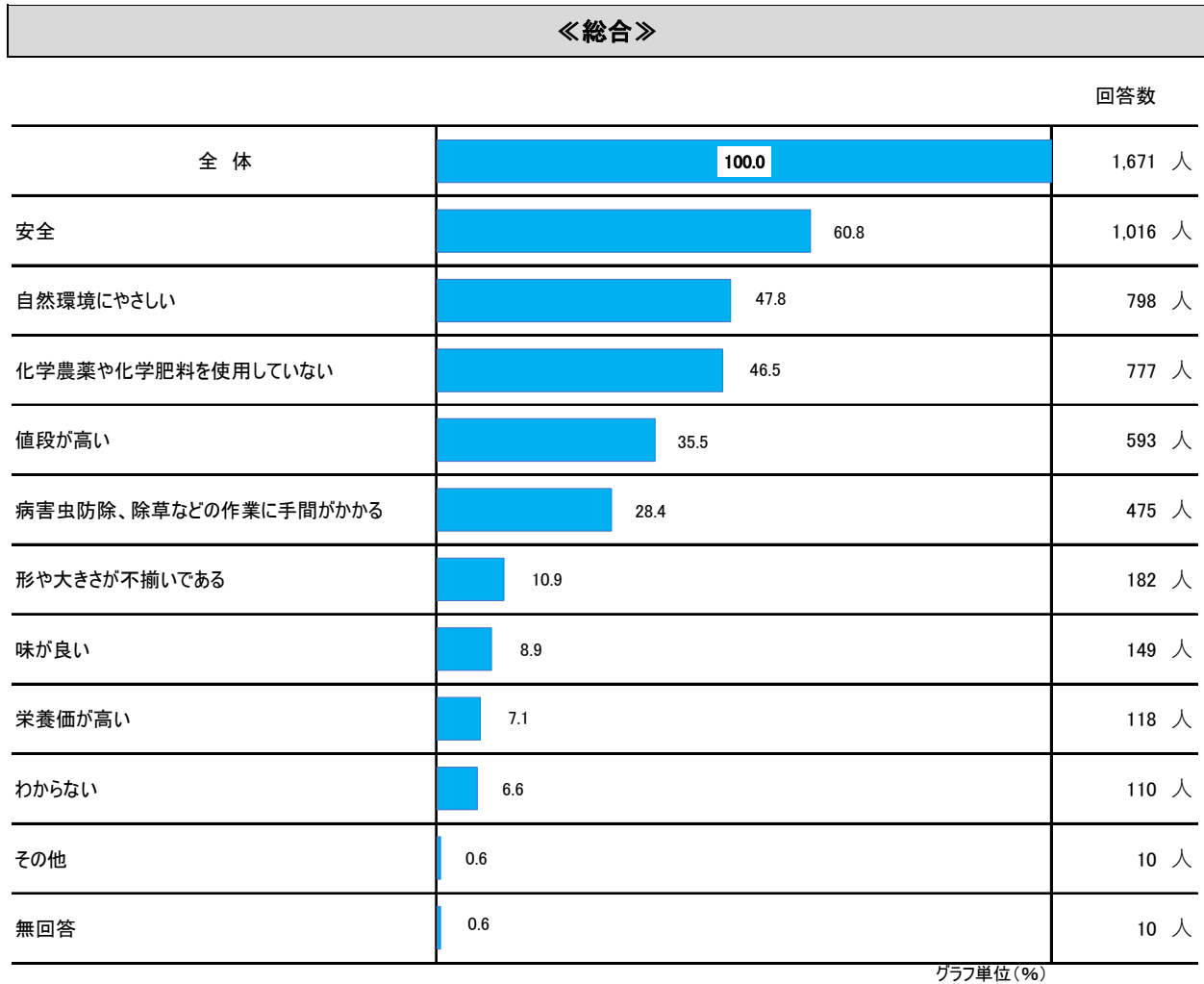
8. 有機農業について

問 34 有機農業、有機農産物に対するイメージはどのようなものですか。(3つまで○印)

【総合】

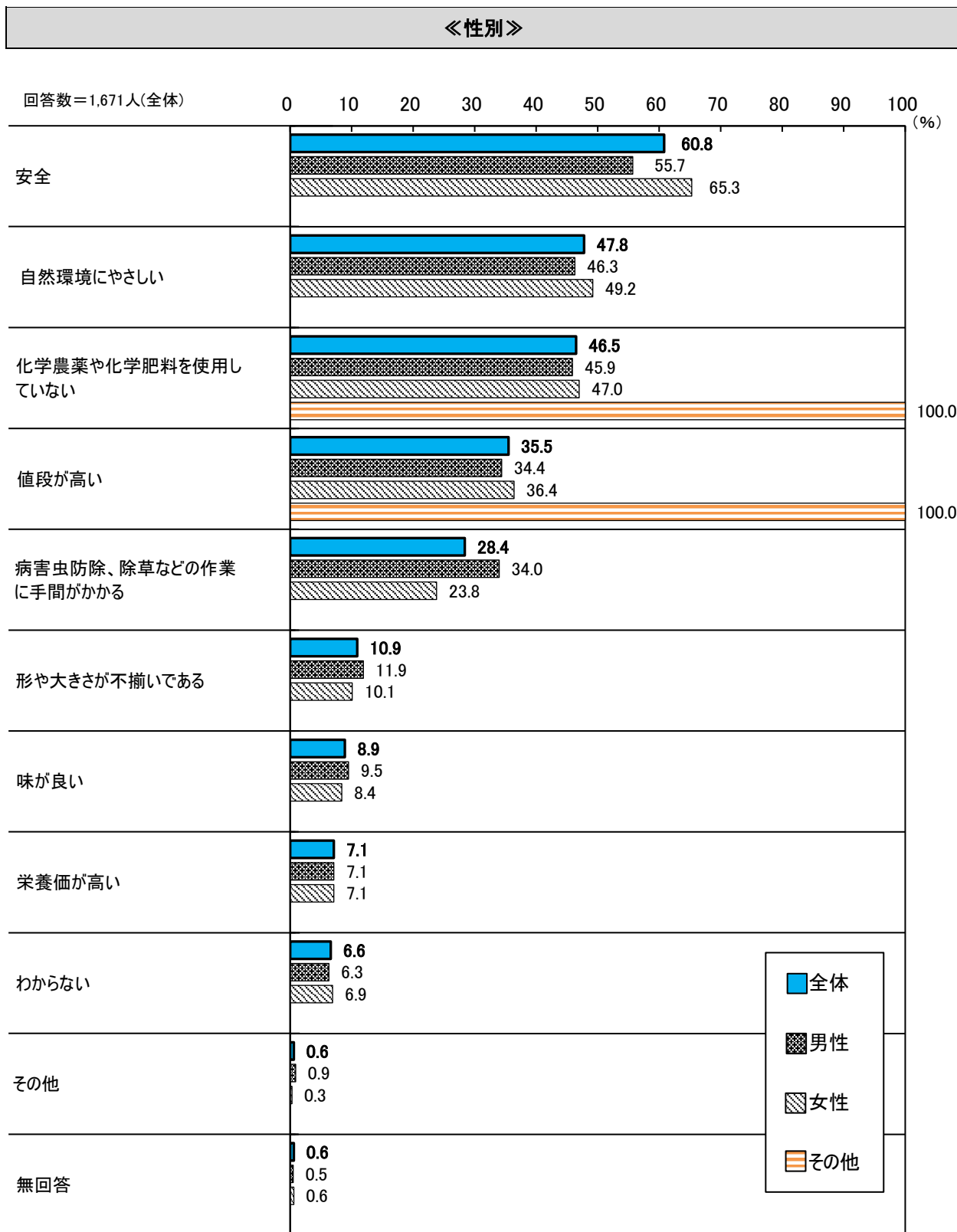
「安全」が60.8%と1位になっている。

次いで、「自然環境にやさしい」が47.8%、「化学農薬や化学肥料を使用していない」が46.5%と続いている。



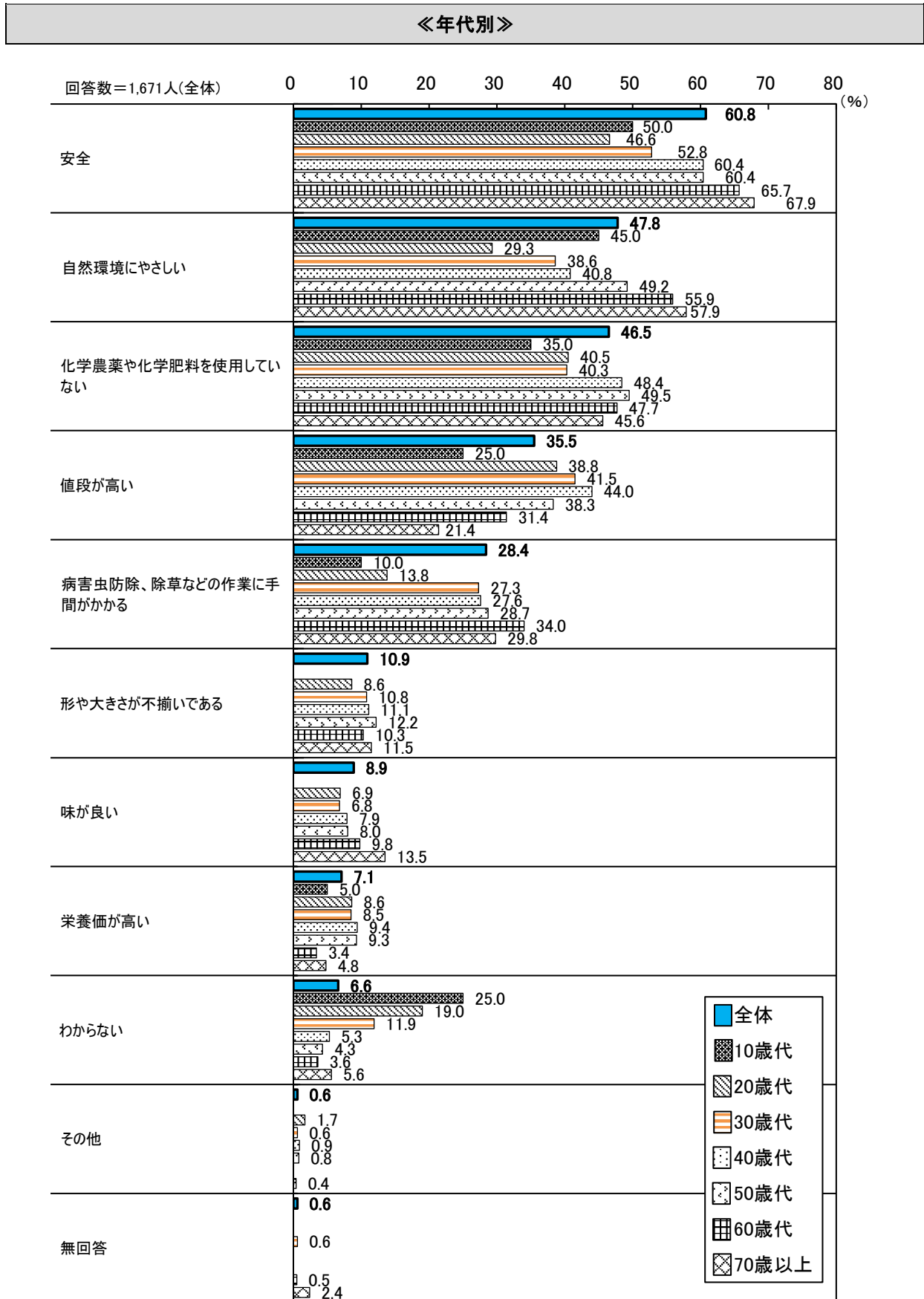
【性別】

男女ともに「安全」が最も高く、女性では65.3%と、男性の55.7%より9.6ポイント高くなっている。



【年代別】

すべての年代で「安全」が最も高くなっている。次いで、10歳代、60歳代、70歳以上では「自然環境にやさしい」が、20歳代、40歳代では「化学農薬や化学肥料を使用していない」が、30歳代では「値段が高い」と続いている。



問 35 有機農業、有機農産物に何を求めますか。(3つまで○印)

【総合】

「安全」が77.2%と1位になっている。

次いで、「値段の安さ」が45.1%、「自然環境への配慮」が42.3%と続いている。

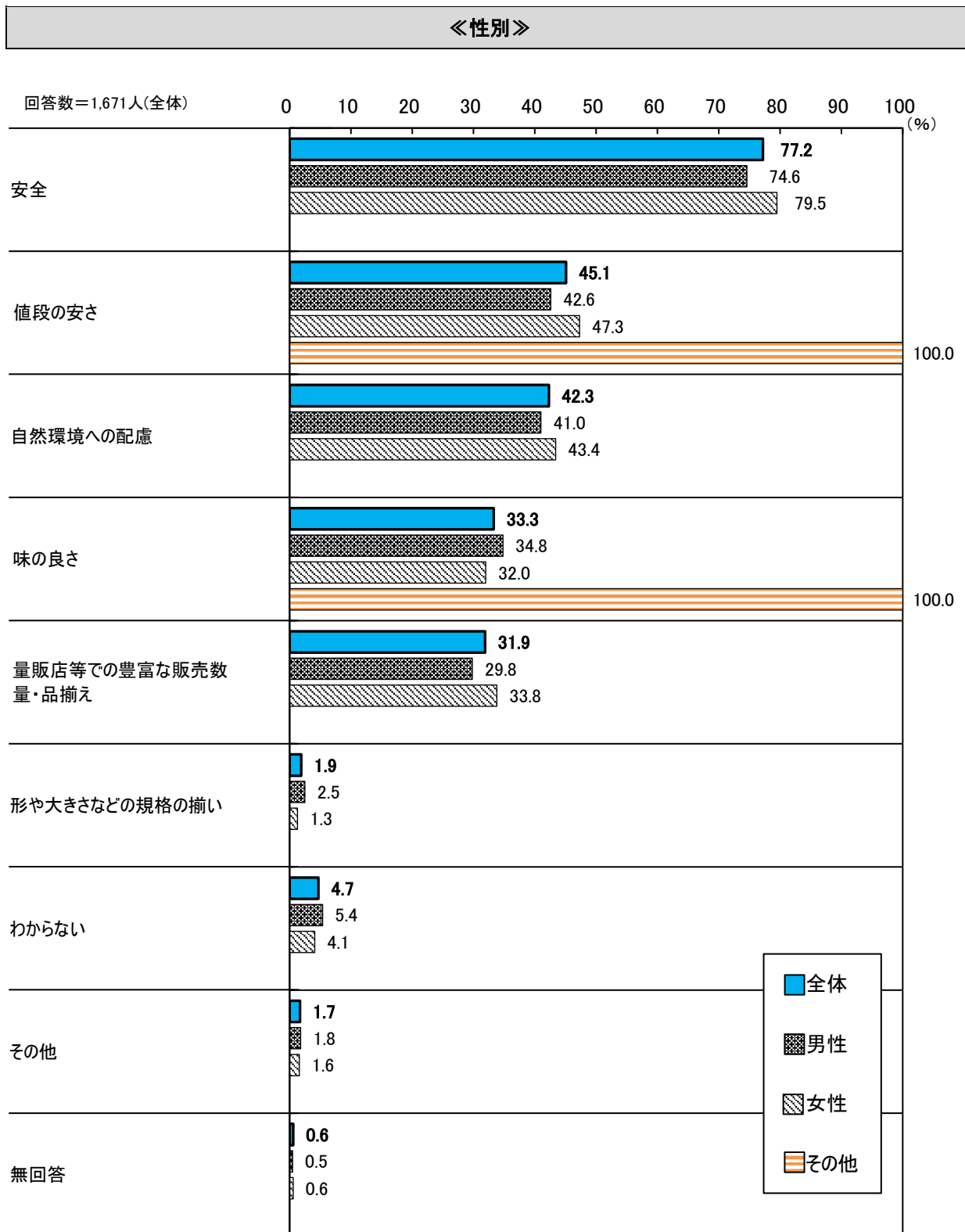
《総合》

		回答数
全体	100.0	1,671 人
安全	77.2	1,290 人
値段の安さ	45.1	754 人
自然環境への配慮	42.3	706 人
味の良さ	33.3	556 人
量販店等での豊富な販売数量・品揃え	31.9	533 人
形や大きさなどの規格の揃い	1.9	31 人
わからない	4.7	78 人
その他	1.7	28 人
無回答	0.6	10 人

グラフ単位(%)

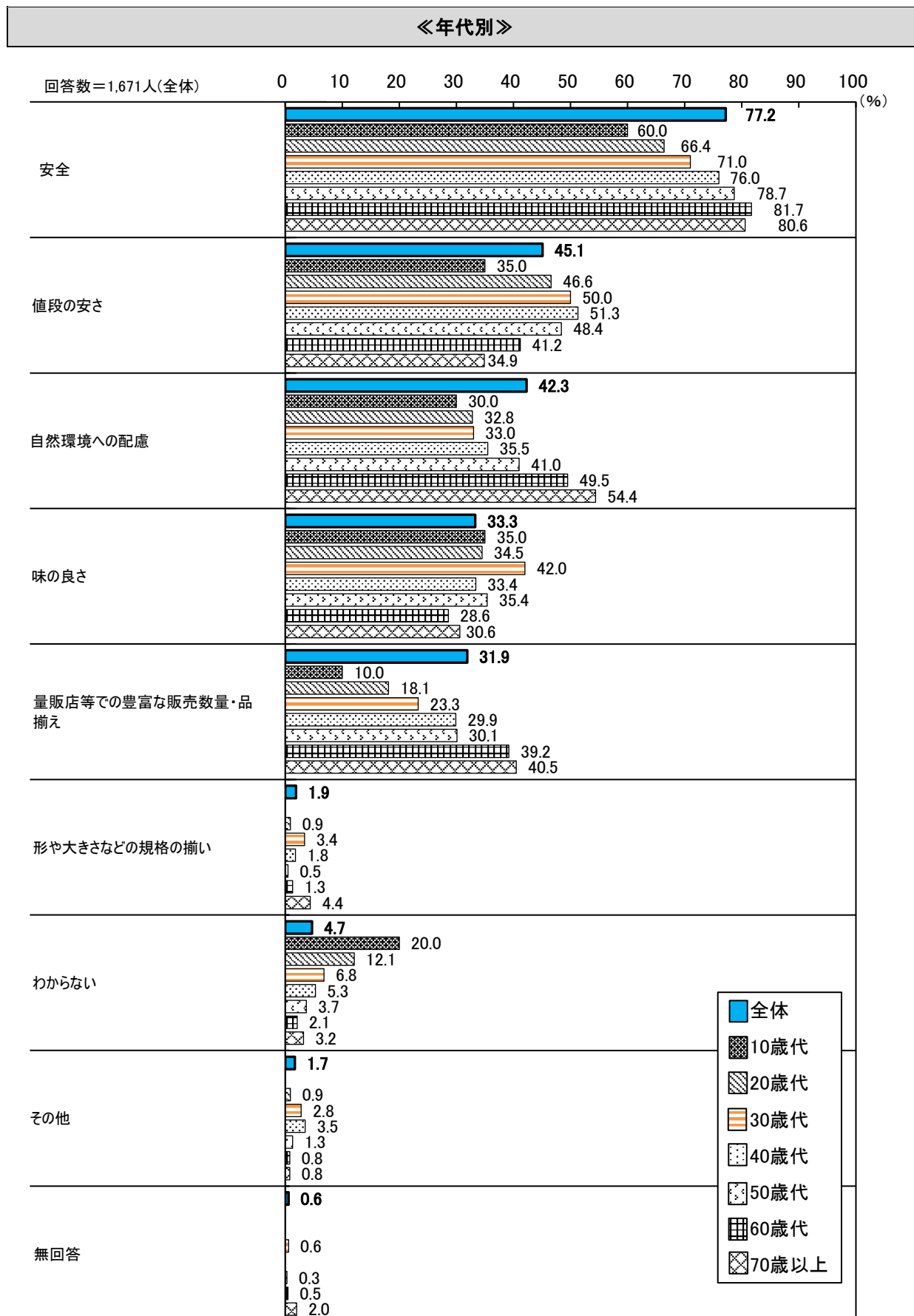
【性別】

男女ともに「安全」が最も高くなっている。



【年代別】

すべての年代で「安全」が最も高くなっている。次いで、10歳代から50歳代では「値段の安さ」が、また、10歳代では同率で「値段の安さ」と「味の良さ」が、60歳代、70歳以上では「自然環境への配慮」と続いている。



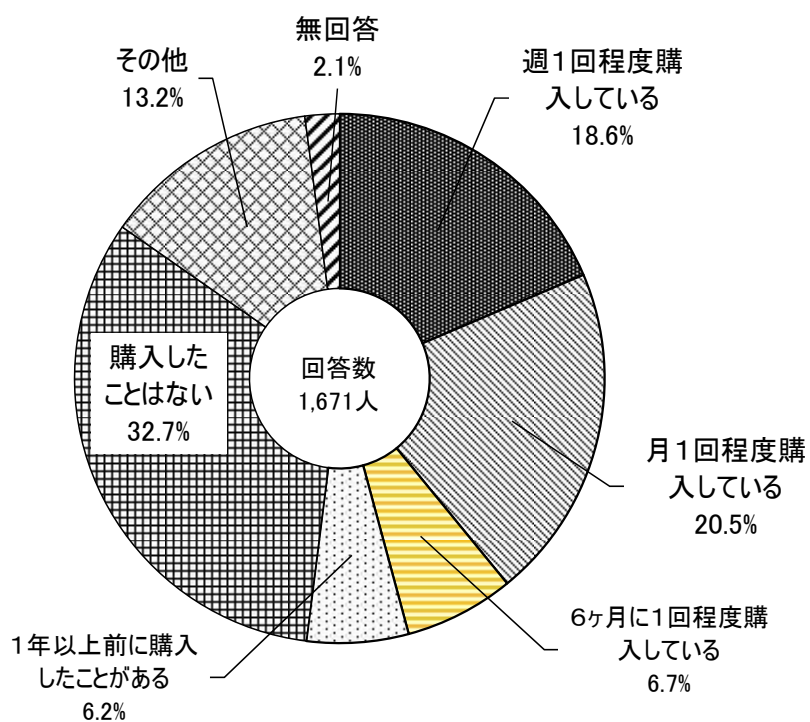
問 36 有機農産物の購入頻度について

【総合】

「購入したことはない」が32.7%と1位になっている。

次いで、「月1回程度購入している」が20.5%、「週1回程度購入している」が18.6%と続いている。

《総合》

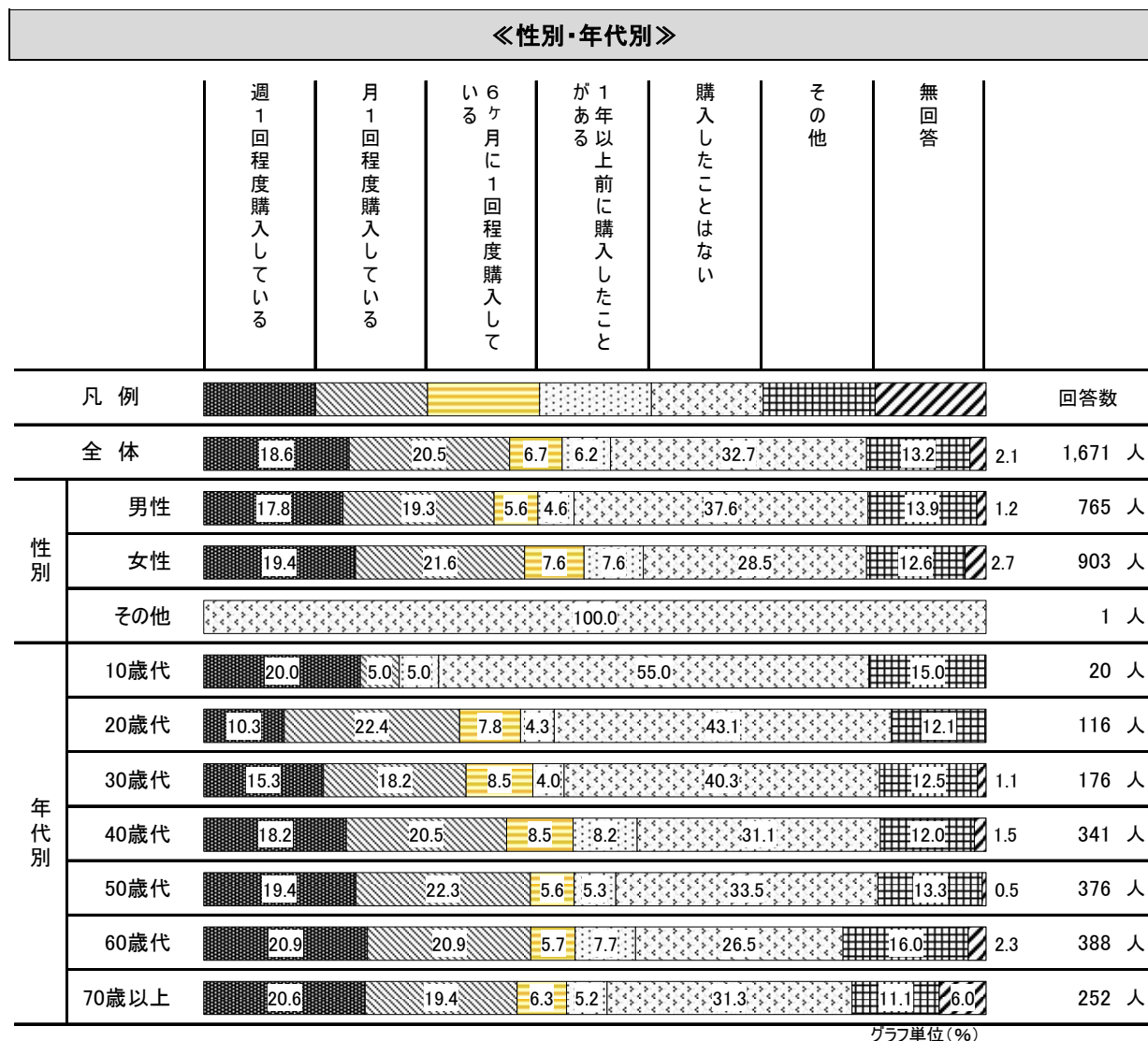


【性別】

男女ともに「購入したことはない」が最も高く、男性では37.6%と、女性の28.5%より9.1ポイント高くなっている。

【年代別】

すべての年代で「購入したことはない」が最も高くなっている。また、10歳代を除き、年代が上がるほど「週1回程度購入している」が高くなる傾向にある。



副問1 (問 36 で「3～5」を選んだ方のみお答えください。)

有機農産物の購入頻度が低い(購入したことがない)のはなぜですか。(3つまで○印)

【総合】

「販売している量販店が少ないから」が53.9%と1位になっている。

次いで、「値段が高いから」が46.7%、「販売している種類が少ないから」が27.4%と続いている。

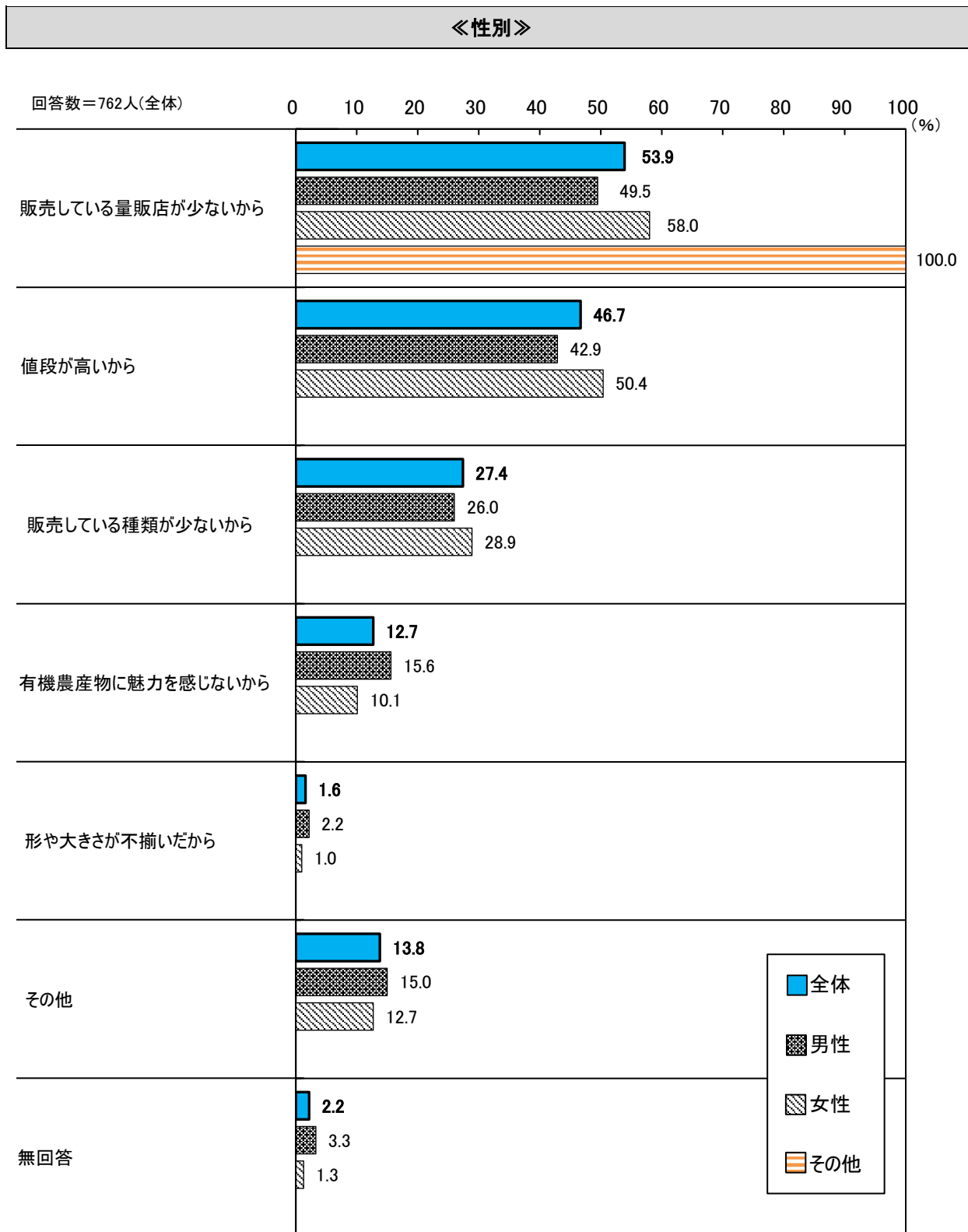
《総合》

		回答数
全体	100.0	762 人
販売している量販店が少ないから	53.9	411 人
値段が高いから	46.7	356 人
販売している種類が少ないから	27.4	209 人
有機農産物に魅力を感じないから	12.7	97 人
形や大きさが不揃いだから	1.6	12 人
その他	13.8	105 人
無回答	2.2	17 人

グラフ単位(%)

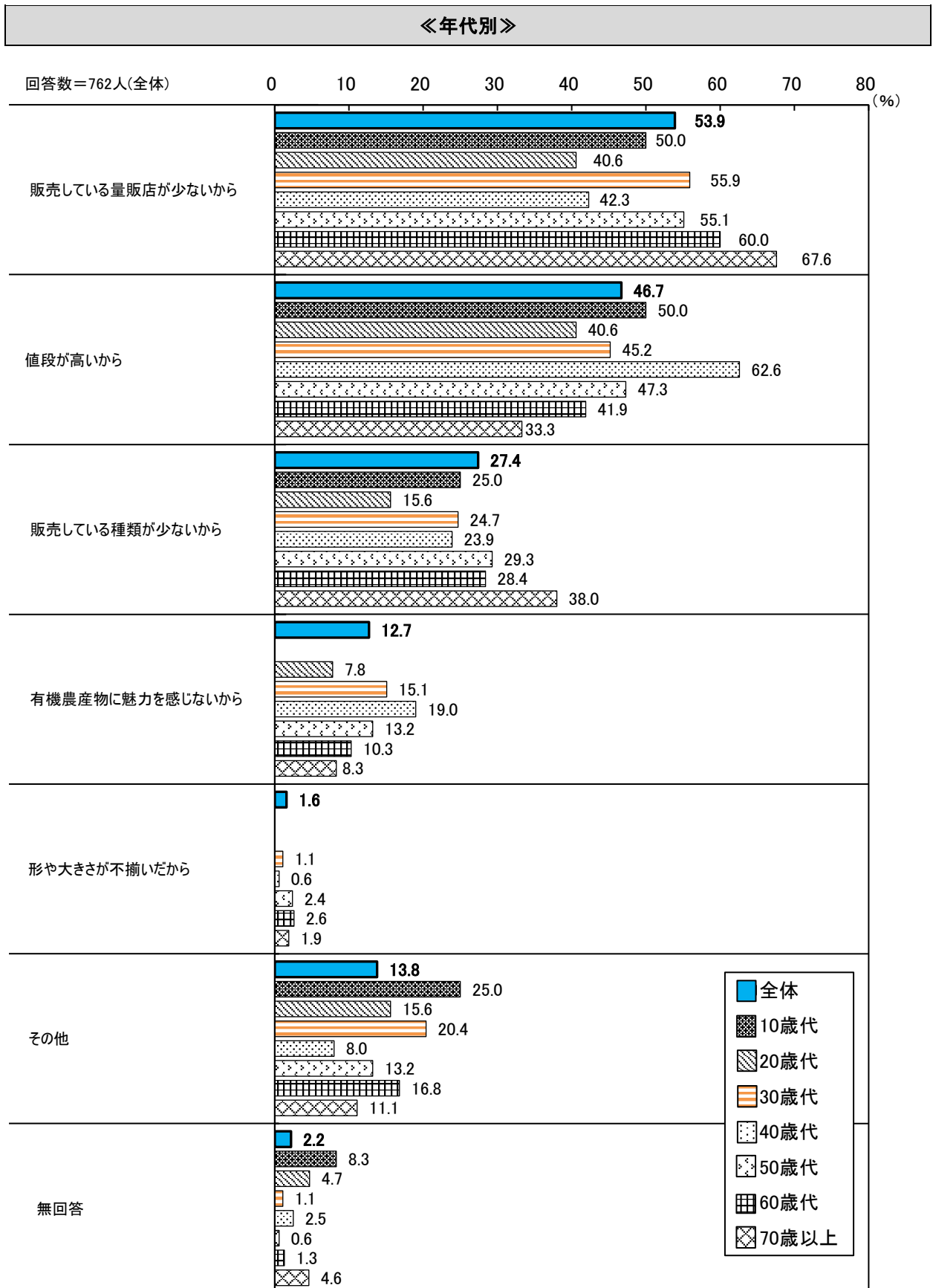
【性別】

男女ともに「販売している量販店が少ないから」が最も高くなっている。



【年代別】

40歳代を除くすべての年代で「販売している量販店が少ないから」が最も高く、同率で10歳代、20歳代と40歳代では「値段が高いから」が最も高くなっている。



9. 森林環境税について

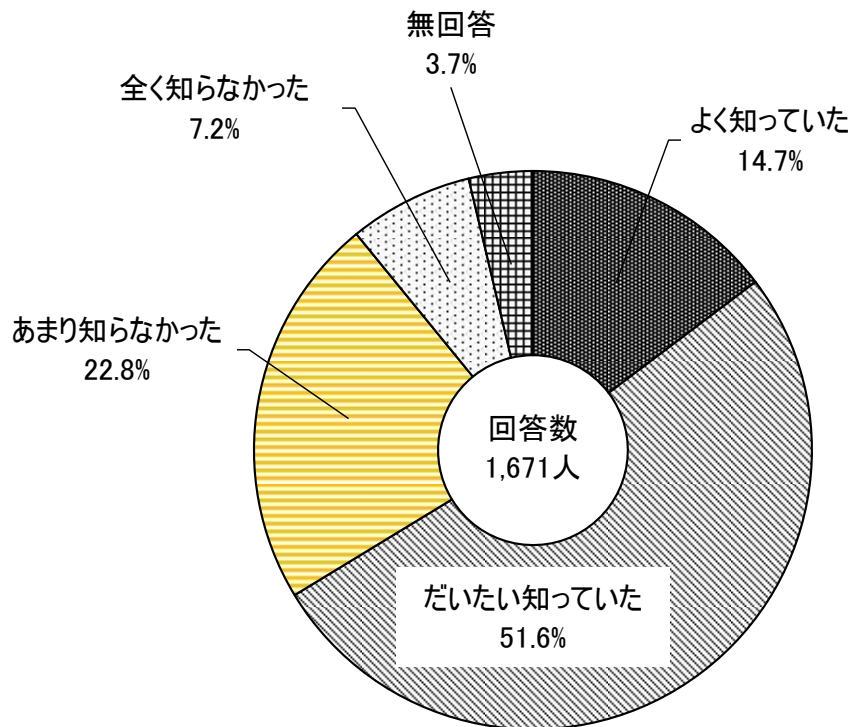
問 37 森林は本来、土壌に水を蓄え、山の崩壊を防止し、二酸化炭素を吸収して地球温暖化の防止に役立つなどの「公益的機能」を持っていますが、近年、森林の手入れが行き届かないことにより、これらの機能の低下を招いています。森林が持つ働きについて、こうした状況を知っていますか。(1つだけ○印)

【総合】

「だいたい知っていた」が51.6%と1位になっている。

次いで、「あまり知らなかった」が22.8%、「よく知っていた」が14.7%と続いている。

《総合》

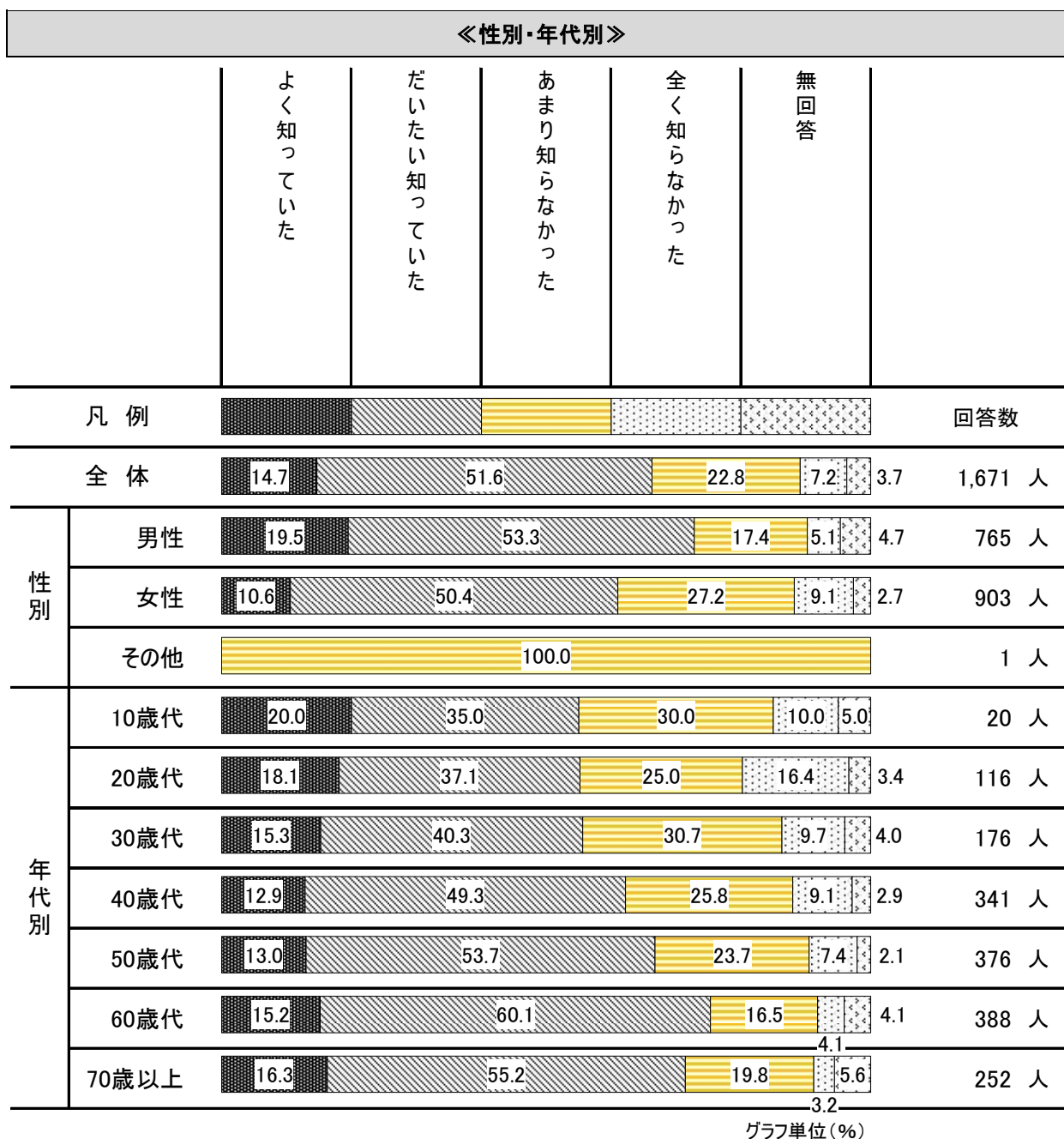


【性別】

男女ともに「だいたい知っていた」が最も高くなっている。また、「よく知っていた」では、男性が19.5%と、女性の10.6%より8.9ポイント高くなっている。

【年代別】

すべての年代で「だいたい知っていた」が最も高く、中でも、60歳代が60.1%と、その他の年代に比べて高くなっている。



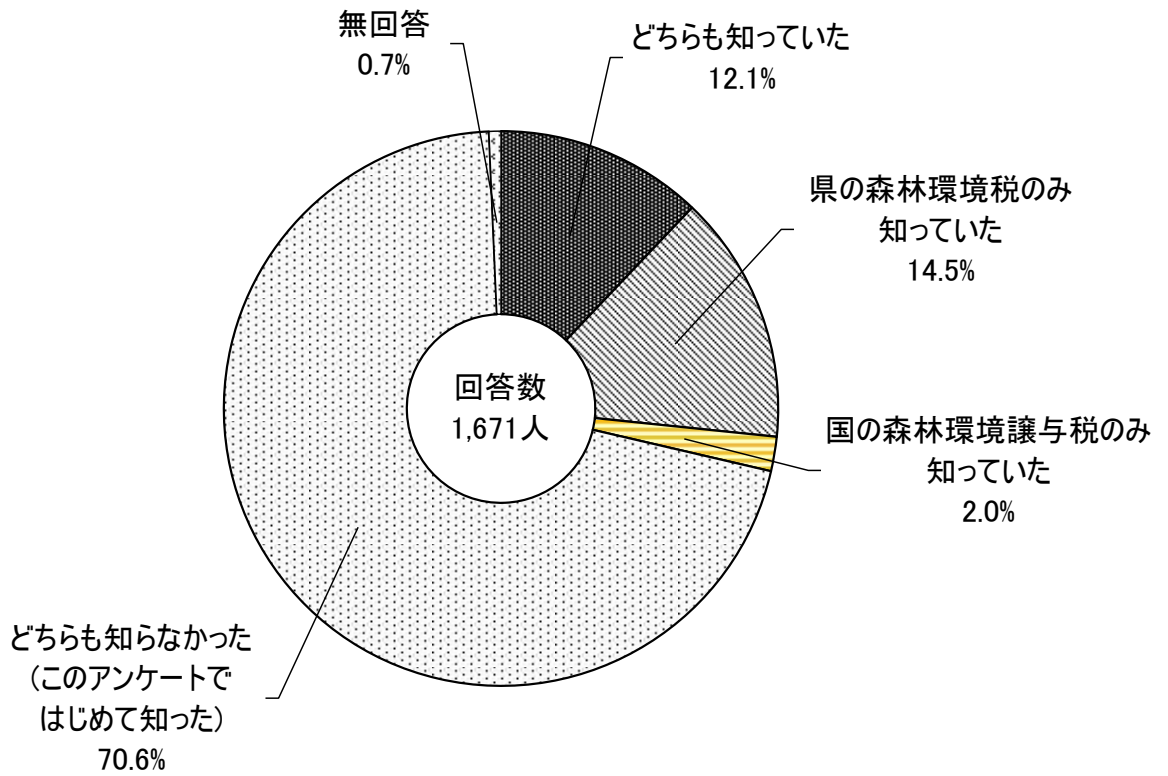
問 38 あなたは、県の森林環境税や国の森林環境譲与税について知っていましたか。(1つだけ○印)

【総合】

「どちらも知らなかった(このアンケートではじめて知った)」が70.6%と1位になっている。

次いで、「県の森林環境税のみ知っていた」が14.5%、「どちらも知っていた」が12.1%と続いている。

《総合》

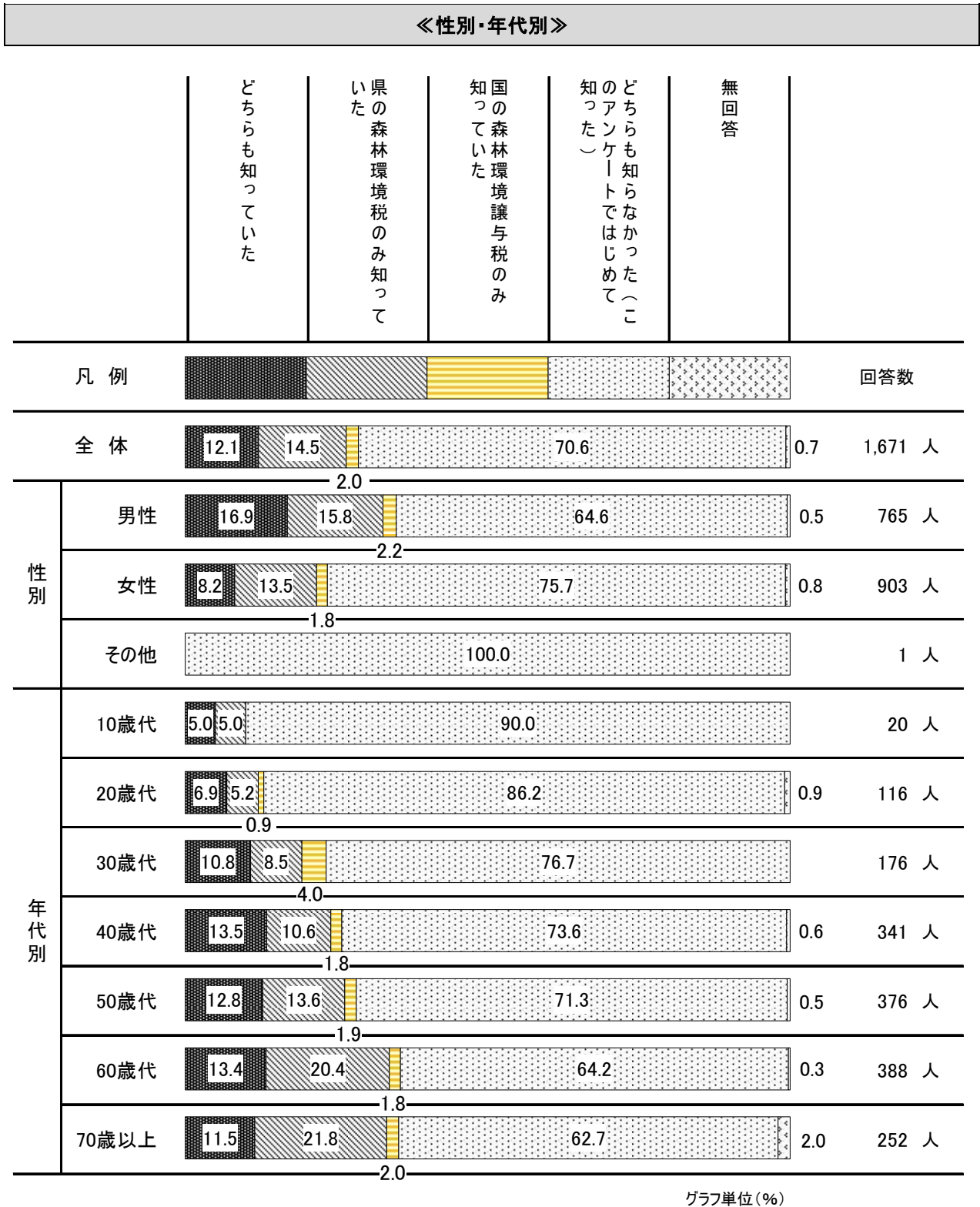


【性別】

男女ともに「どちらも知らなかった（このアンケートではじめて知った）」が最も高くなっている。次いで、男性では「どちらも知っていた」が、女性では「県の森林環境税のみ知っていた」が続いている。

【年代別】

すべての年代で「どちらも知らなかった（このアンケートではじめて知った）」が最も高くなっており、年代が下がるほど割合が高くなる傾向にある。



問 39 県の森林環境税は、1人(または1法人)あたり 500 円を徴収しており、その税収は年間約 1.7 億円です。県ではこれを財源として、第4期(平成 30 年度～令和4年度)に、森林の公益的機能を高めるための間伐等 5,765ha(東京ドーム 1,233 個分)、森林被害を防ぐためのシカ捕獲 10,102 頭、小中学校での森林環境学習への参加 49,000 人超などの効果が出てきています。

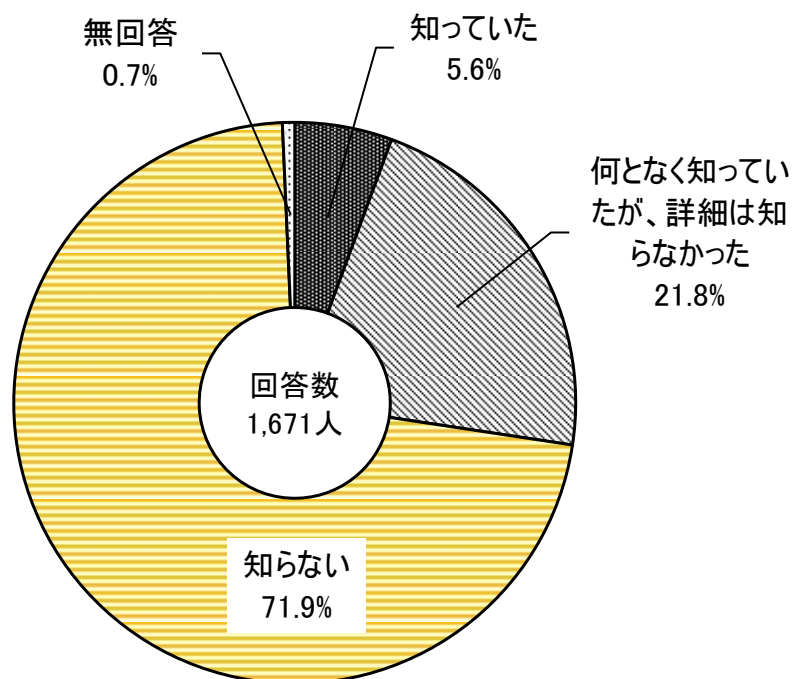
このような森林環境税の使い道をご存じでしたか。(1つだけ○印)

【総合】

「知らない」が 71.9%と 1 位になっている。

次いで、「何となく知っていたが、詳細は知らなかった」が 21.8%、「知っていた」が 5.6%となっている。

《総合》

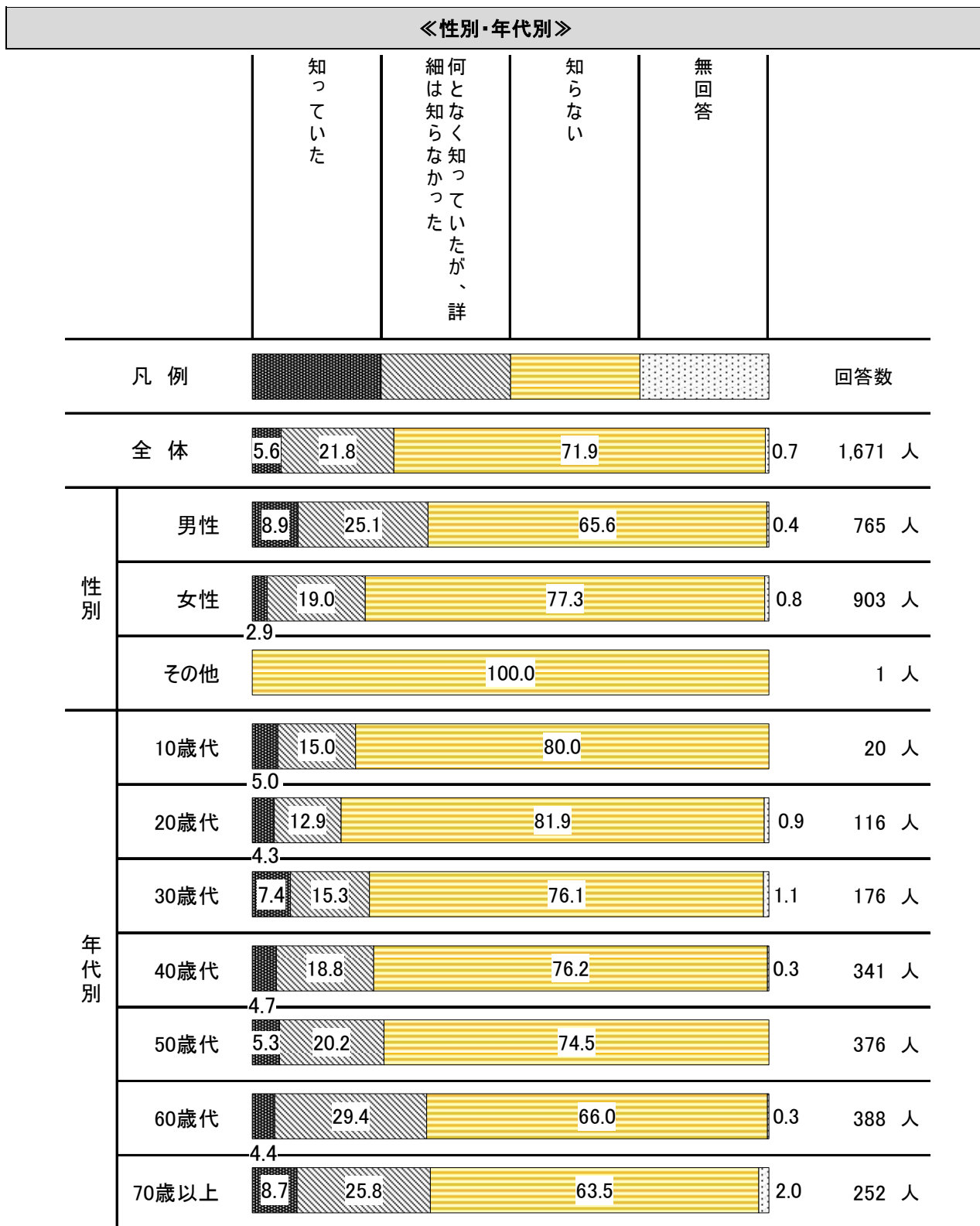


【性別】

男女ともに「知らない」が最も高く、女性では77.3%と、男性の65.6%より11.7ポイント高くなっている。

【年代別】

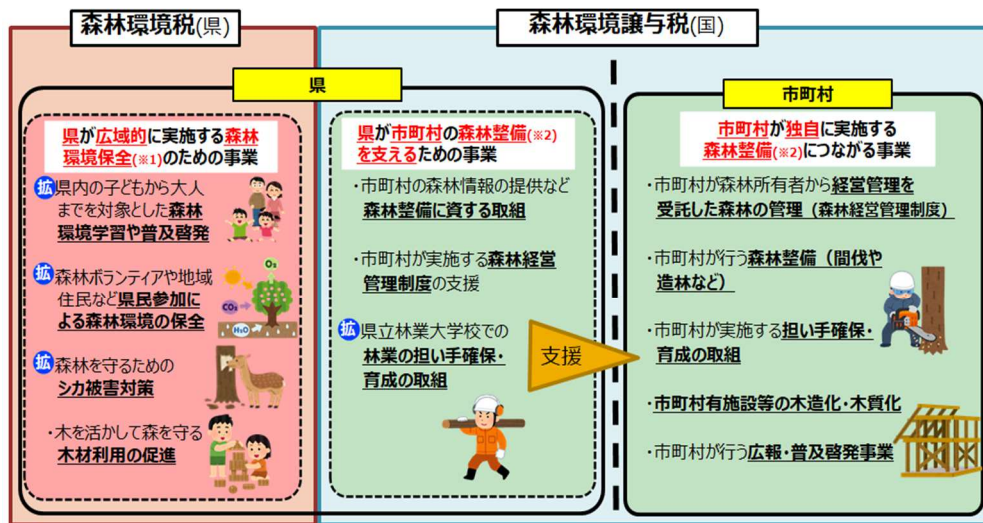
すべての年代で「知らない」が最も高く、年代が下がるほど割合が高くなる傾向にある。



グラフ単位(%)

問 40 県では、森林・林業に関わる様々な課題に対応するためには、県の森林環境税と国の森林環境譲与税との使い道を図1のように整理し、2つの税を最大限活用することが必要と考えております。
 令和5年度以降も県の森林環境税も継続(5年間)することについて、どのように考えますか。
 (1つだけ○印)

図 1



県では、森林環境保全(※1)と森林整備(※2)を次のとおり区分しています。
 (※1)森林環境保全は、森林の有する公益的機能(水源かん養、国土保全など)の低下を予防するための取組を行うこと。
 (※2)森林整備は、森林資源を充実させることを主な目的として行う間伐や植林などの森林施業。

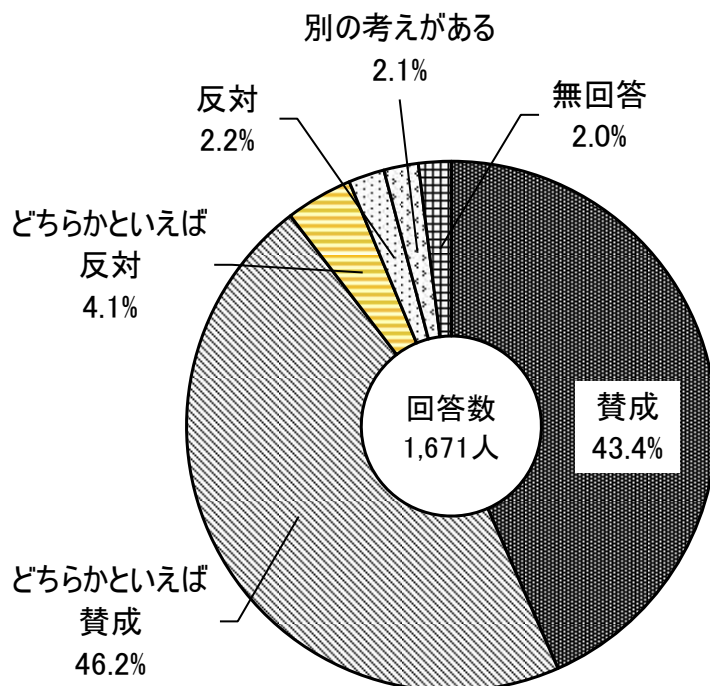
【総合】

「どちらかといえば賛成」が46.2%と1位になっている。

次いで、「賛成」が43.4%、「どちらかといえば反対」が4.1%と続いている。

また、「賛成」と「どちらかといえば賛成」を合計すると89.6%となり、約9割が賛成の意見となっている。

《総合》

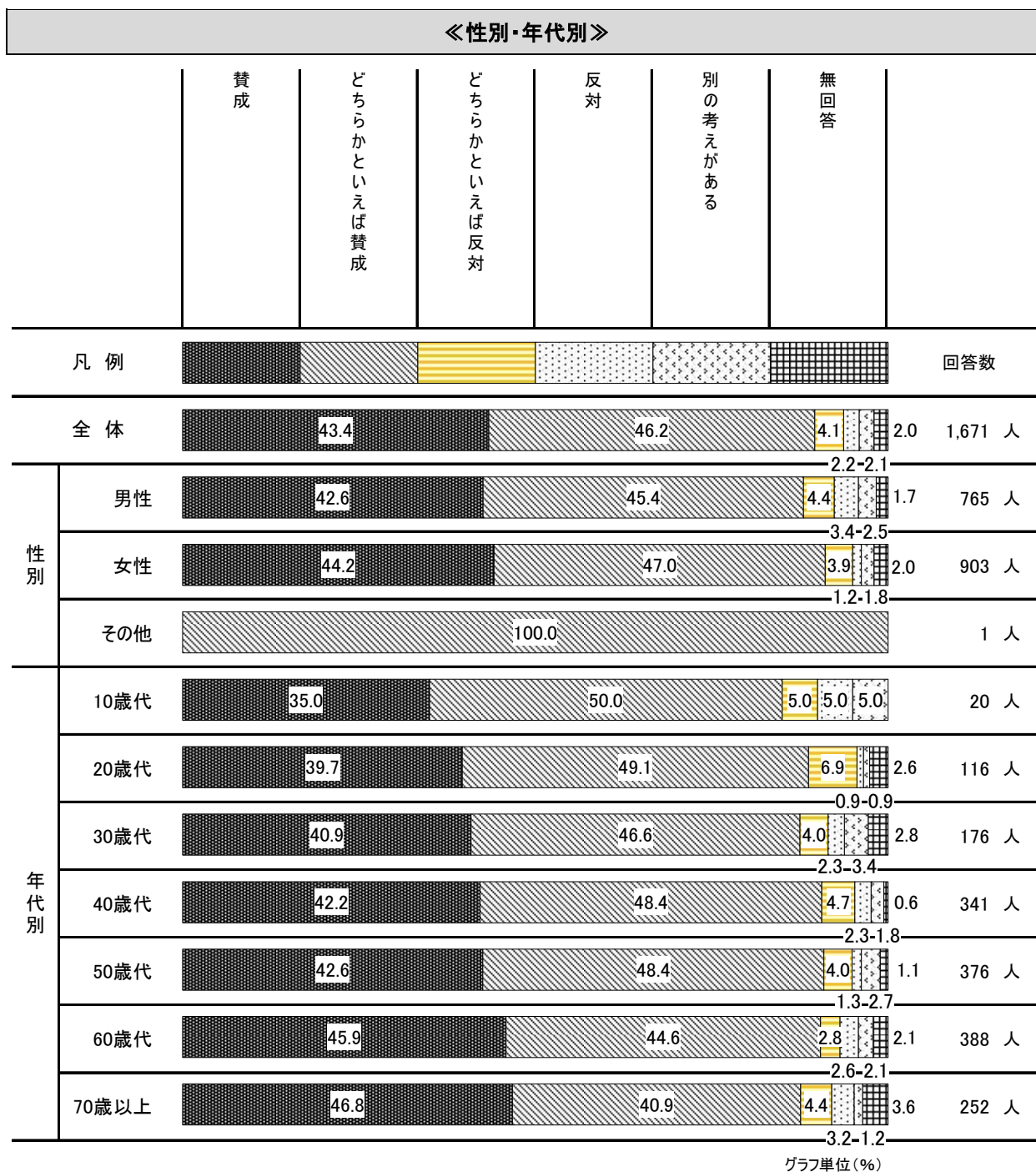


【性別】

男女ともに「どちらかといえば賛成」が最も高くなっている。

【年代別】

10歳代から50歳代では「どちらかといえば賛成」が最も高く、60歳代、70歳以上では「賛成」が最も高くなっている。



【問 38×問 40 のクロス分析】

「県の森林環境税や国の森林環境譲与税について知っていましたか。」という質問に対し、「令和5年度以降も県の森林環境税も継続（5年間）することについて、どのように考えますか。」の結果を見ると、「どちらも知っていた」と「県の森林環境税のみ知っていた」では「賛成」が最も高く、「国の森林環境譲与税のみ知っていた」と「どちらも知らなかった（このアンケートではじめて知った）」では「どちらかといえば賛成」が最も高くなっている。

《問 38×問 40 のクロス分析》

		県の森林環境税継続の賛否						
		全体	賛成	どちらかといえば賛成	どちらかといえば反対	反対	別の考えがある	無回答
【表の見方】 上段＝回答数(人) 下段＝比率(%)								
全体		1,671 100.0	725 43.4	772 46.2	69 4.1	37 2.2	35 2.1	33 2.0
認の 県 知森の 度林森 環林森 境境環 環境環 譲境環 与税境 の税与 の国税 の国	どちらも知っていた	203	55.2	33.0	1.5	5.4	4.4	0.5
	県の森林環境税のみ知っていた	243	51.4	39.9	3.3	2.5	2.5	0.4
	国の森林環境譲与税のみ知っていた	33	33.3	57.6	6.1	3.0	-	-
	どちらも知らなかった(このアンケートではじめて知った)	1,180	40.3	49.6	4.7	1.6	1.6	2.1

【問 39×問 40 のクロス分析】

「森林環境税の使い道をご存じでしたか。」という質問に対し、「令和5年度以降も県の森林環境税も継続（5年間）することについて、どのように考えますか。」の結果を見ると、「知っていた」と「何となく知っていたが、詳細は知らなかった」と回答した人では「賛成」が最も高く、「知らない」と回答した人では「どちらかといえば賛成」が最も高くなっている。

		県 <small>の</small> 森林環境税継続の賛否						
		全体	賛成	どちらかといえば賛成	どちらかといえば反対	反対	別の考えがある	無回答
【表の見方】 上段=回答数(人) 下段=比率(%)								
全体		1,671 100.0	725 43.4	772 46.2	69 4.1	37 2.2	35 2.1	33 2.0
途森 の林 認環 知境 度税 の使 の使	知っていた	94	61.7	28.7	2.1	4.3	3.2	-
	何となく知っていたが、詳細は知らなかった	364	48.4	42.9	1.9	3.6	2.7	0.5
	知らない	1,202	40.8	48.8	5.0	1.7	1.8	2.0

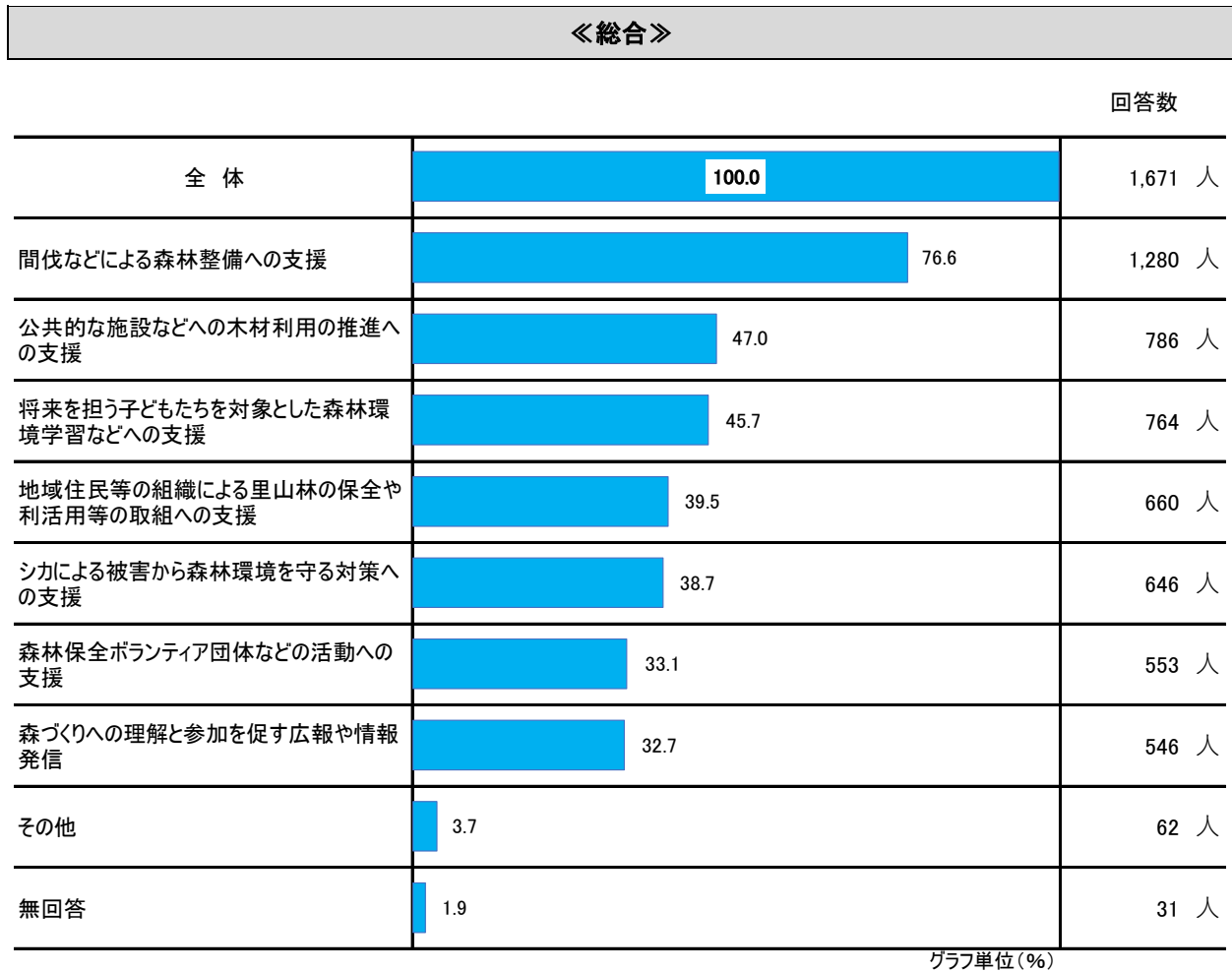
問 41 森林の保全や整備のため、取り組むべき又は充実すべきだと考える事業はどれですか。

(当てはまるものすべてに○印)

【総合】

「間伐などによる森林整備への支援」が76.6%と1位になっている。

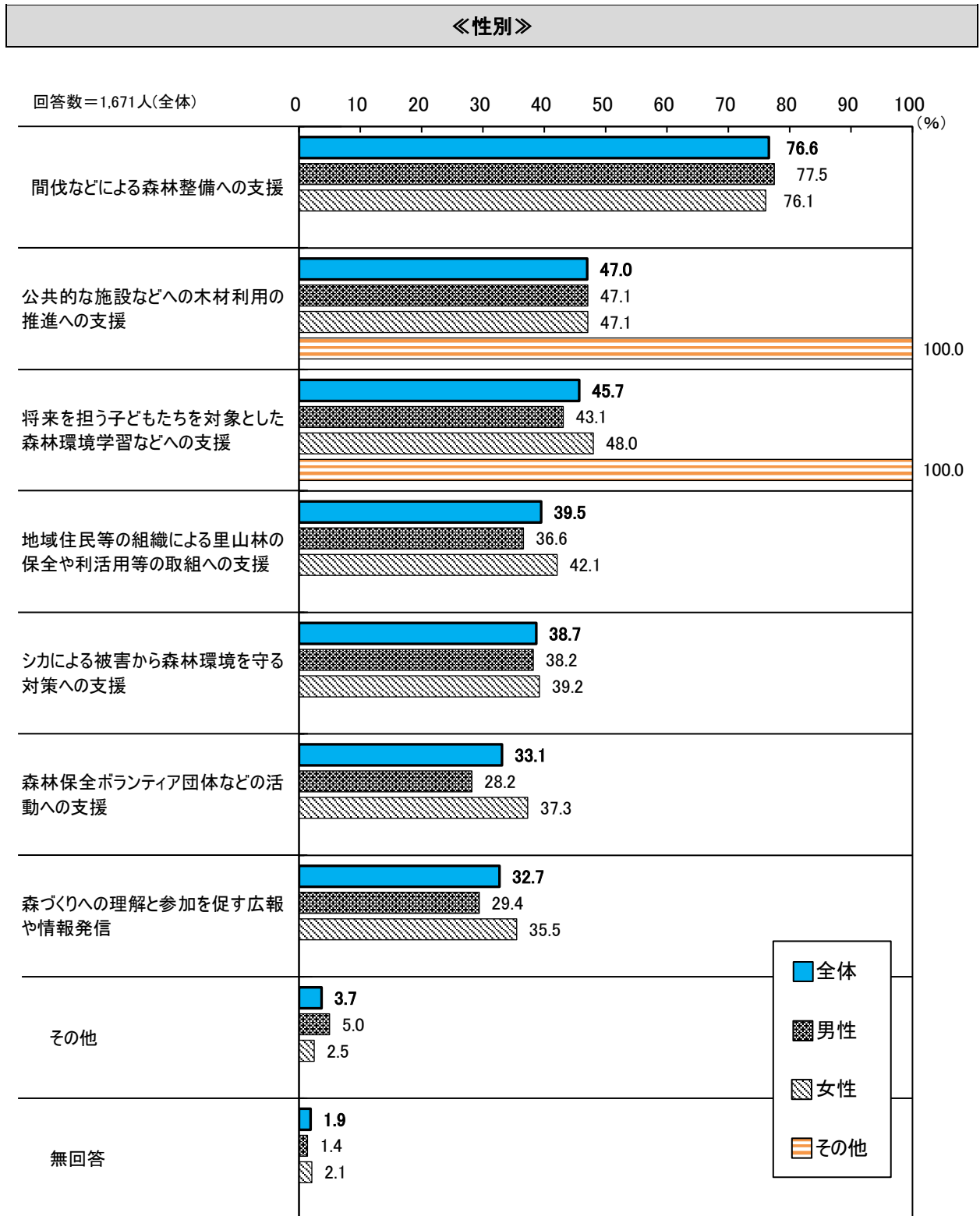
次いで、「公共的な施設などへの木材利用の推進への支援」が47.0%、「将来を担う子どもたちを対象とした森林環境学習などへの支援」が45.7%と続いている。



グラフ単位(%)

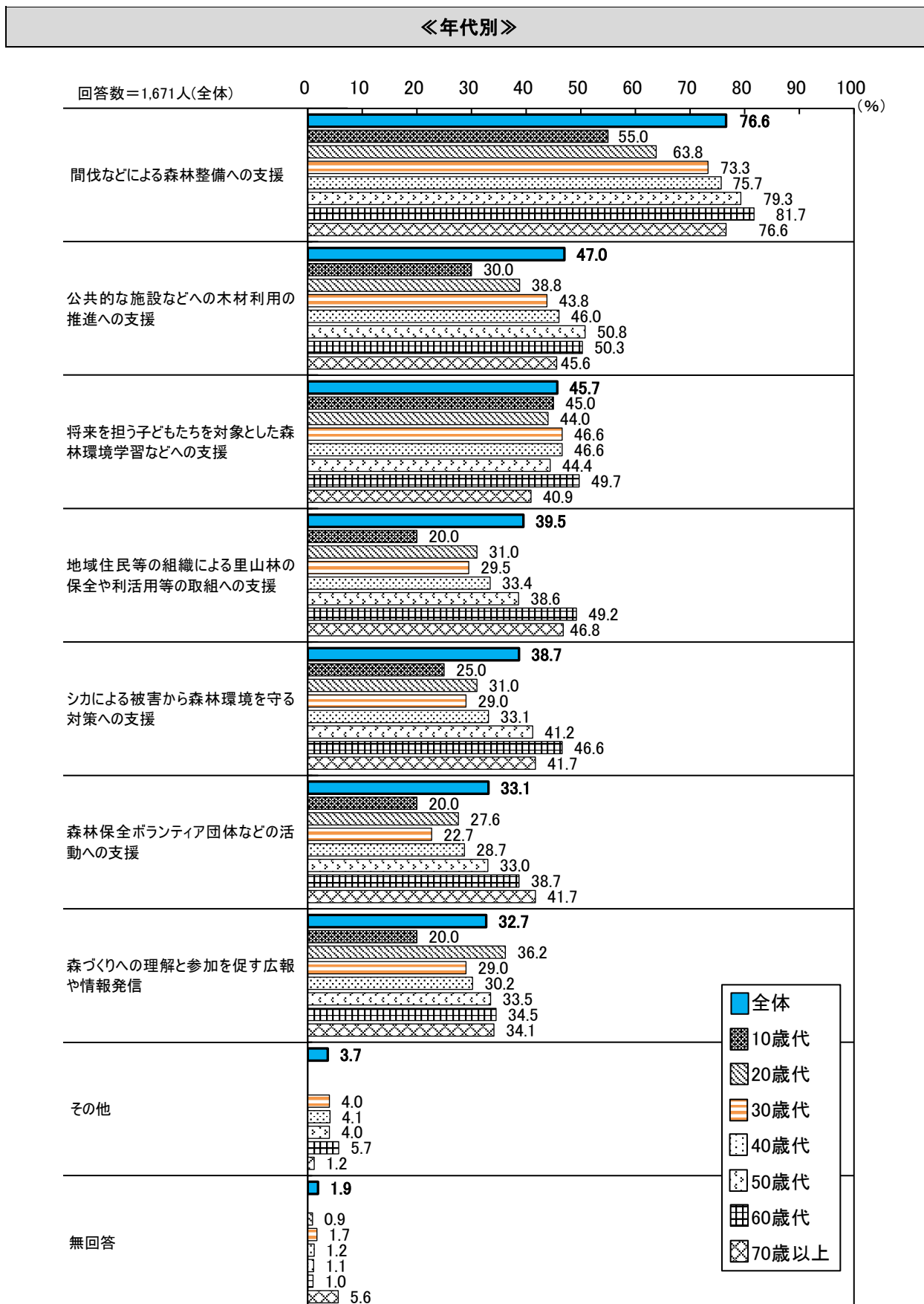
【性別】

男女ともに「間伐などによる森林整備への支援」が最も高くなっている。



【年代別】

すべての年代で「間伐などによる森林整備への支援」が最も高く、70歳以上を除き、年代が上がるほど高くなる傾向にある。



【問 40×問 41 のクロス分析】

「令和 5 年度以降も県の森林環境税も継続（5 年間）することについて、どのように考えますか。」という質問に対し、「今後も継続して取り組むべき又は充実すべきだと考える事業はどれですか。」の結果を見ると、賛否にかかわらず、すべての意見で「間伐などによる森林整備への支援」が最も高くなっている。

《問 40×問 41 のクロス分析》

		森林の保全や整備のため、取り組むべき内容									
		全 体	間 伐 な ど に よ る 森 林 整 備 へ の 支 援	地 域 住 民 等 の 組 織 に よ る 里 山 支 林	シ カ に よ る 被 害 か ら 森 林 環 境 を 守 る 対 策 へ の 支 援	森 林 保 全 ボ ラ ン テ ィ ア 団 体 な ど の 活 動 へ の 支 援	将 来 を 担 う 子 ど も た ち を 対 象 と し た 森 林 環 境 学 習 な ど へ の 支 援	公 共 的 な 施 設 な ど へ の 木 材 利 用 の 推 進 へ の 支 援	広 報 や 情 報 発 信 の 理 解 と 参 加 を 促 す	そ の 他	無 回 答
【表の見方】 上段＝回答数(人) 下段＝比率(%)											
全体		1,671	1,280 76.6	660 39.5	646 38.7	553 33.1	764 45.7	786 47.0	546 32.7	62 3.7	31 1.9
の 賛 否 の 森 林 環 境 税 継 続	賛成	725	85.0	48.7	47.0	41.9	54.5	53.5	39.6	2.6	1.1
	どちらかといえば賛成	772	74.1	34.6	34.3	27.7	41.8	44.0	28.9	1.9	1.0
	どちらかといえば反対	69	52.2	26.1	27.5	20.3	26.1	39.1	23.2	8.7	4.3
	反対	37	62.2	24.3	18.9	24.3	37.8	32.4	16.2	10.8	2.7
	別の考えがある	35	51.4	20.0	17.1	22.9	25.7	40.0	17.1	37.1	-

10. 地球温暖化対策について

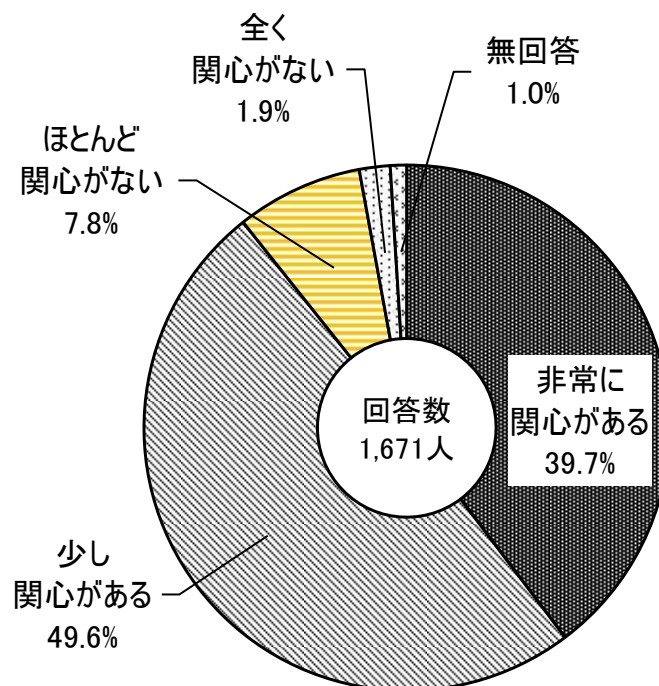
問 42 地球温暖化問題に対して、どの程度関心がありますか。(1つだけ○印)

【総合】

「少し関心がある」が49.6%と1位になっている。

次いで、「非常に関心がある」が39.7%、「ほとんど関心がない」が7.8%と続いている。

《総合》

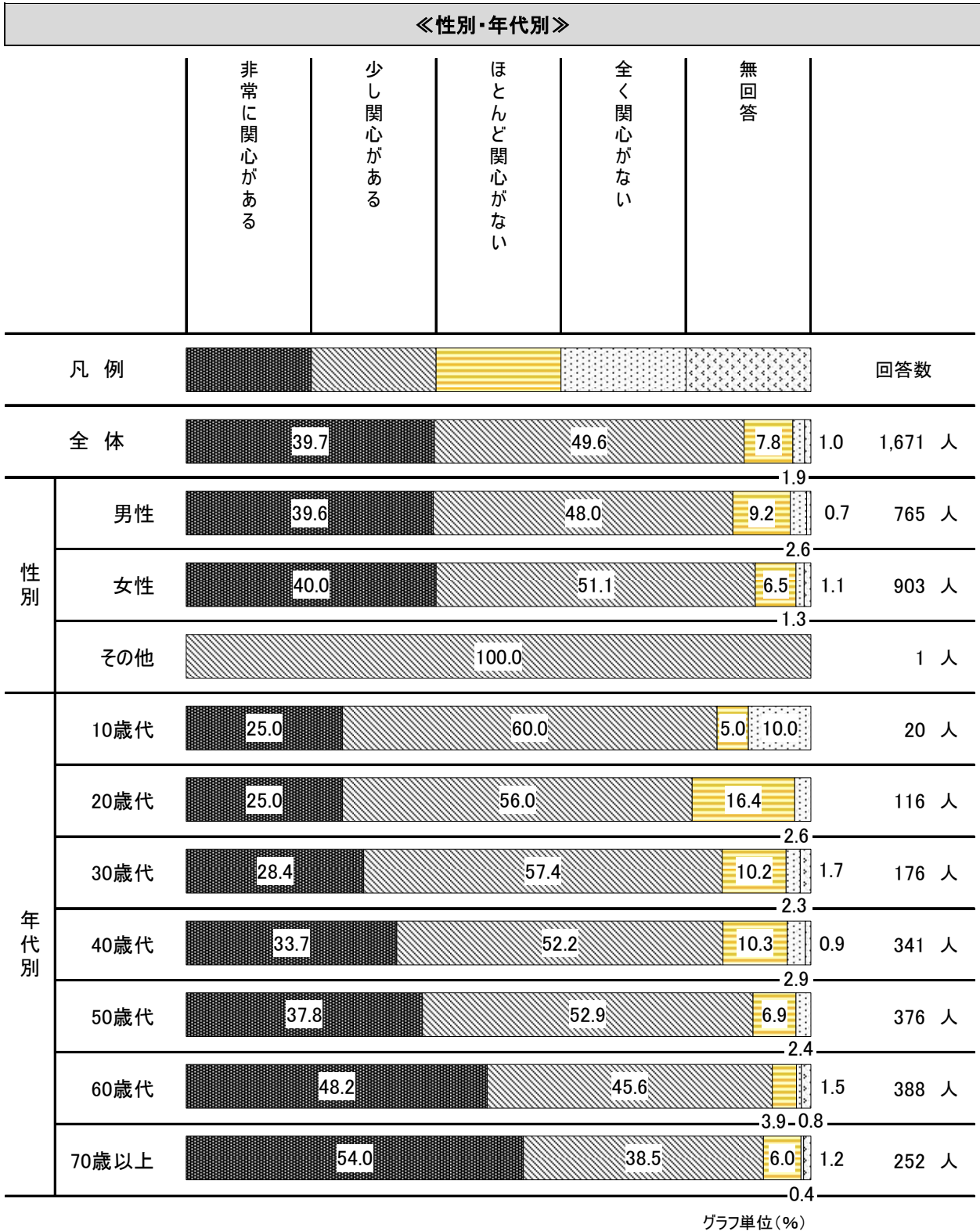


【性別】

男女ともに「少し関心がある」が最も高くなっている。

【年代別】

10歳代から50歳代では「少し関心がある」が最も高く、60歳代、70歳以上では「非常に関心がある」が最も高くなっている。



問 43 地球温暖化対策について、次の中であなたが既に取り組んでいるものはありますか。

(当てはまるものすべてに○印)

【総合】

「エコバッグでの買い物を心がける」が75.3%で1位になっている。

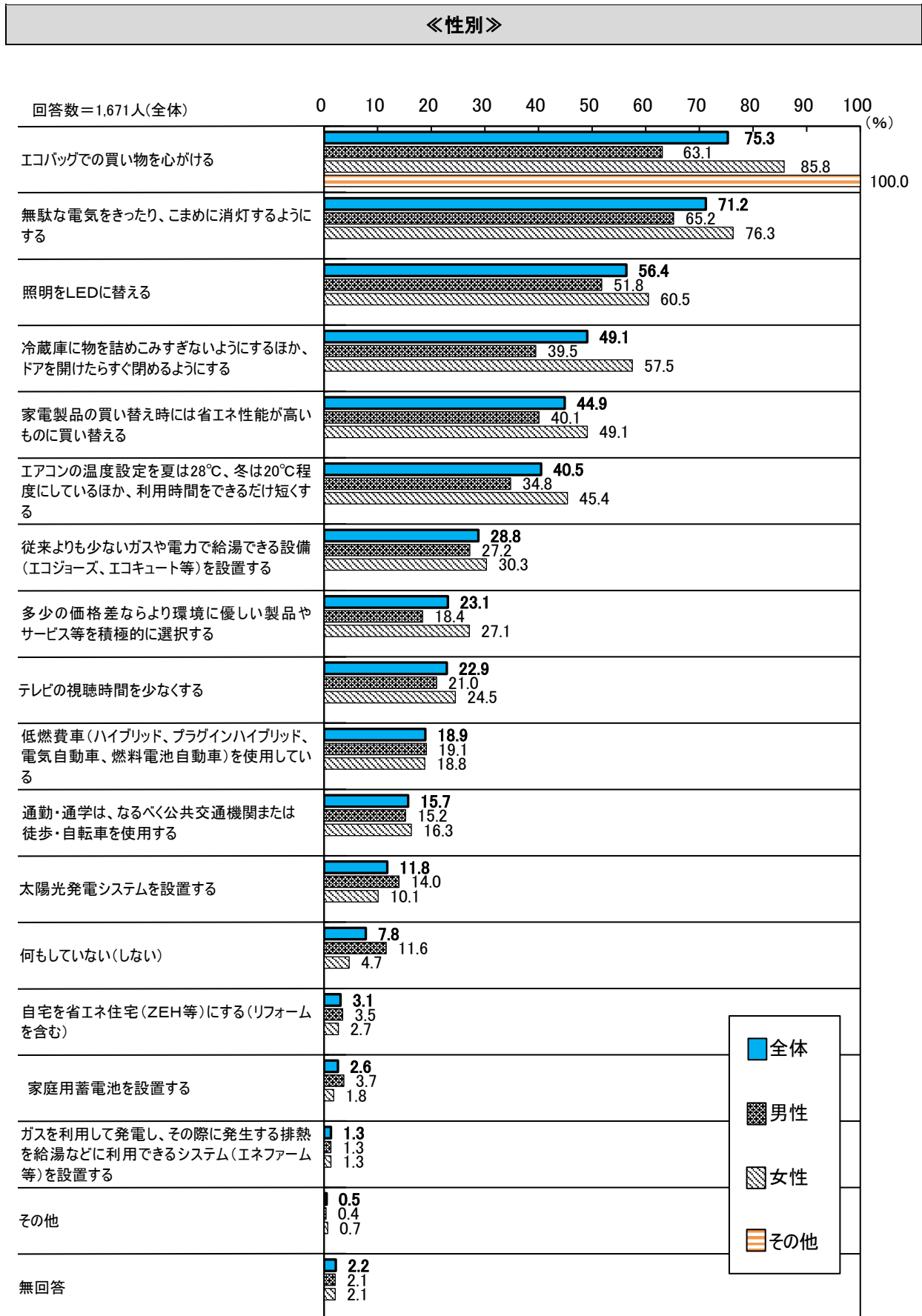
次いで「無駄な電気をきったり、こまめに消灯するようにする」が71.2%、「照明をLEDに替える」が56.4%と続いている。

《総合》		
		回答数
全体	100.0	1,671 人
エコバッグでの買い物を心がける	75.3	1,259 人
無駄な電気をきったり、こまめに消灯するようにする	71.2	1,189 人
照明をLEDに替える	56.4	943 人
冷蔵庫に物を詰めこみすぎないようにするほか、ドアを開けたらすぐ閉めるようにする	49.1	821 人
家電製品の買い替え時には省エネ性能が高いものに買い替える	44.9	750 人
エアコンの温度設定を夏は28℃、冬は20℃程度にしているほか、利用時間をできるだけ短くする	40.5	676 人
従来よりも少ないガスや電力で給湯できる設備(エコジョーズ、エコキュート等)を設置する	28.8	482 人
多少の価格差ならより環境に優しい製品やサービス等を積極的に選択する	23.1	386 人
テレビの視聴時間を少なくする	22.9	382 人
低燃費車(ハイブリッド、プラグインハイブリッド、電気自動車、燃料電池自動車)を使用している	18.9	316 人
通勤・通学は、なるべく公共交通機関または徒歩・自転車を使用する	15.7	263 人
太陽光発電システムを設置する	11.8	198 人
何もしていない(しない)	7.8	131 人
自宅を省エネ住宅(ZEH等)にする(リフォームを含む)	3.1	51 人
家庭用蓄電池を設置する	2.6	44 人
ガスを利用して発電し、その際に発生する排熱を給湯などに利用できるシステム(エネファーム等)を設置する	1.3	22 人
その他	0.5	9 人
無回答	2.2	36 人

グラフ単位(%)

【性別】

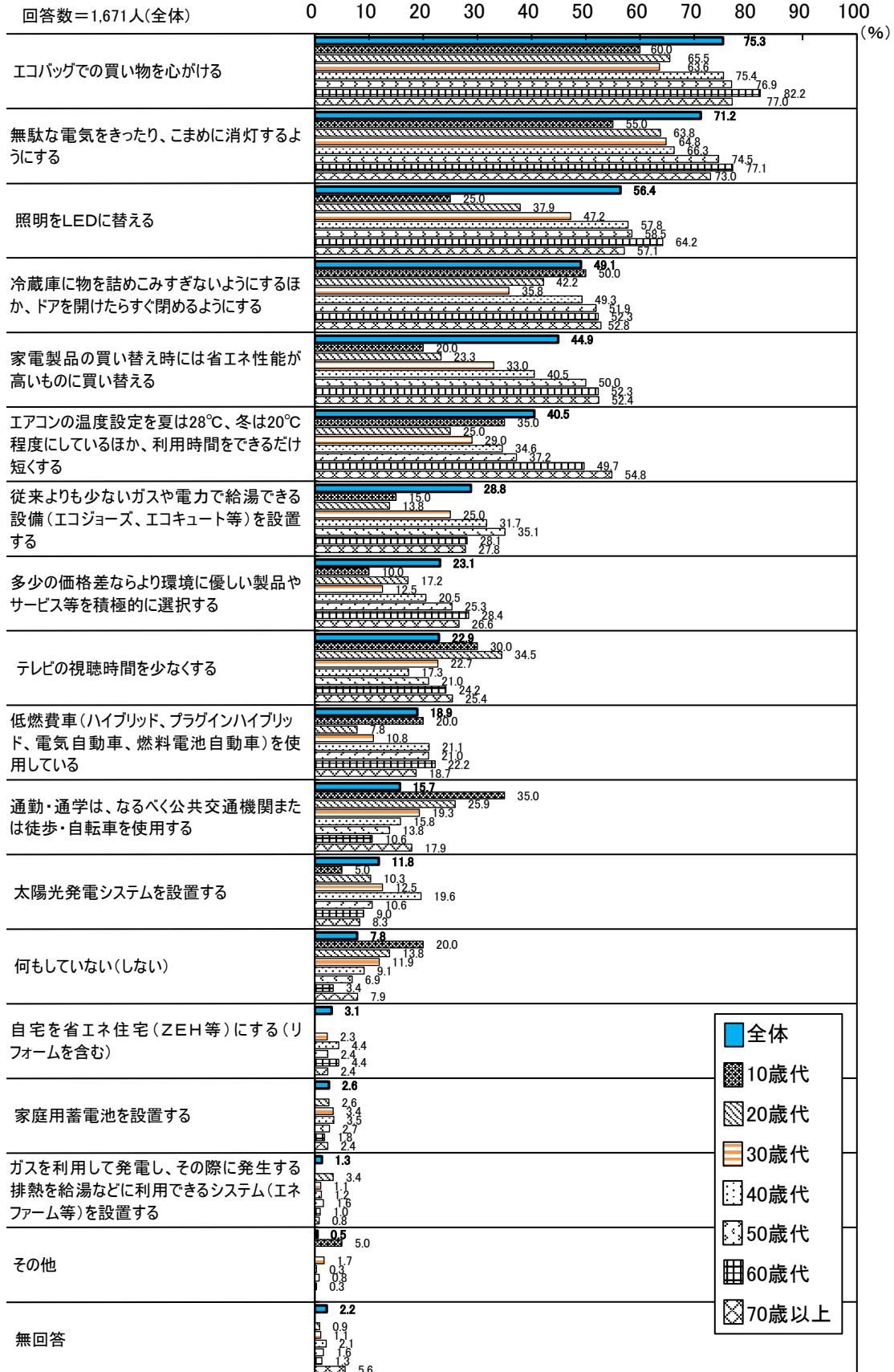
男性では「無駄な電気をきったり、こまめに消灯するようにする」65.2%が最も高く、女性では「エコバッグでの買い物を心がける」85.8%が最も高くなっている。



【年代別】

30歳代を除くすべての年代で「エコバッグでの買い物を心がける」が最も高く、30歳代では「無駄な電気をきったり、こまめに消灯するようにする」が最も高くなっている。

《年代別》



【問 42×問 43 のクロス分析】

「地球温暖化問題に対して、どの程度関心がありますか。」という質問に対し、「地球温暖化対策について、次の中であなたが既に取り組んでいるものはありますか。」の結果を見ると、「非常に関心がある」と「少し関心がある」と回答した人では「エコバッグでの買い物を心がける」が最も高く、「ほとんど関心はない」と回答した人では「照明をLEDに替える」が、「全く関心がない」と回答した人では「何もしていない(しない)」が最も高くなっている。

《問 42×問 43 のクロス分析》

		地球温暖化対策について、既に取り組んでいるもの																					
		全体	何もしていない(しない)	エアコンの温度設定を夏は28℃、冬は20℃程度にしているほか、利用時間をできるだけ短くする	テレビの視聴時間を少なくする	冷蔵庫に物を詰めこみすぎないようにするほか、ドアを開けたらすぐ閉めるようにする	無駄な電気をきつたり、こまめに消灯するようにする	エコバッグでの買い物を心がける	車を使用する	通勤・通学は、なるべく公共交通機関または徒歩・自転車を使用する	家電製品の買い替え時には省エネ性能が高いものに買い替える	照明をLEDに替える	従来よりも少ないガスや電力で給湯できる設備(エコジョーズ、エコキュート等)を設置する	ガスを利用して発電し、その際に発生する排熱を給湯などに利用できるシステム(エネファーム等)を設置する	太陽光発電システムを設置する	家庭用蓄電池を設置する	低燃費車(ハイブリッド、プラグインハイブリッド、電気自動車、燃料電池自動車)を使用している	自宅を省エネ住宅(ZEH等)にする(リフォームを含む)	積極的に選択する	多少の価格差ならより環境に優しい製品やサービス等を	その他	無回答	
【表の見方】 上段=回答数(人) 下段=比率(%)																							
全体		1,671	131 7.8	676 40.5	382 22.9	821 49.1	1,189 71.2	1,259 75.3	263 15.7	750 44.9	943 56.4	482 28.8	22 1.3	198 11.8	44 2.6	316 18.9	51 3.1	386 23.1	9 0.5	36 2.2			
地球温暖化に対する関心度	非常に関心がある	664	3.3	49.4	26.4	55.3	80.6	84.3	16.6	55.4	64.2	34.6	1.8	13.4	3.6	23.6	4.5	34.2	0.3	1.2			
	少し関心がある	829	6.5	38.2	22.7	49.0	70.3	75.4	15.8	43.1	53.3	27.3	1.1	11.3	2.1	16.5	2.2	18.3	0.7	1.7			
	ほとんど関心がない	130	28.5	16.2	10.8	29.2	43.1	45.4	13.1	14.6	46.9	17.7	0.8	10.8	1.5	13.8	1.5	4.6	0.8	6.2			
	全く関心がない	32	50.0	9.4	15.6	12.5	31.3	25.0	9.4	12.5	31.3	6.3	-	3.1	3.1	9.4	3.1	-	-	6.3			

問 44 地球温暖化対策について、次の中で、あなたがまだ取り組んでいないが、今後取り組んでいきたいと思うものはありますか。(当てはまるものすべてに○印)

【総合】

「家電製品の買い替え時には省エネ性能が高いもの買い替える」が29.0%と1位になっている。

次いで、「多少の価格差ならより環境に優しい製品やサービス等を積極的に選択する」が24.5%、「低燃費車(ハイブリッド、プラグインハイブリッド、電気自動車、燃料電池自動車)を使用している」が24.0%と続いている。

《総合》

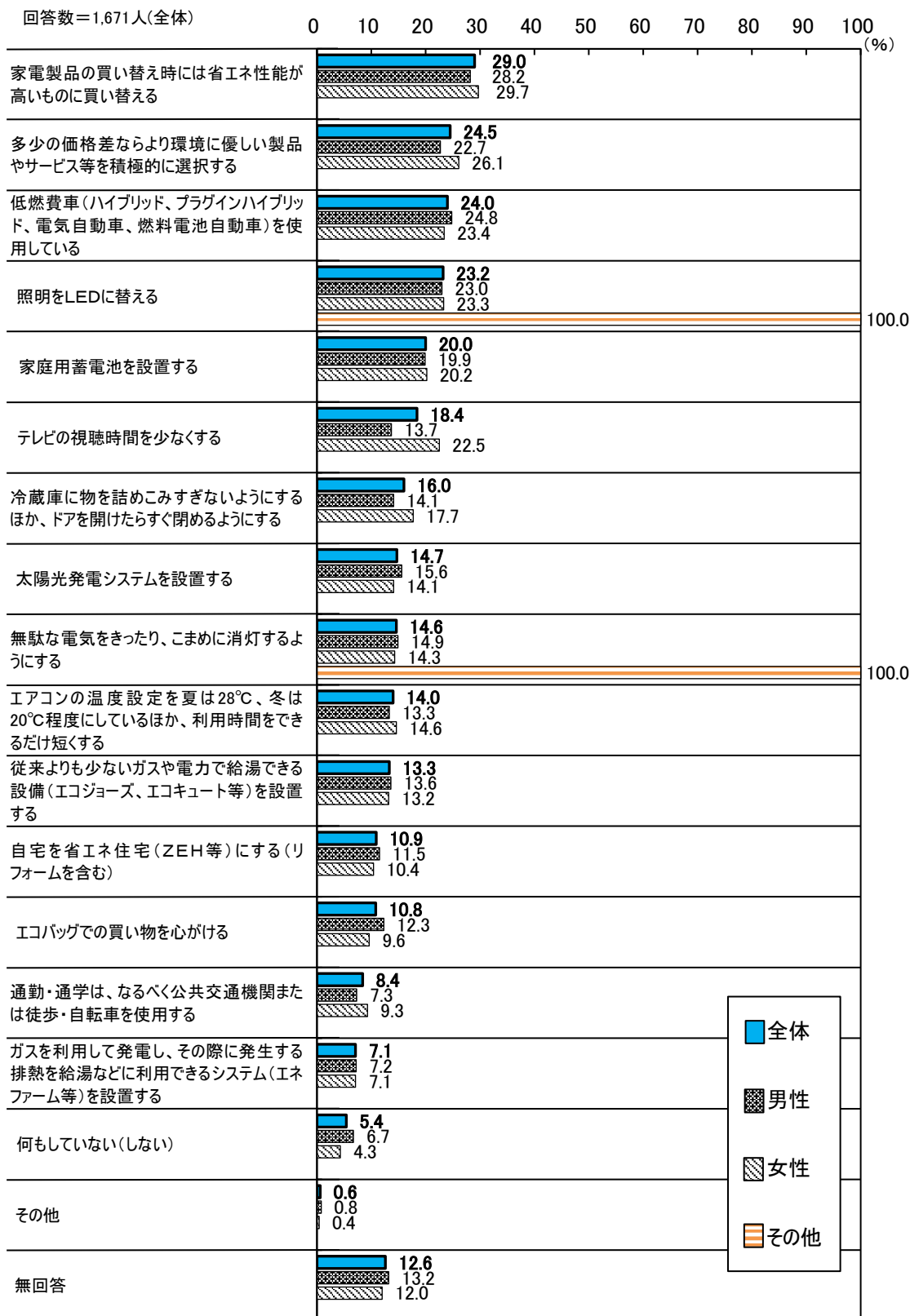
	回答数
全体	100.0 1,671 人
家電製品の買い替え時には省エネ性能が高いものに買い替える	29.0 484 人
多少の価格差ならより環境に優しい製品やサービス等を積極的に選択する	24.5 410 人
低燃費車(ハイブリッド、プラグインハイブリッド、電気自動車、燃料電池自動車)を使用している	24.0 401 人
照明をLEDに替える	23.2 387 人
家庭用蓄電池を設置する	20.0 334 人
テレビの視聴時間を少なくする	18.4 308 人
冷蔵庫に物を詰めこみすぎないようにするほか、ドアを開けたらすぐ閉めるようにする	16.0 268 人
太陽光発電システムを設置する	14.7 246 人
無駄な電気をきったり、こまめに消灯するようにする	14.6 244 人
エアコンの温度設定を夏は28℃、冬は20℃程度にしているほか、利用時間をできるだけ短くする	14.0 234 人
従来よりも少ないガスや電力で給湯できる設備(エコジョーズ、エコキュート等)を設置する	13.3 223 人
自宅を省エネ住宅(ZEH等)にする(リフォームを含む)	10.9 182 人
エコバッグでの買い物を心がける	10.8 181 人
通勤・通学は、なるべく公共交通機関または徒歩・自転車を使用する	8.4 140 人
ガスを利用して発電し、その際に発生する排熱を給湯などに利用できるシステム(エネファーム等)を設置する	7.1 119 人
何もしていない(しない)	5.4 90 人
その他	0.6 10 人
無回答	12.6 211 人

グラフ単位(%)

【性別】

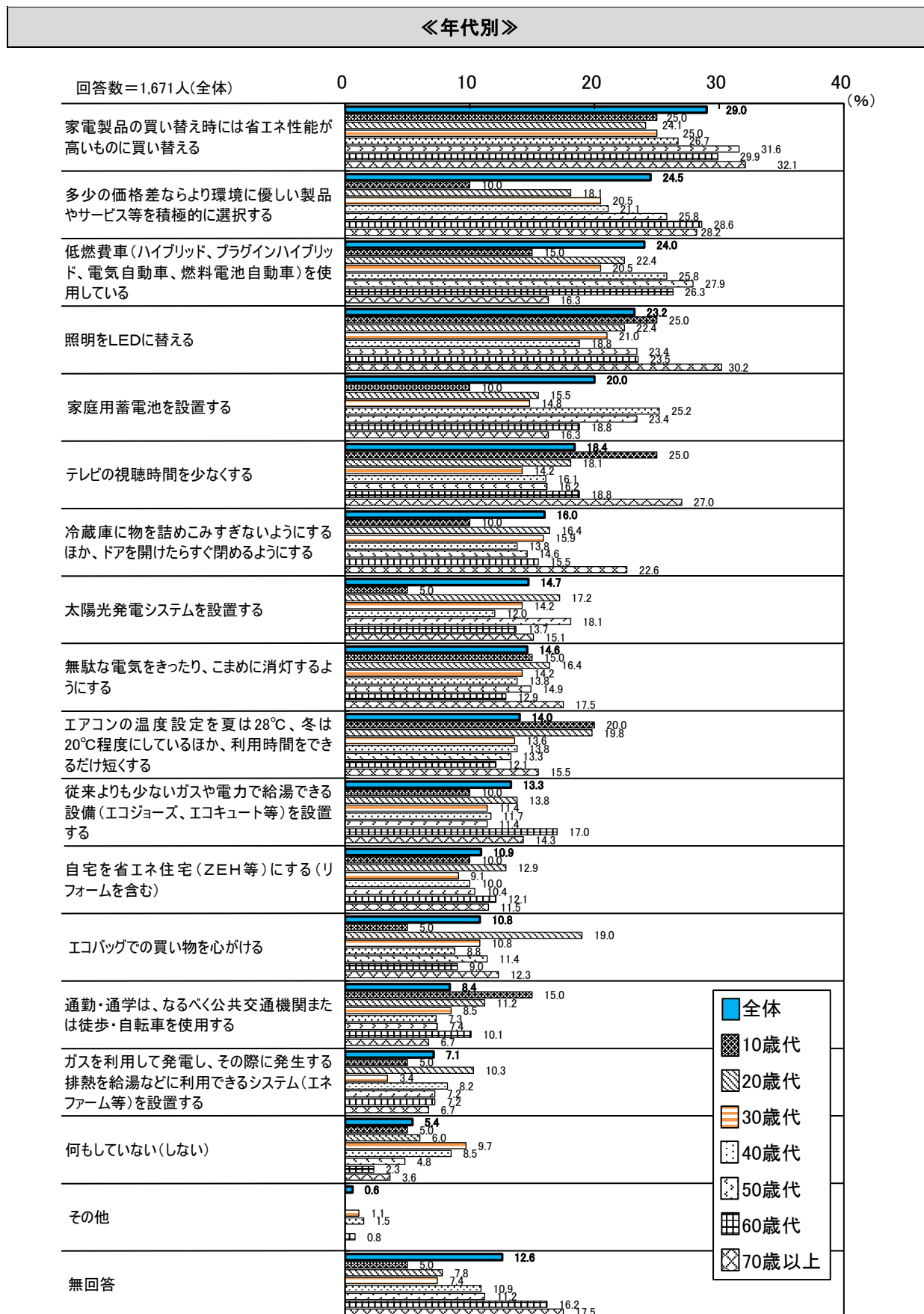
男女ともに「家電製品の買い替え時には省エネ性能が高いもの買い替える」が最も高くなっている。次いで、男性では「低燃費車（ハイブリッド、プラグインハイブリッド、電気自動車、燃料電池自動車）を使用している」が、女性では「多少の価格差ならより環境に優しい製品やサービス等を積極的に選択する」が続いている。

≪性別≫



【年代別】

すべての年代で「家電製品の買い替え時には省エネ性能が高いもの買い替える」が最も高くなっている。また、10歳代では同率で「照明をLEDに替える」と「テレビの視聴時間を少なくする」も最も高くなっている。



【問 42×問 44 のクロス分析】

「地球温暖化問題に対して、どの程度関心がありますか。」という質問に対し、「地球温暖化対策について、あなたがまだ取り組んでいないが、今後取り組んでいきたいと思うものはありますか。」の結果を見ると、「非常に関心がある」と回答した人では「低燃費車（ハイブリッド、プラグインハイブリッド、電気自動車、燃料電池自動車）を使用している」が最も高く、「少し関心がある」と回答した人では「家電製品の買い替え時には省エネ性能が高いものに買い替える」が、「ほとんど関心がない」、「全く関心がない」と回答した人では「何もしていない（しない）」が最も高くなっている。

《問 42×問 44 のクロス分析》

		地球温暖化対策について、今後取り組んでいきたいもの																		
		全体	何もしていない（しない）	エアコンの温度設定を夏は28℃、冬は20℃程度にしているほか、利用時間をできるだけ短くする	テレビの視聴時間を少なくする	冷蔵庫に物を詰めこみすぎないようにするほか、ドアを開けたらすぐ閉めるようにする	無駄な電気をきつたり、こまめに消灯するようにする	エコバッグでの買い物を心がける	通勤・通学は、なるべく公共交通機関または徒歩・自転車を使用する	家電製品の買い替え時には省エネ性能が高いものに買い替える	照明をLEDに替える	従来よりも少ないガスや電力で給湯できる設備（エコジョーズ、エコキュート等）を設置する	ガスを利用して発電し、その際に発生する排熱を給湯などに利用できるシステム（エネファーム等）を設置する	太陽光発電システムを設置する	家庭用蓄電池を設置する	低燃費車（ハイブリッド、プラグインハイブリッド、電気自動車、燃料電池自動車）を使用している	自宅を省エネ住宅（ZEH等）にする（リフォームを含む）	多少の価格差ならより環境に優しい製品やサービス等を積極的に選択する	その他	無回答
全体		1,671	90	234	308	268	244	181	140	484	387	223	119	246	334	401	182	410	10	211
			5.4	14.0	18.4	16.0	14.6	10.8	8.4	29.0	23.2	13.3	7.1	14.7	20.0	24.0	10.9	24.5	0.6	12.6
地球温暖化に対する関心	非常に関心がある	664	3.0	14.2	19.1	15.4	11.4	9.5	10.4	28.5	23.9	16.3	9.8	18.7	25.8	28.6	15.4	28.2	0.9	12.8
	少し関心がある	829	3.4	15.0	19.5	16.9	16.3	11.0	7.7	31.1	24.4	12.3	6.4	13.3	18.3	22.9	9.2	24.1	0.5	11.6
	ほとんど関心がない	130	23.1	10.0	11.5	12.3	20.0	16.2	3.8	21.5	14.6	9.2	0.8	6.2	3.8	11.5	2.3	13.8	-	15.4
	全く関心がない	32	37.5	3.1	6.3	21.9	6.3	12.5	3.1	12.5	12.5	3.1	-	9.4	12.5	12.5	-	6.3	-	15.6

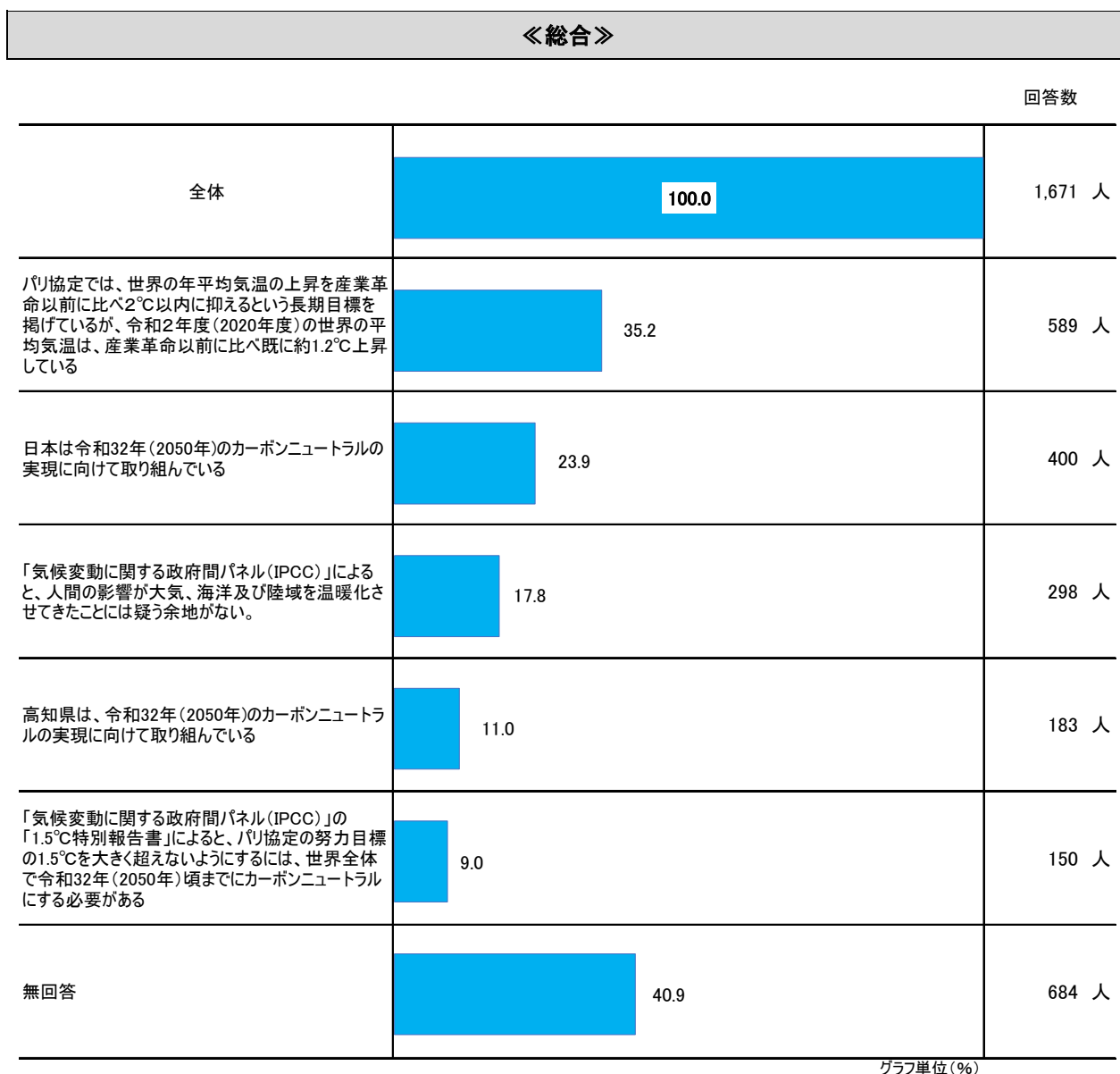
【表の見方】
上段＝回答数(人)
下段＝比率(%)

問 45 地球温暖化問題について、次のことを知っていましたか。(当てはまるものすべてに○印)

【総合】

「パリ協定では、世界の年平均気温の上昇を産業革命以前に比べ2℃以内に抑えるという長期目標を掲げているが、令和2年度(2020年度)の世界の平均気温は、産業革命以前に比べ既に約1.2℃上昇している」が35.2%と1位になっている。

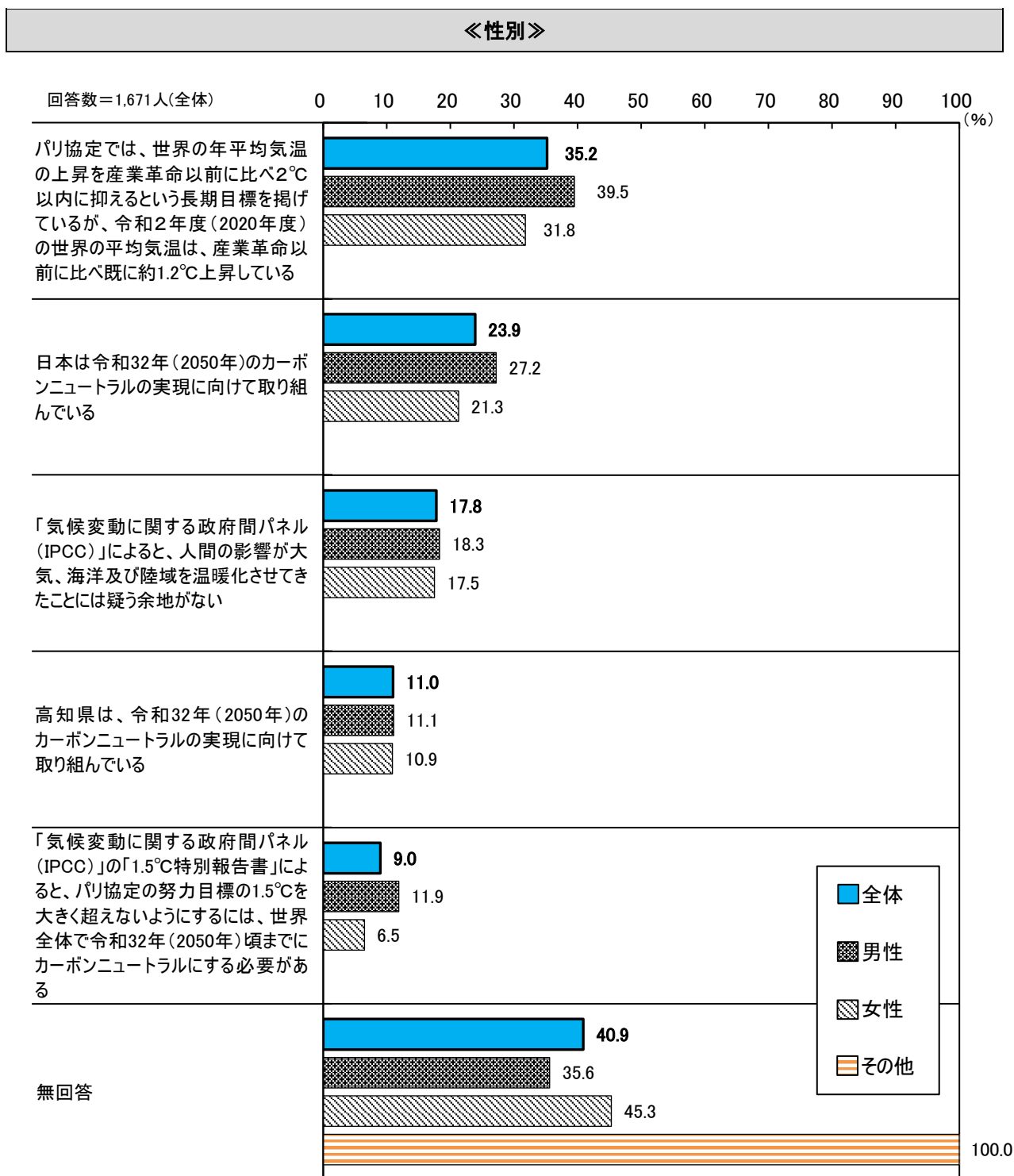
次いで、「日本は令和32年(2050年)のカーボンニュートラルの実現に向けて取り組んでいる」が23.9%、「気候変動に関する政府間パネル(IPCC)」によると、人間の影響が大気、海洋及び陸域を温暖化させてきたことには疑う余地がない。」が17.8%と続いている。



グラフ単位(%)

【性別】

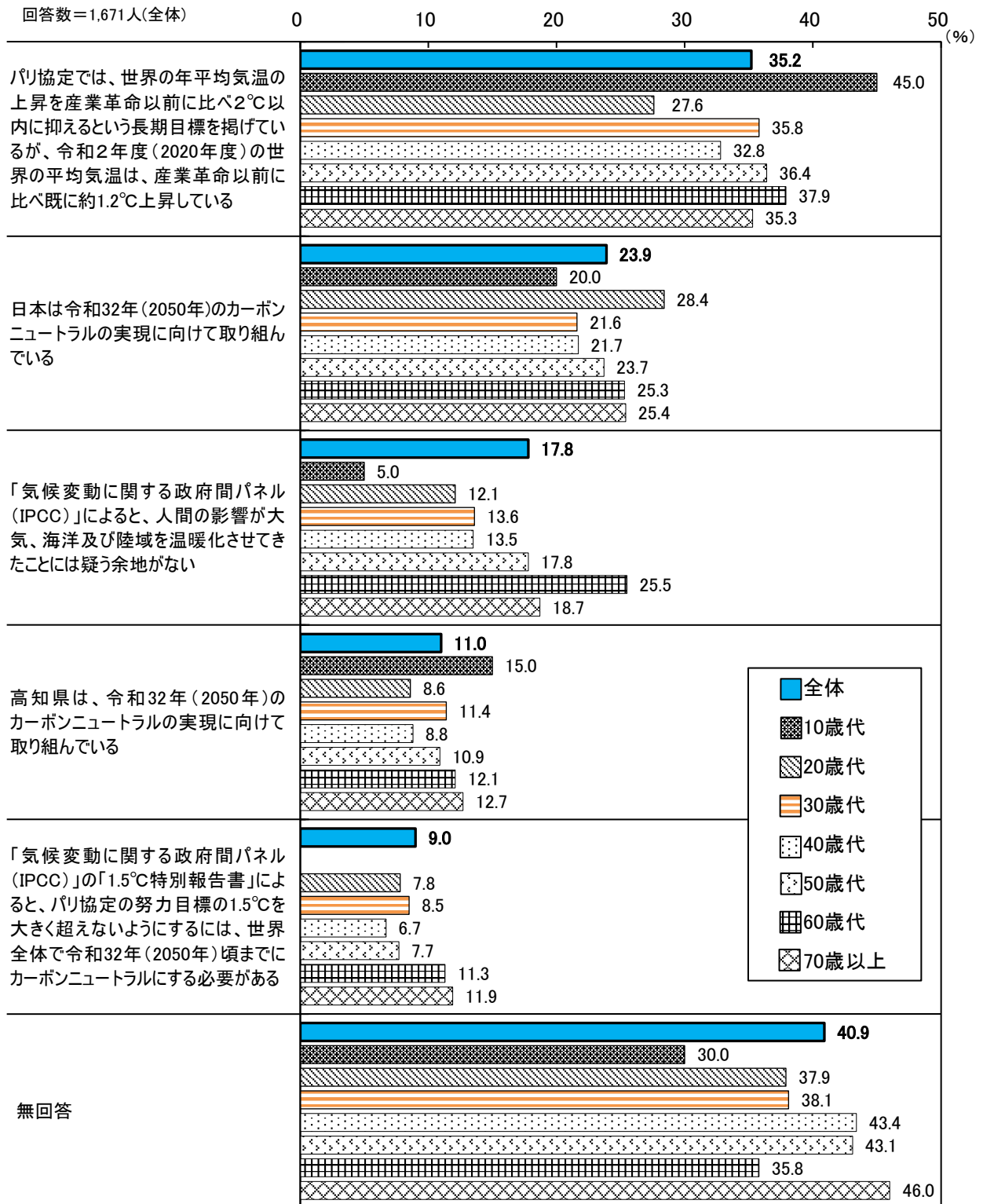
男女ともに「総合」とほぼ同じ傾向となっている。



【年代別】

20歳代を除くすべての年代で「パリ協定では、世界の年平均気温の上昇を産業革命以前に比べ2℃以内に抑えるという長期目標を掲げているが、令和2年度(2020年度)の世界の平均気温は、産業革命以前に比べ既に約1.2℃上昇している」が最も高く、20歳代では「日本は令和32年(2050年)のカーボンニュートラルの実現に向けて取り組んでいる」が最も高くなっている。

《年代別》



問 46 今後、温室効果ガスの排出を削減していくために、県が力を入れるべき施策は何だと考えますか。
(当てはまるものすべてに○印)

【総合】

「再生可能エネルギー（太陽光発電、水力発電、風力発電、バイオマス発電等）の普及拡大に向けた支援の強化」が44.0%と1位になっている。

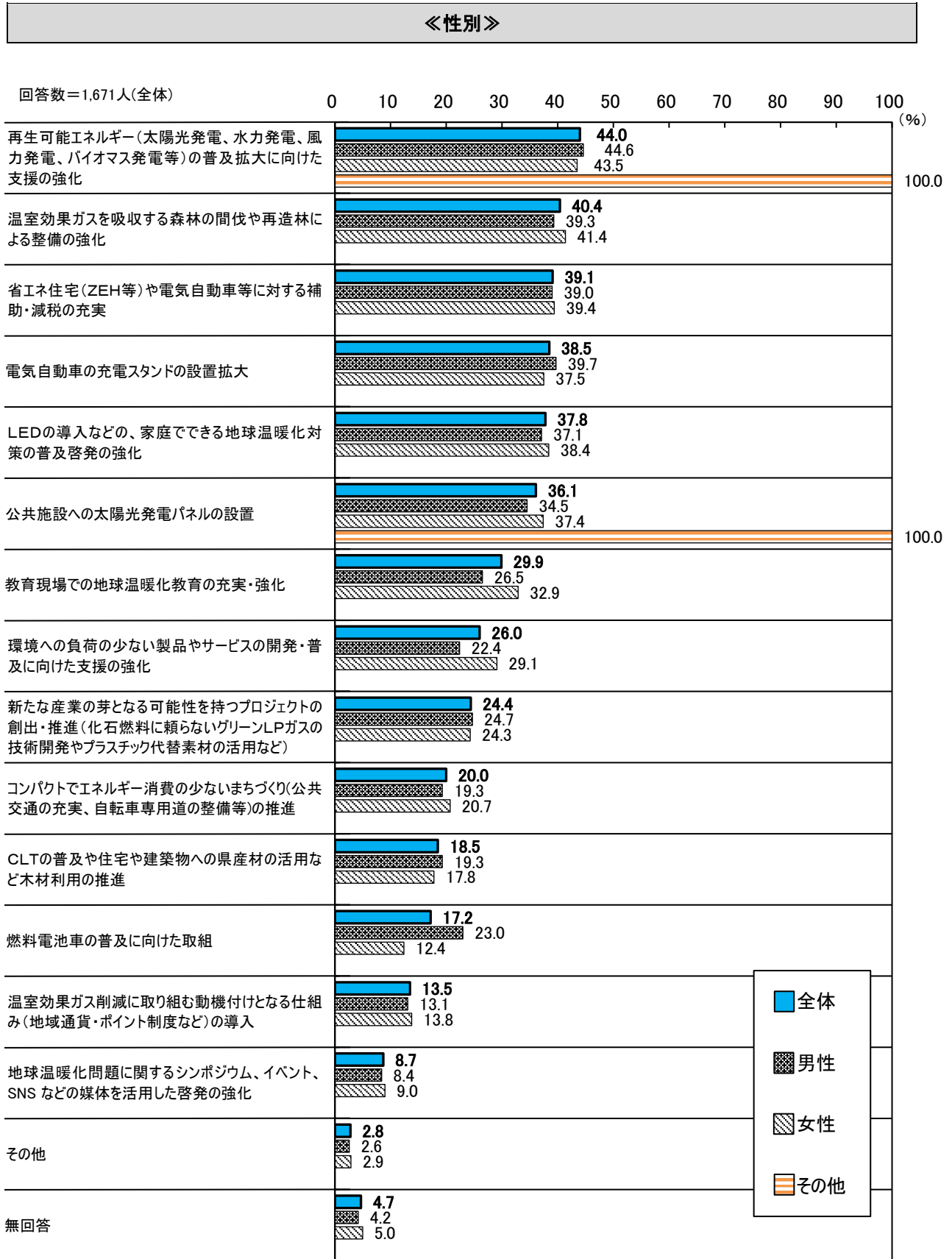
次いで、「温室効果ガスを吸収する森林の間伐や再造林による整備の強化」が40.4%、「省エネ住宅（ZEH等）や電気自動車等に対する補助・減税の充実」が39.1%と続いている。

《総合》		回答数
全体	100.0	1,671 人
再生可能エネルギー（太陽光発電、水力発電、風力発電、バイオマス発電等）の普及拡大に向けた支援の強化	44.0	735 人
温室効果ガスを吸収する森林の間伐や再造林による整備の強化	40.4	675 人
省エネ住宅（ZEH等）や電気自動車等に対する補助・減税の充実	39.1	654 人
電気自動車の充電スタンドの設置拡大	38.5	644 人
LEDの導入などの、家庭でできる地球温暖化対策の普及啓発の強化	37.8	631 人
公共施設への太陽光発電パネルの設置	36.1	603 人
教育現場での地球温暖化教育の充実・強化	29.9	500 人
環境への負荷の少ない製品やサービスの開発・普及に向けた支援の強化	26.0	434 人
新たな産業の芽となる可能性を持つプロジェクトの創出・推進（化石燃料に頼らないグリーンLPガスの技術開発やプラスチック代替素材の活用など）	24.4	408 人
コンパクトでエネルギー消費の少ないまちづくり（公共交通の充実、自転車専用道の整備等）の推進	20.0	335 人
CLTの普及や住宅や建築物への県産材の活用など木材利用の推進	18.5	309 人
燃料電池車の普及に向けた取組	17.2	288 人
温室効果ガス削減に取り組む動機付けとなる仕組み（地域通貨・ポイント制度など）の導入	13.5	225 人
地球温暖化問題に関するシンポジウム、イベント、SNSなどの媒体を活用した啓発の強化	8.7	145 人
その他	2.8	46 人
無回答	4.7	78 人

グラフ単位(%)

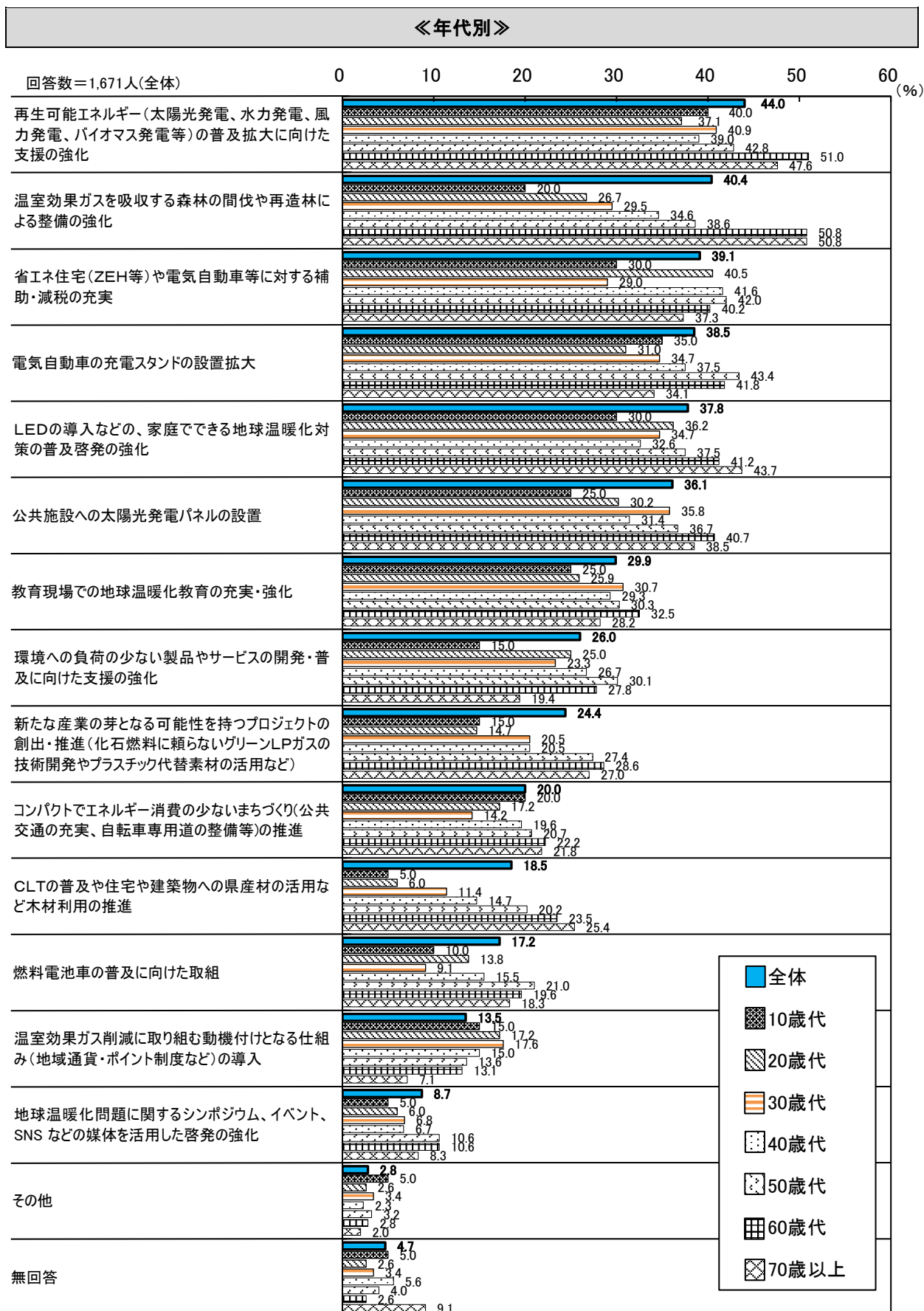
【性別】

男女ともに「再生可能エネルギー（太陽光発電、水力発電、風力発電、バイオマス発電等）の普及拡大に向けた支援の強化」が最も高くなっている。



【年代別】

10歳代、30歳代、60歳代では「再生可能エネルギー（太陽光発電、水力発電、風力発電、バイオマス発電等）の普及拡大に向けた支援の強化」が最も高く、20歳代、40歳代では「省エネ住宅（ZEH等）や電気自動車等に対する補助・減税の充実」が、50歳代では「電気自動車の充電スタンドの設置拡大」が、70歳以上では「温室効果ガスを吸収する森林の間伐や再造林による整備の強化」が最も高くなっている。



【問 42×問 46 のクロス分析】

「地球温暖化問題に対して、どの程度関心がありますか。」という質問に対し、「今後、温室効果ガスの排出を削減していくために、県が力を入れるべき施策は何だと考えますか。」の結果を見ると、「非常に関心がある」と回答した人では「温室効果ガスを吸収する森林の間伐や再造林による整備の強化」が最も高く、「少し関心がある」と回答した人では「再生可能エネルギー（太陽光発電、水力発電、風力発電、バイオマス発電等）の普及拡大に向けた支援の強化」が、「ほとんど関心がない」と回答した人では「省エネ住宅（ZEH等）や電気自動車等に対する補助・減税の充実」が、「全く関心がない」と回答した人では「LEDの導入などの、家庭でできる地球温暖化対策の普及啓発の強化」が最も高くなっている。

<p style="text-align: center;">≪問 42×問 46 のクロス分析≫</p>																		
<p style="text-align: center;">温室ガスの排出を削減していくために、県が力を入れるべき施策</p>																		
	全体	省エネ住宅（ZEH等）や電気自動車等に対する補助・減税の充実	電気自動車の充電スタンドの設置拡大	燃料電池車の普及に向けた取組	再生可能エネルギー（太陽光発電、水力発電、風力発電、バイオマス発電等）の普及拡大に向けた支援の強化	公共施設への太陽光発電パネルの設置	環境への負荷の少ない製品やサービスの開発・普及に向けた支援の強化	通の充実、自転車専用道の整備等）の推進	温室効果ガスを吸収する森林の間伐や再造林による整備の強化	CLTの普及や住宅や建築物への県産材の活用など木材利用の推進	地球温暖化問題に関するシンポジウム、イベント、SNSなどの媒体を活用した啓発の強化	LEDの導入などの、家庭でできる地球温暖化対策の普及啓発の強化	教育現場での地球温暖化教育の充実・強化	温室効果ガス削減に取り組む動機付けとなる仕組み（地域通貨・ポイント制度など）の導入	新たな産業の芽となる可能性を持つプロジェクトの創出・推進（化石燃料に頼らないグリーンLPガスの技術開発やプラスチック代替素材の活用など）	その他	無回答	
【表の見方】	上段=回答数(人)		下段=比率(%)															
全体	1,671	654 39.1	644 38.5	288 17.2	735 44.0	603 36.1	434 26.0	335 20.0	675 40.4	309 18.5	145 8.7	631 37.8	500 29.9	225 13.5	408 24.4	46 2.8	78 4.7	
地球温暖化に対する関心度	非常に関心がある	664	45.8	42.2	22.0	53.2	41.4	32.1	27.3	53.5	24.1	14.8	42.9	38.1	17.5	31.5	2.0	2.1
	少し関心がある	829	36.3	38.1	15.1	41.1	35.5	24.5	16.8	34.7	15.8	5.3	36.6	27.1	12.1	20.9	2.3	4.6
	ほとんど関心がない	130	32.3	30.0	10.8	22.3	20.8	11.5	7.7	20.0	8.5	2.3	22.3	13.1	6.2	15.4	4.6	13.1
	全く関心がない	32	15.6	15.6	6.3	18.8	12.5	6.3	3.1	-	6.3	-	28.1	3.1	3.1	3.1	25.0	18.8

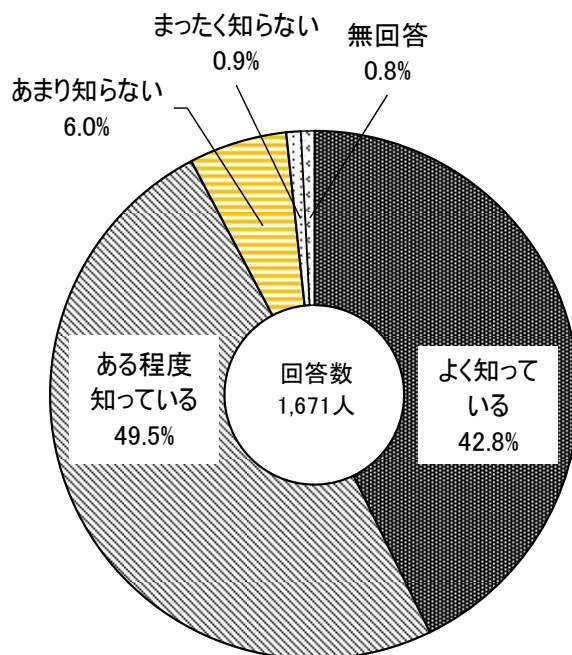
問 47 あなたは、「食品ロス」が問題となっていることを知っていますか。(1つだけ○印)

【総合】

「ある程度知っている」が49.5%と1位になっている。

次いで、「よく知っている」が42.8%、「あまり知らない」が6.0%と続いている。

《総合》

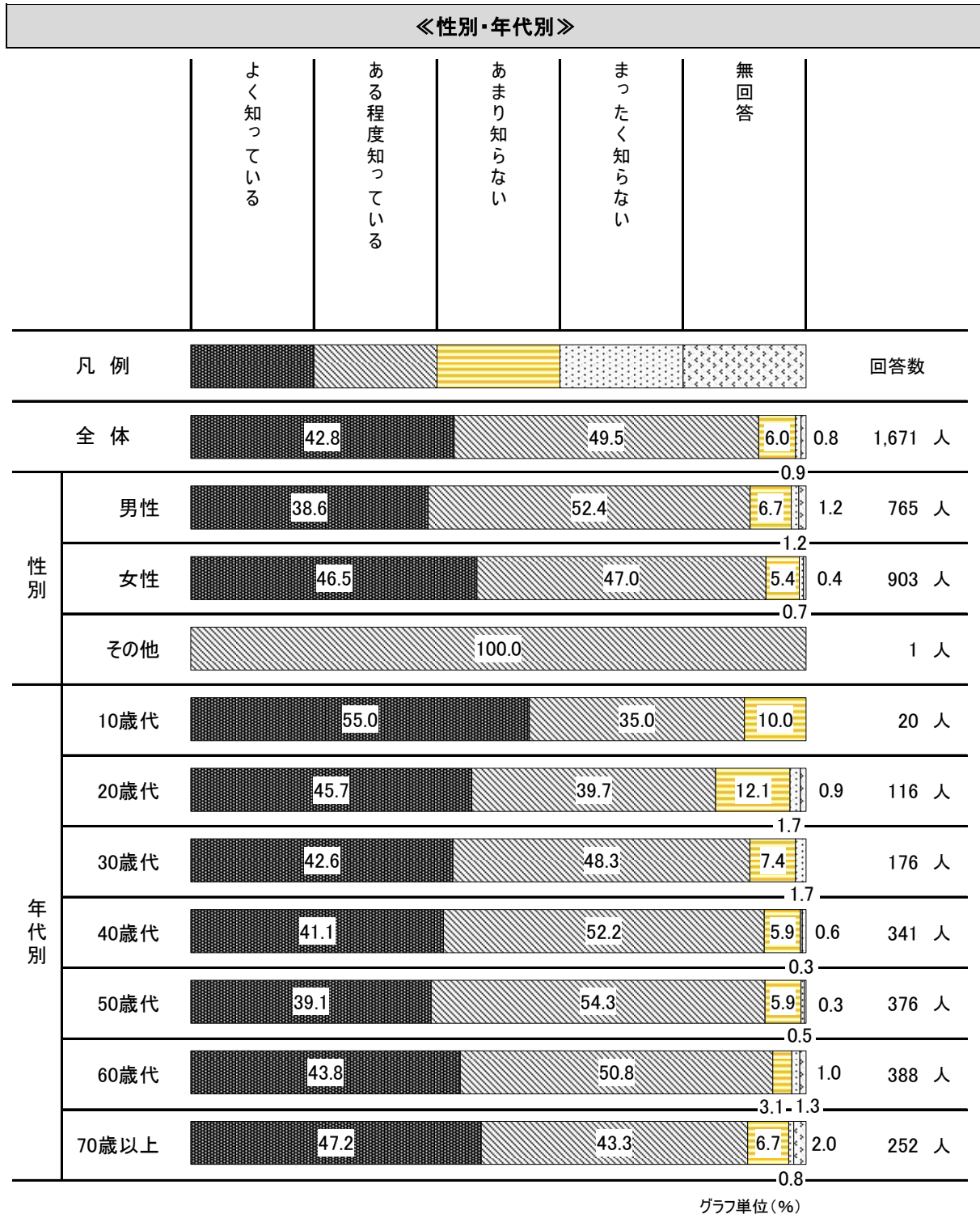


【性別】

男女ともに「ある程度知っている」が最も高くなっている。また、「よく知っている」では女性の方が46.5%と、男性の38.6%よりも7.9ポイント高くなっている。

【年代別】

10歳代、20歳代、70歳以上では「よく知っている」が最も高く、30歳代、40歳代、50歳代、60歳代では「ある程度知っている」が最も高くなっている。

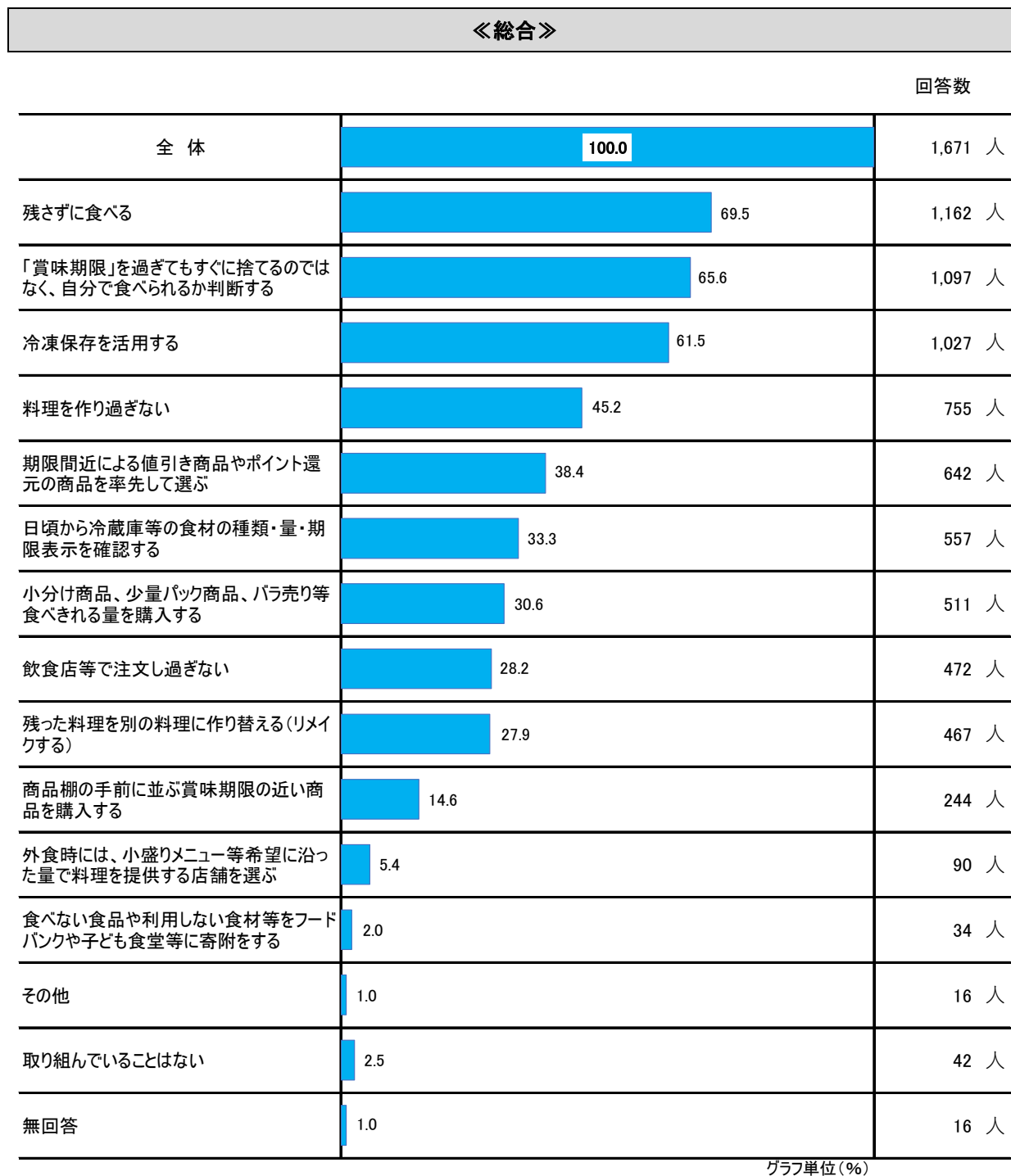


問 48 あなたは、「食品ロス」を減らすために取り組んでいることはありますか。(当てはまるものすべてに○印)

【総合】

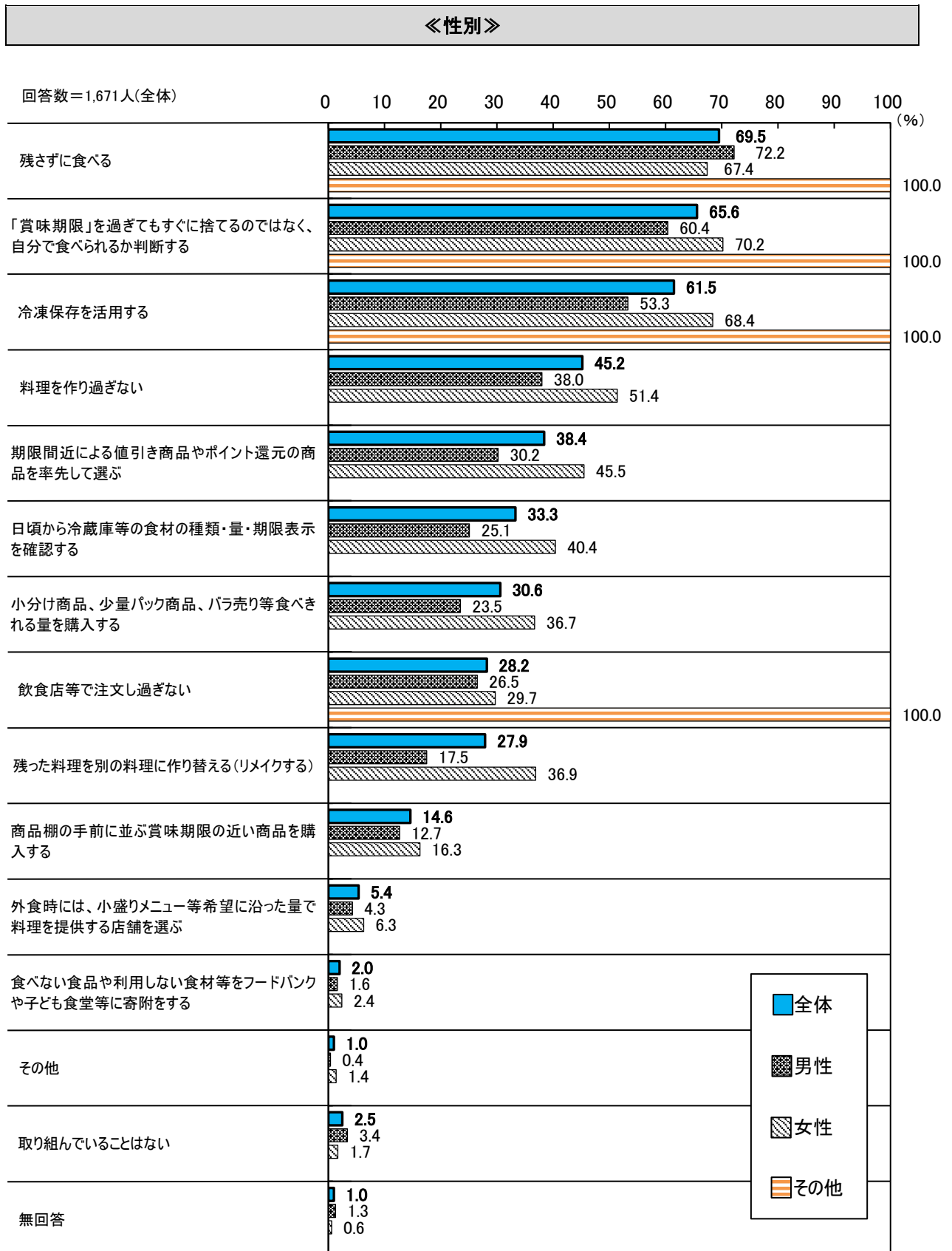
「残さずに食べる」が 69.5%と 1 位になっている。

次いで、「賞味期限」を過ぎてもすぐに捨てるのではなく、自分で食べられるか判断する」が 65.6%、「冷凍保存を活用する」が 61.5%と続いている。



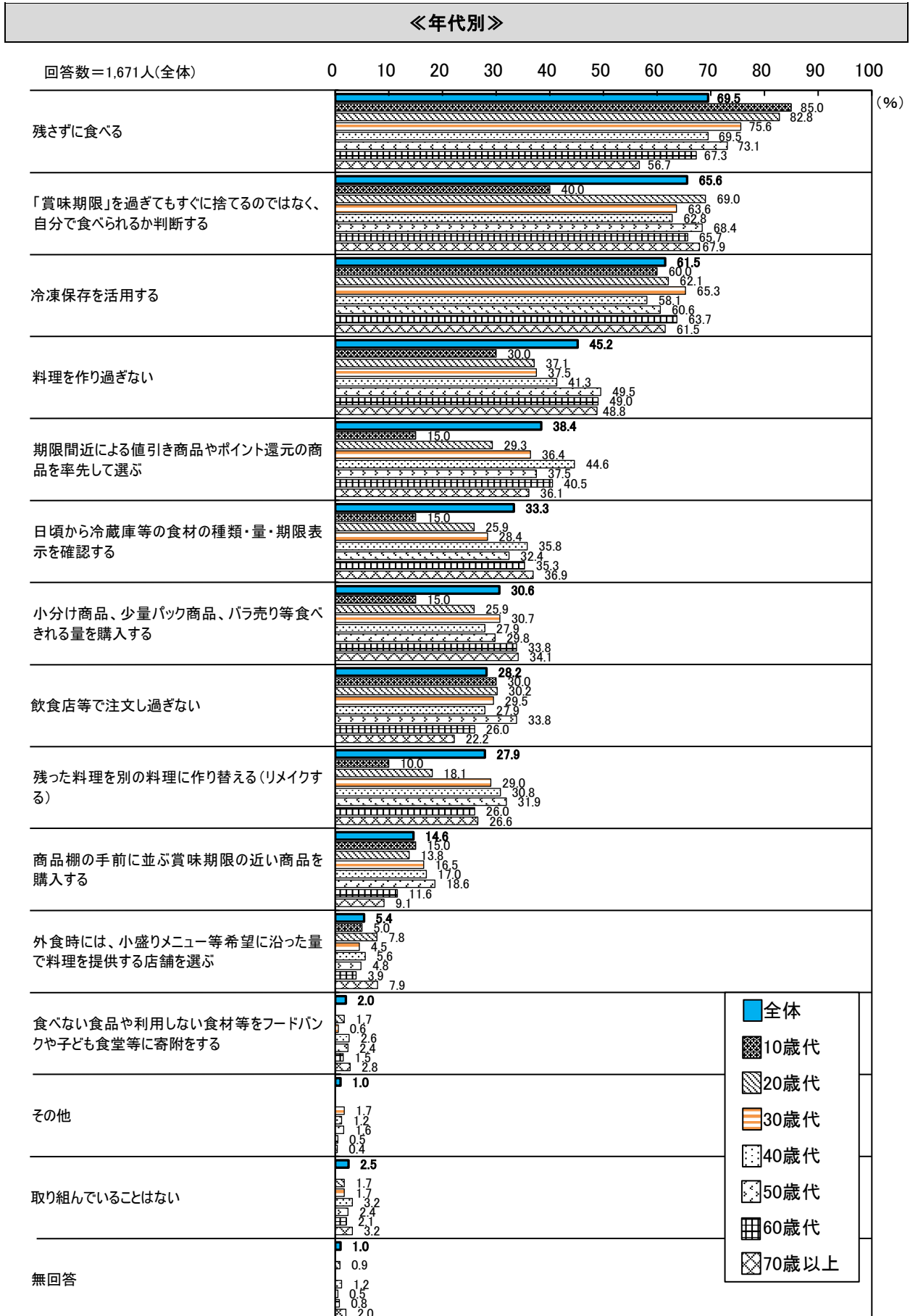
【性別】

男性では「残さずに食べる」が最も高く、女性では「賞味期限」を過ぎてもすぐに捨てるのではなく、自分で食べられるか判断する」が最も高くなっている。



【年代別】

70歳以上を除くすべての年代で「残さずに食べる」が最も高く、70歳以上では「賞味期限」を過ぎてもすぐに捨てるのではなく、自分で食べられるか判断する」が最も高くなっている。



【問 42×問 48 のクロス分析】

「地球温暖化問題に対して、どの程度関心がありますか。」という質問に対し、「あなたは、「食品ロス」を減らすために取り組んでいることはありますか。」の結果を見ると、地球温暖化問題に対しての関心度にかかわらず「残さずに食べる」が最も高くなっている。また、「全く関心がない」では同率で「冷凍保存を活用する」も最も高くなっている。

《問 42×問 48 のクロス分析》

		「食品ロス」を減らすために取り組んでいること																
		全体	料理を作り過ぎない	残さずに食べる	残った料理を別の料理に作り替える (リメイクする)	冷凍保存を活用する	日頃から冷蔵庫等の食材の種類・量・期限表示を確認する	「賞味期限」を過ぎててもすぐに捨てるのではなく、自分で食べられるか判断する	小分け商品、少量パック商品、バラ売り等食べきれぬ量を購入する	商品棚の手前に並ぶ賞味期限の近い商品を購入する	商品棚の手前に並ぶ賞味期限の近い商品を購入する	期限間近による値引き商品やポイント還元の商品を率先して選ぶ	飲食店等で注文し過ぎない	外食時には、小盛りメニュー等希望に沿った量で料理を提供する店舗を選ぶ	食べない食品や利用しない食材等をフードバンクや子ども食堂等に寄付をする	その他	取り組んでいることはない	無回答
【表の見方】 上段=回答数(人) 下段=比率(%)																		
全体		1,671	755 45.2	1,162 69.5	467 27.9	1,027 61.5	557 33.3	1,097 65.6	511 30.6	244 14.6	642 38.4	472 28.2	90 5.4	34 2.0	16 1.0	42 2.5	16 1.0	
地球温暖化に対する関心度	非常に関心がある	664	48.3	72.0	31.8	67.5	36.4	68.8	32.4	17.6	43.4	29.1	6.8	2.6	1.7	1.2	1.2	
	少し関心がある	829	44.4	70.1	26.5	59.3	33.4	68.2	30.5	13.3	36.8	29.6	4.8	1.6	0.5	1.8	0.6	
	ほとんど関心がない	130	37.7	61.5	20.8	50.0	23.8	45.4	26.2	9.2	29.2	21.5	3.1	2.3	0.8	9.2	0.8	
	全く関心がない	32	37.5	50.0	25.0	50.0	12.5	37.5	15.6	9.4	18.8	9.4	3.1	3.1	-	21.9	-	

【問 47×問 48 のクロス分析】

「食品ロス」が問題となっていることを知っていますか。」という質問に対し、「あなたは、「食品ロス」を減らすために取り組んでいることはありますか。」の結果を見ると、「食品ロス」問題に対しての関心度にかかわらず「残さずに食べる」が最も高くなっており、関心度が大きいほど高くなる傾向にある。

<div style="text-align: center;"> ≪問 47×問 48 のクロス分析≫ </div>																		
		「食品ロス」を減らすために取り組んでいること																
		全体	料理を作り過ぎない	残さずに食べる	残った料理を別の料理に作り替える (リメイクする)	冷凍保存を活用する	日頃から冷蔵庫等の食材の種類・量・期限表示を確認する	賞味期限を過ぎてみずぐに捨てるのではなく、自分で食べられるか判断する	小分け商品、少量パック商品、バラ売り等食べられる量を購入する	商品棚の手前に並ぶ賞味期限の近い商品を購入する	商品棚の手前に並ぶ賞味期限の近い商品を購入する	期限間近による値引き商品やポイント還元の商品を率先して選ぶ	飲食店等で注文し過ぎない	外食時には、小盛りメニュー等希望に沿った量で料理を提供する店舗を選ぶ	食べない食品や利用しない食材等をフードバンクや子ども食堂等に寄付をする	その他	取り組んでいることはない	無回答
【表の見方】 上段＝回答数(人) 下段＝比率(%)		全体	1,671	755	1,162	467	1,027	557	1,097	511	244	642	472	90	34	16	42	16
				45.2	69.5	27.9	61.5	33.3	65.6	30.6	14.6	38.4	28.2	5.4	2.0	1.0	2.5	1.0
食品ロス問題の認知度	よく知っている	715	51.9	73.0	32.2	69.9	38.6	72.7	31.7	19.6	47.0	31.5	6.9	2.7	2.0	1.3	0.1	
	ある程度知っている	827	41.8	68.1	25.9	57.9	31.2	64.4	30.5	11.4	34.0	27.3	4.6	1.7	0.1	2.1	0.6	
	あまり知らない	100	33.0	67.0	20.0	41.0	20.0	39.0	29.0	10.0	21.0	20.0	3.0	1.0	1.0	10.0	-	
	まったく知らない	15	13.3	46.7	6.7	26.7	13.3	20.0	6.7	-	13.3	6.7	-	-	-	40.0	6.7	

11. LCC(Low Cost Carrier)路線の利用促進について

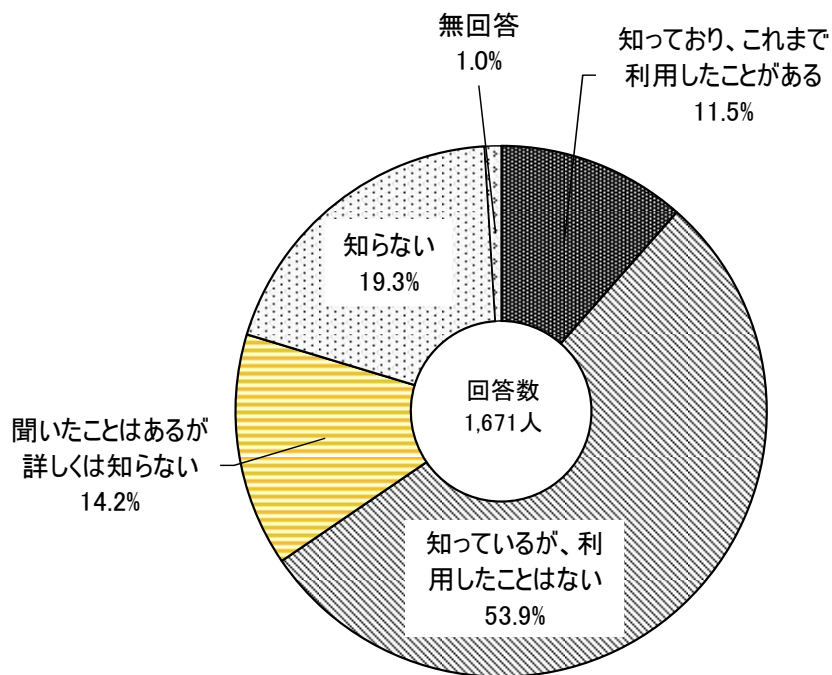
問 49 航空運賃の安い LCC(Low Cost Carrier)を知っていますか。(1つだけ○印)

【総合】

「知っているが、利用したことはない」が53.9%と1位になっている。

次いで、「知らない」が19.3%、「聞いたことはあるが詳しくは知らない」が14.2%と続いている。

《総合》

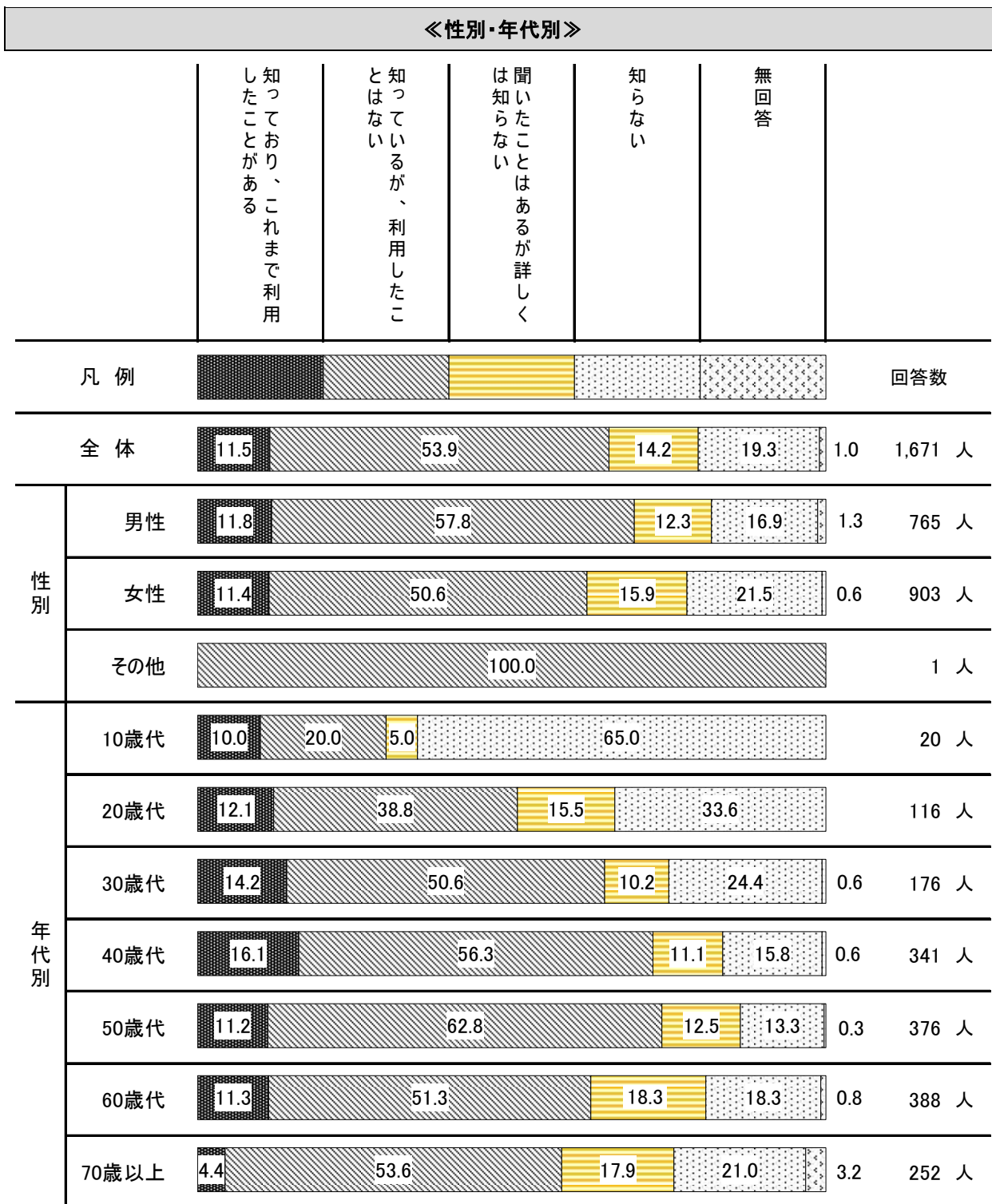


【性別】

男女ともに「知っているが、利用したことはない」が最も高くなっている。

【年代別】

10歳代を除くすべての年代で「知っているが、利用したことはない」が最も高く、10歳代では「知らない」が最も高くなっている。



グラフ単位(%)

副問1（問 49 で「1」を選んだ方のみお答えください。）

これまでどの路線を利用したことがありますか。（当てはまるものすべてに○印）

【総合】

「その他路線を利用したことがある」が 46.1%と 1 位になっている。

次いで、「高知-成田線を利用したことがある」が 40.9%、「高知-関西線(無期限運休中)を利用したことがある」が 29.0%と続いている。

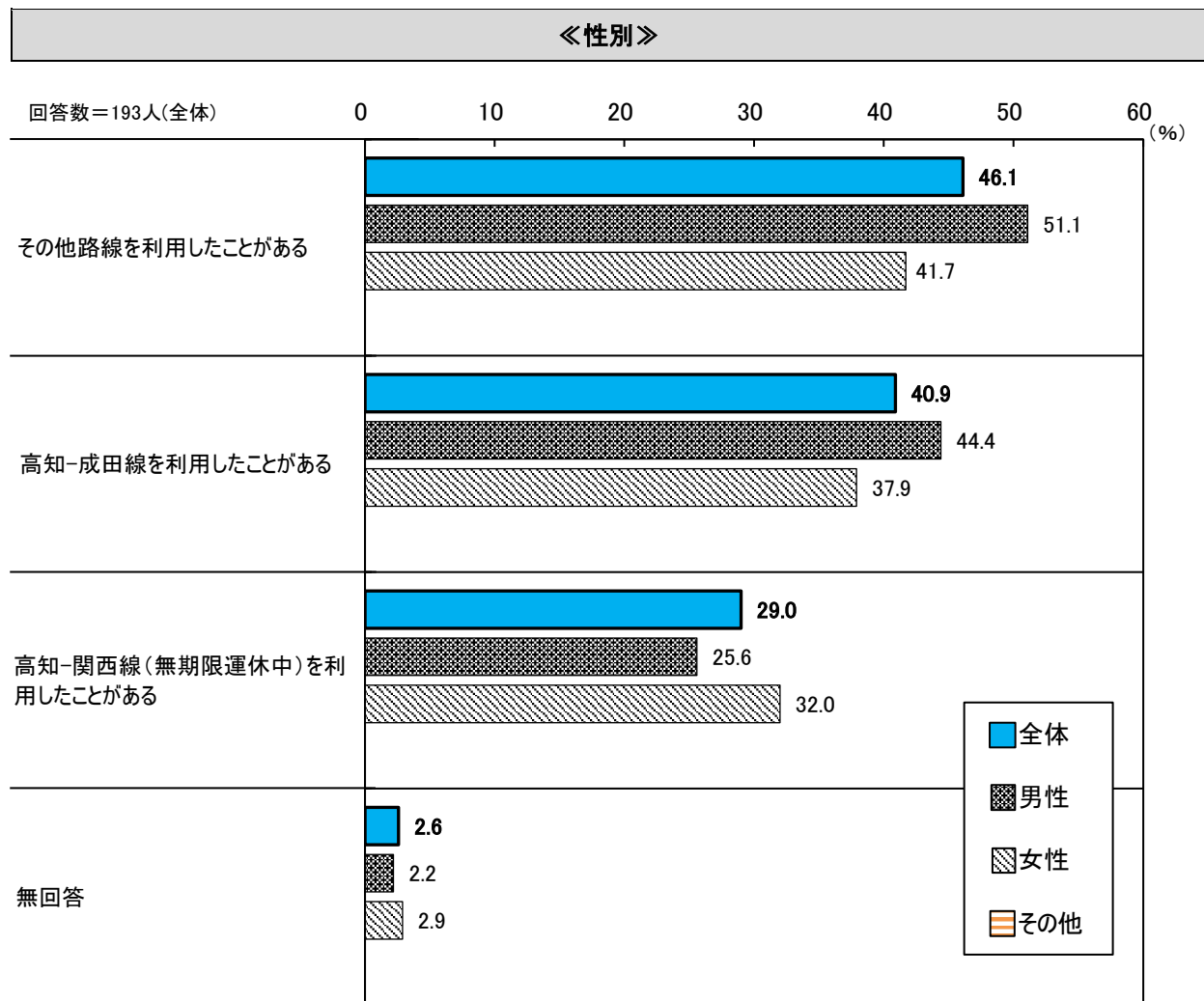
《総合》

		回答数
全体	100.0	193 人
その他路線を利用したことがある	46.1	89 人
高知-成田線を利用したことがある	40.9	79 人
高知-関西線(無期限運休中)を利用したことがある	29.0	56 人
無回答	2.6	5 人

グラフ単位(%)

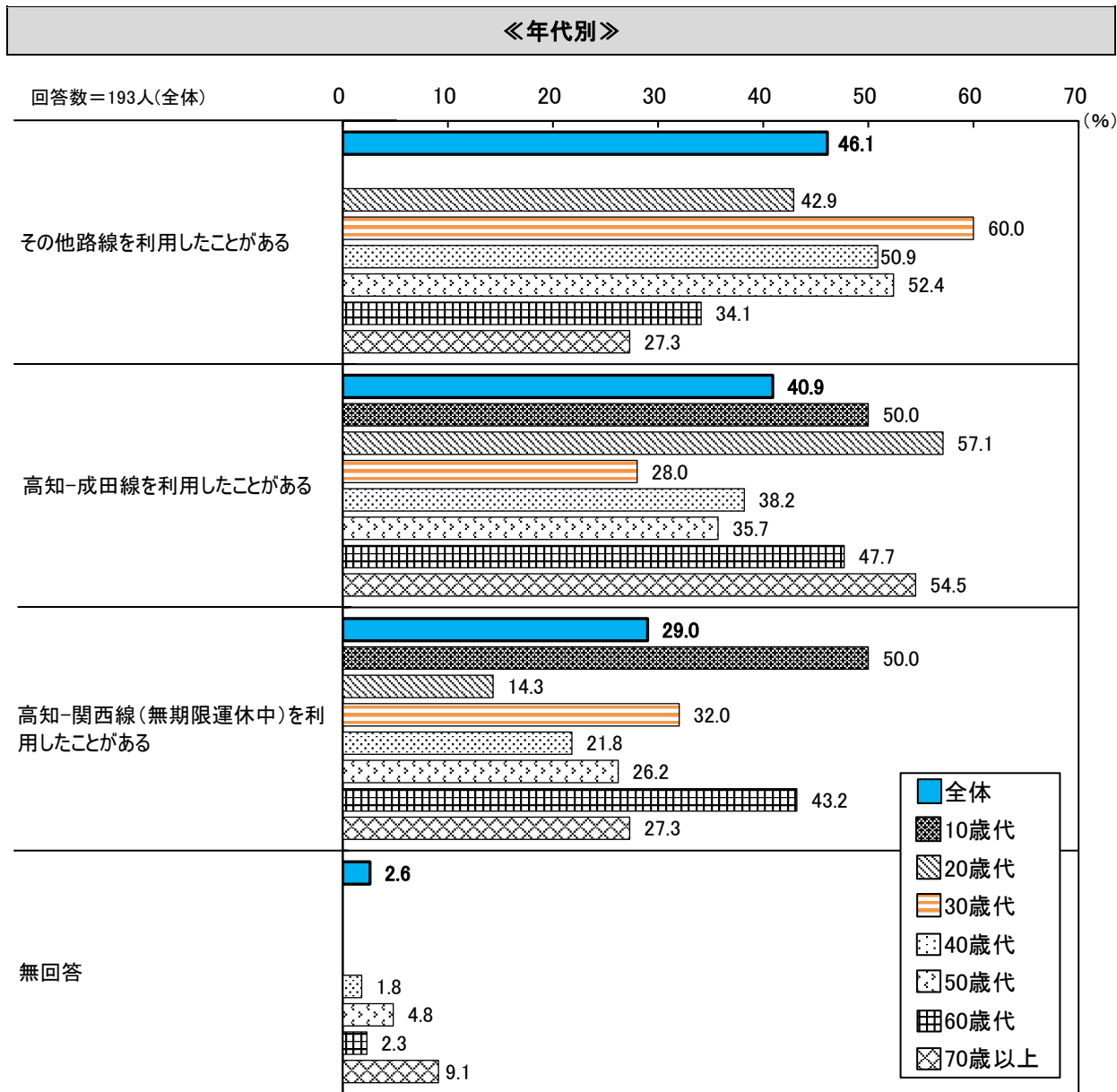
【性別】

男女ともに「その他路線を利用したことがある」が最も高くなっている。



【年代別】

10歳代では「高知-成田線を利用したことがある」と「高知-関西線(無期限運休中)を利用したことがある」が最も高く、20歳代、60歳代、70歳以上では「高知-成田線を利用したことがある」が、30歳代、40歳代、50歳代では「その他路線を利用したことがある」が最も高くなっている。



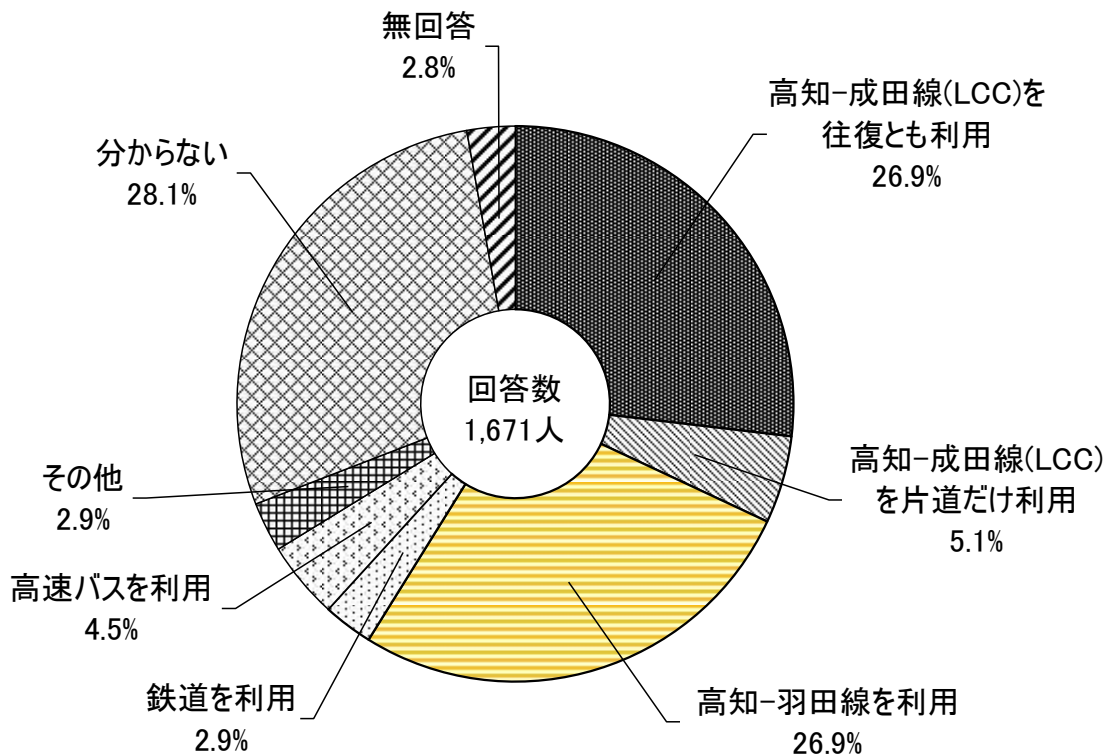
問 50 私用で関東方面を訪れる際に、高知-成田線(LCC)の航空運賃が 4,990 円(最低運賃)、便数が 1日1往復(15:05 高知発→16:35 成田着、12:45 成田発→14:25 高知着)の時、高知-成田線を利用したいですか。その他の経路を利用したいですか。(1つだけ○印)

【総合】

「分からない」が 28.1%と 1 位となっている。

次いで、「高知-成田線(LCC)を往復とも利用」と「高知-羽田線を利用」が 26.9%と続いている。

《総合》

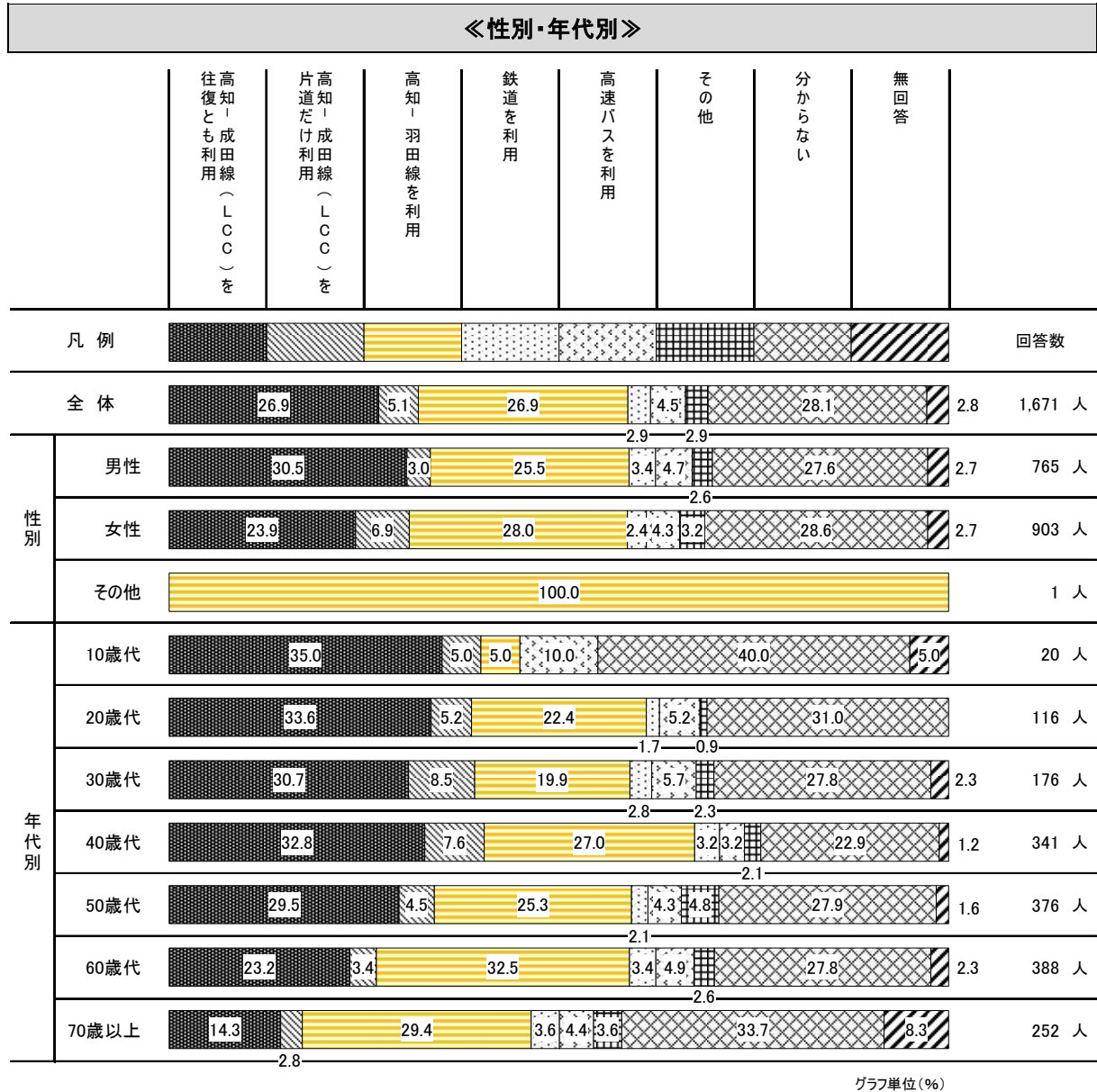


【性別】

男性では「高知-成田線(LCC)を往復とも利用」が、女性では「分からない」が最も高くなっている。

【年代別】

20歳代、30歳代、40歳代、50歳代では「高知-成田線(LCC)を往復とも利用」が最も高く、10歳代、70歳以上では「分からない」が、60歳代では「高知-羽田線を利用」が最も高くなっている。



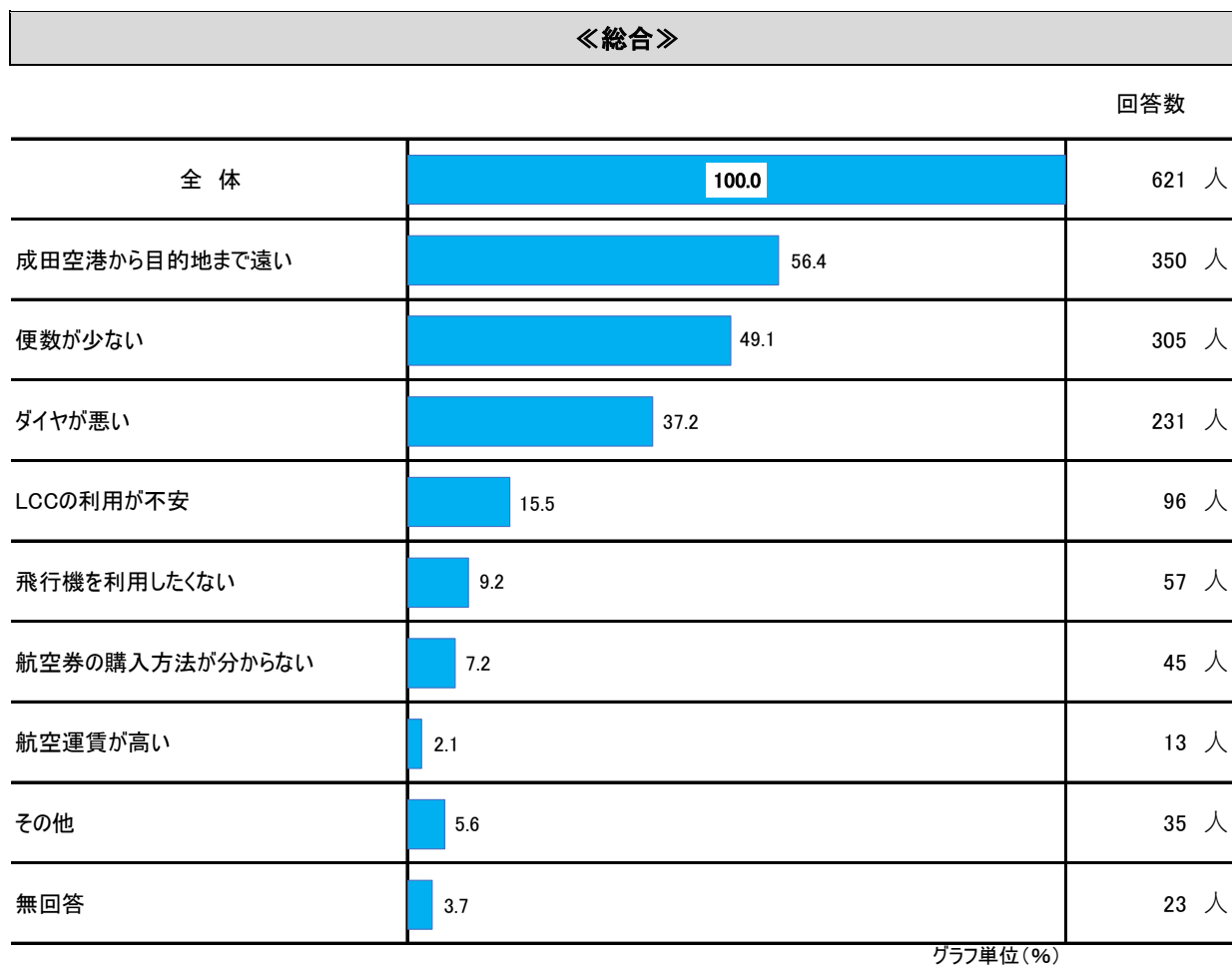
副問1（問 50 で「3～6」を選んだ方のみお答えください。）

高知-成田線(LCC)を利用しない理由は何ですか。(当てはまるものすべてに○印)

【総合】

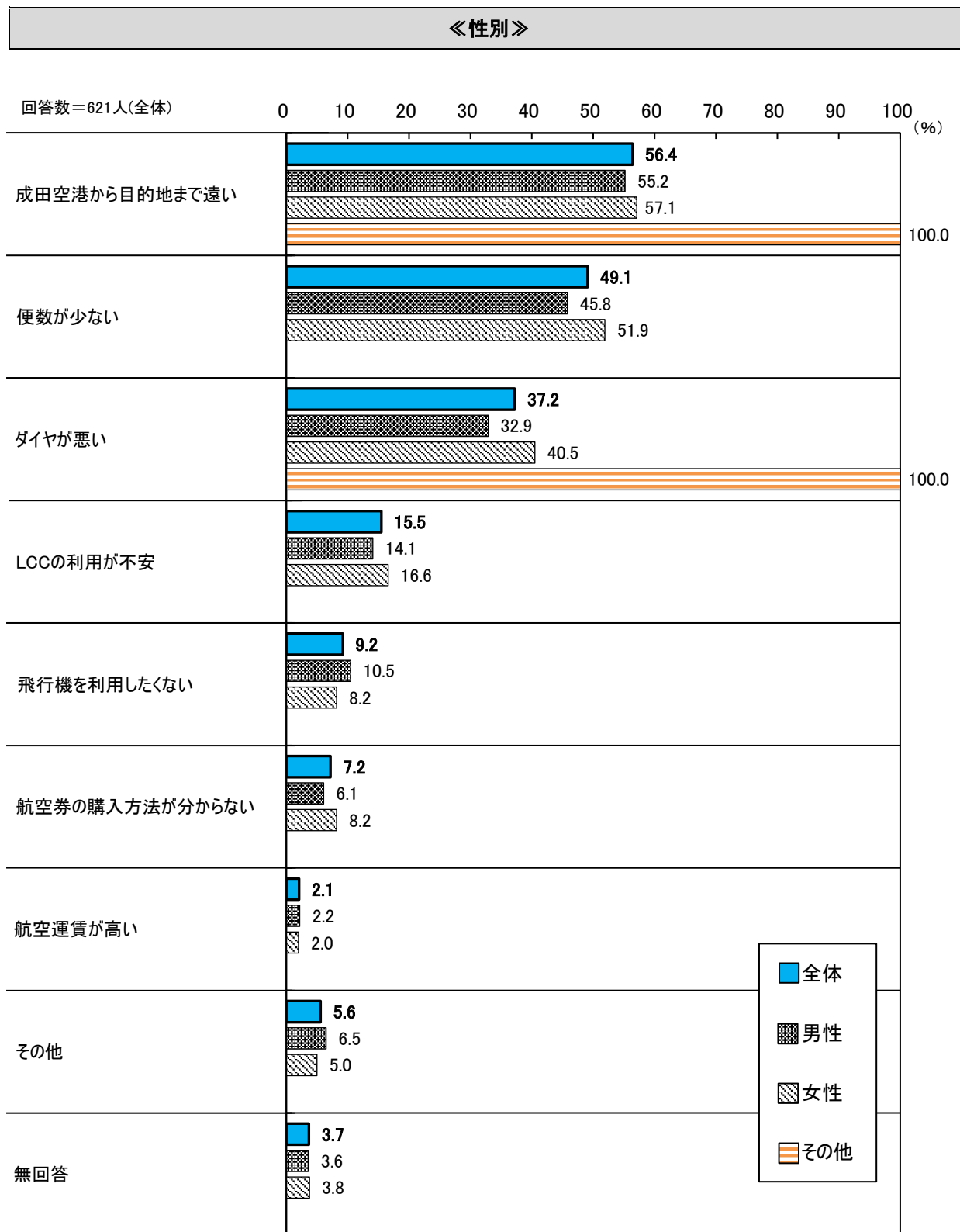
「成田空港から目的地まで遠い」が56.4%と1位になっている。

次いで、「便数が少ない」が49.1%、「ダイヤが悪い」が37.2%と続いている。



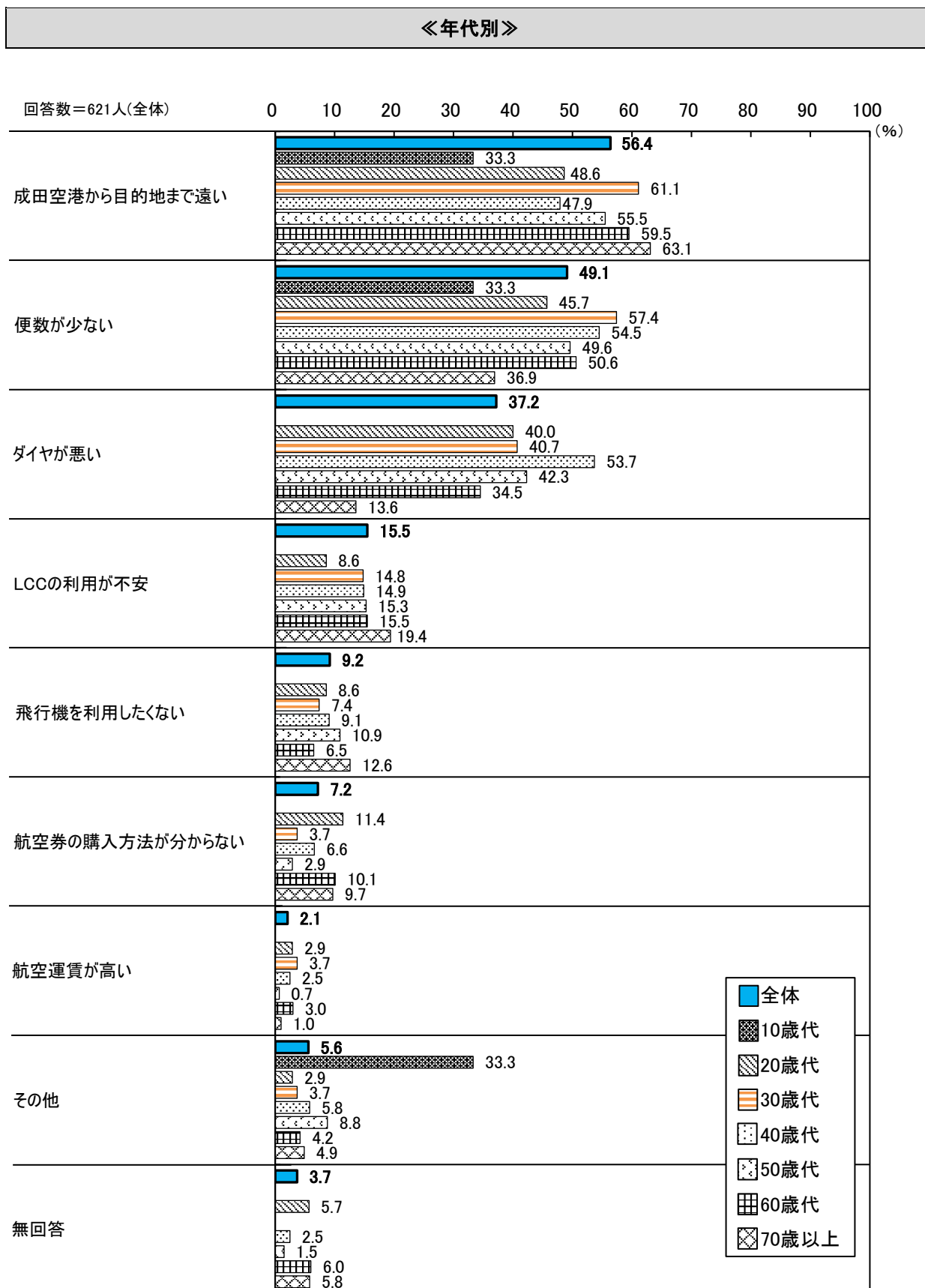
【性別】

男女ともに「成田空港から目的地まで遠い」が最も高くなっている。



【年代別】

10歳代では同率で「成田空港から目的地まで遠い」と「便数が少ない」が最も高く、20歳代、30歳代、50歳代、60歳代、70歳以上では「成田空港から目的地まで遠い」が、40歳代では「便数が少ない」が最も高くなっている。

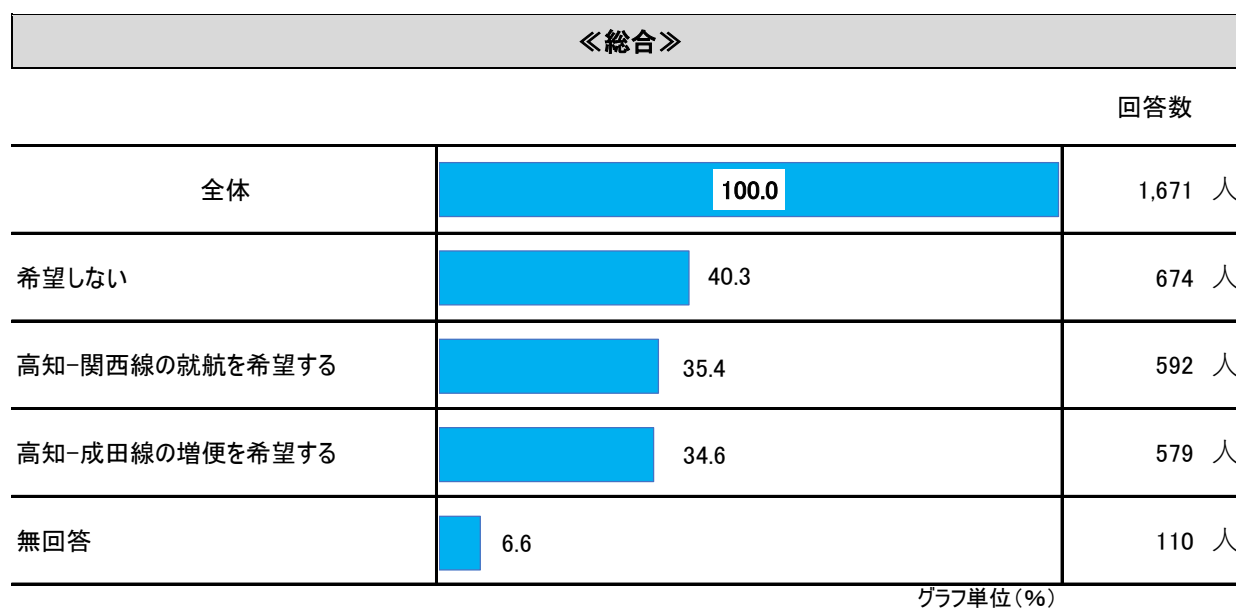


問 51 新型コロナウイルス感染症の収束などにより、自由に国内外の移動ができるようになった場合、LCCの増便・就航を希望しますか。(当てはまるものすべてに○印)

【総合】

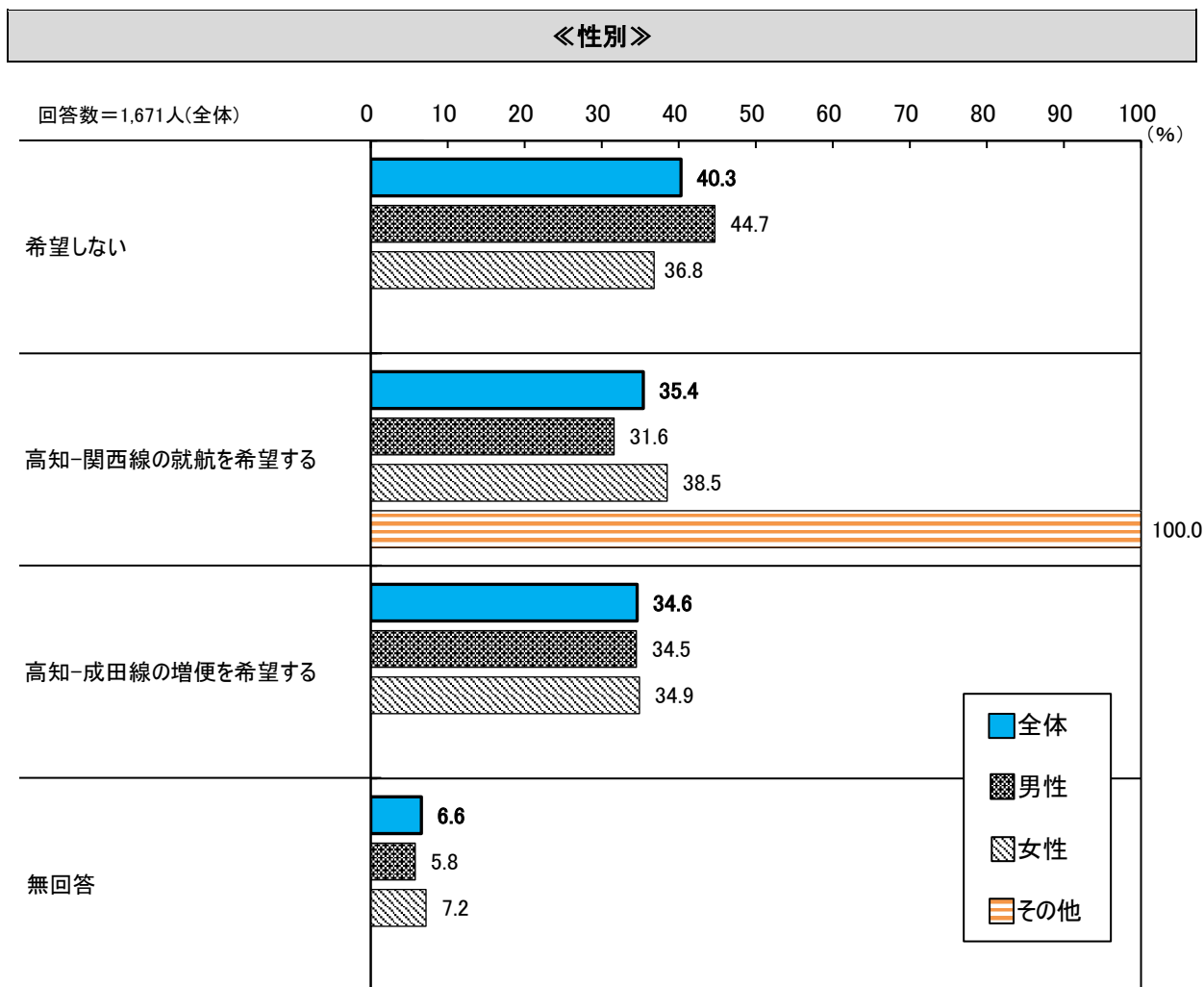
「希望しない」が40.3%と1位になっている。

次いで、「高知-関西線の就航を希望する」が35.4%、「高知-成田線の増便を希望する」が34.6%と続いている。



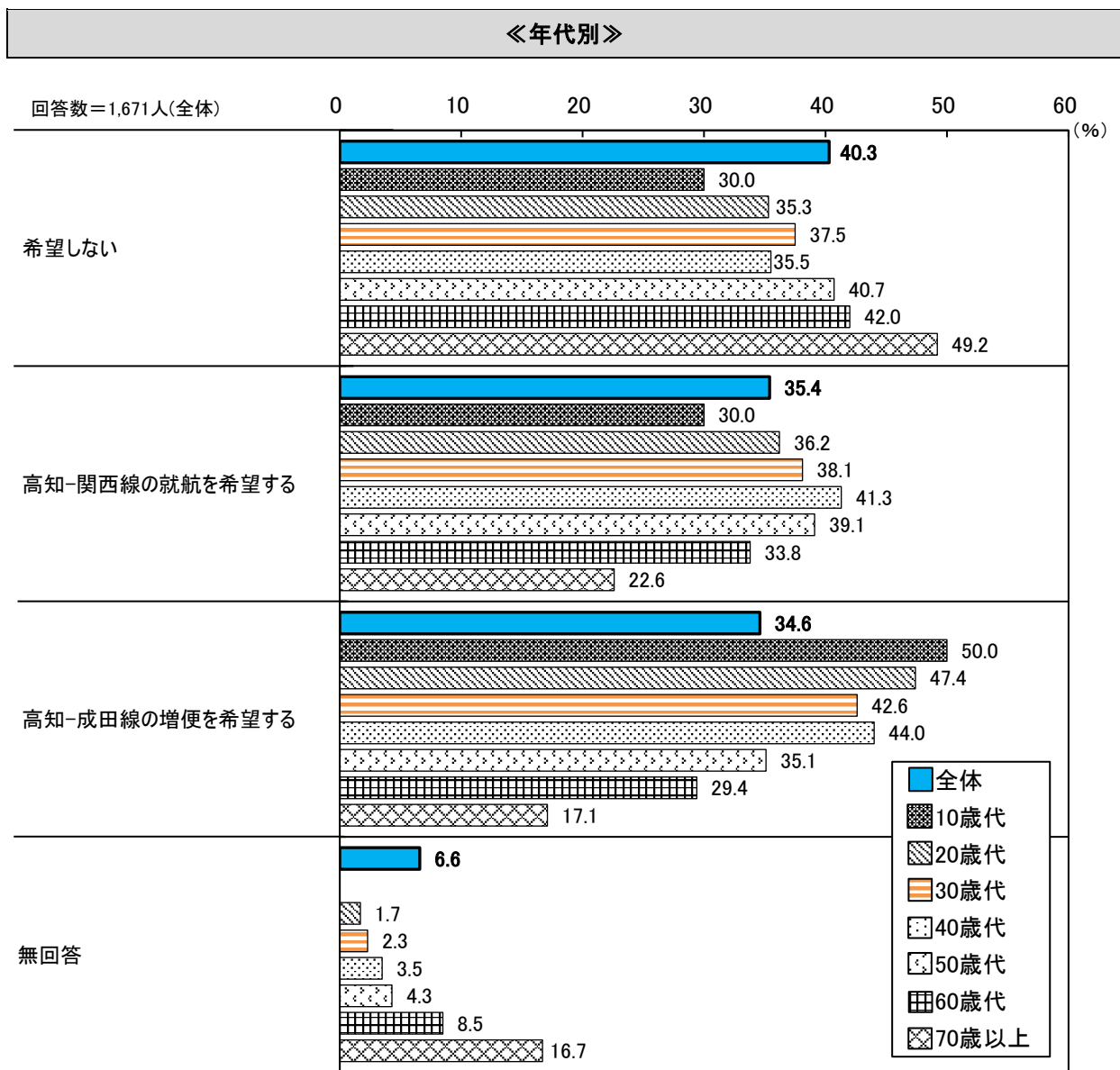
【性別】

男性では「希望しない」が最も高く、女性では「高知-関西線の就航を希望する」が最も高くなっている。



【年代別】

10歳代、20歳代、30歳代、40歳代では「高知-成田線の増便を希望する」が最も高く、50歳代、60歳代、70歳以上では「希望しない」が最も高くなっている。



【問 49×問 51 のクロス分析】

「航空運賃の安いLCC（Low Cost Carrier）を知っていますか。」という質問に対し、「新型コロナウイルス感染症の収束などにより、自由に国内外の移動ができるようになった場合、LCCの増便・就航を希望しますか。」の結果を見ると、「知っており、これまで利用したことがある」では「高知-成田線の増便を希望する」が最も高く、「知っているが、利用したことはない」、「聞いたことはあるが詳しくは知らない」、「知らない」では「希望しない」が最も高くなっている。

<p style="text-align: center;">《問 49×問 51 のクロス分析》</p>						
		自由 to 国内外の移動ができるようになった場合、LCCの増便・就航を希望するか				
		合計	高知 ↓ 成田線 の増便を 希望する	高知 ↓ 関西線 の就航を 希望する	希望 しない	無 回答
<p>【表の見方】 上段＝回答数(人) 下段＝比率(%)</p>						
全体		1,671	579 34.6	592 35.4	674 40.3	110 6.6
いるか LCC運賃の 安い LCCを知 っているか	知っており、これまで利用したことがある	193	58.0	54.9	15.5	2.6
	知っているが、利用したことはない	901	35.6	38.4	39.6	4.3
	聞いたことはあるが詳しくは知らない	238	28.6	25.6	50.0	6.7
	知らない	323	24.1	24.5	51.4	11.1

副問1（問 51 で「1」を選んだ方のみお答えください。）

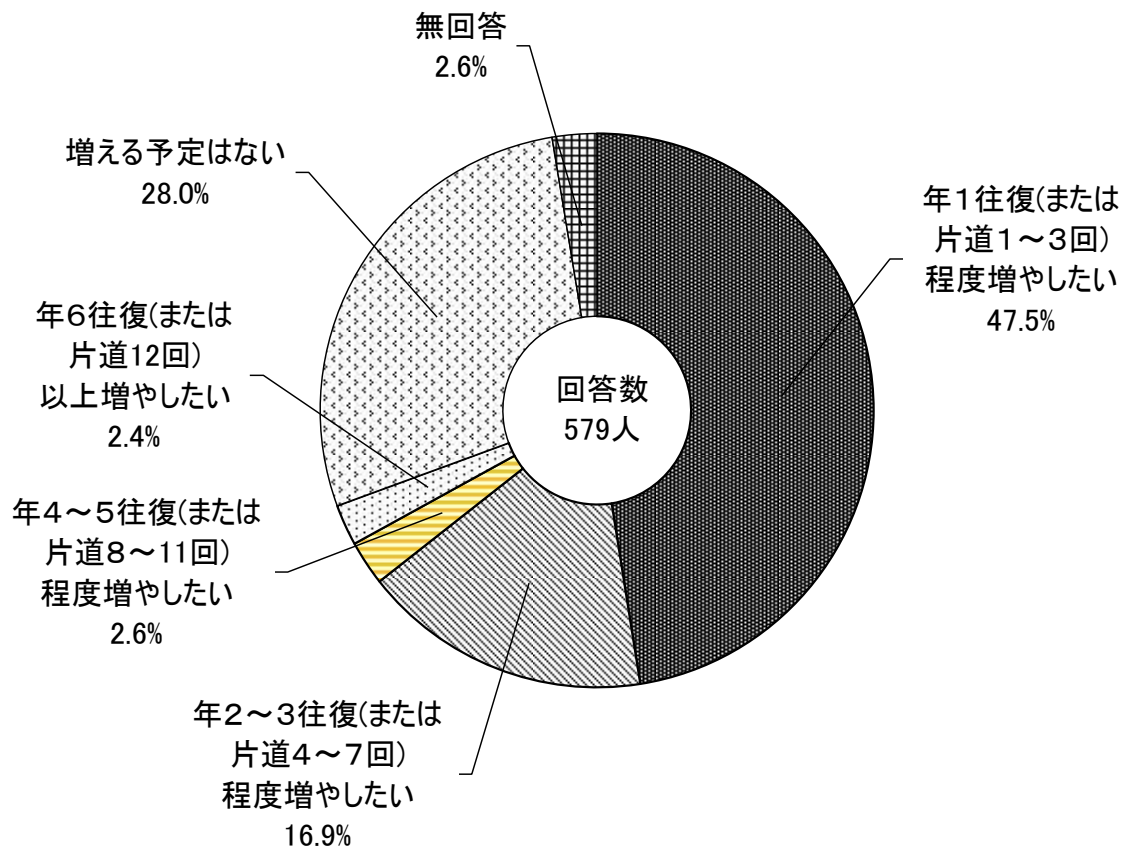
高知-成田線(LCC)が1日2便に増便された場合、利用頻度は増える予定ですか。(1つだけ○印)

【総合】

「年1往復(または片道1～3回)程度増やしたい」が47.5%と1位になっている。

次いで、「増える予定はない」が28.0%、「年2～3往復(または片道4～7回)程度増やしたい」が16.9%と続いている。

《総合》

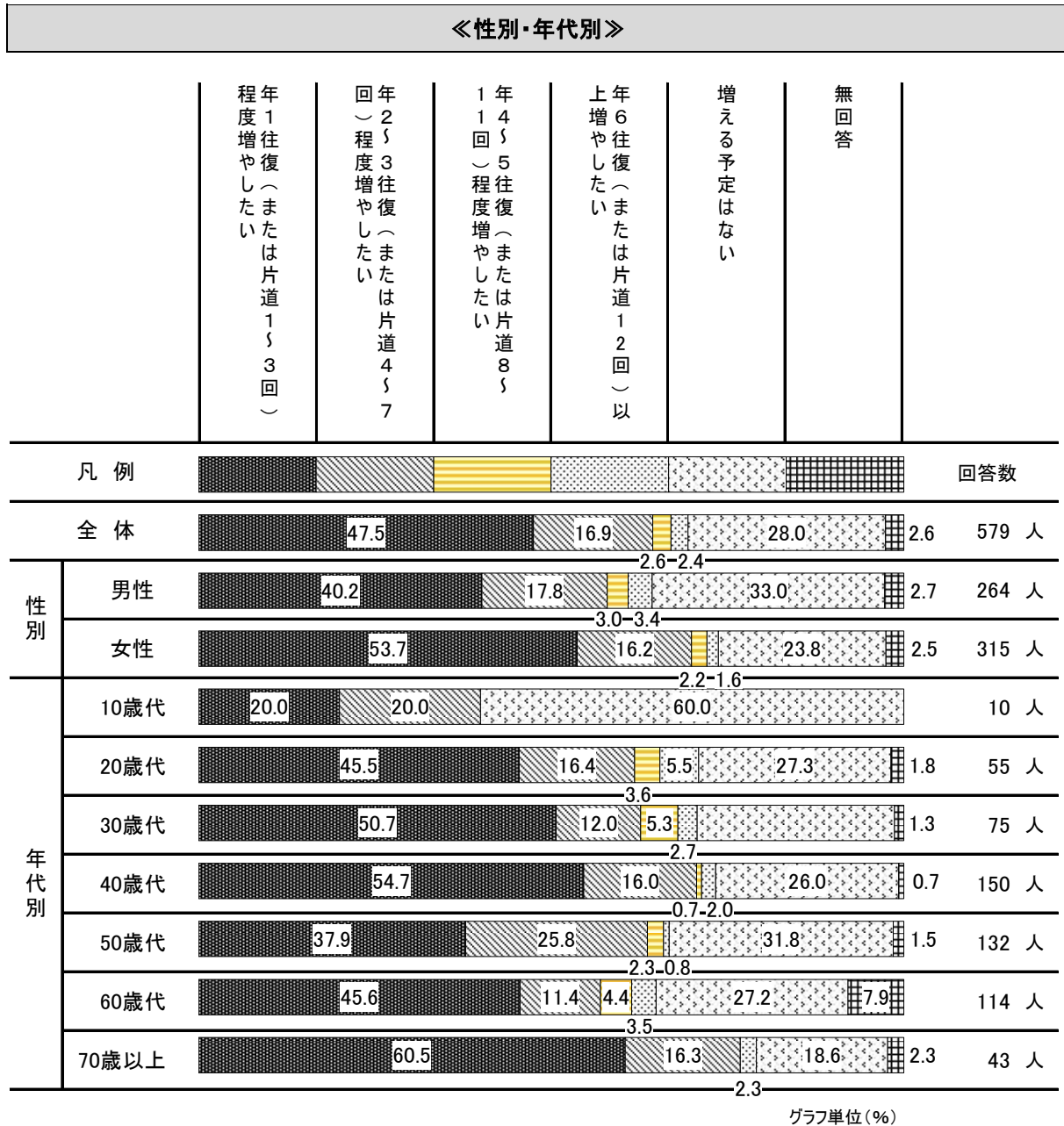


【性別】

男女ともに「年1往復(または片道1～3回)程度増やしたい」が最も高くなっている。

【年代別】

10歳代を除くすべての年代で「年1往復(または片道1～3回)程度増やしたい」が最も高く、10歳代では「増える予定はない」が最も高くなっている。



副問2 (問 51 で「2」を選んだ方のみお答えください。)

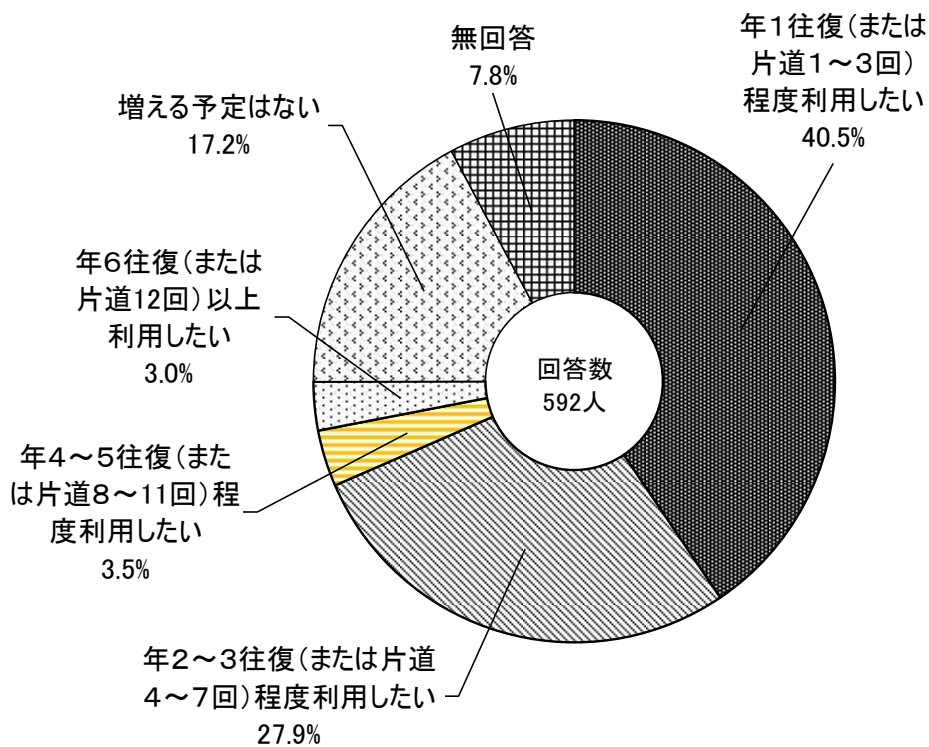
高知-関西線(LCC)が就航した場合、どの程度利用したいですか。(1つだけ○印)

【総合】

「年1往復(または片道1~3回)程度利用したい」が40.5%と1位になっている。

次いで、「年2~3往復(または片道4~7回)程度利用したい」が27.9%、「増える予定はない」が17.2%と続いている。

《総合》

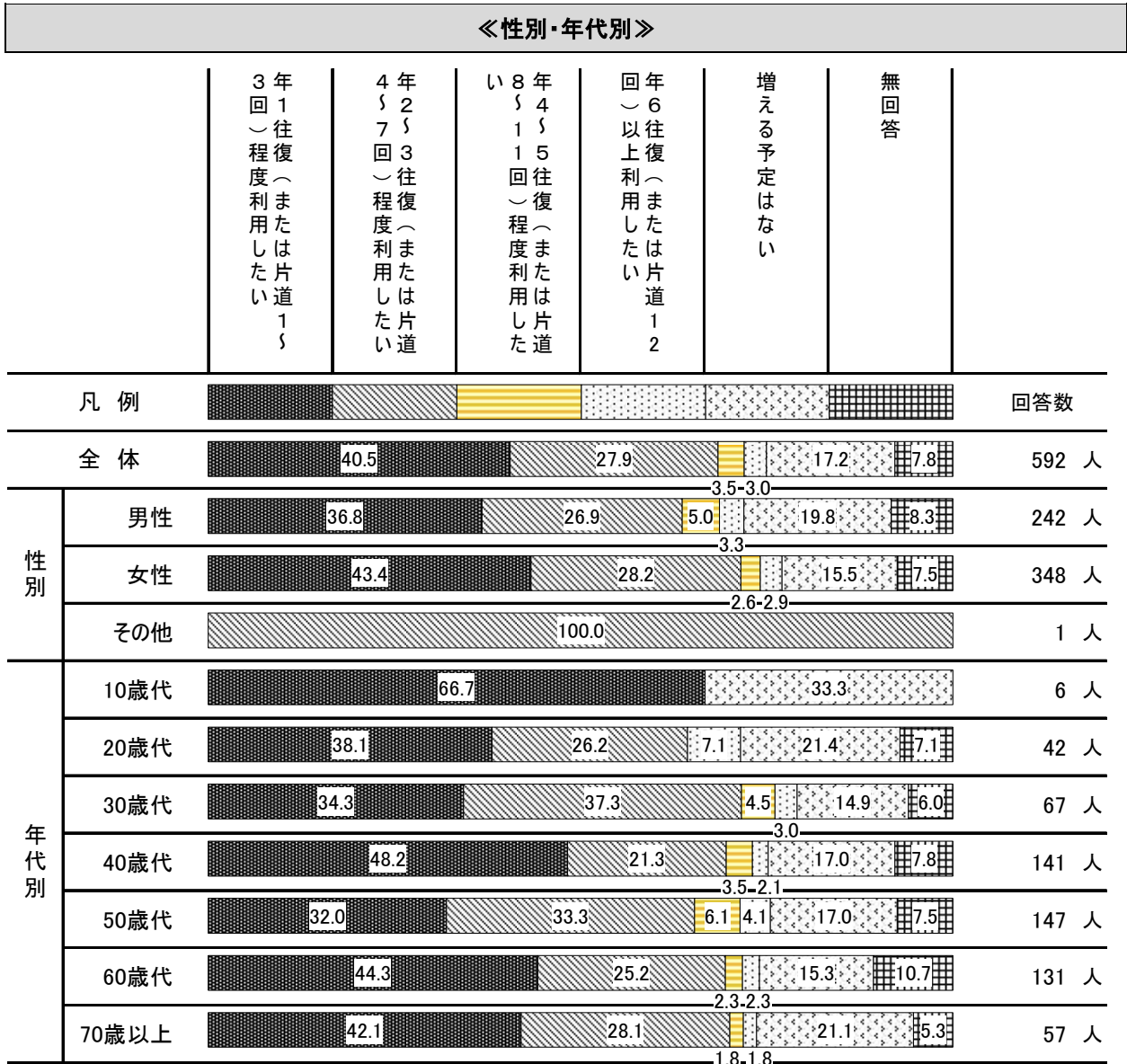


【性別】

男女ともに「年1往復(または片道1～3回)程度利用したい」が最も高くなっている。

【年代別】

30歳代、50歳代を除くすべての年代で「年1往復(または片道1～3回)程度利用したい」が最も高く、30歳代、50歳代では「年2～3往復(または片道4～7回)程度利用したい」が最も高くなっている。



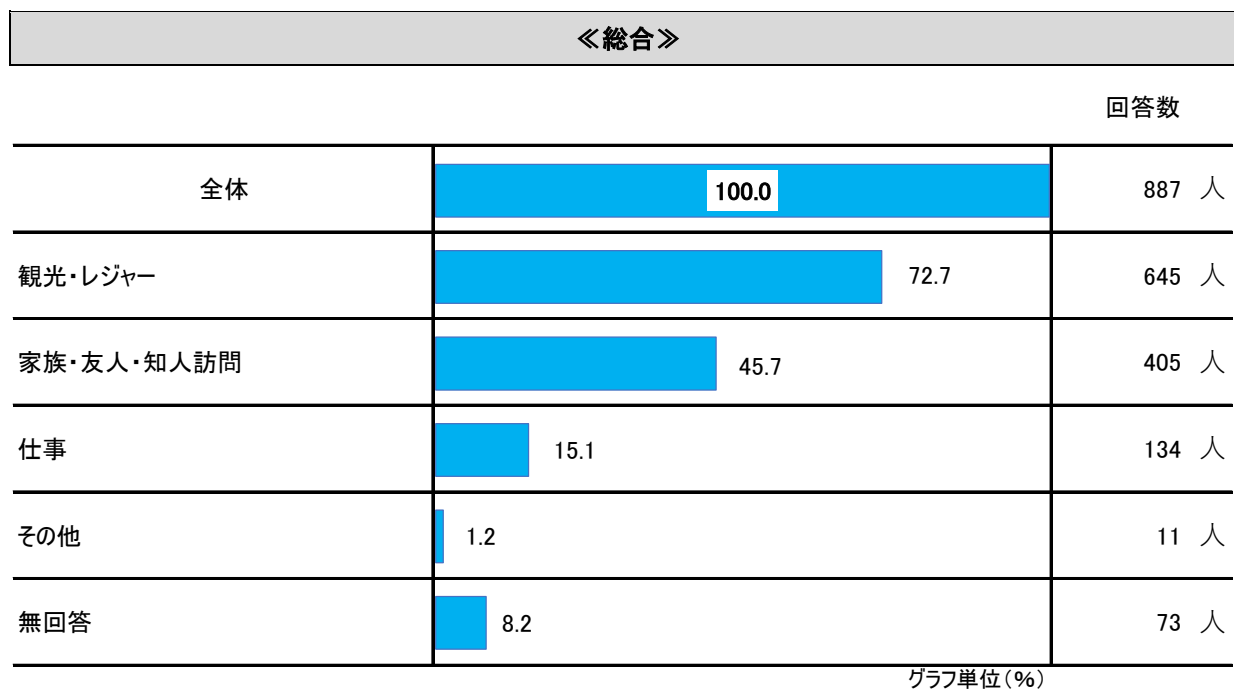
グラフ単位(%)

副問3（問 51 で「1」もしくは「2」、または両方を選んだ方のみお答えください。）
 どのような機会に LCC を利用したいですか。（当てはまるものすべてに○印）

【総合】

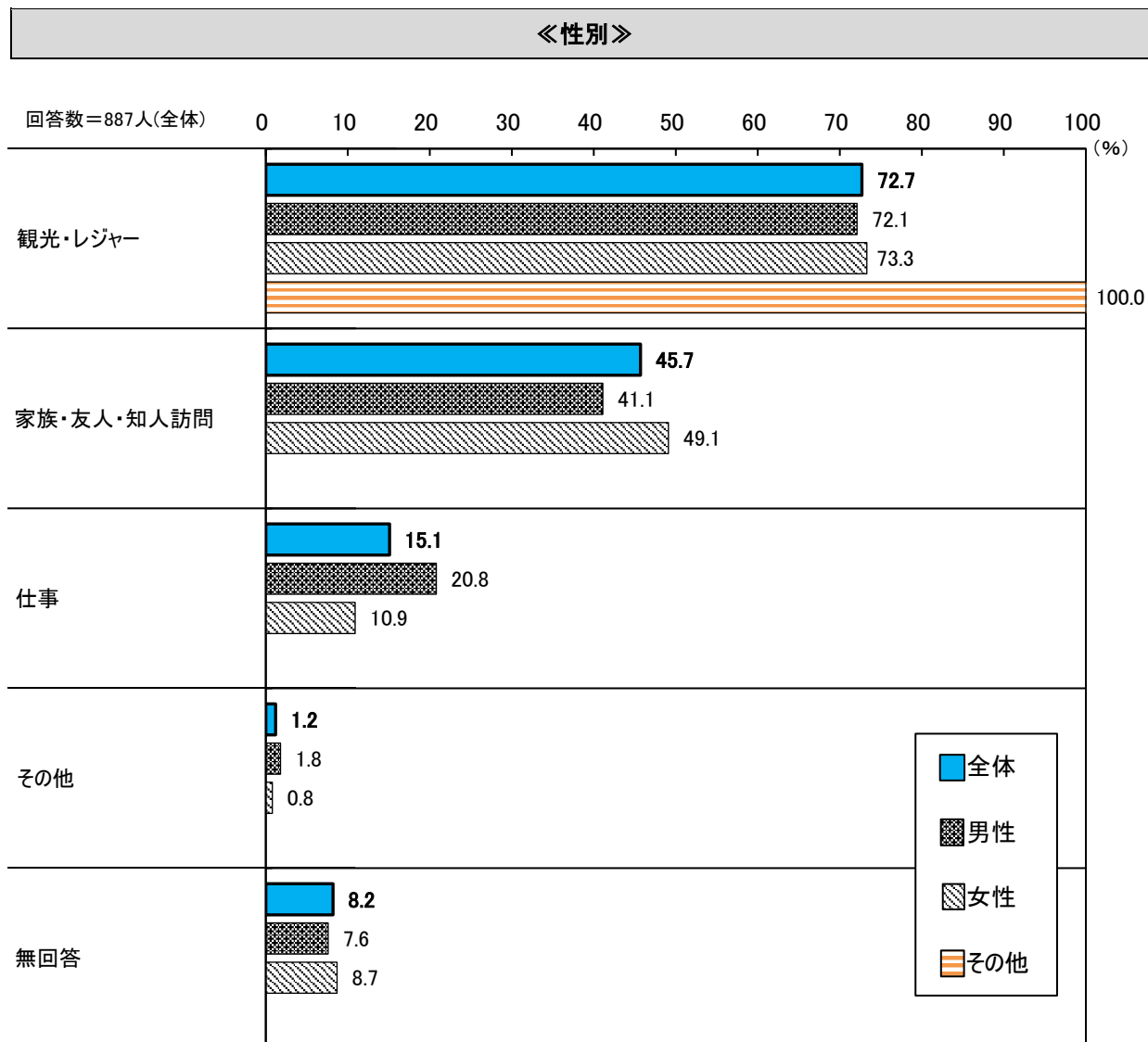
「観光・レジャー」が72.7%と1位になっている。

次いで、「家族・友人・知人訪問」が45.7%、「仕事」が15.1%と続いている。



【性別】

男女ともに「観光・レジャー」が最も高くなっている。



【年代別】

すべての年代で「観光・レジャー」が最も高くなっている。

